



大東亞資料第一二號
昭和十九年七月

毛澤東抗戰言論選集

秘

大東亞省總務局總務課

機密圖書	一七八	內閣官房總務課
------	-----	---------

引 言

本書は中國共産黨領袖毛澤東が日支事變勃發以後に發表せる抗聯言論中主要なるもの即ち『持久戰論』、『新段階論』、『新民主主義論』、『華風・黨風・文風の整頓』、『黨八股に反對す』の五編を選んで譯出し、執務參考用として印刷に附する次第なり。この五篇は彼等黨人の自撰して『毛澤東の天才的著作』と稱するものにして、その後の中共側言論に多く引用せらるる重要文獻たることは否定すべからざるものあり、國共統一戰線抗日支那の動向を下するに貴重なる資料を提供するものと謂ひ得べし。終りに本書譯出の業に従はれたる上海日本大使館特別調査班員諸氏の努力に深甚なる謝意を表す。

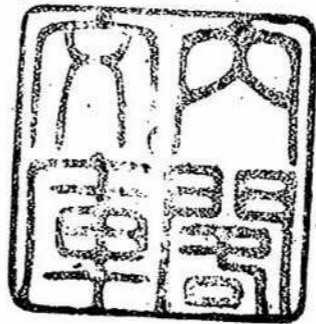
昭和十九年七月

大東亞省總務局總務課

363

78

九〇九六九号
和書



目次

一、持久戦論……………一頁

一 問題の提起……………一

二 問題の根據……………八

三 亡國論を駁す……………一一

四 妥協か抗戦か？ 勝敗か進歩か？……………一四

五 亡國論は錯誤であり、進歩論も亦錯誤である……………一七

六 何故持久戦でなければならぬか？……………一八

七 持久戦の三つの段階……………二〇

八 錯綜せる戦争……………二七

九 永久和平の爲に戦ふ……………三〇

一〇 戦争中に於ける能動性……………三三

一一 戦争と政治……………三四

一二 抗戦の政治動員……………三五

一三 戦争目的……………三六

一四 防禦中に於ける進攻持久中に於ける進決、内線中に於ける外線……………三八

一五 主動性、敏活性、計畫性……………四一

一六 運動戦、遊撃戦、陣地戦……………四九

目次

一

一七 消弭戰・殘波戰……………五二

一八 敵の隙に乗ずる可能性……………五五

一九 抗日戰爭中の決戦問題……………五六

二〇 兵民は勝利の本である……………五九

二一 結 論……………六二

二、新 段 階 論……………六四

一 五中全會より六中全會まで……………六四

二 抗戰十五個月の成果……………六九

三 抗日民族戰爭と抗日民族統一戰線發展の新段階……………七七

四 全民族の當面せる緊急任務……………九五

五 長期戰爭と長期合作……………一〇六

六 中國の反侵略戰爭と世界の反ファシズム運動……………一一四

七 中國共產黨の民族戰爭中に於ける地位……………一一八

八 黨の第七次代表大會……………一二一

三、新 民 主 主 義……………一二三

一 中國は何處へ行くか?……………一二三

二 我々は新中國を建設しなければならない……………一二四

三 中國の歴史的特殊性……………一二四

四 中國革命は世界革命の一部である……………一三六

五 新民主主義的政治……………一四一

六 新民主主義的經濟……………一四五

七 資產階級專制を廢す……………一四六

八 左傾空談主義を廢す……………一四九

九 頑固派を廢す……………一五一

十 舊三民主義と新三民主義……………一五三

十一 新民主主義的文化……………一五八

十二 中國文化革命の歴史的特殊性……………一六〇

十三 四 時 期……………一六一

十四 文化問題の趨勢……………一六五

十五 民族的・科學的・大衆的文化……………一六七

四、學風・黨風・文風の整頓……………一七〇

五、黨八股に反對す……………一八七



一、持久戦論

——抗日戦争は何故持久戦であり、最後の勝利は何故中国のものであるか、且つ如何に持久戦を遂行し、如何に最後勝利を爭取するかを論ず。(一九三八年五月二十六日より六月三日に至る、延安抗日戦争研究会に於ける講演)——

問題の提起

(一) 偉大なる抗日戦争の一周年記念日七月七日は、將に來らんとしてゐる。全民族の力量を團結して抗戦を堅持し、統一戦線を堅持し、敵に對して勇敢な戦争を開始して以來、將に一年に垂んとしてゐる。この戦争は、東洋史上に於て空前なものであるが、世界史上に於ても將に偉大なものにならんとし、全世界の人々は凡て皆この戦争に関心を寄せてゐる。その身に戦争の災禍を受け、しかも自己民族の生死存亡の爲に奮闘する中国人は誰でも、一日として勝利を渴望しない日とてはない。而して、戦争の過程は果してどうなるであらうか？勝てるか勝てないか？速勝出来るか速勝出来ないか？非常に多くの人々が皆持久戦を説くが、何故持久戦となるのか？如何に持久戦を進行するか？非常に多くの人々が皆最後の勝利を説くが、何故最後の勝利が得られるのか？如何にして最後の勝利を爭取するか？これ等の問題は、各人が皆解決したつたものではなく、極言すれば大多数の者が今日に至るも尙解決してゐないのである。茲に於て敗戦主義的亡國論者が盛け出して來て、人民に向つて言ふ……中国は滅亡するであらう、最後の勝利は中国のものではないと。或る一部の性急な同志連も亦盛け出してきて人民に向つて言ふ……中国は速かに勝利し得るであらう、それに大きな力を費すまでもないと。これ等の議論は果して正しいのであらうか？我々共産黨員は從來かゝる議論を正しくないとして來た。併し我々の説く所は猶未だ全國大多數の人民の完全に瞭解する所にはなつてゐない。その原因の一半は宣傳解釋が十分普及してゐないことに在り他の一半は客觀的に事實が猶未だ完全にそ

の固有の性質を暴露するまでに發展せず、猶未だその全貌を鮮明に人民群衆の前に現さずそれが爲に人民はその全體的趨勢と前途を洞察するに由なく、その全體的方法を決定して努力し得ないことに在る。併し今や事態は好轉し、抗戦十個月の經驗は、嘗に全く根據のない亡國論を擊破するに足るのみならず、性急な同志の連勝論をも覆服するに十分である。かゝる状況の下に於て、多くの人は謙虚的な解釋をなさんことを要求する。特に持久戦には、亡國論や連勝論の反對意見や空虚な解釋がある。『瀋陽陥落以來、四億の民は一致努力し、最後の勝利は中國のものである。』といふ公式が、廣く人々の間に洗布して居る。この公式は正しい。併し更に充實させる必要がある。抗日戦争と統一戦線を堅持せしめる因素は多い。全獨黨派——國民黨も共産黨も、全國人民（資本家も労働者も）全國軍隊（主力軍も遊撃隊も）國際方面（各民主主義國家も社會主義國家も）敵國方面（國內の反戦人民も前線の反戦兵士も）、それ等は皆我が抗戦中に於てそれ／＼の程度に應じて努力してゐる。良心あるものは皆彼等に對して敬意を表すべきである。我々共産黨員は、その他の抗戦黨派及び全國人民と共に、唯一の方向即ちあらゆる力量を團結し、萬惡の日寇に戰勝することの爲に努力する。この努力は過去現在を通じて一貫するものである。七月一日は、中國共産黨成立十七周年記念日であり、この日は正に抗戦一周年に當る。各共産黨員をして今後の抗戦中に於て更に最善最大の努力をなさしめる爲には、更に實質に持久戦を研究する必要がある。故に、私の講演は持久戦を研究して、二個の偉大なる記念日の贈物にしようと思ふ。持久戦と關係ある幾多の問題を、私は語るべく總て準備した。併し一切を語ることは不可能である。何となれば、一切のものが一個の講演中に於て完全に語られ得るものではないからである。

(二) 抗戦十個月以來、あらゆる經驗は左記の二つの觀點が皆間違つてゐることを證明した。即ち一は中國必亡論であり、一は中國連勝論である。前者は妥協傾向を生じ、後者は輕敵傾向を産む。彼等の問題の見方は主觀的であり一面的であり、一言を以て蔽へば、非科學的である。

(三) 抗戦以前には多くの亡國論的議論が存在してゐた。例へば……『中國の武器は他より劣つてゐる。戦へば必ず敗れる』『若し抗戦するならば、必ずエチオピアの如くならねばならない』と言つてゐた。抗戦以後は、公然には亡國論はなされなくなつたが、物かに而も非常に多くなつた。例へば、妥協的空氣は時に興り時に衰へ、その妥協を主張する者の論據は、『これ以上戦へば、必ず亡ぶ』といふことに在る。或る學生が湖南から手紙を書いて述べてゐる……『田舎に於ては何でも困難である。單獨で宣傳工作をなす時は、只隨時隨處に於いて無益なことではないと思ふ。』

て談話すればよいが、對象は皆無知無識の愚民ではなく、彼等も多少は理解することが出来、我々の談話には非常に興味をもつ。併し私がか敷名の親戚に會つたとき、彼等は總て『中國は勝てない、必ず滅亡せねばならない』と言ふ。全く胸裏が悪い。幸ひ彼等は宣傳に行かないからよいが、さうでなければ、全く駄目になつてしまふ。農民の彼等に對する信用は當然大きいからである。かゝる中國必亡論者は妥協傾向の社會的基礎である。かゝる人は中國各地何處にでも居る。故に、抗日陣營中には隨時妥協問題の發生する可能性があり、恐らく戦争が終結しても消滅しないであらう。今日徐州が陥落し、武漢が緊張してゐる時、この亡國論を痛烈に駁論するのは、決して無益なことではないと思ふ。

(四) 抗戦十個月以來、各種の性急な意見も亦發生した。例へば、抗戦頭初に於ては、多くの人は些かも根據の無い樂觀的傾向をもち、彼等は日本を過小に評價し、進しきに至つては日本はとも山西へさへも攻入めることは出来まいと考へてゐた。或る人は抗日戦争に於ける遊撃戦争の戰略的地位を輕視して、彼等は『全體的に見れば、運動戦が主要なものであり、遊撃戦は補助的であり、部分的に見れば、遊撃戦が主要なものであり、運動戦は補助的である』と言ふ命題に對して懷疑を表示した。彼等は八路軍の此の戰略方針、即ち『遊撃戦が基本的なものである。併し、有利な条件下に於ける運動戦を忽せにはしない』に賛成せず、これを『機械的』の觀點であると看做した。上海陥落時、多くの人は『たゞ三個月間戦争しさえすれば、國際關係は必ず變化し、蘇聯は必ず出兵し、戦争は直ぐ解決するであらう』と言ひ、抗戦の前途を主として外國の援助に依存せしめてゐた。蔣介石に於ける勝利以後、或る人は徐州戦こそ『決定戦』であるべきだと主張し、過去の持久戦方針を改めすべきであると言ひ、『此の一戦こそ、敵の最後の足掻きである』とか『我々は勝つたのだ。日本は精神的に立場を失ひ、只靜かに最後の審判を待つてゐるだけだ』等と言つた。平型關に於ける勝利は、一部の人の頭腦を混亂させ、蔣介石の勝利は、更に多くの人の頭腦を混亂させた。故に於いて、敵が武漢に進攻するや否やが疑問となつた。或る人は、『どうか解らない』と思ひ、或る人は『斷じて進攻し得ない』と考へた。かゝる疑問は一切の重大なる問題に關係を及ぼす。例へば、抗日力量は十分であるか？といふ間に對して、肯定的に答へることを可能ならしめる。何となれば、現在の力量で既に敵をして再進攻をなすことを不可能ならしめてゐるのに、何故更に力量を増加させねばならないか？と反問する。抗日民族統一戦線を鞏固にし擴大すると言ふスローガンは依然として正確であるかどうか？といふ間に對して、否定的な回答を可能ならしめる。何となれば、統一戦線の現状は既に

一、持久戦論

敵を退却せしめるに十分であるのに、何故に鞏固にし、増大しなければならぬか？と反問する。國際外交と國際宣傳工作とは尙強化しなければならぬか？といふ問に對しても、否定的回答を可能ならしめる。軍隊制度を改革し、政治制度を改革し、民衆運動を發展させ、國防教育を嚴格に行ひ、漢奸トロツキストを鎮壓し、軍事工業を發展させ、人民生活を改良することは、まじめになされるべきであるか？武漢を保衛し、廣州を保衛し、西北を保衛するといふスローガンは依然として正確であるか？と言ふ問に對して、すべて否定的回答を可能ならしめる。甚しきに至つては、或人の人々は、勝局が稍々好轉した時、國共兩黨の磨擦を惡化せしめ、對外的關心を内部に轉じようと準備してゐるが、かゝる情況は、殆んどすべての比較的大きな勝利の後、又は敵の進攻が暫時停頓した時に至つて發生するものである。

四

以上述べた所はすべて、我々が『政治的・軍事的近視眼』と呼んでゐる所のものである。彼等の言ふ所は、理窟がある様であるが、實際上は些かも根據がなく、似而非なる空談である。かゝる空談を除去する事は、抗日戰爭の勝利にとつて、益する所があるであらう。

(五) 茲に於て、中國は必ぶであらうかといふ問に對して、亡びない、最後の勝利は中國のものであると答へる。中國は速勝出来るかといふ問に對して、速勝は不可能であり、抗日戰爭は持久戦であると答へる。

(六) これ等の問題の主要論點は、二年前に我々が一般的に指摘した所のものである。遼くは一九三六年七月十六日、即ち西安事變の五個月前、蘆溝橋事變の十二個月前、私は米國記者スノウ氏との談話中に於て、既に一般的に中日戰爭の形勢を論じ、且つ勝利獲得の各種の方針を提出した。備忘の爲に、以下數段を抄録する……

問……如何なる條件の下に於て、中國は勝利し、且つ日本帝國主義の實力を消滅し得るか？
答……三個の條件が揃はねばならない……第一、中國抗日統一戦線の完成。第二、國際抗日統一戦線の完成。第三、日本國內人民及び被壓迫民族の革命運動の興起。三個の條件中最も重要なものは、中國人民の大聯合である。

問……君は此の戰爭が長期化すると思ふか？
答……中國抗日統一戦線の實力と、中日兩國のその他の幾多の決定的因素如何によつて定まる。即ち、主要な中國自體の力量以外に、國際間の中國に對する援助と、日本國內に於ける革命の援助とに非常に關係がある。若し中國抗日統一戦線が有力に發展し、横の方面から横の方面からも皆有效に組織せられるならば、若し各國政府及び各國人民が、日本帝國主義が彼等自身の利益を脅威するものであることを認めて、中國に必要な援助を與へるならば、若し日本の革命が速かに勃發するならば、然らば今次の戰爭は迅速に終結し、中國は迅速に勝利を獲るであらう。若しこの條件が一時に揃はなければ、戰爭は長期化しなければならぬであらう。どちらにしても結果は同じ事であり、日本は必ず敗れ、中國は必ず勝つ。唯犧牲は大きく、非常に苦しい時期を経過しなければならぬ。

問……政治的軍事的に見て、君はこの戰爭の前途が如何に發展すると思ふか？
答……日本の大陸政策は既に確定してゐる。彼の日本と妥協して、中國の領土主權を少し犠牲にすれば日本の進攻を停止させることが出来るかと考へてゐる人々、彼等の思想は一種のユートピア的の幻想に過ぎない。我々は、揚子江下流と南方各開港場が何れも皆既に日本帝國主義の大陸政策内に含められてゐることをはつきりと知つてゐる。且つ日本海軍は尚フィリピン・シヤム・安南・馬來半島・關東東印度を占領し、外國と中國とを隔離し、西南太平洋を獨占せんとしてゐる。これは亦日本の海洋政策でもある。かゝる時期に於て、中國は狭きもなく極めて困難な地位に立たねばならぬ。併し大多數の中國人は、この困難を克服し得るものであることを信じてゐる。只各大開港場の富強運だけは敗北主義者である。何となれば、彼等は財産の損失を怕れてゐるからである。多くの人は、一度中國海岸が日本によつて封鎖せられるならば、中國は最早作戦を繼續し得ないであらうと考へてゐる。これは取るに足らぬ議論であり、それを反駁する爲には、我々は紅軍の戰爭史を提示すれば足る。

抗日戰爭に於て、中國の占めてゐる優勢は、内戦時に於ける紅軍の地位よりもすつとましである。中國は歴大な國家であり、横ひ日本が中國の大部分を占領し、一億乃至二億の人口を擁する區域を占領するに至つても、我々は尙敗戦から逃いのである。我々は相變らず非常に大きな力量を保持して日本と戦つてゐる。而して日本は全戰爭過程に於て常にその後方の防禦戦をしなければならぬ。

中國經濟の不統一・不平衡は、抗日戰爭にとつて反つて有利になる。例へば上海と中國の他の地方とを分割することが中國に與へる損失は、絕對に紅軍と米國の他の地方とを分割することによつて蒙る損失程甚しくはない。日本が假令中國海岸を封鎖して、中國の西北、西南及び西部等は封鎖出来ない。

故に問題の中心點は、中國全體人民が團結し、動員し、舉國一致の抗日戦線を樹立することに在り、これは我々が夙に提唱せる所である。

一、持久戦論

五

ある。

問……若し戦争が長期に互り、日本が完全に敗戦しなければ、共産黨は講和に同意し、日本の滿洲統治を承認し得るか？
答……出来ぬ。中國共産黨は全國人民と同じく、日本が中國の寸土をも保有することを許さぬ。

問……君の意見によれば、今次の解放戦争に於て、主要な戦略方針は如何？
答……我々の戦略方針は、我々の主力を非常に長く且つ聯動して止まらない戦線に於ける作戦に使用することである。中國軍隊の勝利は、廣闊な戦場に於て、高度の運動戦を進行し、迅速な前進と迅速な後退・迅速な集中と迅速な分散を行ふことに在る。即ち大規模な運動戦(原註、數種の譯本では「遊撃戦」と譯出してゐるが、これは間違である)にあり、深い、高い、廣い、遠い、速い、強固な防線を敷き、専ら防禦工事による陣地戦をなすことにあるのではない。

これは決してあらゆる重要な軍事據點を放棄しなければならぬと言ふものではない。これ等の地點に對して、唯有利でありさへすれば、陣地を構築して戦ふべきである。併し全局を轉換させる戦略方針は、必ず運動戦でなければならぬ。陣地戦も必要ではあるが、但しそれは補助的な第二義的な方針である。

地理的に見て、戰場が斯くも廣大であることは、我々が最も有效な運動戦をなすことを可能ならしめるものである。且つ日本軍は、我軍の猛烈な活動に遭へば、必ず潰滅しなければならぬ。彼の戦争準備は非常に粗雑であり、行動は非常に緩慢であり、兵力に損衰がある。若し我々が兵力を一個の狭小な陣地に於ける消耗戦に集中して抵抗するならば、我軍は地理的、經濟組織的に有利な條件を失ひ、エチオピアの饑饉を犯さねばならぬであらう。戦争の前期に於て、我々はあらゆる大決戦を避け、先づ運動戦によつて漸次敵軍の精神と戰鬥力を毀滅しなければならぬ。

訓練せられた軍隊を以て運動戦を進行するばかりでなく、農民を政治的軍事的に組織して多數の遊撃隊を作らねばならぬ。東三省の抗日義勇軍は、僅かに全國農民の動員し得る抗戰潜在力量の一部を發揮したに過ぎないことを知るべきである。中國農民は非常に大きな潜在力量を有して居り、只組織と指揮とが適當でありさへすれば、日本人を一日二十四時間中忙殺して、奔命に殺れさすことが出来る。必ずこの戦争が中國で戦はれてゐることを記憶すべきである。即ち、日本軍は敵對する中國人民によつて完全に包圍せられ、日

本軍は常にそのあらゆる軍需品の運搬を脅かされ、且つ自分で見張りをなし、大きな兵力を割いて、彼等の交通線に常に遊撃隊の襲撃から保護し、その他、更に大きな力量を滿洲及び日本内地に駐屯させねばならぬのである。

戦争過程中に於て、中國は幾多の日本兵を俘虜にし、幾多の武器彈藥を奪取して自己を武装し、同時に、外國の援助を爭取し、中國軍隊の機械裝備を逐次強化し、それによつて戦争の後期に於て陣地戦を行ひ、日本の占領地を攻撃することが可能になる。かくの如く、日本は中國抗戰の長期的消耗下に於て、その經濟は將に崩壊せんとし、無數の戦争による磨滅作用に依つて、その士氣は將に萎縮沈滞せんとしてゐる。中國方面に於ては潜在力が日々に奔騰し、高漲し、多くの革命民衆が不斷に前線へ行き、自由の爲に戦争してゐる。これ等の因襲とその他の因素とが悉く配合せられて始めて、我々は日本占領地の堡壘及び根據地に對して、最後の致命的攻撃を行ひ、日本の侵略軍を中國から驅逐することが出来る。

我々は我々に捕へられた日本將兵及び軍需を歓迎し、十分優待し、彼等を殺害しないばかりでなく、彼等を見弟同様愛護すべきであり、種々な方法を採用して、日本軍隊將兵を彼等のファシスト長官に反抗させねばならぬ。我々のスローガンは……「聯合して、我々の共同の壓迫者に反對せよ。」である。(西北印彙記第一〇一―二四頁)

抗戰十箇月の經驗は、上述論點の正確さを證明した。今後も引續きそれを證明するであらう。

(七) 蘆溝橋事變發生後一箇月餘、即ち一九三七年八月十五日に、中國共産黨中央は、その『目前の形勢と黨の任務に關する決定』に於て、明かに指摘した……

蘆溝橋の抗戰と平・津の占領は、單に日寇の中國本部に對する大進攻の開始に過ぎない。日寇は既に全國的な軍事動員を開始した。彼等の所謂「不擴大」の宣傳は、進攻を掩蔽する偽善策に過ぎない。

七月七日の蘆溝橋抗戰は、既に中國の全國的な抗戰の起點となつた。

中國の政治形勢はこれによつて新しい段階に躍込んだ。即ち抗戰實行の段階がそれである。抗戰の準備段階は既に過去のものとなつた。この段階の最も中心的な任務は即ち、あらゆる力量を動員して抗戰の勝利を爭取することに在る。

抗戰勝利を爭取する中心關鍵は、既に發動せられた抗戰を全面的、全民族的に發展させることに在り、この全面的、全民族的抗戰によ

一、持久戦論

つてのみ、抗戦を最後の勝利に到達せしめることが出来る。

當面の抗戦には尙嚴重な弱點が存在してゐる。故に今後の抗戦過程に於ては、幾多の失敗、退却、内部的分裂叛變、暫時的且つ局部的妥協等の不利な状況が発生する可能性がある。平津の喪失は、東三省喪失以後の最も嚴重な教訓である。従つてこの抗戦は困難な持久戦であると見るべきである。併し我々は既に發動せられた抗戦が、將に全國人民の努力によつてあらゆる障礙物を打破して引續き前進し發展せんとすることを信じてゐる。(『解放』第十五期 第六頁)

抗戦十箇月の經驗は、茲に於ても上述論點の正確さを證明したが、以後も引續きそれを證明するであらう。

(八) 戦争問題中に於ける觀念論及び機械論的傾向は、あらゆる錯誤觀點の方法論的根源である。彼等の問題の見方は主觀的且つ二面的であり、或ひは毫も根據なき主觀的なるものであり、或ひは只問題の一現象、一時期の表現に基き、同様に主觀的にそれを誇張して全體と看做し、恰もその事があるかの如くに言ふ。これは錯誤觀點の論理的來源である。併し觀點の錯誤には二種類ある。一は根本的錯誤であり、一貫性を帯びて居り、糾正し難い。他の一は偶然的錯誤であり、暫時性を帯びて居り、糾正し易い。併し共に錯誤である以上資料正せられねばならない。故に戦争問題中に於ける觀念論と機械論的傾向とに反對して、客觀的觀點と全面的觀點とにより戦争を考察して始めて戦争問題の正確な結論を得ることが出来るのである。

問題の根據

(九) 抗日戦争は何故持久戦であるか？最後の勝利は何故中國のものであるか？根據は何處にあるか？

中日戦争は他の如何なる戦争とも異つてゐる。即ち半植民地半封建的中國と帝國主義的日本との間に於ける二十世紀四十年代に行はれる決死の戦争であり、あらゆる問題の根據は此處に在る。分説すれば、戦争をする雙方には以下の如き相反する幾多の特殊性が存在する。

(一〇) 日本側——第一、それは強大な帝國主義國家であり、その軍事力、經濟力、政治組織力は東洋第一であり、世界的にも五指を屈する有名な帝國主義國家の一である。これは日本侵略戦争の基本條件であり、戦争の不可避と中國速勝の不可能とは、この日本國家の帝國

主義制度とその強大な軍事力、經濟力、政治組織力によるものである。併しながら第二、日本社會經濟の帝國主義的性格は、日本戦争の帝國主義的性格を生み、その戦争は退歩的であり、野蠻的である。二十世紀四十年代に於ける日本帝國主義は、唯に日本の内外の矛盾によつて日本をして空前の大規模な冒險戦争を起さざるを得ざらしめるのみならず、日本帝國主義を既に最後の崩潰の前夜にまで追ひつめてゐる。社會的發展に就いて言つても、日本は旺盛な國家ではなく、日本戦争は日本統治階級の望むが如く旺盛になり得ずして、將にそれが望まない反對方向——即ち日本帝國主義滅亡に向つて進まんとしてゐる。これこそ所謂日本戦争の退歩性である。この退歩性に加ふるに、日本は更に軍事封建的帝國主義と言ふ特殊性を帯びて居り、その戦争は特殊な野蠻性を生じた。かくて最も大きなその國內に於ける階級對立、中國との民族對立(中國全民族と日本統治者との對立)、世界大多數の國家と人民との對立を招來した。日本の戦争の退歩性と野蠻性とは、日本の戦争が必然的に失敗しなければならぬ主要な根據である。尙それだけに止まらず、第三、日本戦争はその強大な軍事力、經濟力及び政治組織力の基礎に立つて進められてゐるが、併し同時に又その先天的に不足せる基礎に立つて進められてゐる。日本の軍事力、經濟力、政治組織力は強大ではあるが、併しこれ等は力量の量的方面に於て不足してゐる。日本の國力は比較的小さく、その人力、軍力、財力、物力は何れも不足を感じて居り、長期の戦争には耐へられない。日本統治者は戦争中に於てこの困難な問題を解決せんと考へてゐるが、併し同様に、將に所期に反した結果に陥入らんとしてゐる。これは謂はゞ、戦争がこの困難な問題を解決せんとするものであり、結果は將に戦争によつて困難を増加せんとして居り、戦争は將にそれが元來有つてゐた物をも消耗し盡さんとしてゐるのである。最後に、第四、日本は國際ファシスト國家の援助を得ることが出来るけれども、併し同時に、却つてその援助の力量を超過する國際反對力量に對抗しなければならぬ。この後者の力量は將に漸次増加せんとして居り、終ひには前者の援助力量を徹底的に消耗し盡し、且つ將にその壓力は日本自身の上に懸らんとしてゐる。これは道を失へば助衰しの規律であり、日本の戦争の本質から生ずるものである。要するに、日本の長所はその戦争力量の強大な點にあり、而してその短所はその戦争本質の退歩性、野蠻性、その人力物力の不足、その國際環境の寡助に在る。これ等が日本側の特殊性である。

(一一) 中國側——第一、我々は半植民地半封建的國家である。鴉片戦争、太平天国、戊戌維新、辛亥革命より北伐戦争に到る大革命、有ゆる半植民地半封建的地位を離脱する爲の革命運動は、悉く嚴重な挫折に遭つた。故に依然としてこの半植民地半封建的地位に止まり、

一、持久戦論

我々は依然として弱國であり、我々は軍事力、經濟力、政治組織力各方面とも明かに敵に及ばない。戦争の不可避と中國の速勝不可能とはこの方面にその基礎を有つてゐる。併しながら第一、中國最近百年來の解放運動は、今日に至るも續けられ、既に如何なる歴史時期とも異り、各種の内外反勢力量により解放運動は嚴重な挫折に遭つたが、併しそれは却つて中國人を鍛練した。中國の軍事、經濟、政治、文化は、日本程強大ではないが、併し中國自體に就いてみれば、却つて如何なる歴史時期よりも進歩的要素をもつてゐる。中國今日の解放戦争は、かゝる進歩的基礎に立つて持久戦と最後勝利の可能性を得た。中國は朝日の昇るが如き國家であり、これは日本帝國主義の没落状態と全く相反する對照である。中國の戦争は進歩的である。かゝる進歩性から、中國戦争の正義性を生じた。何となればこの戦争は正義的であるが爲に全國の團結を喚起し、敵國人民の同情を激成し、世界多數國家の援助を求め、これを可能ならしめた。第三、中國は非常に大きな國家であり、地大、物博、人多、兵多であり、長期戦に耐へることが出来る。これは又、日本と相反する對照である。最後に、第四、日本戦争の退歩性、野蠻性及び中國戦争の進歩性、正義性によつて廣大な國際援助を受ける結果になり、日本の失道寡助と正反對である。要するに、中國の短所は戦争力量の弱いことであり、その長所はその戦争本質の進歩性と正義性であり、國家の大きいこと、國際形勢の援助が多いこと、これ等は皆中國の特殊性である。

(二) かく見來るとき、日本の軍事力、經濟力、政治組織力は強大であるが、併し戦争は退歩的、野蠻的であり、人力、物力も亦不十分であり、國際形勢も亦不利である。中國はこれに反して、軍事力、經濟力、政治組織力に於て比較的弱少であるが、併しながら正に進歩的時代と人民は中國を援助して呉れる。——これ等は中日戦争の互ひに矛盾する基本的特殊性である。これ等の特殊性は、雙方のあらゆる政治上の政策と軍事上の戦略、戦術を規定したが、現在に於ても規定して居り、戦争の持久性と最後勝利が中國のものであり、日本のものではないことを規定したが、現在に於ても規定して居る。戦争はこれ等の特殊性の競争である。これ等の特殊性は戦争過程中に於て各々その本質によつて變化を生じ、あらゆる物は此處から發生して來る。これ等の特殊性は現實に存在してゐるものであり、虚構の捏造ではない。即ち戦争の各種的基本要素であつて、部分的な斷行ではなく、雙方のあらゆる大小の問題とあらゆる作戦段階を通じて、有つても無くてもよいと言ふものではない。中日戦争を観察するとき、若しこれ等の特質を忘れるならば、必ず錯誤を犯さねばならない。即ち或種の

の意見は一時或人に正しいと思はせることがあるが、戦争の経過は必ずそれが錯誤であることを證明するであらう。我々は現在これ等の特殊性に基いて我々が説かんとするあらゆる問題を説明しよう。

亡國論を駁す

(一三) 亡國論者は敵我強弱の對比を二因素と看做して、從來は、『抗敵必亡』を唱へ、現在は、『再戰必亡』を唱へてゐる。若し我々が敵は強いが小國であり、中國は弱いが大國であると言ふだけであるならば、彼等を説服するに足らない。彼等は元朝が宋を滅ぼし、清朝が明を滅ぼした歴史の證據を持ち出し、小さくとも強い國家は大きくとも弱い國家を滅ぼすことが出来、進歩的なものは落後的なものを滅ぼし得ることを證明することが出来る。若し我々が、これは古代のことであり、根據とするに足らないと言ふならば、彼等は又英國が印度を滅ぼした證據を持ち出して、小さくとも強い資本主義國は大きくとも弱い落後國家を滅ぼし得ることを證明出来る。故に、若しこの問題に答へんとするならば、尙その他の根據を提出して始めてあらゆる亡國論者の口を封じ、彼等を心服させあらゆる宣傳工作に従事する人々に十分な證據を與へて尙不明瞭にして不確實な人々を説服して、その抗戰の信念を鞏固ならしめることが出来る。

(一四) 茲に提出すべき根據とは何か？それは即ち時代の特殊性である。この特殊性の具體的反映は日本の退歩と寡助であり、中國の進歩と多助である。

(一五) 我々の戦争は他の如何なる戦争とも異つてゐる。即ち中日兩國は二十世紀四十年代に於て戦つてゐるのである。我々の敵方は、先づそれは將に死滅せんとしてゐる帝國主義であり、それは既に退歩時代に處して居り、唯に英國が印度を滅ぼした當時、英國が尙資本主義の進歩時代に在つたのと異つて居るばかりではなく、二十年前歐洲大戰當時の日本とも異つて居る。今次戦争は、世界帝國主義、先づファシスト國家大崩潰の前夜に勃發し、敵も亦正にこれが爲にこの最後の足掻きである冒險的戦争を敢行したのである。故に戦争の結果、滅亡するのは中國ではなくして、日本帝國主義の統治集團であり、これは不可避的必然である。更に、日本が戦争をしてゐる時は、正に世界各國は或は既に戦争に遭ひ、或ひは將に戦争に遭はんとしてゐる時であり、何れもみな正に野蠻な侵略戦に反抗する爲に戦ふ準

備をして居り、中國も亦世界多數國家と多數人民の利害と關聯してゐる。これは日本が既に世界多數國家と多數人民との反對を惹起し、深刻化した根源である。

(一六) 中國は如何？それは最早他の如何なる歴史時期とも比較することは出来ない。半植民地と半封建社會とがその特殊性であり、それは進歩的であるとは、普通一般の進歩ではなく、エチオピアの抗伊戰爭の如き進歩ではなく、太平天國又は辛亥革命の如き進歩でもなく、今日の中國の進歩を言ふのである。今日の中國の進歩は何處に在るか？それは最早完全な封建國家ではなく、既に資本主義を有し、實業階級と無産階級とを有し、既に自覺し或は正に自覺せんとしてゐる廣大な人民を有し、國民黨と共産黨とを有し、政治上進歩的な軍隊を有し、數十年來の革命の傳統と經驗、特に十五年來の經驗を有つてゐる。これ等の經驗は中國の人民を教育し、中國の政黨を教育し、今日に於ては團結抗敵の基礎となつてゐる。若し露西亞に於て一九〇五年の經驗がなかつたならば、一九一七年の勝利は無かつたであらう。我々も亦若し十五年來の經驗がなかつたならば、抗日の勝利は有り得ないであらうと言ふことが出来る。これは國內的條件である。

國際的條件は、中國をして孤立的戰爭をさせない。これも亦歴史的に空前のものである。歴史的には、中國の戰爭であれ、印度の戰爭であれ、皆孤立的であつた。併し思ふに今日に於ては世界的に空前に廣大な且つ空前に深刻な人民運動と中國に對する援助とが既に發生し、且つ將に發生せんとしてゐる。露西亞は一九一七年に世界の援助を獲て、彼等はこれに因つて勝利を獲た。併しその規模は今日程廣大ではなく、性質も亦今日程深刻ではなかつた。世界の人民運動は正に空前の大規模と空前の深刻性を以て發展してゐる。同時に、蘇聯の存在は、更に今日の國際政治上に於て十分重要な因素をなして居り、それは必然的に極めて中國援助に熱心であり、この現象は、二十年前に於ては全く無かつた所である。これ等は總て、中國が最終的に勝利を獲る爲に不可欠な重要な條件になつて來てゐる。大量の直接的な援助は現在まだないが、日ならずして來ることであらう。併し中國は進歩と大國との條件により、戰爭の時間を延長させ、國際的援助を促進し待つことが出来る。

(一七) 加之日本は比較的小國・地小・物少・人少・兵少であり、中國は大國・地大・物博・人多・兵多であり、この互ひに異なる條件は、茲に於

て、強弱對比の外に、小國・退歩・寡助と大國・進歩・多助の對比となり、これは中國が決して亡びない根據である。強弱の對比は、日本が中國に於て一定時期と一定程度に於て横行し得ることを規定するものであるが、中國は不可避的に艱難の路程を歩み、抗日戰爭は持久戰であつて決して速決戰ではありえない。併しながら小國・退歩・寡助と大國・進歩・多助の三つの相反する對比は、日本が徹底的に横行し得ず、必然的に最後の失敗に遂着するが、中國に決して滅亡せず、必然的に最後の勝利を獲得することを規定してゐる。

(一八) エチオピアは何故滅亡したのか？第一、それは弱國であるばかりでなく、小國である。第二、それは中國の如く進歩せず、それは古い奴隸制乃至農奴制の國家であり、資本主義を有たず、實業階級政黨をもたず、更に共産黨もなく、中國の如く進歩的な軍隊も有たず、中央軍の如き軍隊もなく、更に八路军の如き軍隊も持たない。第三、それは國際的援助を得ることが出来ず、その戰爭は孤立的である。第四、これは主要なものであるが、即ち抗伊戰爭領導方面の錯誤である。エチオピアはこれが爲滅亡した。併しながらエチオピアには尙相當廣大な遊擊戰爭が存在したが、若しこれを堅持することが出来たならば、未來の世界の變動中に於てその祖國を回復し得るであらう。

(一九) 若し亡國論者が中國近代の解放運動の失敗史を提出して「抗戰必亡」と「再戰必亡」とを證明せんとするならば、我々の回答も亦時代が異るといふ一言を以てする。中國自體・日本内部・國際環境は皆過去と異つて居る。日本は過去に於けるよりも強くなつたが、中國の半植民地と半封建地位は依然として變化せず、力量は依然として頗る弱く、これは嚴重な状態になつてゐる。日本は暫時尙その國內の人民を控制し、國際間の矛盾を利用してその中國侵略に使ふことが出来ると云ふこと、これは皆事實である。併しながら長期戰爭の過程中に於て、必然的に相反する變化が發生せんとしてゐる。これは現在尙事實でないが、併し將來必ず事實になるであらう。この點を亡國論者は抛棄して顧みない。中國は如何？唯に現在既に新しい人、新しい政黨、新しい軍隊と新しい抗日政策が十餘年前と非常に異つて居るばかりでなく、これ等は皆必ず前進する。歴史上の解放運動は屢々挫折し、中國をして更に大きな力量を蓄積して今日の抗日戰爭に用ふることを得させしめて居り、これは非常に滑稽で飽きざる歴史教訓であり、今後、更に自己の如何なる革命力量をも破壊してはならず、然して既存の基礎の上に、廣大な努力を附加し、必ず漸次前進して、抗戰力量を強化すべきである。偉大な抗日民族統一戦線は、かゝる努力の總方向である。國際援助の方面は、且つ尙大量の且つ直接的であると見ええない。併し國際局面は根本的に既に過去と

異つて居り、大抵且つ直接的援助は正に阻礙しつゝある。近代の無数の解放運動の失敗は皆その客観的にも主観的にも原因を有つて居るが、併し單純に今日の状況と比較することは出来ない。今日、幾多の困難な条件が存在して居り、抗日戦争が艱難な戦争なることを規定して居る。例へば敵は強く、我は弱く、敵の困難は尙始まつたばかりであり、我々の進歩は尙非常に不十分である等々である。併し敵に戦勝する有利な条件は非常に多い。唯主観的努力を添加して困難を克服して始めて勝利を爭取することが出来る。これ等の有利な条件は、歴史を今日に比すべき時期はなく、これは抗日戦争が必ず歴史上の解放運動と共に失敗に歸さねばならぬ理由とはならないのである。

妥協か抗戦か？ 腐敗か進歩か？

(一〇) 亡國論が根據を有たないことは上述の如くである。併しその他の多くの人々は、決して亡國論者ではなく、愛國の志士であるが、併し時局に對しては深甚の憂慮を懐いて居る。彼等の問題は次の二個である。即ち一は抗日妥協の危険であり、一は政治が進歩し得ないことに對する懷疑である。この二個の憂ふべき問題は廣大な人民の間に於て議論せられて居り、解決の基跡を見出し得ない。我々は今からこの問題を研究しよう。

(一一) 前述の妥協問題はその社會に根據があり、この社會的根源の存在により、妥協問題は發生せざるを得ないのである。併し妥協は或一功しない。この點を聲明するには、日本・中國・國際三方面にその根據を求めねばならない。第一は日本方面である。尙抗戰頭初に於て、我々は一種の妥協空氣を醸成する時機が到来したと思つた。即ち敵が華北と江蘇を占領した後、投降を勧告する手段を提出することが出来た。その後果然この手段を持ち出した。併し危機は既に過去のものとなつた。原因の一は敵が普遍的な野蠻政策を採り、公然と掠奪を實行したからである。中國が投降するならば、何人も依然として亡國奴でなければならぬ。敵のかゝる掠奪は亡國の政策であり、物質と精神の兩方面に分つて、共に普遍的にこれを中國人に施すものであり、下層民衆に對するものはなくして、上層分子に對するものであり、當然後者に對して些か憐愍して居る。併し程度の差こそあれ決して原則的な區別ではない。概して言へば、それは東三省の古いやり方を内地に移植したものである。物質上に於て、普通人民の衣食を掠奪し、廣大な人民をして飢寒に啼號せしめ、生産設備を掠奪し、中國

民衆資本を破滅と奴役化に歸せしめた。精神上に於て、中國人民の民族意識を掠奪し、日章旗の下に、各中國人は唯從順な民であり、牛馬の如くあり得るだけであり、毫も中國的存在感はない。敵はかゝる野蠻政策を尙深く内地にまで施さうとして居る。その習俗は非常に大きく、戦争の停止を願はない。一月十六日敵内閣の宣言する方針は、今日に至るも斷乎として執行せられて居り、執行せざるを得なくなつて居る。これはあらゆる階級の中國人を激怒させた。これは敵の戦争が退歩的野蠻的であることによるものであり、『掠奪は免れ難い』茲に於て絶對的對立を形成した。或時期に至れば、敵の投降勧告手段も出現し、或種の亡國論者も露出せんとし、彼等は或種の國際分子(英・美・佛内部)には皆かゝる人が居り、特に英國の上層分子はそれである」と結托共謀して悪事を働かんとするものと考へられる。併し大勢の細く所、投降することを得ず、日本戦争の堅固さと特殊野蠻性は、この問題の一方面を規定した。

(一二) 第二は中國方面である。中國の抗戰堅持の要素には三つある……その一は、國民黨が、その領袖、その黨員の大多數より見て、抗戰を堅持することが可能である。その二は、共產黨は、敵さへもその抗戰の堅定性を疑はない所である。その三、他の黨派と全國人民は、妥協が亡國奴になることである爲、絶對多數は妥協に反對し、抗戰を擁護して居る。この三者は相互に團結し、相互に監督し、誰かが妥協して漢奸にならうとするならば、人々は彼を懲罰するであらう。總て漢奸になることを喜ばない人は、徹底的抗戰堅持の爲に團結せざるを得ず、妥協は實際上成功し難い。

(一三) 第三は國際方面である。日本の盟友と各國内部上層分子中に於ける或種の成分を除き、その他は皆中國妥協に不利であり、中國抗戰に有利である。この要素は中國の希望に影響し、今日全國の人々は一種の希望を懐いて居り、國際力量は必ず漸次中國援助を増強せんとするであらう。この希望は架空のものではなく、特に蘇聯の存在は、中國の抗戰を鼓舞するものである。空前に強大な社會主義的蘇聯は、中國と從來より休戚を共にしてきたものである。而してレーニン主義によれば、蘇聯はあらゆる資本主義國家の上層分子の利益と根本的に相反するものであり、それはあらゆる弱小民族と革命戦争の援助をその義務として居る。中國戦争の非獨立性は、一般に全體的な國際的援助の上に建設せられるばかりでなく、特殊に蘇聯の援助の上に建設せられるものである。中蘇兩國は地理的に接近して居り、これは日本の危機を加重し、中國の抗戰に有利である。中日兩國の地理的接近は、中國抗戰の困難を加重し、この點米獨立戦争と英國の關係とは異つて居る。併しながら中蘇の地理的接近は、却つて大いに米獨立戦争より優れて居り、この點を忽略してはならぬ

(二四) これによつて結論をなすならば、妥協の危機は存在してゐるが、これは克服し得るものである。何となれば、敵の政策は或程度
の改変をなし得るが、根本的には改変することが出来ないからである。中國内部には、妥協の社會的根源があるが、併し妥協に反對する
ものが大多数を占めてゐる。國際力量にも妥協に賛成するものがあるが、併し主要な力量は抗戦に賛成してゐる。この三種の因素を綜合
するとき、妥協の危機を克服し、徹底的抗戦を堅持することが出来る。

(二五) 茲に於てか第二の問題に答へよう。國內政治の改進は、抗戦の堅持と不可分の關係にある。政治が改進されればされる程抗戦は
益々堅固になることが出来、抗戦が堅固になればなる程政治は益々改進せられ得る。併し基本的には抗戦堅持に依存する。黨政軍民各
方面の不良現象は嚴重に存在して居り、これは不合理な因素の歴史的累積であり、廣大な愛國志士をして非常に憂慮し煩悶せしめるもので
ある。併し抗戦の經驗は既に證明した十箇月の進歩は過去數年の進歩に相當し、決して人を悲觀せしめる根據ではないことを。歴史的に
累積せられた腐敗現象は、非常に嚴重に抗戦力量の増加速度を阻礙し、戦争の勝利を減少し、戦争の損失を招致した。併し中國、日本、世界
の大局は、我々に進歩せざるを得ざらしめてゐる。進歩を阻礙する因素即ち腐敗現象の存在により、この進歩は緩慢ならしめられて居る。
進歩と緩慢とは目前の時局に於ける二個の特殊性であり、戦争の切迫せる要求に適合せず、これは愛國志士をして大いに憂慮せしめる所
である。併しながら我々は戦争して居り、戦争は必然的に腐敗現象を克服し得る。革命戦争は一種の抗毒素であり、それは敵の毒氣を排
除し、自己の汚濁を浄洗する。戦争の力量は非常に大きく、それはあらゆる物を改造し得る。中日戦争は將に中日兩國を改造せんとして
ゐる。唯中國が統一戦線を堅持し抗戦を堅持しなへすれば、必ず古い日本を新しい日本に變へることが出来、古い中國を新しい中國に變
へ、中日兩國の人と物とは皆將に今才戦争中及び戦後に於て改造せられんとしてゐる。我々は抗戦と建國とを聯繫して見るのが正しい。
日本も亦改造せられ得ると言ふのは、日本統治者の侵略戦争が將に失敗せんとし、日本人民革命の可能性が生れやうとしてゐると言ふこ
とである。日本人民革命勝利の日は日本改造の時である。これは中國の抗戦と密切に聯繫し、この前途には見るべきものがある。更に言
葉を重ねて言へば、戦争は一切を改変する。諸君はこれに對して堅固な信念をもつべきであり、且つこの信念から出發して努力をなすべ
きである。

亡國論は間違ひてあり、速勝論も亦間違ひてある。

(二六) 我々は既に強弱、大小、進歩退歩、多助寡助等敵我間の矛盾せる基本特點を、比較研究して、亡國論を批判論駁し、何故妥協が困
難であり、何故進歩が可能であるかの問題を説明した。亡國論者は強弱の矛盾を重視し、それを誇張して問題の全體に對する根據とな
し、而してその他の矛盾を忽略した。彼等は唯強弱の對比を提出するだけであり、一面的であり、彼等がこの一面的なものを誇張して全
體と看做すのは、彼等の主観であり、それ故全體から言へば、彼等には根據なく、錯誤を犯してゐる。それ等は決して亡國論ではなく、
一貫せる悲觀主義でもなく、僅かに一時期一局部の敵我の強弱状況や國內腐敗現象により混淆する所であるに過ぎず、一時的に悲觀心理
を發生した人々である。我々は又彼等に向つて彼等の觀點の來源が一面的且つ主観的な傾向をもつことを指摘することが出来る。併し彼
等の改正は比較的容易であり、唯覺醒させれば明白になる。何となれば彼等は愛國志士であり、彼等の錯誤は一時的であるからである。
(二七) 併し乍ら速勝論も亦間違ひである。彼等は或ひは根本的に強弱のこの矛盾を忘れて、單にその他の矛盾を記憶してゐるだけであ
る。中國の長所に對しても、眞實の状況を隠れて、往々誇張して、異つたものにしてしまふ。或ひは一時一地に於ける強弱現象を以て全
體の強弱現象にすり變へ、一葉の目を遮るものがあるれば、泰山を見ずして、自ら足れりとしてゐる。要するに、彼等は敵が強く我が弱
いといふこの事實を承認する勇氣がなく、彼等は常にこの點を抹殺し、それによつて眞理の一面を抹殺する。彼等は又自己の長所の有限
性を承認する勇氣なく、法螺を吹くことと、遠慮することとを混同して眞理の他の一面を抹殺する。これが爲大なり小なりの錯誤を犯し、
此處にも主観的と一面的の錯誤がある。かゝる連中は良心的であり、彼等は愛國志士である。併し『先生の志は大である矣』けれども先
生の考へは間違つて居り、かくの如くやつて行けば、必ず壁にぶつかるとであらう。何となれば、考へが眞理に合はなければ、行動は目的
に達し得ないからであり、無理をすれば、敗戦亡國に到り、結果は失敗主義者と異らなくなり、それ故不必要である。
(二八) 我々は亡國の危険を否認するか？否認しない。我々は中國の前面には解放と亡國の二個の可能な前途が横たはつて居り、兩者は猛
烈な闘争をなしてゐることを承認する。我々の任務は、解放を實現して亡國を免れることに在る。解放を實現する條件は、基本的には中

國の進歩であり、同時に、敵の困難と世界の援助とを付け加へることである。我々と亡國論者とは異つて居り、我々は客觀的且つ全面的に亡國と解放の二個の可能性が同時に存在することを承認し、解放の可能性が優勢を占めて居り、解放を達成する條件を指摘し、且つこれ等の條件を爭取する爲に努力する。亡國論者は主觀的且つ一面的に亡國の可能性のみを承認し、解放の可能性を否認し、更に解放の條件を指摘してこれ等の條件の爲に努力しない。我々は妥協傾向及び腐敗現象をも承認するものであるが、併し我々は尙その他の他の傾向とその他の現象をも認識して、二者の中後者が前者より優勢であり、二者が、猛烈な闘争をなして居ることを指摘し、二者の實現の條件は、妥協傾向を克服し、腐敗現象を轉ずる爲に努力することに在ることを指摘する。これが爲我々は決して悲觀せず、悲觀的な人にはその反對である。

(二九) 我々も亦速勝を喜ばないことはない、誰でも明日の朝にでも『鬼子』を追ひ出すことに賛成する。併し我々は一定の條件がなければ、速勝は唯主觀の中に於てのみ存在するものであり、客觀現象の上に於ては存在せず、唯幻想であり道理に反するものであることを指摘する。故に客觀的且つ全面的にあらゆる敵我の状況を考慮し、戰略的持久戦によつてのみ最後勝利の唯一の路線であることを指摘し、而して些かも根柢のない速勝論を排斥する。我々は最後勝利を爭取する爲に必要なあらゆる條件を爭取する爲に努力することを主張し、條件が少しでも多く備はり、一日でも早く備はれば、勝利の獲得はそれだけ多くなり、勝利の時期は一日早くなる。我々はかくして始めて戰爭の過程を短縮し得ることが出来るのであり、便宜を貪り空談を尙ぶ速勝論を排斥する。

何故持久戦でなければならぬか

(三〇) 今や我々は持久戦問題に就て研究しよう。『何故持久戦でなければならぬか』と言ふこの問題は、唯あらゆる敵我對比の基本因素によつてのみ、正確な回答をなすことが出来る。例へば、單に敵は帝國主義的強國であり、我々は半植民地、半封建的弱國であると言ふだけであるならば、亡國論の危険に陥らねばならない。何となれば、單に強を以て弱を撃つことは、理論的にも實際的にも、持久の結果を生ずることは出来ないからである。單に大小或ひは進歩退歩、多助寡助と言ふも同じことである。大が小を併せ、小が大を併せる

ことは常にあることである。進歩的國家又は事物は、假令力量が強くなつても、大きくとも退歩的國家又は事物が亡ぼされるといふことが常にある。多助寡助は重要な因素であるが、併し附隨的因素であり、敵我自身の基本因素如何によつてその作用の大小が定まり、『天は自ら助くるものを助く』と言ふ一句は科學的な真理である。故に我々が抗日戰爭は持久戦であると言ふのは、あらゆる敵我因素の相互關係から生れて来るのである。敵が強く我が弱ければ、我は滅亡の道を辿らねばならない。併し敵にも尙その他の缺點があり、我には尙その他の優點がある。敵の優點は我の努力によつてこれを弱めることが出来、その缺點も亦我の努力によつてこれを擴大することが出来る、我方はこれに反し、我の優點は努力によつて強化することが出来、缺點は努力によつて克服することが出来る。故に我は最後勝利が可能であり、滅亡を免れることが出来、敵は將に最後の失敗を喫せんとして居り、全體的に帝國主義制度の崩潰は免れ難いであらう。

(三一) 既に敵の優點が唯一のみで他は皆缺點であり、我の缺點は唯一のみで他は皆優點である以上、何故平衡な結果が生じないで、反つて敵が優勢であり我が劣勢であるといふ結果を生じたか？ 非常に明かなことは、かくの如き形式的な見方が出来ないことである。事情は現時敵我強弱の程度懸隔が餘り甚しく、敵の缺點は一時尙その強い因素を減殺するに足る必要な程度にまで發展することが出来ず、我の優點は一時その弱い因素を補充するに足る必要な程度にまで發展することが出来ず、それ故平衡が出現せずして、現れたのは不平衡である。

(三二) 敵は強く我は弱い、敵は優勢であり我は劣勢である。この状況は、我が統一戦線を堅持し抗戰を堅持する努力によつて變化し得る所であるが、併しその基本状況には變化がない。故に戰爭の一定段階上に於て、敵は或る程度の勝利を得ることが出来、我は將に或る程度の失敗を喫せんとしてゐる。併しながら敵我は共に唯この一定段階上一定程度の勝敗に限られてゐるだけであり、それを超えて全體的勝敗に進むことは出来ない。これは如何なる原因によるものであるか？ 何となれば、一は敵が強く我が弱いといふ元來の状況が相對的であつて絕對的でないからである。二は我の統一戦線堅持と抗戰堅持の努力によつて、更にかゝる相對的形勢を招來するからである。元來の状況に就いて言へば、敵は強いが、既にその他の不利な因素により力を弱められて居る。併しなほ敵の優勢を破壊するに足る程度に迄はその力は弱められてゐない。我は弱いけれども、併し既にその他の有利な因素によつて補充せられてゐる。併しなほ我の劣勢を改變す

るに足る程度に迄は補充せられてゐない。故に於て敵が相対的に強く、我が相対的に弱く、敵は相対的に優勢であり、我は相対的に劣勢であるといふ状態を形成した。兩者共に絶對的ではなく、それ故、各々一定段階に於ける一定程度の勝敗に限られ、持久戦の局面を醸成した。加之、戦争過程に於ける我の統一戦線堅持と抗戰堅持の努力とは、更に敵我元來の強弱優劣の形勢を變化し、相対的強弱優劣を相來して來た。それ故、敵我は唯一定段階に於ける一定程度の勝敗に限られ、持久戦の局面を招來した。

(三三) 併しながら、状況は變化を續けてゐる。戦争の過程に於て、唯若し我が正確な軍事政治上の策略を利用して、原則的錯誤を犯さず、最善の努力を盡さへすれば、敵の不利な因素と我の有利な因素とは共に戦争の延長に隨つて發展し、必ず引續き敵我強弱の元來の程度に影響し、引續き敵我の優劣状態を變化するであらう。新しい一定段階に到達した時、強弱程度と優劣状態に大變化を生じ、敵が敗れ我が勝つ結果に到るであらう。

(三四) 現在はまだ敵の強い因素は尙どうにか利用し得るものであり、我の抗戰は尙基本的にそれを削弱し得ないでゐる。その人力、兵力、財力、物力不足の因素は尙その進攻を阻止するには到つてゐないが、尙その進攻を一定程度に維持するに足りてゐる。その本國階級對立と中國民族對立を激成するに足る因素、即ち戦争の退却性と野蠻性の因素も亦、未だ根本的にその進攻を妨礙するに足る状況には到つてゐない。國際的孤立の因素も亦變化發展しつゝあり、尙真正の孤立に迄は達してゐない。故に抗戰は連勝することを得ず、持久戦なることを規定した。中國側の強い因素は現在軍事、經濟、政治、文化各方面に於て、十個月の抗戰中に於て或る程度の進歩をなしたが、併し敵の進攻を阻止し我の反攻を準備するに足る必要な程度には、未だ非常に懸隔がある。且つ量的方面に於ても不十分なるを免れ得ない。その各種の有利な因素は、皆積極的な作用をなしてゐるが、併し敵の進攻を停止し、我の反攻を準備するに足る程度に迄到達せんとするならば、尙大いに努力をなし、國內に於ては腐敗現象を克服し、進歩速度を増加し、國外に於ては、助力勢力を克服し、抗日勢力を増加しなければならぬ。併しそれは未だ目前の現實にはなつてゐない。故に、戦争は速勝する能はず、持久戦を規定した。

持久戦の三つの段階

(三五) 中日戦争の持久戦は、具體的には三つの段階中に表現せられる。第一の段階は、敵の戰略的進攻と我の戰略的防禦の時期である。第二の段階は、敵の戰略的保守と我の反攻準備の時期である。第三の段階は、我の戰略的反攻と敵の戰略的退却の時期である。三つの段階の具體的な状況を豫斷することは出来ないが、併し目前の條件に就て見れば、戦争の趨勢中から大體を指摘することは出来る。客觀的現實の行程は異常に曲折變化に富み、誰も中日戦争の運命を豫言することは出来ないが、併し、戦争趨勢の輪廓を描くことは、戰略指導上必要である。故に描く所ものが盡く將來の事實に符合することは出来ないが、併し事實の校正する所となるであらう。従つて確實に目的の持久戦を進行する戰略指導の爲、輪廓を描くことは依然として必要である。

(三六) 第一の段階は、尙尙完結してゐない。敵の企圖は廣州・武漢・蘭州の三點を攻略し、この三點を聯繫することに在る。若し敵がこの目的を達成せんとするならば、少くとも五十個師、約百五十萬の兵力を出し、一年半乃至二年の時間を費し、百億元以上の費用を消耗しなければならぬ。敵がかくの如く深入りするとき、その困難は極めて大であり、その結果は思ひ半ばに過ぎるものがある。完全に粵漢路、西蘭路を占領しようとするに至つては、極めて危険な戦争であり、必ずしもその企圖を完全に達成し得るものではない。併し我々の作戰計畫は、敵の占領可能な三點及び三點以外の或地區を出来るだけ聯繫して一つの基礎となし、持久戦に對峙すべきであり敵がかくの如くするならば、我もそれに對峙する。この段階に於ける戦争形式の主要なものは、運動戦であり、游擊戦と陣地戦とは、補助的なものである。陣地戦は、この段階の第一期に於ては、主觀的錯誤によつて假令それを主要地位に置いて、全段階から見るときは、依然として補助的である。この段階中に於て、中國は既に廣大な統一戦線を結成し、空前の團結を實現した。敵は既に卑劣無恥な投降勸告手段を採用したが、將來もそれを採用せんとしてゐる。その企圖は大きな力を消耗しないで速かにその計畫を實現し、全體的に中國を征服しようとするものであるが、過去に於て既に失敗したが、今後に於ても成功は困難であらう。この段階中に於て、中國は頗る大きな損失を蒙つたが、同時に頗る大きな進歩をも遂げた。この進歩は第二段階に於て抗戰を繼續する主要な基礎をなす。この段階に於て、國際的援助は尙大量且つ直接的ではないが、既にこの援助を開始した。特に蘇聯に於て然りである。敵側には、士氣は既に頹廢沈滞し始め、敵陸軍の進攻氣勢は、この段階の中期に於ては最早や初期の如くでなく、末期に於ては尙更初期の如くでないであらう。敵の財政經濟は既に枯渇の徴候が現れ始め、人民の厭戰氣分は既に芽生え始め、戦争指導集團内部には既に「戦争の煩悶」が現れ始め、戦争前途に對して悲觀

一、持久戦論

的になり始めた。

(三七) 第二の段階、即ち敵の兵力不足と我の堅強な抵抗とにより、將に敵を壓迫して一定限度の戰略的進攻の終點を設けざるを得ざらぬ。この終點に到達した後は、その戰略的進攻を停止して、占領地保守の段階に轉入する。この段階内に於て、敵の企圖は占領地を保守して、偽政府の表面的形態を組織してこれを自家護衛中のものとなし、中國人民から思ふ存分物をかき集めることに在る。併しその面前には頑強な遊撃戦争が待ち構へて居る。遊撃戦争は第一段階中に敵後の間隙に乗じて普遍的發展をなし、幾多の根據地を建設し、基本的には頑強な占領地保守を脅威せんとするものであり、それ故第二の段階に於ては廣大な戦争を展開するであらう。だが雙方の作戰形式は遊撃戦争を主とし、運動戦を補助とする。この時中國は尙大量の正規軍を保有して居り、一方に於て敵がその占領せる大城市と大道路上に於て戰略的守勢を取り、他方に於て中國の技術的條件が未だ完備せざる爲、尙迅速には戰略的進攻を行ふことは困難である。正面防禦部隊以外に、大量を敵後に轉入させて、やゝ分散的に配置し、あらゆる敵未占領區域に依存して、民衆武装と相俟つて、敵占領地に對して大規模且つ猛烈な遊撃戦争を展開するならば敵を運動戦に於て消滅させることが出来る。これは山西にその例がある。この段階の戦争は殘酷であり、地方は將に甚大な破壊を蒙らんとして居る。併し遊撃戦争の勝利は可能であり、うまく行けば、敵をして占領地の三分の一前後の區域しか保守することを得ざらしめ、三分の二前後は我々のものになる。これは敵の大失敗であり、中國の大勝利である。當時の敵の全占領地は、三地區に分つことが出来る。第一は敵の根據地である。第二は遊撃戦争の根據地である。第三は雙方の争奪する游撃區である。この段階中に於ける時間の長短は、敵我力量の増減變化の程度如何及び國際形勢變動如何によつて定まり、大體我々は比較的長い時間に對する準備をなし、この困難な路程を乗切るべきである。これは中國の最も痛苦する時期であり、經濟困難と漢奸の擾亂とは二個の非常に大きな事件である。敵は大いに中國統一戰線破壞の活動をなし、あらゆる敵占領地の漢奸組織を合流して、所謂「統一政府」を組織せんとして居る。我々の内部に於て、大城市の喪失と戦争の困難により、動搖分子は大いにその妥協論を唱へ、悲觀気分は壓倒的に風靡せんとして居る。この時期の任務は、全國民衆を動員して、一致協力し、絶對的に捨きない戦争を堅持し、統一戰線を擴大し鞏固にして、あらゆる階級主義と妥協論を排除して、艱苦な闘争を提唱することに在る。新しい臨時政策を實行することこそ、この困難な路程を乗り切ることである。この段階内に於ては、必ず全國に斷乎として統一政府の維持を號召すべきであり、混亂と分裂とに反對し、計畫的に按

衝を増強し、軍隊を改造し、全民族を動員し、反攻を準備すべきである。この段階中に於て、國際形勢は將に更に日本にとつて不利に變化せんとして居り、チェンバレン輩の現實主義が「既成事實」の姿をとつて現れて来る可能性があるが、併し主要な國際勢力は一步進んで中國援助に變らんとして居る。日本は南洋を脅威し、シベリヤを脅威すること、過去に於けるより一段と強化し、甚しきに至つては新しい戦争を爆發させるまでに至つた。敵側は、中國の泥沼の中に陥入つた數十個師團を抽き出すことが出来ず、廣大な遊撃戦争と人民抗日運動とはこの巨大な日本軍を疲弊させ、一方に於て大量に消耗させ、他方に於てはその癡態厭戰を一步進めて直ちに反戰的心理に至らしめ、精神的にこの軍隊を瓦解せんとして居る。日本の中國に於ける掠奪は絶對に成功し得ないと言ひ得ないが、併し日本の資本は缺乏を來たし、遊撃戦争に苦しめられ、急速に多大の成果を収めることは不可能であり、その東三省に於ける聲援は、それを證明するに足るものである。この第二の段階は、全體的な戦争の過程的な段階であり、最も困難な時期である。併しながら、それは變轉の輻輳となるものであり、中國は獨立國になるか、それとも植民地に墮落するかは、第一段階の大城市を喪失するや否やによつて決定せられるのではなくして、第二段階中に於ける全民族の努力の程度によつて決定せられるのである。若し統一戰線の堅持、抗戰の堅持及び持久戦の堅持を強化するならば、中國は將にこの段階中に於て弱を轉じて強となす力量を獲得するであらう。中國抗戰の三幕劇に於て、これは第二幕であり、茲に於ける全演劇者の努力によつて、最も精彩ある終幕は非常な上出来に終ることが出来るであらう。

(三八) 第三の段階は、失地回復の反攻段階である。これは主として中國自身が前段階中に準備し、且つ本段階中に引續き生長する力量によるものである。併しながら唯單に自己の力量によるだけでは不十分であり、尙その上に國際力量と敵國内部の變化による援助がなければならぬ。然らざれば、勝利し得ない。故に中國の國際宣傳と外交工作とを最も強化すべきである。これ等の任務の徹底的完成は、短時間で出来るものではない。何となれば、廣大な被占領區の回復は、必ず血戰を経なければならぬからである。この段階は、既に戰略的防禦ではなく、戰略的進攻であり、現象上、戰略的進攻として現れるであらう。既に戰略的內線でない以上、漸次戰略外線に變ずるであらう。眞直ぐに鴨綠江の河岸まで攻撃して始めて全體的な戦争が終結したと言ひ得る。若し朝鮮等に於ける革命戦争が中國の援助を必要とするならば、それは他の戦争に屬する。第三段階は持久戦の最後段階であり、所謂戦争の徹底的堅持とは、完全にこの段階の全過程を貫徹することである。この段階の戦争形式は、主として運動戦であるが、併し陣地戦も重要な地位に立つ。假令第一段階の陣地防禦が、

當時の條件によつて、重要であると看做されなかつたとしても、第三段階の陣地攻撃は、條件の變化と任務の必要によつて、頗る重要になるであらう。この段階内に於ける遊撃戦は、運動戦と陣地戦とを補助してその戦略に配合する作用をなすものであり、第二段階に於て主要形式をなしてゐたものとは異なる。

(三九) かくの如く觀し來るとき、戦争の長期性は、次第に殘酷化するとは明かである。敵は全中國を併呑することは出来ないが、併し相當長期に亘つて中國の幾多の地方を占領することは出来る。中國も亦迅速に日本を驅逐することは出来ないが、併し大部分の土地は依然として中國のものである。最後には敵が敗れ我が勝つ。併し複雑な路程を乗り切らねばならない。

(四〇) 中國人民はかかる長期にして殘酷な戦争中に於て、非常によい訓練を受けるであらう。戦争に参加した各政黨も訓練を受けるであらう。併し唯だ合作すべきであつて、對立すべきではない。何となれば、對立は滅亡の道であるからである。統一戦線は必ず堅持すべきであり、統一戦線を堅持することによつてのみ、最後勝利が可能となる。若しかくするならば、あらゆる困難も亦克服し得るのであり、戦争の艱難な路程を乗り切つた後、勝利の垣々たる途が開ける。これこそ戦争の必然的なロヂックである。

(四一) 三つの段階中、敵我力量の變化は以下に述べる路線に沿つて進むであらう。第一段階に於ては敵は優勢であり、我は劣勢である。我のかかる劣勢には、抗戰以前からこの段階の末尾に到る迄の間に、二種の異なる變化のあることを考へねばならない。第一は下向的なものである。中國元來の劣勢は、第一段階の劣勢は、第一段階の劣勢を経て更に減弱せんとして居る。これは土地・人口・經濟・軍事・文化機關等に於ける減弱である。第一段階の末期に於ては、相當大きな程度に減弱するかも知れない。特に經濟方面に於て然りである。茲に亡國論や妥協論に利用せられる根拠がある。併しながら必ず第二段の變化、即ち上向的な變化を見なければならぬ。これはとりもなほさず、戦争中の經驗、即ち軍隊の進歩、政治の進歩、人民の動員、文化の進歩、經濟の發展、遊撃戦争の出現、國際援助の増加等々である。第一段階に於て、下向的なものは、古い量と質とであり、主要な表現は量の上にある。上向的なものは新しい量と質とであり、主要な表現は質の上にある。この二種の變化に、我々は持久戦と最後勝利の根拠を有つ。

(四二) 第一段階中に於て、敵側も二種の變化を有つ。第一は下向的なものであり、幾十萬人の死傷、武器彈藥の消耗、士氣の頹廢、國內人心の不滿、貿易の減少、百億圓以上の支出、國際輿論の叱責等々の方面に現はれてゐる。この點にも、我々は持久戦と最後勝利の根拠を有つ。併しながら敵の第一の變化、即ち上向的な變化を考慮しなければならぬ。それは領土・人口及び資源を擴大したことである。我々の抗戰が持久戦であり連勝し得ない根拠が生れる。同時に或種の人々は亡國論及び妥協論の根拠を有つ。併し我々は必ず敵のかかる上向變化の暫時性と局部性を洞察しなければならぬ。それは將に崩潰せんとする帝國主義であり、その中國に於ける占領は暫時的なものである。中國主力軍の頑強な抵抗と遊撃戦争の猛烈な發展とは、將にその占領を實際的に狭小な地帯に制限せんとしてゐる。而して此處から日本と外國との對立が發生して來る。更に、東三省の經驗に基き、日本は相當な長時間に亘り、一般的には只資本の支出だけがあつて、收穫し得ない時期にあるのである。これ等は總て我々が亡國論と妥協論を擊破して持久戦及び最後勝利を建立する根拠である。

(四三) 第二段階に於て、上述の二種の變化は引續き發展して、具體的狀況を發露することは出来ない。併し大體に於て日本は下向を續け、中國は上向を續けるであらう。例へば日本の軍力、財力は大量に中國の遊撃戦争中に於て消耗し、國內人心の不滿は増加し、士氣は益々頹廢し、國際的には更に孤立に陥入るが、中國に於ては、政治・軍事・文化・人民の動員は更に進歩し、遊撃戦争は更に發展し、經濟方面に於ても内地の小工業と廣大な農業とによつて或種の新發展をなし、國際援助は漸次増進せんとし、現在の狀況は大いに面目を改めんとしてゐる。この第二段階も、相當長期に亘るであらう。敵我力量の對比は將に巨大な相反する變化を生ぜんとしてゐる。中國は漸次上昇せんとし、日本は漸次下降せんとしてゐる。その時中國は劣勢を脱し、日本は優勢を失はんとして居り、先づ平衡な地位に到り、更に優勢相反する地位に到らんとしてゐる。この時に到り、中國は大體戰略反攻の準備を完成して反攻を實行し、敵を國外に驅逐する段階に立ち到る。重ねて指摘すべきことは、所謂劣勢を變じて優勢となし、反攻準備を完成することは、中國自身の力量の増長、日本の困難の増長、國際援助の増長を包括してゐる。これ等の力量を綜合することによつて中國の優勢を形成し、反攻準備を完成することが出来る。

(四四) 中國政治・經濟の不平衡の狀態により、第三段階の戰略的反攻は、その前半の一時期に於ては全國整齊劃一の姿ではなくして、地域性を帯び彼此參差の姿態を帯びる。敵は各種の分化手段を用ひて中國の統一戦線を破壞せんと企圖し、この段階中に於ては決してその手を緩めない。故に中國内部團結の任務は更に重要となり、内部不調和によつて戰略的反攻を中途に於て廢してはならない。この時期に於て、國際形勢は將に大いに中國に有利にならんとしてゐる。中國の任務は、かかる國際形勢を利用して自己の徹底的解放を獲得し、獨

立的民主國家を建立し、同時に世界の反ファシスト運動を援助することに在る。

(四五) 中國は劣勢から平衡に到り、更に優勢に到る。日本は優勢から平衡に到り、更に劣勢に到る。中國は防禦から相持に到り、更に反攻に到る。日本は進攻から保守に到り、更に退却に到る。——これこそ中日戦争の過程であり、中日戦争の必然的趨勢である。

(四六) 茲に於て問題と結論は：中國は亡びねばならぬか？答：亡びない。最後勝利は中國のものである。中國は速勝し得るか？答：速勝出来ない。必ず持久戦でなければならぬ。この結論は正確であるか？私は正確であると考へる。

(四七) かく説き來るとき、亡國論と妥協論者が騒ぎ出して言ふ：中國が劣勢から平衡に到る爲には、日本と等しい軍事力と經濟力が必要であり、平衡から優勢に到る爲には、日本以上の軍事力と經濟力が必要である。併しながらこれは不可能である。故に上述の結論は不正確である。

(四八) これは所謂「唯武器論」であり、戦争問題中の機械論であり、主観的・一面的に問題を考察する意見である。我々はこれと反對に、武器から考察するばかりでなく、人力からも考察する。武器は戦争の重要因素であるが、決定因素ではなく、決定的因素は人であつて物ではない。力量の對比は唯に軍事力と經濟力の對比のみではなくして、人力と人心との對比でもある。武力と經濟力とは人が掌握すべきものであつて、若し中國人の大多数、日本人の大多数、世界各國人の大多数が抗日戦争の側に立つならば、日本の少数人が強制的に軍事力と經濟力とを握つてゐても、優勢であると言ひ得るであらうか？それが優勢でない以上比較的劣勢の軍事力と經濟力を掌握してゐる中國は、どうして優勢になり得ないのであらうか？疑ひもなく、唯統一戦線を堅持し、抗戦を堅持し、軍事力と經濟力は漸次強化することが出来る。而して我々の敵は、その長期戦争と内外矛盾の壓力により、その軍力經濟力の現狀は、又必然的に反對の變化を生ぜざるを得ない。かゝる狀況の下に於て、どうして中國は優勢になり得ないであらうか？尙そればかりでなく、目下我々は他國の軍事力と經濟力を大盤に公然と自己の力量となすことが出来ないからと言つて、どうして將來もそれが出来ないと言ひ得やうか？若し日本の敵が中國だけに止まらず、若し將來如何なる國でもその相當大盤の軍事力と經濟力を以て日本に對して防禦をなし又はそれを攻撃し、公開的に我を援助するならば、優勢は我々の側に在るではないか？日本は小國であり、その戦争は退歩的且つ野蠻な戦争であり、その國際地位は益々孤立化し、中國は大國であり、その戦争は進歩的であり且つ正義の戦争であり、その國際地位は益々援助が多くなる。これ等の總て

によつて、長期的發展を経て、優劣の形勢はどうして確定的に變化を發生し得ないことがあらうか？

(四九) 連勝論者は戦争が力量の競争であることを知らず、戦争雙方の力量の對比が一定の變化を起す以前に、戦略的決戦を行ひ、解放達成の路を短縮しようとするが、それは根據のないことである。その意見が實行せられるならば、必ず險壁に逢着しなければならないであらう。或者は空談して快樂を求めただけで、決して真正な工作を準備しない。最後に事實といふ先生が騒ぎ出し、これ等の空談家に冷水を一抔浴せかけ、彼等が實際上便宜主義であつて、少し精力を費すだけで多くの成果を得ようとする空談主義であることを證明するであらう。かゝる空談主義は現在既に存在してゐるが、尙餘り多くはない。戦争が相持段階や反攻段階に到つた時、空談主義は多くなくなるであらう。併し同時に、若し第一段階に於て中國の損失が比較的大きく、第二段階の時間が餘り長引くならば、亡國論と妥協論は更に大々的に流行するであらう。故に我々の火力は、主として亡國論と妥協論に向けられ、その次は、空談主義の連勝論に反對することに用ひられる。

(五〇) 戦争の長期性は確實である。併し戦争が畢竟してどれだけの歳月を要するかは誰にも予測出来ない。これは完全に敵我力量の變化程度によつてはじめて決定し得るものである。總て戦争時間を短縮しようとする人々は、唯自己の力量を増加し、敵人の力量を減少することに努力する方法があるのみである。具體的に言へば、唯作戦に於て多く戦勝し、敵の軍隊を消耗することに努力し、遊撃戦の發展に努力し、敵の占領地を最小範圍に制限し、統一戦線を擴大強化することに努力し、全國力量を團結し、新軍の建設と新しい軍事工業の發達に努力し、政治・經濟・文化の進歩に努力し、工・農・商・學各界人民の動員に努力し、敵軍を瓦解させ敵軍の士兵を爭取することに努力し、國際宣傳に努力して國際援助を爭取し、日本の人民及びその被壓迫民族の爭取に努力してその援助を獲得することである。これ等總てをなして始めて戦争の時間を短縮することが可能となり、それ以外には如何なる巧妙な手段も有り得ない。

錯綜せる戦争

(五一) 我々は持久戦的抗日戦争は、將に人類戦争史上にその光榮ある特殊な一頁を飾り、錯綜せる戦争形態は極めて特殊な一頁であり、

一、持久戦論

これは日本の野蠻と兵力不足、及び中國の進歩と土地廣大といふこれ等の矛盾因素によつて發生して來たものであることを斷言出来る。錯綜せる戦争は、歴史上存在したことがある。露西亞十月革命以後三年間の内戦にはかゝる狀況が存在した。併し中國の特殊性は、その特殊な長期性と廣大性であり、これは特に歴史的記録を破らんとするものである。かゝる錯綜せる形態は以下數種の狀況の上に現はれてゐる。

(五二) 内線と外線——抗日戦争は全體的に見て内線作戦の立場に於ける戦争である。併し主力軍と游撃隊の關係は、主力軍は内線に在り、游撃隊は外線に在り、敵を夾撃する奇觀を呈する。各游撃區の關係も亦然りであり、各游撃區は皆自己を以て内線となし、その他の各區を以て外線となし、非常に多くの敵を夾撃する火線を形成してゐる。

(五三) 後方あつて後方なし——國家の總後方を利用して、戦線を敵占領地の最後限界まで伸長するものが主力軍である。總後方を離脱して、戦線を敵後までに伸長するものが游撃隊である。併し各游撃區は小規模の後方を有ち、その上に固定しない戦線を建設する。これと區別せられるものは、各游撃區が該區敵後に於て臨時的に活動する游撃隊を派遣することであり、彼等には後方もなければ、戦線もない。『無後方作戦』は新時代の、領土が廣大であり、人民が進歩し、先進的政黨と先進的軍隊を有つ狀況中に於ける革命戦争の特殊性であり、懷疑せず提唱すべきであり、恐るべきでなく、非常に有利である。

(五四) 包圍と反包圍——全體的に戦争を見れば、敵の戰略的進攻と外線作戦により、我は戰略的防禦と内線作戦の地位に立ち、疑ひもなく我は敵の戰略的包圍中に在る。これは敵の我に對する第一種の包圍である、我は數量的に優勢な兵力を以て、戰略上の外線から數路に分れて我に向つて前進して來る敵に對して、戰役と戰術上の外線作戦方針を探ることによつて、各分進して來る敵をそれ／＼の包圍中に置く事が出来、これは我の敵に對する第一種の逆包圍である。更に敵後游撃戦争の根據地から見れば、各孤立せる根據地は皆敵の四面又は三面からする包圍中に在り、前者は例へば五峯山であり、後者は例へば晋西北であり、これは敵の我に對する第一種の包圍である。併し若し各游撃根據地を聯繫して見れば、且つ各游撃根據地と正規軍の陣地を聯繫して見れば、我は幾多の敵をいづれも包圍してゐる。例へば山西に於て我は既に三面から同蒲路(路の東西兩側及び南端)を包圍し、四面から太原城を包圍してゐる。河北、山東等の省も亦かくの如く包圍せられてゐる所が多く、これ亦我の敵に對する第二種の逆包圍である。かくの如く、敵我は各々相手に二種の包圍を加へて居り、大體圓

碁に似て居り、敵の我に對する、我の敵に對する戰役及び戰術的作戦は、眼を潰す様なものであり、敵の據點(例へば太原の如し)と我の游撃根據地(例へば五峯山の如し)は眼を作る様なものである。だが國碁の眼は潰すことが出来ないが、これは國碁が機械論的であるからである。併し戦争の『眼』は潰すことが出来るものであるが、これは戦争が辯證法であるからである。若し世界的な國碁をも考慮に入れるならば、第三種の敵我包圍があり、これは侵略陣線と和平陣線との關係である。敵は以前、中・蘇・佛・チエツコ等の國を包圍してゐたが、我は以後、獨・日・伊を包圍する。併し我の包圍は佛の掌の線なものであり、それは將に宇宙を横たへる須彌山にならんとし、數名の新式孫悟空ファンスト侵略主義者を、最後には山の下に壓倒して、永久に立ち上ることを不可能ならしめる。若し我が外交上太平洋反日陣線を建立し、中國を一個の戰略單位とし、蘇聯及びその他の可能な國家をも亦各一個の戰略單位となし、日本人民運動をも一個の戰略單位となし、フアンスト孫悟空が何處へも逃出せない天羅地網を形成することが出来るならば、それこそ敵の死滅する時である。實際上、日本帝國主義が完成に打倒せられる日は、必ずこの天羅地網が大體完成する時であり、これは些かも笑話ではなく、戦争の必然的趨勢である。

(五五) 大塊と小塊——茲に敵占領地區が將に中國本部の大半を占めんとする可能性がある。而して中國大部分の完全な地域は小部分を占めるに過ぎない。これは一個の狀況である。併し敵占領地區の大部分の中、東三省等の地以外に於ては、實際は唯大城市、大道路及び幾許かの平地を占領し得たのみであり、重要性から言へば最も重要であるが、面積から言へば敵占領地區中の小部分であるに過ぎず、普遍的に游撃區を建設すれば、却つてその大半を占めることが出来る。此も亦一個の狀況である。若し本部の範圍を越えて、蒙古・新疆・青海・西藏をも算へるならば、面積上に於て中國が未だ失はない地區は依然として大部分であり、敵占領地區内に東三省を含めても、それは小部分であるに過ぎない。これも亦一個の狀況である。完全な區域は國家の總後方であり、指導中樞の所在であり、最も重要であり、大きな力量を集積して經營すべきであり、政治・軍事・經濟等の方面に於てのみならず、文化方面に於ても重要である。敵は既に、我の過去の文化中心地を文化落後區域となし、我々は過去の文化落後區域を文化中心地になさんとしてゐる。同時に敵後の廣大な游撃區の經營も亦重要であり、それ等を各方面から發展さすべきであり、文化工作をも發展さすべきである。總括して見るとき、中國は將に大部分を占める鄉村を進歩と光明の地區になさんと居り、而して小部分である敵占領地區は、特に大城市は、將に暫時落後と暗黒の地區にならんとしてゐる。

(五六) かくの如く觀じれば、長期にして廣大な抗日戦争は、軍事・政治・經濟・文化各方面の錯綜せる戦争、これは戦争史上の奇蹟であり、中國民族の壯舉であり、驚天動地の偉業である。この戦争は、將に中日兩國に影響し、大々的に兩國の進歩を推助せんとするばかりでなく、將に世界に影響し、各國特に印度等の被壓迫民族の進歩を推助せんとする。全中國人は皆自覺してこの錯綜せる戦争に参加しなければならず、これこそ中華民國の自ら解放を求める戦争形態であり、半植民地大國が二十世紀四十年代に行ふ解放戦争の特殊形態である。

永久和平の爲に戦ふ

(五七) 中國抗日戦争の持久性と中國及び世界の永久和平の爭取は、如何なる歴史時期に於けるよりも今日に於いては分離し得ざるものである。戦争は永久和平に接近するものである。幾十萬年の人類生活は既に二個の時代——人類の和平生活の時代と人類の戦争生活の時代とを經過した。第一の時代は歴史の最も長い時期を占め、當時人類の生産は極めて貧弱であり、唯一の戦ひは自然との戦ひであり、人類集團間の戦争は、必要でもあり、不可能でもあった。第二の時代は大體氏族制社會の末期から今日に到るものであり、生産の發展と社會分化により、人類の戦争生活が始まった。この時代は數千年に過ぎないが、各民族は皆何處戦つたかを知らず、民族集團内部の戦ひであつたか、民族集團間の戦ひであつたかを知らなかつた。資本主義社會の帝國主義時期に到るや、戦争は特に廣大且つ殘酷に戦はれる。二十年前の第一次帝國主義大戰は、過去の歴史上に於て空前のものであつたが、全歴史上に於ては空前の戦争でもなく、最後の戦争でもない。現在開始せられた戦争こそ、歴史的な空前性を帯び、且つ最後戦争に接近するもの、即ち、人類の永久和平に接近するものである。現在の世界人口は既に三分の一が戦争に捲込まれた。諸君よ、伊太利あり、日本あり、エチオピアあり、西班牙あり、中國がある。戦争に参加するこれ等の國家は略々六億の人口を擁し、優に全世界總人口の三分の一を占めてゐる。現在の戦争の特殊性は間斷なく永久和平に接近する性質に在る。何故間斷なくか？ 伊太利はエチオピアと戦つた後、伊太利は續いて西班牙と戦ひ、獨逸も亦一役買ひ、日本も亦續いて中國と戦つてゐる。それから誰が續いてくるか？ 疑ひも無くヒットラーも續いて各大國と戦はんとしてゐる。『ファシズムは

戦争である』ことには少くも錯誤はない。反ファシズムとファシズムとの戦争の決勝以後には最早戦争が無いとは言ひ得ぬが、それ迄必ず引續き戦はねばならず、而して現在の戦争から第二次世界大戰迄の間は、間斷することが出来ず、人類の戦争災難は免れ得ない。何故今次の戦争は永久和平に接近してゐるか？ 今次の戦争は世界資本主義の全體的危機の基礎の上に發生せるものであり、かゝる全體的危機は各資本主義國家に逼つて戦争に介入させ、先づ各ファシスト國家をして戦争といふ冒險に従事させる。かゝる全體的危機によつても、我々は戦争の結果が資本主義を救済するものではなくして、崩潰に向はせざるものであることを豫見することが出来る。今次の戦争は、二十年前の戦争に較べて更に一段と苛烈であり、あらゆる民族は戦争に捲込まれざるを得ず、戦争の時間是非常な長期に亘り、一切の勘定は總決算がなされ、人類は極めて大きな苦痛を嘗めるであらう。併し蘇聯の存在と世界人民の自覺程度の向上とに依り、今次の戦争により疑ひもなく偉大な革命戦争が出現し、あらゆる反革命戦争に干渉して、今次戦争に永久和平の爲の戦ひであると言ふ性質を付與する。即ち爾後に向一度戦争時期があるが、既に世界的な永久和平から遠くない。人類は一度永久和平の時代に到達するや、もう戦争しなくてもよい。その時には軍隊は不要になり、軍艦も要らなくなり、軍用飛行機も要らなくなり、毒瓦斯も要らなくなる。今後は人類の第三時代——永久に戦争の無い和平生活の時代が到来し、我々の子孫は將來何億年も何萬年も戦争を見ないであらう。既に開始せられた革命戦争は、この永久和平の爲の戦争の一部である。五億以上の人口を占める中日兩國間の戦争は、この戦争中に於て重要な地位を占め、中華民族の解放はこの戦争によつて達成せられるであらう。將來解放せられる新中國と、將來解放せられる新世界とは分離出来ないものであり、それ故我々の抗日戦争は永久和平爭取の爲の戦ひであるといふ性質を帯びてゐる。

(五八) 歴史上戦争は二種に分たれる。一は革命的なものであり、一は反革命的なものである。あらゆる進歩的な戦争は皆革命的なものであり、あらゆる進歩を阻礙する戦争は皆反革命的なものである。我々共産黨員はあらゆる進歩を阻礙する反革命的戦争には反對するが、進歩的な戦争には反對しない。後者の戦争に對して、我々共産黨員は反對せざるのみならず、積極的に参加する。前者の戦争、例へば第一次世界大戰の如きは、雙方共に帝國主義の利益の爲の戦ひであり、それ故共産黨は斷乎として彼の戦争に反對した。反對の方法は、戦争が勃發せざる時には、極力その爆發を阻止し、既に爆發した以上は、出来るだけ、戦争によつて戦争に反對し、革命戦争によつて反革命戦争に反對するだけである。日本の戦争は進歩を阻礙する反革命的戦争であり、全世界人民が(その中には日本人民を包括する)それに反

對すべきであり、正に反對を開始してゐる。我々中國は、政府から人民に到るまで、國民黨から共産黨に到るまで、主力軍から游撃隊に到るまで、一齊に義旗を擧げ、反侵略的民族革命戦争を進行した。我々の戦争は神聖であり、正義であり、進歩であり、和平を求めるものである。一國の和平を求めるだけでなく、世界の和平を求め、一時の和平を求めただけでなく、永久の和平を求める。この目的を達成せんと欲するならば、決死の戦ひをなすべく、一切を犠牲にする準備をなし、徹底的にそれを堅持すべきであり、目的を達しなければ、決して停止しない。犧牲が如何に大きく、時間が如何に長くとも、永久の和平と永久光明の新世界は、既に明かに我々の眼前に接近してゐる。我々の戦争を行ふ信念を、この永久の和平と永久光明の新世界の上に建設すべきである。ファシズムと帝國主義は戦争を無限に延長させようとするが、我々は戦争を餘り遠くない將來に於て結末を告げさすべきである。この目的の爲に、大多数の人類は最大努力をなすべきである。四位五千萬の中國人は全人類の四分の一を占め、若し一齊に努力し、統一戦線と抗戦を堅持し得るならば、日本帝國主義を打倒し、自由平等の新中國を創造し、全世界永久の和平の爭取に貢献し、確かに非常に偉大である。この希望は空虚なものではなく、全世界社會經濟の行程は既に此處に接近して居り、唯多數人の努力に付け加へるに、幾十年の時間を以てすれば、必ず目的を達成することが出来るであらう。

戦争中に於ける能動性

(五九) 以上に説明せる所は、皆何故持久戦であり、何故最後勝利は中國のものであるかの説明であつた。「それは何であるか」「それは何でないか」を概説したのである。以下には『如何にするか』『如何にすべきでないか』といふ問題の研究に移らう。如何に持久戦を進行し、如何に最後勝利を爭取するか？ これは以下に答へんとする問題である。この爲に、我々は順次以下の問題を説明するであらう：即ち戦争中に於ける能動性、戦争と政治、抗戦の政治動員、戦争の目的、防禦中の進取、持久中の速決、内線中の外線、主動性、靈活性、計謀性、運動戦、游撃戦、陣地戦、環流戦、消耗戦、敵の隙に乗する可能性、抗日戦争の決戦問題、兵民は勝利の本である、等であり、最後に結論を説く。我々は今能動性の問題から説くであらう。

(六〇) 我々は主観的に問題を見る事に反對する。その理由は一個人の思想が、客観的事實に基かず、それに符合しなければ、空想であり、偽の道理であり、若しそのやうにするならば、失敗しなければならず、それ故それに反對すべきである。併し一切の事は人が爲さなければならず、持久戦も最後勝利も爲す人が居なければ出現し得ない。爲すには必ず先づ思想があり、道理があり、意見があり、計畫・方針・政策・戦術があるべきであり、それによつて始めて爲し得るのであり、且つ好く爲し得るのである。思想等は主観的なものであり、行爲又は行動は主観が客観化せられることであり、總て人類の特殊な能動性である。かゝる能動性を、我々は『自覺的能動性』と稱し、これは人が物と區別せられる特點であり、總て客観的事實に符合する思想は正確な思想であり、總て正確な思想に基いて爲される行動は正確な行動である。我々は必ずかゝる思想と行動とを發揚すべきであり、必ずかゝる自覺的能動性を發揚すべきである。抗日戦争を以て帝國主義を退却させ、舊い中國を新しい中國に轉換させる爲には必ず全中國人民を動員して、十分その抗日の自覺的能動性を發揚すべきであり、然して始めて目的を達成し得るのである。坐して動かなければ、唯滅亡あるのみであり、持久戦もなければ、最後の勝利もない。

(六一) 自覺的能動性は、人類の特殊性であり、更に人類の戦争中に於ける特殊性である。人類の如何なる行動中に表現せられる能動性も、戦争中に於ける程強烈な表現を採ることはない。戦争の勝敗は、一方に於て雙方の軍事・政治・經濟・地理・戰爭の性質、國際援助の諸條件によつて決定せられるが、併しそのみに止まることなく、これ等が具はつても、勝敗の可能性を包含するだけであり、それ自身によつては勝敗は決定せられない。勝敗を決定する爲には、尙その上に主観的努力を添加すべきであり、それは戦争の指導と戦争の實行であり、戦争の自覺的能動性である。

(六二) 戦争を指導する人々は客観的條件の許す限度を超えて戦争の勝利を企圖することは出来ない。併し客観的條件の限度内に於て能動的に戦争の勝利を爭取することは可能であり且つ必要である。戦争指導者の活動舞臺は、必ず客観的條件の許す所に建設されるべきであり、而して彼等はこの舞臺によつて、非常に澤山の音楽や演説を上演し、威武雄壯な活劇を演ずることが出来る。既定の客観的物質的基礎の上に、抗日戦争の指揮者は彼等の威力を發揮し、全軍を指揮して、彼の民族の敵を打倒し、我々のこの被侵略被壓迫的社會國家の狀態を改變し、自由平等の新中國を建設し、此處に於て我々の主観的指導能力を使用することが出来、且つ使用しなければならぬのである。

一、持久戦論

る。我々は如何なる抗日指導者でも、客観的條件を離れて、出鱈目をなす馬鹿者に賛成することは出来ない。併し我々が必ず提唱しなければならぬことは、各抗日指導者を勇敢にして明智の將軍たらしめることである。彼等は敵を壓倒する勇氣を有つばかりでなく、全體的な戦争の變化發展を統制する能力を有たねばならない。指揮者は戦争の大海中に於て遊泳してゐるのであり、彼等は自己を沈没させず、自己を決定的に正確に彼岸に到達せしめなければならない。戦争の指導をなす規律ある戦略戦術は、戦争の大海中に於ける遊泳術に等しい。

三四

戦争と政治

(六三) 『戦争は政治の延長である』。この立場に立つて言へば、戦争は政治であり、戦争自体は政治的性質を有つ行動であり、昔から政治性を帯びない戦争はなかつた。抗日戦争は全民族の革命戦争であり、その勝利は、戦争の政治目的——日本帝國主義を驅逐して自由平等の新中國を建設することを離れず、統一戦線の堅持と抗戦堅持の總方針を離れず、全國人民の動員を離れず、軍・官の一致、軍民の一致及び敵軍瓦解等の政治原則を離れず、統一戦線政策の有效な實行を離れず、文化動員を離れず、國際力量と敵國人民の援助の爭取を離れないことに在る。一言を以て蓋へば、戦争は一刻と雖も政治を離れられないのである。抗日軍人中には政治を輕視する傾向が存在してゐる様であるが、戦争を孤立させ、戦争絕對主義に陥入るならばそれは、錯誤であり、須らく改正すべきである。

(六四) 併し戦争にはその特殊性がある。この立場から言へば、戦争は政治と同じではない。戦争は政治の特殊手段であり、政治目的を達成する爲のものである。政治が一定段階にまで發展すれば、最早やそれ以上は元のまゝでは前進出来なくなり、茲に於て戦争が爆發して、政治道路上の障礙を除去する。例へば中國の半獨立的地位は、日本帝國主義政治の發展にとつて障礙であり、日本はそれを除去しようとして侵略戦争を始めた。中國は如何か？ 帝國主義の壓迫は、夙に中國資產階級民主革命の障礙となり、それ故幾度となく解放戦争を行ひ、この障礙を除去せんと企圖した。日本は現在戦争によつて壓迫し、完全に中國革命の進路を斷絶せんとして居り、それ故抗日戦争を行はざるを得ず、この障礙を除去せんと決心しなければならなくなつた。障礙が既に除去せられたならば、政治は再現し、戦争は終末を行はざるを得ず。

告げる。障礙が綺麗に除去せられないならば、戦争は引續き努力して貫徹されなければならない。例へば抗日の任務が完了しないうちに妥協せんとするならば、必ず成功しない。何となれば、何等かの原因によつて妥協したとしても、戦争は又勃發し、廣大な人民は必ず不服を唱へるであらう。必ず戦争を繼續して、戦争の政治目的を貫徹しなければならぬ。これによつて言ひ得ることは、政治は血を流さない戦争であり、戦争は血を流す政治であると言ふことである。

(六五) 戦争の特殊性に基いて、戦争には特殊な組織と、特殊な方法と、一種特殊な過程とがある。この組織は、軍隊及びそれに附随する一切のものである。この方法は、戦争を指導する戦略戦術である。この過程は、敵對する軍隊相互が自己に有利にして敵に不利な戦略戦術を用ひて攻撃又は防禦をなす一種特殊な社會活動形態である。それ故、戦争の經驗は特殊であり、あらゆる戦争に参加する人々は、必ず尋常な習慣を脱して、戦争に慣れてこそ、始めて戦争の勝利を奪取し得るのである。

抗戦の政治動員

(六六) かくの如き偉大な民族革命戦争は、普遍的にして深刻な政治動員がなければ勝つことが出来ない。抗戦以前に於て抗戦の政治動員がなかつたことは中國の大缺陷であり、既に敵に一籌を給したのである。抗戦以後も、政治動員は極めて普遍的でなく、更に深刻になつたなどとは言へなかつた。人民の大多数は、敵の砲火と飛行機の爆弾から消息を聞いた。これも亦一種の動員ではあるが、それは敵が我に替つてなしたものであり、自分がなしたものでなかつた。僻遠の地では砲聲も聞こえず、今日に到るも尙平穩である。かゝる状況は必ず改變されなければならないであらう。然らざれば、生死を賭した戦争に勝つことは出来ないであらう。決して再び敵に一籌を給してはならない。反對に、大いに一籌を發揮して敵を制壓しなければならぬ。此の一籌が關係する所は絶大であり、武器等々が敵に如かないと言ふことは二の次であり、この一籌こそ最も重要である。全國の人民を動員して、始めて敵を全滅の災難に陥れる汪洋たる大海を造成し、武器の缺乏を彌縫する補救條件を造成し、あらゆる戦争の困難を克服する前提を造成することが出来るのである。若し勝利せんとするならば、抗戦を堅持し、統一戦線を堅持し、持久戦を堅持しなければならぬ。併しながらこれ等は總て人民の動員を離れること

一、持久戦論

三五

は出来ない。勝利せんとして、政治動員を忽視するならば、『蘇が南を向けば糧は北を向く』と言ふが如く、必ず失敗に終らねばならないであらう。

(六七) 政治動員とは何であるか？ 先づ最初に戦争目的に就て軍隊と人民に説明しよう。必ず各將兵各人民の總てに何故戦争しなければならぬか、戦争と彼等には如何なる關係があるかを知らしめねばならない。抗日戦争の政治目的は『日本帝國主義を驅逐して、自由平等の新中國を建設する』ことであり、必ずこの目的を總ての兵士人民等に告げねばならない。それに依り始めて抗戦の情熱を喚起し、敵軍の心を一致させ、總てを戦争に貢獻させることが出来る。次に、單に目的を説明するだけでは不十分であり、この目的を達成する順序と政策とを説明しなければならぬ、即ち一つの政治綱領を必要とするのである。現在既に『抗戦建國綱領』をもつてゐる以上、それを軍隊及び人民に普及させ、あらゆる軍隊と人民を動員して實行すべきである。一つの明確な具體的政治綱領なくして、全軍全民を動員して徹底的な抗戦をなすことは不可能である。次に、如何にして動員するか？ 口頭により、傳單佈告により、新聞書籍により、演劇映画により、學校により、民衆團體により、幹部人員によるのである。それは政治綱領を暗誦して人民に聴かせることではない。かゝる暗誦は誰も聴かない。戦争の發展状況と聯繫させ、兵士及び人民の生活と聯繫させ、戦争の政治動員を經常的運動たらしむべきである。これは極めて重大な事であり、戦争は先づそれによつて勝利を獲ることが可能になるのである。

戦争の目的

(六八) 此處には戦争の政治目的を説くのではない。抗日戦争の政治目的は『日本帝國主義を驅逐して、自由平等の新中國を建立することである。これは既述せる如くである。此處に説かんとすることは、人類流血の政治即ち所謂戦争、兩軍相殺の戦争、その根本目的は那處に在るかと言ふことである。戦争の目的は他でもない、『自己を保存し、敵を消滅することである（敵を消滅するとは、敵の武装を解除すること、即ち所謂敵の抵抗を不可能ならしめる）ことであつて、その肉體を消滅することではない』。古代の戦争では、矛と盾とを用ひた。矛は進攻するものであり、敵を消滅する爲のものであり、盾は防禦するものであり、自己を保存する爲のものである。今日に

到るも、矢張りこの兩者の繼續である。爆撃機、機關銃、遠距離砲、毒瓦斯は、矛の發展であり、防空壕、鐵兜、セメント工事、防毒面具の發展である。戦争は矛と盾との二者を結合した一つの有力な武器である。進攻は、直接的に敵を消滅することであり、同時に自己を保存することでもある。何となれば若し敵を消滅しなければ自己が消滅せられるからである。防禦は、直接的には自己を保存することであるが、同時に進攻を助け、進攻に轉ずる準備をなす一種の手段でもある。退却は、防禦の延長であり、防禦の延長である。こゝに指摘せんとすることは、戦争目的に於て、敵を消滅することが主であつて、自己を保存することが従であることである。何となれば、大軍に敵を消滅することによつてのみ、有効に自己を保存することが出来るからである。故に、敵を消滅する主要手段である進攻は主要なものであり、敵を消滅する補助手段であり自己を保存する手段の一種である防禦は、從屬的なものである。戦争の實際に於て、多くの場合、防禦を以て主となすが、その他の時には進攻を以て主となす。併し乍ら戦争の全體に就てみる時、進攻は矢張り主要なものである。

(六九) 戦争中に於ける勇敢な犠牲の提唱を如何に解釋すべきか？『自己保存と矛盾しないか？矛盾しない。正確に言へば、矛盾の統一である。戦争は流血の政治であり、代價が支拂はれねばならず、時にそれは極めて大きな代價である。部分的な一時的犠牲（それは保存ではない）は、全體的永久的な保存の爲のものである。我々が、基本的に敵を消滅する進攻手段の中に、同時に自己保存の作用をも含んでゐる、と言ふ理由は此處に在るのである。防禦は必ず同時に進攻を伴はねばならず、決して單なる防禦だけであつてはならないといふのもこの理由からである。

(七〇) 自己を保存して敵を消滅するといふこの戦争目的こそは、戦争の本質であり、あらゆる戦争行為の根據であり、技術行為から戰略行為に到るまで、皆この本質によつて貫かれてゐる。戦争目的は、戦争の基本原則であり、一切の技術的、戰術的、戰役的、戰略的原理原則は、些かもそれを離れるものではない。射撃原則の『身體を蔽蔽して、火力を發揮する』とは如何なる意味であるか？前者は自己を保存することであり、後者は敵を消滅することである。前者の爲には、地形地物の利用、躍進運動の採用、疎開隊形等種々の方法が發生し、後者の爲には射界の清掃、火網の組織等種々の方法が發生した。戦術上の突撃隊、包圍隊、豫備隊は、それら敵を消滅し、自己を保存し、情況によつて二個の目的——或ひは突撃隊を増援し、或ひは追撃隊となす—toに使用する爲のものであり、何れも皆敵を消滅する爲のも

のであり、或ひは包圍隊を増援し、或ひは掩護隊となるのは、皆自己を保存する爲である。かくの如く、一切の技術、戰術、戰役、戰略原則、一切の技術、戰術、戰役、戰略行爲は、些かたりとも戰爭の目的を離れず、それは戰爭の全體に普遍的であり、戰爭の始めから終りまで一貫してゐる。

(七一) 抗日戰爭の各級指導者は、中日兩國間の各種の相互に對立の基本要素を離れて戰爭を指導するものでもなければ、この戰爭目的を離れて戰爭を指導するものでもない。兩國間の各種の相互に對立する基本要素は戰爭の行動中に展開し、相互に自己を保存し敵を殲滅する爲の闘争になる。我々の戰爭は、始めて各戰爭毎に大小に論なく勝利を爭取せんとするものであり、各戰爭毎に少しでも敵の武装を解除し、敵の兵器物を損傷して、最後には敵を國內から驅逐し、祖國を保衛し、新中國の政治を建設せんとするものである。

防禦中に於ける進攻、持久中に於ける速決、内線中に於ける外線

(七二) 今茲に抗日戰爭の具體的戰略方針を研究せんとする。我々は既に抗日戰爭は持久戰である事を説いた。然り、これに全く正しい。併しこれは一般の方針であつて、まだ具體的方針を具へてゐない。如何にして具體的に持久戰を進行するか？これこそ我々が今茲に討論しようとする問題である。我々の答は：第一、第二段階は敵の進攻と保守の段階であり、戰略的防禦中に於ける戰役と戰團の進攻戰であるべく、戰略的持久中に於ける戰役と戰團の速決戰であるべく、且つ戰略的内線中に於ける戰役と戰團の外線作戦であるべきである。第三段階に於ては、戰略的反攻戰であるべきである。

(七三) 日本は帝國主義的強國であり、我々は半植民地、半封建的弱國である。日本は戰略的進攻方針を採るが、我々は戰略的防禦地位に立ち、日本は戰略的速決戰を採らんと企圖するが、我々は意識的に戰略的持久戰を採るべきである。日本はその戰團力の頗る強大な數十個師團の陸軍(現在既に三十個師團に達してゐる)及び海軍の一部を以て陸海兩面から中國を包圍し封鎖し、空軍は中國を爆撃し、現在陸軍は既に包圍から杭州に到る蜿蜒長蛇の戰線を上頭し、海軍は福建から廣東に到り、大規模の外線作戦を形成した。我々は内線作戦の地位に在る。これ等は總て、敵強我弱といふこの特殊性により招來せられた所である。これは一面の状況である。

(七四) 併しながら他の一面に於ては、その反對である。日本は強いけれども、兵力が不足してゐる。中國は弱いけれども、地大、人多、兵多である。此處に於て二個の非常に大きな問題が発生する。第一、敵は少兵を以て大國に臨み、唯一部の大城市、大道路及び幾程かの平地を占領し得るだけである。茲に於て、その占領區域中には、廣大な面積が占領せられずに取残されて居り、このことは中國游擊戰爭に廣大な活動地盤を與へるものである。全國的に、日本は廣州、武漢、南州の線、及びその附近の地區を占領し得るであらうが、それ以外の地區を上頭することは困難であり、このことは中國に持久戰を進行し最後勝利を爭取する總後方と中樞根據地とを與へる。第二、敵は少兵を以て多兵に臨み、多兵の包圍に陥る。敵は各方面から我に向つて進攻し、戰略的外線を形成するが、我は戰略的内線に在り、敵は戰略的進攻をなすが、我は戰略的防禦をなし、我にとつてそれは非常に不利の如く見える。併しながら我が廣大な土地と多數の軍隊との二つの長所を利用して死守するが如き陣地戰をなさず、敏捷な運動戰を採用して、數個師を以て彼の一個師に對し、數萬人を令て彼の一萬人に對し、數方面から彼の一方面に對し、戰場の外線から、突然その一方面を包圍してこれを殲滅すべきである。茲に於て敵の戰略作戦上の外線と進攻は、戰役と戰團との作戦に於て、内線と防禦に變らざるを得なくなる。我の戰略作戦上の内線と防禦とは、戰役と戰團との作戦に於て外線と進攻とに變る。その一方面に於て然るのみならず、他の方面に對してもかくの如くである。以上の二點は、何れも敵小我大のこの特殊性から發生するものである。尙第三、敵の兵力は少數ではあるが、強兵(武器及び兵員の教養程度に於て)であり、我は兵力が多數であるが、弱兵(武器及び兵員の教養程度に關する限り)であり、士氣に就いてはなほである。故に、戰役と戰團との作戦に於いて、我は多兵を以て少兵を打ち、外線から内線を打つばかりでなく、尙速決戰の方針をも採るべきである。速決戰を實行する爲には、一般に駐屯中の敵を打つべきでなく、運動中の敵を打つべきである。我は豫め大兵を敵が必ず通る道路の側方に蔽蔽集結し、敵が運動する時に乘じて、突然前進し、これを包圍攻撃し、彼に指留を講ずる暇を與へず攻撃し、その部隊をして展開する暇を與へず重火器を使用し、高度の性能を有つ武器を出動させる暇を與へず、大體に於て半日、一日乃至一晩の間に戰團を解決すべきである。有効に戦へば、全部又は大部分、或は一部を消滅することが出来る。有効に戦へなくても、彼に多數の死傷者を出させることが出来る。或戰團に於てかくの如くであれば、他の戰團に於ても然る事を得る。多くを説かなくとも、毎月比較的大きな戰勝、例へば平型關の如きを戦ひ獲るならば、大いに敵の士氣を沮喪させることが出来る。我軍の士氣を振起し、世界の聲援を博することが出来る。かくの如く、我の戰略的持久戰は、戰

場作戦に於ては連決戦に變る。敵の戦略的連決戦は、幾多の戦役と戦闘の戦敗により、持久戦に變らざるを得ない。
(七五) 上述せるかくの如き戦役と戦闘の作戦方針は、一言を以て盡せば、即ち「外線の連決的進攻戦」である。私の戦略方針である「内線の持久的防禦戦」に對して言へば、相反するが、併し正にかゝる戦略方針を完成する爲の必要な方針である。若し戦役と戦闘の方針も同様に「内線の持久的防禦戦」であるならば、例へば抗戦開始頭初の如くであるならば、完全に敵大我小、敵強我弱のこの二つの相反する状況に適せず、それは決して戦略目的を達成せず、持久戦を達成せず、而して將に敵に撃破せられる所となるであらう。故に私は從來常に全國に於て若干の大きな野戦兵團を組織し、その数は、敵の各野戦兵團の数量の二倍、三倍、四倍たらしめ、上述の方針によつて、敵と廣大な戦場に於て交戦することを主張して来た。南京陥落以來第一期作戦の教訓を得て、上述の作戦方針と上述の兵團組成方法とを採用し始めた。併しその使用がまだ不熟練であつただけである。然して魯南戦役と晉南戦役とは、既に顯著な成果を収め、この方針が唯一正確な方針であることを證明した。この方針は正規の戦争に於て然るのみならず、遊撃戦争に於ても一般に適切であり、それを用ひ得るのみならず、必ずそれを用ふべきである。そればかりではなく、戦争の全過程にも適用することが出来る。戦略的反攻段階に於て、私の技術條件は増強し、強弱といふ相反するこの状況は完く無くなり、我は多兵を以て外線から連決的進攻戦を探り、更に大きな戦果を擧げることが出来る。例へば我が機械化せる二個師を以て敵の機械化せる一個師に對するならば、尙正確にこの師團を撃滅することが出来る。敵人の大男が一人の大男と喧嘩するならば更に容易に勝つことが出来る。これは常識的な真理である。

(七六) 若し我々が斷乎として戰場作戦の「外線の連決進攻戦」を採用せんとするならば、戰場に於ける敵我間の強弱優劣の形勢を改變するばかりでなく、漸次に全體的形勢を變化させねばならない。戰場に於て、我は進攻であり、敵は防禦であり、我は多兵であり、外線に在り、敵は少兵にして内線に在るが爲に、我は連決であり、敵は持久して來援を待たんと企圖してはするが、併しそれを以て主となすことは出来ない。茲に於て敵方は強者から弱者に變じ、優勢から劣勢になり、我方は反對に弱者から強者に變じ、劣勢から優勢になる。幾多の戦勝を戦ひ取つた後、全體的な敵我の形勢に變化を生ぜしめる。これは言はば、幾多の戰場作戦の「外線の連決的進攻戦」の勝利を集合した後に於て、漸次自己を強大ならしめ、敵を弱小ならしめ、茲に於て全體的な強弱優劣の形勢はその影響を受けて變化を生ぜざるを得ないことになるのである。その時に到れば、我々自身のその他の條件に配合し、更に敵内部の變動と國際的な有利な形勢とを配合して、敵我の全體的な形勢

を平衡ならしめ、更に平衡から我優敵劣に到らしめることが出来る。その時こそ我々が反攻を實行して敵を國外に驅逐する時である。
(七七) 戦争は力の競争である。併し力は戦争の過程に於てその元來の形態を變化する。此處に於て、主觀的に努力し、多く戦勝を戦ひ取つて、錯誤を少からしめることが、決定的な要素となる。客觀的な要素はかゝる變化の可能性を具備してゐる。併しこの可能性を實現するには、正確な方針と主觀的な努力とを必要とする。此處に於て、主觀作用が決定的となるのである。

主動性・靈活性・計畫性

(七八) 上述せる戦役と戦闘の外線の連決的進攻戦の中心點は進攻にあり、外線は言はば進攻の範圍であり、連決は言はば進攻の時間であり、それ故それを「外線の連決的進攻」と言ふのである。これは持久戦を實行する最上の方針であり、所謂運動戦がこれである。併しこの方針の實行は、主動性・靈活性・計畫性を離れてはあり得ない。我々は今茲にこの三個の問題を研究しよう。
(七九) 以上に述べた自覺的能動性は、何故主動性とも言はれるのか？自覺的能動性とは、言はば自覺的な活動と努力とであり、これがあるが故に人が物と區別せられる所の特殊性であり、かゝる人間の特殊性は、戦争中に於て特に強烈に表現せられるのであり、これ等は既述せる所である。此處に言ふ主動性とは、言はば軍隊の行動に於ける自由権であり、壓迫せられて不自由な状態に置かれることと區別せられるものである。行動の自由は軍隊の生命であり、この自由を失ふことは、軍隊を取壊しと消滅に一步近づかせることである。一人の兵士が束縛せられることは、その兵士が行動の自由を失ひ被動的な地位に置かれることである。或軍隊の戦敗も同じことである。それ故、戦争當事者は雙方共に主動性を力争して、被動性を極力避けんとする。我々の提出する外線の連決的進攻及びかゝる進攻戦を實現する爲の靈活性・計畫性は、皆主動性を爭取する爲のものであり、敵を被動的な地位に立たせ、自己を保存し敵を消滅する目的を達成させるものであると言ふことが出来る。併し主動と言ひ被動と言ふも競争力量の優劣或ひは劣勢を離れることは出来ない。故に亦主觀的指導の正確或ひは錯誤を離れることも出来ないのである。この外、尙敵の錯覺と不意打とによつて自己の主動性を爭取し、敵を被動的な地位に壓迫することが出来る。以下にこれ等を分析しよう。

一、持久戦論

主動性と戦力量の優劣とは分離し得ないものである。而して被動性と戦力量の劣勢とも分離し得ない。戦力量の優劣と劣勢とは、主動と被動との客観的な基礎である。戦略的主動地位は、自然戦略的進攻によつて比較的掌握と發揮を可能ならしめる。然して終始一貫し各地に普遍的な主動的地位、即ち絶對的主動權は、唯絶對的優勢を以て絶對的劣勢に對する時に於てのみ可能となる。一人の健康な者が一人の重病患者と闘ふとき、前者は絶對的な主動權をもつのである。若し日本が幾多の克服し得ない矛盾を持つてゐないならば、例へば、それが一度に数百万乃至一千万の大軍を出し、財源が現在より數倍多くなり、更に民衆と外國との對立がなく、更に又野蠻な攻策を實行して中國人民の對立を招致しなかつたならば、それは一種の絶對的な優勢を保持することが出来、一種の終始一貫し各地に普遍的な絶對的主動權を有つ。併し歴史上、かゝる絶對的優勢の事情は、戦争と戦役の究局に於て存在するものであり、戦争と戦役の最初に於て現れることは稀である。例へば歐洲大戦中に於て、獨逸の屈服せる前夜、その時聯合國は絶對的優勢に轉じ、獨逸は絶對的劣勢に轉落し、その結果、獨逸は敗北し、聯合國は勝利した。これは戦争の究局に於て絶對的優勢と劣勢が存在してゐる例である。又察兒莊の勝利の前夜の如きは、當時其處に孤立してゐた日本軍は苦戦を經た後であり、既に絶對的劣勢に轉落して居り、我軍は絶對的優勢に轉じ、その結果敵が敗北し我が勝利したのであり、これは戦役の究局に於て絶對的優勢と劣勢が存在してゐる例である。戦争も戦役も絶對的優劣又は平衡状態を以て究局することがあり、その時は戦争又は戦役は妥協を醸成し戦役は對抗を生む。併し一般には絶對的優劣によつて勝敗を決することが多いのである。これ等は總て戦争又は戦役の究局に於てであり戦争又は戦役の最初に於てではない。中日戦争の最後の究局は、日本が絶對的劣勢によつて失敗し、中國が絶對的優勢を以て勝利するであらう。この豫斷をなすことを可能ならしめる。併し現在、雙方共に絶對的ではなして相對的である。日本は強大な兵力・經濟及び政治組織力と言ふ有利な因素を具有してゐるが、我々の弱小な兵力・經濟力及び政治組織力に對して、優勢となり、それによつてその主動權の基礎を醸成した。併し彼の軍力等には數量が多くなり、又その他幾多の不利な因素により、その優勢はそれ自體のもつ矛盾によつて減殺せられる。且つ中國に於ては、中國の地大、人多、兵多と堅強な民族抗戦に遭ひ、彼の優勢は更に減殺せられる。故に全體的には、それは一種の相對的優勢に變じ、それによつて、その主動權の發揮と維持とは制限を受けて、相對的なものになつた。中國側に於ては、力量の強度に於て劣勢に在り、それ故に戰略上の或種の被動的な形勢を招來した。併し地理、人口及び兵員の數量に於て、且つ人民と軍隊の激憤心と士氣に於て、却つて優勢になり、その上、彼の有利な因素は、自己の兵力、經濟力等の劣勢の程度を減殺し戰略上の相對的劣勢に變じ、それによつて被動の程度を減少し、僅かに戰略上の相對的被動の地位に處するだけである。然して被動は矢張り不利であり、必ずそれを離脱すべく勉めるべきである。軍事上の措置としては、外線的進決的進攻を斷乎として執行し、且つ敵後に於ける游撃戦争を發動することであり、これこそ戦役の運動戦と游撃戦中に於て幾多の局部的に敵を壓倒する優勢と主動的地位を獲得するものである。かゝる幾多の戦役上の局部的優勢と局部的主動地位とを経て、漸次戰略的優勢と戰略的主動的地位とを建設して、戰略的優勢と被動的地位から脱出することが可能になる。これこそ主動と被動、優勢と劣勢の間の關係である。

(八一) これによつても、主動と被動及び主観的指導の間の關係を明白にすることが出来る。上述せる如く、我の相對的戰略劣勢と戰略被動の地位とは、脱出出来るものであり、その方法は人工的に我々の幾多の局部的優勢と局部的主動の地位を建設して、敵の幾多の局部的優勢と局部的主動の地位を剝奪し、彼を劣勢と被動の中に轉落させることである。これ等の局部的なものを集合する所に、我々の戰略的優勢と戰略的主動及び敵の戰略的劣勢と戰略的被動とを完成することが出来るのである。併しかゝる轉變は主観的な正確な指導によるものである。何故であるか？我は優勢と主動を必要とし、敵も亦これを必要とし、この點から見る時、戦争は兩軍指揮員が部隊の物質的基礎を地盤として、互に優勢と主動との主観的能力の競争をすることである。競争の結果、勝敗が決するものは、客観的物質的條件の對比による以外に、勝者は必ず主観的指導の正確に依るのであり、敗者は必ず主観的指導の錯誤に依るのである。我々は戦争現象が如何なる他の社會現象よりも更に把握し難く更に確實性即ち所謂「蓋然性」に乏しいことを承認する。併し戦争は神の仕業ではなくして世界の一種の必然的運動であり、それ故、孫子の規定せる「知己知彼、百戰百勝」は、科學的眞理である。錯誤は彼我に對する無知に依るものであり、戦争の特殊性も亦人をして多くの場合全く彼我を知るに備なからしめ、それに依つて戦争状況と戦争行動の不確實性を生じ、錯誤と失敗とを招來する。然して如何なる戦争状況と戦争行動と雖も、その大略を知り、その要點を知ることが可能である。先づ各種の偵察手段を以てし、次に指揮員の聰明なる推論と判斷とを以てすれば、錯誤を減少し、一般に正確な指導を實現することが可能となる。我々はこの『一般的に正確な指導』の武器をもつならば、戦勝することが多く、劣勢を變じて優勢となし、被動を變じて主動となすことが出来る。これは主動と被動及び主観的指導の正確と不正確の間の關係である。

於ける遊撃戦及びその他の條件は、敵をして進攻を一定限度に止めさせ、且つ主動的地位を引續き保持することを不可能ならしめる第二の根源である。蘇聯の存在とその他の國際關係の變化は、第三の根源である。これによつてもわかる様に、敵の主動的地位には制限があり、それは破壊し得るものであり、我が戦争初期に於ける極めて被動的な地位と、民衆の未發動及び不適當な陣地戦とは、重要な主観的な原因である。併し第二期に於て運動戦の方針を取り始めてからは、些か進歩したが、惜むらくは、極小部分の發動に過ぎなかつた。その後、若し作戦方法上に於て主力軍の戦役と戦闘に於ける進攻戦を堅持し、敵後の遊撃戦を發展し、政治上大々的に民衆を發動するならば、我が戦略の主動地位は自ら日益しに建設せられ得るであらう。

四六

(八五) 今茲に靈活性に就て述べよう。靈活性とは何であるか？ それは主動性を作戦中に於て具體的に實現するものであり、靈活に兵力を使用することである。靈活に兵力を使用するといふことは、戦争指揮の中心任務であり、最も困難なことである。戦争といふ事業は、軍隊の組織と教育、人民の組織と教育等々の外に、軍隊を戦闘に使用することであり、而して總ては戦闘の勝利の爲である。軍隊等の組織は固より困難ではあるが、その使用に至つては更に困難であり、弱を以て強を撃つといふ情況の下に於ては特に然りである。このことを爲すには極めて大きな主観能力を必要とし、戦争の特質である混亂、暗黒、不確實性を克服し、その中から條理、光明及び確實性を導き出すことを必要とし、かくして始めて指揮上の靈活性を實現することが出来るのである。

(八六) 抗日戦争に於ける戰場作戦の基本的方針は、外線の速決的進攻作戦である。この方針を執行することは、兵力の分散と集中、分進と合撃、突撃と包圍、包圍と迂迴、攻撃と防禦、前進と後退等、種々な戦術や方法をもつことである。かかる戦術を理解することは容易であるが、靈活にこの戦術を使用し、この戦術を應用することは困難である。それが爲には、時機、地點、部隊の三つの聯繫が必要である。その時を得ず、その地を得ず、部隊の情況を得なければ、勝つことは出来ない。例へば、或運動中の敵を進攻するとき、早すぎれば自己を暴露し、敵に防禦の條件を與へ、遅すぎれば、敵は集中して駐屯し、堅固になる。これは時機の問題である。突撃點を左翼に選びそれが丁度敵の弱點であれば、容易に勝つことが出来るが、右翼に選び、敵の反撃に遭へば、效を奏することは出来ない。これは地點の問題である。我が或る部隊が或る任務を執行すれば容易に勝つが、他の部隊が同じ任務を執行すれば成功することは困難である。これは部隊情況の問題である。戦術を使用するばかりでなく、戦術を變換することも必要である。攻撃から防禦に變じ、防禦から攻撃に變じ、

前進から後退に變じ、後退から前進に變じ、包圍隊から突撃隊に變じ、且つ包圍迂迴等々の相互變換をなすことは、敵我部隊、敵我地形の情況及び時機により適當に變換するものであり、靈活な指揮の重要任務である。戦闘の指揮がかくの如くであるのみならず、戦役及び戦略の指導も亦然るのである。

(八七) 古人の所謂「存乎一心」的な運用の妙に於けるこの妙を我々は靈活性と言ひ、これは聰明な指揮者によつて産み出されるものである。靈活は妄動ではなく、妄動は拒絶すべきものである。靈活は、聰明な指揮者が客觀的情況に基き、『時と勢を知る』ことであり、この勢は敵勢、我勢、地勢を包括してゐる、而して時を得た適當な處置方法を探ることであり、それが所謂「運用の妙」である。この運用の妙に基いて、内線の速決的進攻戦は比較的多くの勝利を得ることが出来、敵我優劣の形勢を轉じ、我が敵に對する主動權を實現し、敵を壓倒してこれを撃破し、最後の勝利を我に屬さしめる。

(八八) 茲に於て計畫性に就いて説かう。戦争の特質である不確實性により、計畫的に戦争をすることは、計畫的に他の事業をなすことに較べて非常に困難である。然して「凡そ事は預すれば立ち、預せざれば廢る」であり、事前に計畫と準備がなければ、戦争の勝利を獲得することは出来ない。戦争には絕對的な確實性はないが、或る程度の相對的な確實性はある。我方は比較的確實である。敵方は最も不確實であるが、等ぬべき兆候があり、察すべき端緒があり、前後の現象により思索することが出来る。これは所謂或る程度の相對的確實性を構成し、戦争の計畫性は客觀的な基礎をもつ。近代技術(無線電信、飛行機、自動車、鐵道、汽船等)の發達により、戦争の計畫性も増大する可能性がある。併し戦争の非常に低い程度と非常に短い時間に於ける確實性により、戦争の計畫性には完全性と固定性が非常に少なく、それは戦争の運動(或ひは流動)であり或ひは推移であるにより運動し、且つ戦争範圍の大小により、程度も異なる。戦術計畫、例へば小兵團と小部隊の攻撃又は防禦計畫は、常に一日に數度變へるべきである。戦役計畫、即ち大兵團の行動計畫は、大體戦役の結末を告げ得るものであるが、該戦役内に於ても、部分的に改變せられることは常にあることであり、全體的に改變せられることも間々ある。戦略計畫は、戦争雙方の全體的な情況により決定せられるものであり、固定化せられる程度は比較的に多い。併し一定の戦略段階内に於て適用せられるだけであつて、戦争が新しい段階に向つて推移するとき、戦略計畫は改變すべきである。戦術、戦役及び戦略計畫が夫々その範圍と情況によつて確定せられ改變せられることは、戦争指揮の重要點であり、戦争靈活性の具體的實施でもあり、實際的な

運用の妙であり、戦争の勝利はそれを離れては存在し得ない。抗日戦争の各級指揮者はこの點に注意すべきである。

(八九) 或る人は、戦争の流動性に基き、戦争計畫又は戦争方針の相対的な固定性を根本的に否定して、かゝる計畫とか方針とかは「機械的」なものであると説くが、かゝる意見は錯誤である。上述せる如く、我々は次のことを完全に承認してゐる。戦争情況には只相対的な確実性があるだけであり、戦争は迅速に向つて流動(運動又は推移)するものであるから、戦争の計畫又は方針も、只相対的な固定性を規定すべきであり、必ず情況の變化と戦争の流動とによつて、適時適地に於て變更し改修すべきであり、然らざれば、我々は機械主義になつてしまふ。而して決して一定時間内に於ける固定な戦争計畫と方針を否定するものではなく、これを否認するならば、一切を否認しなければならず、戦争自体さへも、話をする人さへも、皆否認しなければならぬ。戦争の情況と行動は皆相対的な固定性をもち居り、それ故それに應じて生ずる戦争計畫と方針も亦、必ず相対的な固定性をそれに賦與すべきである。例へば、華北戦争の情況及び八路军の分散作戦の行動とがその一定段階内に於ける固定性をもつてゐる爲、この一定段階内に於て相対的な固定性を八路军の「基本的」は遊撃戦であるが、有利な條件の下に於ては運動戦を忽ちしなさい」といふ戰略的作戰方針に賦與することは完全に必要である。戦役方針はこれを上述の戰略方針に較べるとき、適用の時間が短く、戦術方針に至つては更に短い。併しながら皆その一定時間内に於ける固定性をもつてゐる。この點を否認するならば、戦争は着手することも出来ず、毫も定見がなくなり、これでもなくあれでもないとか、これでもありあれでもありとかいふ戦争の相對主義になる。或る一定時間内に於ける適用の方針を否認するものは誰もなく、それは又流動的であり、この流動性がなければ、ある方針を廢止して他の方針を採用することは出来ない。併しかゝる流動には制限があり、この方針を執行する各種不同の戦争行動の範圍内に於て流動するだけであつて、この方針の根本的性質の流動ではない。この根本的性質とは、一定時間内に於ては決して流動しないことであり、我々の所謂一定時間内に於ける相対的な固定性とはこれを指すのである。總對的流動の全體的な戦争中には、各個の特定段階上の相對的固定性がある——これこそ我々が戦争計畫又は戦争方針の根本性質に對する意見である。

(九〇) 戰略上の内線的持久的防禦戦と戦役段階上の外線的速決的進攻戦に就て述べ、更に主動性、靈活性及び計畫性に就て述べた後、我々はこれを教訓に要約することが出来る。抗日戦争は計畫的であるべきである。戦争の計畫即ち戰略戰術の運用は靈活性を帶び、戦争の情況に適應せしめねばならない。處々に於て劣勢を優勢に化し、被動を主動に化し、以て敵の形勢を改変すべきである。而してこれ等は總て、戦役と戰團の外線的速決的進攻戦に表現せられると同時に、戰略の内線的持久的防禦戦にも表現せられる。

運動戦・遊撃戦・陣地戦

(九一) 戦争内容をなす戰略の内線、戰略的持久、戰略的防禦の戦役、及び戰團の外線的速決的進攻戦は、戦争形式上に於て運動戦の表現をとる。運動戦とは、正規兵團が長い戦線及び大きい戰區に於て、戦役及び戰團の外線的速決的進攻戦に従事する形式である。同時にかかる進攻戦の執行に資する爲、或必要時機に於て執行する所謂運動防禦をもその中に包括し、且つ補助的作用をなす陣地攻撃及び陣地防禦をもその中に包括する。その特殊性は、正規兵團、戦役及び戰團の優勢兵力、進攻性及び流動性である。

(九二) 中國は版圖廣く、兵員が多数であるが、軍隊の技術と教養が不足して居り、敵は兵力が不足してゐるが、技術と教養は比較的優れて居る。かゝる狀況の下に於ては、疑ひもなく、進攻的運動戦を主要な作戰形式となし、その他の形式を補助となし、全體的な運動戦を展開すべきである。茲に於て、所謂「有進無退」の敗走主義に反對すると共に、所謂「有進無退」の懸命主義にも同時に反對しなければならぬ。

(九三) 運動戦の特質の一は、その流動性にあるが、野戦に於ける大幅の進退を許可するだけでなく、却つてそれを要求する。併しそれと韓復榘的な敗走主義とは何等か異なる所はない。戦争の基本要請は、敵を消滅することであり、他の要求は、自己を保存することである。自己を保存する目的は、敵を消滅することであり、而して敵を消滅することは又、自己を保存する最も有效な手段である。運動戦は決して韓復榘によつて落しせられるが如き員後退運動だけであつて、前進運動のないといふものではあり得ない。かゝる「運動」は、運動戦の基本的進攻性を否定するならば、これを實行した結果中國に假令カムチャッカがあつても、役に立たない。何となれば假令カムチャッカがあつても「運動」によつて陥落させられるからである。

(九四) 併しながら他のもの即ち所謂「有進無退」の懸命主義も錯誤である。我々は戦役と戰團の外線的速決的進攻戦を内容とする運動戦を主張し、その中には補助的陣地戦を包括し、「運動防禦」及び退却を包括して居り、これ等が無ければ、運動戦を十分に執行することは不可能

である。然して強命主義は軍事の近視眼であり、その根源は常に土地を喪失することを懼れてゐることにあり。彼等は運動戦の特質の一がその流動性に在り、野戦の大幅な進退を許し且つそれを必要とすることを知らないのである。積極方面に於て敵を不利に陥れ我を有利とする作戦をなすには、常に敵が運動中に在り、且つ我に有利な幾多の條件、例へば有利な地形、攻撃し易い敵情、情報を封鎖し得る住民、敵の疲労と不意等を必要とする。これは敵の前進を要求し、暫時部分的な土地を喪失することを惜んでほならない。何となれば暫時部分的な土地の喪失は、全體的な永久的な土地保存と土地回復の代償である。消極方面に於て、凡そ不利な地位に迫ひつめられ、根本的に兵力の保存を危ふくする時は、勇敢に退却して、兵力を保存し、以て新しい時機に於て敵に打撃を與へることに資すべきである。強命主義者はこの道理を憚らず、明かに確實に不利な状況に在つても、一城一地の得失を争はんとし、結果は城も土地も俱に失ひ、軍事力も亦保存し得なくなる。我々は從來『誘敵深入』を主張して来たが、これは實は戰略防禦中に於ける弱軍が強軍に對する作戦の最も有效な軍事政策である。

五〇

(九五) 抗日戦争の作戦形式中主要なものは運動戦であり、游撃戦はこれに次ぐ。我々が説く所は、全體的な戦争に於て、運動戦が主要なものであつて、游撃戦は補助的なものであり、戦争の運命を決定するのは、主として正規戦であり、特にその中でも運動戦であり、游撃戦はこの戦争の運命を解決する主要な責任を負担することは出来ないとするに在る。併しこれは何も游撃戦の抗日戦争に於ける戦争的地位が重要でないことを述べるものではない。游撃戦の全體的抗日戦争に於ける戦略的地位は、僅かに運動戦に次ぐだけである。何となれば、游撃戦の補助がなければ、敵に勝つことは出来なくなる。かくの如く説くのは、游撃戦が運動戦に向つて發展するこの戦略任務をその内に包括することである。長期的な殘虐な戦争に於て、游撃戦は元來の地位に止まらず、それは自らを運動戦にまで高めねばならぬ。かくの如く、游撃戦の戰略作用には兩面がある。一は正規軍を補助することであり、一は自己を正規戦に變ずることである。游撃戦の中國抗日戦争に於ける空前な廣大さと空前な持久性の意義に就て言へば、その戰略地位は輕視すべからざるものである。故に中國游撃戦自体は、戰術問題のみでなく、特殊な戰略問題をも含むものであり、私の『抗日游撃戦争の戰略問題』(解放四〇期に掲載した一編者)の一文の中に於て既に説明した。上述せる如く、抗日戦争の三個の段階に於ける作戦形式は、第一段階に於ては運動戦が主要であり、游撃戦と陣地戦は補助的であり、第二段階に於ては游撃戦が主要な地位に昇り、運動戦と陣地戦は補助となり、第三段階に於ては、運動戦が

主要な形式になり、陣地戦と游撃戦は補助となるものである。併しこの第三の段階に於ける運動戦は、最早元來の正規軍によつて負擔せられるのではなく、游撃戦から高められた運動戦によつてその一部を負擔するものであり、相當重要な一部である。三段階から見ると、中國抗日戦争に於ける游撃戦は有つても無くともよいといふものでは決してなく、それは人類戦争史上に於て空前の偉大なる一幕を演ずるものである。かゝるが故に、全國數百萬正規軍中に於て、少くとも數十萬人を指定してあらゆる敵占地區に分散させ、民衆武装を發動し配合して、游撃戦に従事せしめることが、絶對的に必要である。指定せられた軍隊は、この神聖な任務を負擔してゐることを自覺すべきであり、少數を以て多數を打たんとすべきではなく、一時に顯はれることは民族の英雄になることではなくして、その資格を低下させるものであり、かゝる考へ方は錯誤である。游撃戦争には正規戦争の如き迅速な成果、赫々たる名聲がない。併し『道遠くして馬の力を知り、事久しくして人の心を見る』と言ふが如く、長期にして殘酷な戦争に於て、游撃戦争はその非常に大きな威力を發揮するものであり、實は小さな事業と同じではない。且つ正規軍は分散しては游撃戦をなし、集合しては運動戦をなすべきであり、八路军はかくの如くならずべきである。八路军の方針は、『基本的には游撃戦であるが、有利な條件の下に於ける運動戦を省略すべきではない。』であり、この方針は完全に正確であり、この方針に反對する人の觀點は不正確である。敵が臨時を上頭した後、軍事當局は、吾全軍が一律に『敵を以て單位となす游撃戦を行ふ』べきことを命令したが、これは戰略的な眼識をもつた處置である。

(九六) 防禦的にして而も攻撃的な陣地戦は、中國の現在の技術的條件下に於ては、一般に執行不可能であり、これも亦我々の弱點を表現するものである。更に敵も亦中國の土地の廣大さを利用して、我々の陣地設備を迴避する。故に陣地戦はこれを採用して重要な手段となすことが出来ず、これを用ひて重要な手段であると言ふことも出来ない。併し戦争の第一第二の兩段階に於て、運動戦の範圍に包括せられ、戰役作戦上に於てその補助的作用をもつ局部的な陣地戦を展開することは可能にして必要である。處々に於て抵抗をなし敵を消耗し、且つ時間的餘裕を爭取する爲に、半陣地的な所謂運動防禦を採用することは運動戦の必要部分に屬する。中國は新式兵器の増加に努力すべきであり、それによつて戰略反攻段階に於て十分に陣地攻撃の任務を執行することが出来る。戰略反攻段階に於ては、疑ひもなく陣地戦の地位が高まる。何となればその時敵は陣地を堅守し、我が有力な陣地攻撃を運動戦に配合しなければ、失地回復の目的を達成することが出来ないからである。併しながら、第三段階に於て、我々は勉めて運動戦を戦争の主要形式となすべきである。何となれば戦

一、持久戰論

争を領導する藝術及び人の活動性の大半が、歐洲大戰の中期以後に於ける彼の西歐地内の陣地戦に於て死滅するが如きことは、近代技術の不良な結果であるからである。併し廣大な版圖をもつ中國々内に於ける作戦は、相當長期に亘り、中國側には尙技術の貧弱な情況が保たれ、『戦争を破壊から解放すること』は、自然に發生したものである。第三段階に於て、中國の技術條件は既に増進したが、まだ敵を超越するに至らず、かくの如く、努力して高度の運動戦を求めねば、最後勝利の目的を達成することは出来ない。かくの如く全體的な抗日戦争中に於て、中國には基本的な陣地戦が無く、主要にして重要な形式は運動戦と遊撃戦である。かゝる戦争の形式中に於て、戦争を領導する藝術と人の活動性は十分發揮せられる機會を得ることが出来るが、これは我々の不幸中の幸である！

消耗戦、殲滅戦

(九七) これは戦争本質の問題である。上述せる如く、戦争の本質即ち戦争目的は、自己の保存であり、敵を消滅することである。併しこの目的を達成する戦争の形式には、運動戦、陣地戦、遊撃戦の三種があり、實現時の効果には程度の不同があり、一般には所謂消耗戦と殲滅戦の別がある。

(九八) 我々は先づ抗日戦争は消耗戦であり、同時に又殲滅戦でもあると説くことが出来る。何故か？敵の強い因素は尙發揮せられて居り、戦術上の優勢と主動も依然として存在して居り、戦役と戦團の殲滅戦がなければ、有効に加速度的にその強い因素を減殺し、その優勢と主動を破壊することは出来ないからである。我が弱き因素も亦依然として存在して居り、我々はまた戦術上の劣勢と被動とを離脱して居らず、時間を奪取し、國內及び國際條件を強化し、自己の不利な状態を改變する爲に、戦役と戦團の殲滅戦がなければ、成功することは出来ない。故に、戦役に於ける殲滅戦は戦術的消耗の目的を達成するものであり、この點から言へば、殲滅戦は消耗戦である。中國に出来ることは持久戦であり、殲滅によつて消耗を達成することは主要な手段である。

(九九) 併し戦術的消耗の目的を達成するには尙戦役に於ける消耗戦がある。大體、運動戦は殲滅の任務を執行するものであり、陣地戦は消耗の任務を執行するものであり、遊撃戦は消耗の任務を執行すると同時に又殲滅の任務をも執行するものであり、三者は互ひに區別せられ

る。この點から言へば、殲滅戦は消耗戦と異つてゐる。戦役に於ける消耗戦も亦持久戦によつて必要なものである。

(一〇〇) 理論上と必要上とから言へば、中國は防禦段階中に於て、運動戦の主要な殲滅性を利用して、遊撃戦の部分的殲滅性を利用して、更に補助的性質をもつ陣地戦の主要な消耗性と遊撃戦の部分的消耗性を利用して大量に敵を消耗する戦術目的を達成せしむべきである。相持段階中に於ても引續き、遊撃戦と運動戦の殲滅性と消耗性とを利用して、更に大量に敵を消耗すべきである。これ等は總て、戦局の持久によつて、漸次敵我の形勢を轉變し、反攻條件を準備するものである。戦術反攻時に於ても、引續き殲滅によつて消耗を達成し、以て最後の敵を驅逐すべきである。

(一〇一) 併し事實上、十個月の経験即ち幾多の運動戦々役によつて、消耗戦を達成した。遊撃戦のもつべき殲滅作用は、或地區に於ては尙未だ有つべき程度に達してゐない。かゝる情況の長所は、何れともあれ我々が敵を消耗することは、持久戦と最後勝利に對して有意義であり、我々の血は無駄には流さないと言ふことに在る。併し短所は、一つは敵を消耗することが不十分であり、他の一つは我々自身の免れ得ざる消耗が比較的多く、獲得する所が比較的少いことである。かゝる情況の客觀的原因即ち敵我技術と兵員教育程度の不同を承認すべきではあるが、併し理論上、實際上何れともあれ、主力軍はあらゆる有利な場合に於て努めて殲滅戦を提唱すべきである。遊撃隊は具體的任務、例へば破壊及び擾亂等に於て、單純な消耗戦たらざるを得ないが、併しそれを提唱して努力實行すべきである。即ち戦役と戦團のあらゆる有利な場合の殲滅的な作戦に於て、大量に敵を消耗し大量に自己を補充する目的を達成すべきである。

(一〇二) 外線的速決的進攻戦の所謂外線、所謂速決、所謂進攻と運動戦の所謂運動とは、戦團形式に於て、主として包圍と迂迴戦術を採用し、それによつて優勢な兵力を集中する。包圍迂迴戦術を採用することは運動戦即ち外線の速決的進攻戦の必要條件である。併しこれ等は總て、敵を殲滅する目的を達成する爲のものである。

(一〇三) 日本軍隊の長所は、その武器にあるばかりでなく、その教養にある。その過去に於ける敗戦したことの無い自信、その天皇及び鬼神に對する迷信、その驕慢な自尊心、その中國人に對する輕蔑等々の特點は、皆日本軍閥の多年の武斷教育と日本の民族習慣により馴致せられた所である。我軍がこれに對して殺傷する所が甚だ多いにも拘らず停戦が非常に少いといふ現象は主としてこの原因によるものである。この點過去に於て多くの人は考へが足らなかつた。かゝるものの破壊は、長い過程を必要とし、先づ我々はこの

一、持久戦論

特質を重視しなければならぬ。然る後持久的に計画的に政治上・國際宣傳上・日本人民運動上等多方面から、この點に對して工作すべきである。而して軍事上の殲滅戦も亦その一方法である。茲に於て悲觀主義者はこれによつて亡國論に傾き、消極的軍事家はこれによつて殲滅戦に反對する。併し我々は反對であり、我々は日本軍隊のかゝる長所が破壊出来るものであることを認め、且つ既に破壊し始めてゐる。破壊方法の主要なものは政治上の爭取である。その驕慢な自尊心を侮辱することではなくして彼等の自尊心を理解し順導することであり、俘虜の優待から國民外交に到るまで種々の方法があり、彼等を指導して日本統治者の反人民的な侵略主義を理解せしめることである。他の方法は、彼等の面前に於て中國軍隊及び中國人民が不撓不屈の精神と英勇頑強な戰鬥力とをもつてゐることを表示すること即ち殲滅戦がそれである。作戰上から言へば、十個月の經驗は、殲滅が可能であることを證明して居り、平型關・台兒莊等々の戦役はその明證である。日本軍の心理は既に動搖し始めて居り、兵士は戰爭目的を理解せず、中國軍隊及び中國人民の包圍に陥入り、士氣が中國兵にはるかに劣る等々は皆その客觀的條件であり、これ等の條件は戰爭の持久にもなつて日益しに發展するであらう。この點に就て言へば、殲滅は戰爭過程を短縮し、日本兵士及び日本人民の解放を早める一條件である。世界中で猫と猫とが友達になつたことはあるが、猫と鼠が友達になつたことはない。

(二〇四) 他の方面に於て、技術と兵士の教育程度に於て、現在我々は敵に及ばないことを承認しなければならぬ。故に最高度の殲滅戦、例へば全部又は大部分を俘虜にすることは、多くの場合に於て、特に平原地に於ては、困難である。速勝論者がこの點に於て過大な要求をなすのも亦正しくない。抗日戰爭の正確な要求は、『出来る限り殲滅戦を採り、あらゆる有利な場合に、各作戰に優勢な兵力を集中し、包圍迂迴戰術を採用して——その全部を包圍出来なければその一部を包圍し、包圍せる所の全部を俘虜にすることが出来なければ、包圍せる所の一部を俘虜にし、包圍せる所の一部を俘虜にすることが出来なければ、その多くを殺傷することではなければならない。而してあらゆる殲滅戦を執行するに不利な場合に於ては、消耗戦を執行する。前者に對しては兵力集中の原則を用ひ、後者に對しては、兵力分散の原則を用ひる。戦役の指揮關係に於て、前者に對しては、指揮集中の原則を用ひ、後者に對しては、指揮分散の原則を用ひる。これ等は抗日戰爭の戰場に於ける作戰の基本方針である。』

敵の際に乗ずる可能性

(二〇五) 敵の勝利に關して、敵の指揮方面にも若干の基礎がある。昔から錯誤を犯さない將軍はなく、敵が道に迷ふのは、我が道に迷ふのを免れ難いと同様であり、敵の際に乗ずる可能性は存在してゐる。戰略及び戦役に就て言へば、敵は十個月間の侵略戰爭に於て、既に幾多の錯誤を犯した。その大きなものに五つある。一、漸次兵力を増加した。これは敵の中國に對する考へが足らなかつたからであり、彼の兵力不足の原因でもある。敵は從來我々に注意を拂はず、東三省に於て利益を得た後、更に冀東、察北を占領した。これ等は皆敵の戰略偵察であつた。彼等の得た結論は、一盤散沙(國內不統一)こそ甚であつた。これに據つて中國は一擊にも耐え得ないものであると思ひ、所謂速決の計畫を立て、僅かに出兵しただけで我々を威嚇して潰滅せよと企圖した。十個月以來、中國のかゝる大きな團結と、かゝる大きな抵抗力を、彼は考へても居なかつた。彼は中國が既に進歩的な時代に處して居り、中國が既に進歩的な黨派と進歩的な軍隊と、進歩的な人民とをもつてゐることを忘れてゐた。兵力が不足を來す毎に、漸次増兵し、十數個師團から一回又一回と増兵して三十個師に達した。彼は更に前進せんとすれば、更に増加しなければならぬ。併し蘇聯との對立及び人的資源の先天的不足により、我々は彼の最大の出兵數及び最後の進攻點が共に一定の制限を受けざるを得ないことを説くのである。二、主力の方向がなかつた。台兒莊以前、華中・華北は大體兵力が平等に分割せられ、兩方の内部に於ても平等に分割せられてゐた。例へば華北に於ては津浦、平漢、同蒲三鐵道に兵力が平等に分割せられて居り、各鐵道で一部が戰傷死し、占領地に一部が駐屯し、更に前進する爲には兵力が無かつた。台兒莊に於ける敗戦以後、教訓に基き、主力を徐州方面に集中したが、この錯誤は暫時にして些か改められた。三、戰略協同がなかつた。華中、華北の兩集團中、各集團内部は大體協同的であつたが、兩集團は全く協同しなかつた。津浦南段の蚌埠を攻撃したとき、北段の軍隊は動かさなかつた。北段が台兒莊を攻撃したとき南段は動かさなかつた。兩方が接合した後、陸軍大臣が來て巡視し、參謀總長が來て指揮した爲、暫時的に協同した。日本の地主資産階級及び軍閥内部には極めて嚴重な矛盾が存在して居り、かゝる矛盾は正に發展しつゝあり、戰爭の不協同もその具體的な表現の一つである。四、戰略時機を失つた。その顯著な表現は南京、太原占領後の停頓であり、主要原因は兵力不足で

あり、彼は戦時追撃隊をもたなかつた。五、多くを包圍して少ししか殲滅しなかつた。台兒莊以前、上海、南京、滄州、保定、南口、忻口、臨汾等の戦役に於て撃破したものは多かつたが捕獲したものは少なかつた。これはその指揮が拙劣であつたことを表現するものである。この五つの點——漸次兵力を増加し、戦時協同がなく、主力の方向がなく、時機を失ひ、包圍する所多く殲滅する所が少いといふことは、台兒莊以前の日本の指揮が拙劣であつたことである。台兒莊以後は些か改められたが、併しその兵力不足と内部矛盾の諸因素により、重ねて錯誤を犯さなかつたといふことは不可能である。且つ此處で得たものを彼處で失ふ。例へば華北に於て兵力を徐州に集中すれば、華北の占領地には大空際が生じ、游撃戦をして自由に發展させる機會を作るが如きはその類ひである。以上は敵が自ら犯せる錯誤であり、我々が犯させた錯誤ではない。我方に於ても故意に敵をして錯誤を犯さしめてゐる。即ち自己をして聰明にして有效な動作をなさしめ、組織的な民衆擁護の下に於て敵を錯覚に陥し入れ、敵を我が思ふ通りに動かす。例へば東に喚聲をあげ西を撃つといふが如くである。このことの可能性が、存在することは既に上述した。これ等は總て、戦争勝利が敵の指揮上に於ける或種の根源に在ることを説明してゐる。我々はこの點を以て我が戦時計畫の重要基礎であるとすべきではなく、反對に、我が計畫はむしろ敵の錯誤が少いといふ假定の上に置かれるべきであり、それこそ確實な方法である。而して我は敵の隙に乘じ、敵も亦我が隙に乘ることが出来、敵に隙を少く與へることは、我々の指揮上の任務である。併し敵の指揮上の錯誤は、事實上既に存在して居り、且つ尙發生せんとして居り、又我が努力によつて招來することが出来るものであり、皆我が利用に供するに足る。抗日將軍諸君は極力それを捉へるべきである。敵の戦時計畫の指揮は多くは拙劣である（一切が拙劣であるのではない）、併しその戦時指揮、即ち部隊戰術と小兵團戰術には著しく高明な所があり、この點我々はこれを習得すべきである。

抗日戦争中の決戦問題

(一〇六) 抗日戦争中の決戦問題は三類に分たれる。あらゆる自信のある戦後及び戦闘は決戦を断行すべきであり、あらゆる自信のない戦後及び戦闘は決戦を回避すべきであり、國家の運命を賭する戦時決戦は根本的に回避すべきである。抗日戦争がその他の幾多の戦争と異

る特質は、又この決戦問題に表現せられる。第一・第二段に於て、敵強我弱であり、敵の要求は我が集中主力との決戦である。我は反對に、有利な條件を選択して、優勢な兵力を集中し、これと自信ある戦後及び戦闘に於ける決戦をなすことであり、例へば平型關、台兒莊及び幾多のその他の戦闘がそれであり、不利な条件下の自信のない決戦は回避すべきであり、例へば彰德等の地に於ける戦後の採つた方針はそれであり、國家の運命を賭する戦時決戦は根本的に回避する。例へば最近の徐州撤退の如きはそれである。かくの如く敵の『速決』計畫を破壊して、我が持久戦に従はしめる。この方針は、領土の狭小な國家に於て行ふことは出来ない、政治の餘り落後した國家に於ても行ひ難い。我々は大國であり、且つ進歩時代に處し、虚る所は國家の主力が決戦により犠牲になることであり、敵に欺瞞せられることである。假令戦時決戦を回避しても、『青山があれば、柴のないことを心配しなくてもよい』であり、若干の土地を喪失しても、なほ廣大な迴旋の餘地があり、國內の進歩、國際的増援及び敵の内部崩潰を促進しそれを待つことが出来る。これは抗日戦争の『上策』である。急性病的な連勝論者は持久戦の難難な路程に耐へることが出来ずして、速勝を企圖し、一度形勢が稍々好轉するや戦時決戦を遂高く唱へるが、若しかくの如くして、全體的な抗戦が大きな損失を蒙り、持久戦が弾り去られ、敵の毒計にかゝるならば、最も拙劣な『下策』ではなにか。決戦しなければ、土地を放棄しなければならぬと言ふことには疑問の餘地はないが、回避すべからざる状況の下に於ては（僅かにかゝる状況の下に於てのみ）勇敢に放棄すべきである。情況が此處に至つた時、存も懸々とすべきではなく、これは『土地を以て時間』に換へる』所の正確な政策である。歴史上、露西亞は決戦を回避して、勇敢に退却して、一世を震撼せる奈翁を破つた。一九一四年八月下旬、佛朗西は佛蘭西に於ける決戦を回避して勇敢に退却し、歐洲に雄飛せる獨逸軍を破つた。中國も現在かくすべきである。部分的領土の喪失は全國解放の條件であり、一時の苦痛は永久幸福の條件であり、眞の愛國者はこの理を知るべきである。

(一〇七) 『不抵抗』と思はれることを恐れないか？ 恐れない。根本的に戦はないこと、それは敵と妥協することであり、不抵抗主義とはこのことである。それは思はるべきであるばかりではなく完全に許すべからざるものである。抗戦を堅持することは、敵の毒計を避け、國家の主力をして敵の一撃によつて喪はざらしめ、民族の生存と抗戦の繼續に影響するものであり、換言すれば、亡國を避れるものである。絕對的に必要である。こゝに於て發生する懷疑は、戦争の近視眼であり、結果は必ず亡國論と隣を二にするであらう。我々は曾て所謂『有進無退』の懸命主義を批評したが、それはかゝる懸命主義が一般の風氣になれば、その結果抗戦をして繼續不可能ならしめ、遂ひに

一、持久戦論

は亡國の危険に達するからである。

(一〇八) 我々はあらゆる有利な条件の下に於ける決戦を主張するが、戦闘すると大小戦役たるとを論せず、こゝに何等の消極をも許容しない。敵に殲滅を與へ敵に消耗を與へる。只だかくしてのみ目的を達成することが出来るのであり、抗日軍人の一人々々をして斷乎として征かしめるべきである。この目的の爲に、部分的には相當大量の犠牲が必要であり、如何なる犠牲も回避する調子は懦夫や恐日病患者の觀點であり、必ず斷乎としてそれに反對しなければならぬ。李服膺、韓復榘等の敗走主義が統制せられたのは正に當然のことである。戦争中に於ける勇敢な犠牲、英勇邁進の精神及び行動は、正確な作戦計畫の下に於て絶対に必要であり、持久戦及び最後勝利と分離し得ざるものである。我々は所謂「有退無進」の敗走主義を嚴重に非難し、嚴格な規律の執行を擁護したが、たゞかゝる正確な計畫の下に於ける英勇決戦があつてのみ強敵を破り得るからであり、敗走主義は、亡國論の直接支持者である。

(一〇九) 先づ英勇戦闘して、然る後土地を放棄するのは矛盾しないか？この英勇戦闘の血は無駄に流されたのか？これは甚だ不適當な質問である。先づ飯を食つて、然る後棄てるのは、無駄に飯を食つたことであるか？發た後で起きるのは、無駄に寝たことであるか？かかる問題を提出することは可能であるか？私は不可能であると思ふ。飯は一度に食べてしまひ、睡眠は一度にとり、英勇戦闘は一度に鴨綠江まで攻めるといふのは、戦争問題の機械論であり、形式論理であり、人間事物の上に存在しないものである。時間を爭取し反攻を準備する爲に流血戦闘し、或土地を放棄せざるを得なかつたとしても、時間を爭取し、敵に殲滅を與へ、敵に消耗を與へる目的を達成し、自己の戦闘經驗を取得し、目覚めない人民を目覚めさせ、國際地位を向上させるものであることを知らないものがあらうか。かゝる血は無駄に流されたものであるか？少しも無駄ではない。土地の放棄は軍事力を保存し、土地を保存する爲であり、それは不利な条件の下で部分的な土地を放棄することであり、若し盲目的に全然自信のない決戦をするならば、結果は兵力を喪失し、必ずそれにつれて全部の土地を喪失しなければならず、失地回復などは思ひもよらないからである。資本家が商賣をするには資本がなければならず、全然破産してしまつてからは、資本家などとは言へない。賭博者も賭博の資本を必要とし、一か八かの勝負をして、不幸にして負ければ、賭けることが出来なくなる。事物は迂餘曲折のあるものであり、直情徑行になされるものではなく、戦争も亦同様である。たゞ形式主義者だけにこの道理がわからない。

(一一〇) 私は戰略的反攻の段階に於ける決戦も亦然りだと思つてゐる。その時敵は劣勢に在り、我は優勢にあるが、『有利な決戦を執行し、不利な決戦を回避する』といふ原則は矢張り執行され、眞直に鴨綠江まで攻めるといふが如きことは總てかくの如しである。かくの如く我々は始終主動に立ち、あらゆる敵の『挑撥』や、周囲の人々の『離間策』を皆棄して高處に置いて取合はず、全くそれによつて影響せられない。抗日將軍諸君はかゝる堅決性をもつて、始めて勇敢にして明智の將軍たり得るのである。彼の『一觸即發』の人々は語るに足りない。第一段階に於て我は戰略的發動の立場に立つが、いづれの戦役に於ても主動的でなければならぬ。爾後の如何なる段階に於ても主動でなければならぬ。我々は持久戦及び最後勝利論者であり、賭博者の一か八かの骰子論者ではない。

兵民は勝利の本である

(一一一) 日本は革命的中國に對して、決してその進攻と鎮壓とを忽せにせず、日本の帝國主義の本質はこの點を規定してゐる。中國が抵抗しなければ、日本は安全に中國を占領する。東西省の喪失はその前例である。中國が若し抵抗するならば、日本はかゝる抵抗力に對して壓迫を加へるが、その壓力が中國の抵抗力を超過し得ざるに至れば停止する。これは必然的な規律である。日本地主資產階級の野心は非常に大きく、南は南洋群島を攻め、北はシベリヤを攻める爲に、中央突破を企て、先づ中國を攻めた。彼の日本が華北、江浙一帯を占領した後、於て適當に止まるであらうと考へる人々は、新段階にまで發達して死線に近づいた日本帝國主義と歴史上の日本とが異なるものであることを全く知らないのである。我々が日本の出兵數と進攻點に一定の制限があると言ふのは、日本はその力量によつて、他の敵を進攻し防禦しなければならない爲、唯一定限度の力量を以てその力の幅を限りの限度まで職ひ得るに過ぎないが、中國は自己の進歩的な頑強な抵抗力を表現することを言ふのである。唯日本が猛攻撃をするだけで、中國には必要な抵抗力がなく、日本も亦全中國を占領することが出来ないと思へることは出来ない。併しその力が普及し得る地區に於て、それが餘り所なく力を盡して中國の反抗を鎮壓せんとし、日本の内外條件が日本帝國主義をして墓穴に這入らんとする直接的な危機を發生するに立到るまで、彼はかゝる鎮壓を停止せず、日本國內の政治は既に二道の大きな溝に分れ、一つは全體的な權力階級が迅速に崩潰し、政權が人民の手に渡り、戦争はそれが爲終末を告

けるが、暫時はこの可能性がない。他は地主資産階級が日益にファッショ化し、戦争を自己の崩潰する日まで支持する。日本が進むのは正にこの道である。その他に第三の道はない。彼の日本資産階級中和派が戦争停止に乗り出すことを希望するのは、一種の幻想に外ならない。日本資産階級中和派は最早地主及び金融寡頭の俘虜にしか過ぎなくなつて居り、これは一年來の日本の政治の實際である。日本が中国を攻めた時、若し中国の抗戦が日本に致命的打撃を與へることが出来ず、日本が十分の力を持つて居れば、それは必ず南洋又はシベリヤを攻めんとし、甚しきに至つては或ひは兩方とも同時に攻めるであらう。歐洲に於て戦争が勃發した後、彼はこの手をつかふことが出来、日本統治者の思ひ通りになる算盤は非常に大きく弾かれる。當然以下の如き可能性は存在する。即ち蘇聯は更に強大となる爲に日本に於ける戦争は著しく弱められ、彼をしてシベリヤ進攻の元來の計畫を停止せしめ、而してこれに對して根本的守勢を探るに至らしめる。併しかゝる情形を現出せしめる時、中國進攻は忍せにせられずして、反つて中國進攻は強化せられる。何となればその時彼には弱者併呑搾取の一路が残されてゐるに過ぎないからである。その時中國の抗戰堅持、統一戰線堅持及び持久戰堅持の任務は、更に嚴重になり、更に擲意出来なくなる。『強食弱肉』は自然界及び階級社會の規律である。

(一一二) かゝる情況の下に於て、中國が日本に對して勝を制する主要な條件は、全國の團結と各方面の過去より十倍百倍する進歩とである。中國は既に進歩的な時代に處して居り、既に偉大な團結をもつたが、現在の程度はまだ非常に不十分である。日本の占領地がかくの如く廣いのは、一方に於て日本の強大によると共に、他方に於て中國の弱小によるのであり、かゝる弱小は、完全に百年來の各種の歴史的な錯誤の累積した結果であり、中國の進歩因素を今日の狀態に制限したのである。現在かゝる強敵に戰勝せんが爲には、長期の廣大な努力がなければ不可能である。努力すべきことは非常に多いが、私は此處には最も根本的な二方面即ち軍隊と人民の進歩だけに就て述べよう。

(一一三) 軍制の革新は現代化でなければならず、技術條件を増強しなければ敵を鴨綠江まで逐ひやることは出来ない。軍隊の使用は進歩的、政治的、戰略技術を必要とし、然らざれば、勝利出来ない。併し軍隊の基礎は兵士に在り、進歩的な政治精神を軍隊内に貫注せず、進歩的な政治工作を以てかゝる貫注を行はなければ、眞の上官と兵士の一致を到達することが出来ず、將兵に最大限度の抗戰情緒を養成することが出来ず、あらゆる技術も戰術も最も優れた基礎を得なければ彼等の有すべき效力を發揮することが出来ない。我々は日本の技術條件が優れてゐるとは言ふが、併しそれは遂には必ず失敗しなければならず、我々が攻撃すること以外に、彼の士氣をして遂に必ず我々の攻撃につれて動揺せしめ、武器と兵員の結合を不適當ならしめることは出来ない。我々は反對に、抗日戰爭の政治目的が將兵の一致にあり、これは内戰當時と根本的に異つて居る。此處にあらゆる軍隊の政治工作の基礎を建設するのである。軍隊は一定限度の民主化を實行すべきであり、主要なものは封建主義的獨裁主義の廢除と將兵の甘苦を共にすることである。かくして、將兵一致の目的は達成せられ、軍隊は絶大な戰闘力を増大し、長期の、殘酷な戦争を支持し得ないのではないかといふ心配はなくなる。

(一一四) 戦争の偉力の最も濃厚な根源は、民衆の中に存在して居る。日本が敢て我々を欺かんとする主要な因素は、中國民衆の無組織状態に在る。かゝる缺點を克服することは、日本侵略者を我々數億の立ち上つた人民の前に跪つかせることであり、丁度一匹の野牛が火陣の中に飛込んだ様なものであり、一隊映撃をあげれば、彼は驚いて跳び上り、この野牛は燒死しなければならぬ。我方の軍隊は枯渴し、ない不飽の補充をもつべきであり、現在兵士の微聲とか「備兵」とかの下策を迅速に禁止し、廣汎にして熱烈な政治動員に改めるべきである。かくすれば、數百萬人数千萬人を兵士にすることも容易である。抗戰の財源は極めて困難であるが、民衆を動員すれば、數十數百億と雖も問題でなく、どうしてかくの如き廣大な土地と多くの人民をもつ國家にして財政窮乏を患へばならぬ道理があらうか？ 軍隊は須く民衆と一體になり、軍隊をして民衆の眼中にこれは自己の軍隊であり、この軍隊こそは天下無敵であり、日本帝國主義を攻撃するに足るものであることを認識せしめるべきである。

(一一五) 非常に多くの人々が、將兵關係、軍民關係に對して錯誤を犯し、方法が間違つてゐると考へるが、私が彼等に告げることが根本態度(又は根本宗旨)の問題であり、この態度は將兵を尊重し、人民を尊重することである。この態度から出發して、各種の政策方法方式が生れる。この態度を遊離せる政策方法方式は必ず錯誤であり、將兵の間、軍民の間の關係を必ず錯誤に陥入れる。軍隊政治工作の三大原則は第一は將兵の一致であり、第二は軍民の一致であり、第三は敵軍の爭取である。これ等の原則の實行を有效ならしめる爲には、將兵を尊重し、人民を尊重し、且つ敵軍の俘虜を尊重するかゝる態度から出發すべきである。彼の根本態度の問題でなくして技術の問題であると認識する人々は、實は考へ違ひをして居るのであり、改正すべきであり、かくして始めて正しくあり得るのである。

(一一六) この武漢等の地を保護することが緊急の任務となつた時、全軍全民のあらゆる積極性を發動し、これを戦争に用ひることは、十

分嚴重な任務である。武漢等の地を保衛する任務は、疑ふ餘地もなく必ず眞面目に提出し執行すべきである。併し窮極に於て確實に保衛し得るかどうかは、主観的願望によつて決定せられるのではなくして、具體的條件によつて決定せられる。政治上全軍全民を動員して奮闘することは、最も重要な具體的條件の一である。あらゆる必要な條件を爭取することに努力せず、甚しきに至つては必要條件をも具備しなければ、勢の赴く所必ずや南京等の地の覆轍を踏まねばならないであらう。中國のマドリッドは何處に在るか、何處にマドリッドの條件を具へた所があるか。過去に於てはマドリッドの如き所はなかつたが、今後は數個それを爭取すべきである。併し全體的に見て條件は如何。條件中の最も基本的な條件は、全軍全民の廣大な政治上の動員である。

(二七) あらゆる工作に於て、抗日民族統一戦線の總方針を堅持すべきである。何となれば、たゞこの方針があつてのみ抗戦を堅持し、持久戦を堅持し、普遍的な深きに將兵關係軍民關係を改良し、全軍全民の全體的な積極性を發動し、あらゆる未失地帯を保衛し、あらゆる既失地帯を回復する爲に戦つて、始めて最後勝利を爭取出来るからである。

(二八) この政治上に於ける軍民動員の問題は、實は極めて重要である。我々が骨を惜まず總返し／＼それを説くのは、實はそれなくして勝利がないからである。他の多くの必要なものが無ければ固より勝利はないが、併しこれは勝利の基本的條件である。抗日民族統一戦線は、決して僅かに數個の黨派の黨部と黨員の統一戦線ではなく、全軍全民を統一戦線に動員することがこの統一戦線の根本目的である。

結 論

(二九) 結論は何か？結論は：「如何なる條件の下で、中國は日本帝國主義の實力を消滅して戦勝することが出来るか？それが爲には三個の條件が必要である。第一は中國抗日統一戦線の完成であり、第二は國際抗日統一戦線の完成であり、第三は日本人民革命の興起である。三個の條件中に於て主要なものは中國人民の大聯合である。この戦争がどれだけ長くかは、中國抗日統一戦線及び中日兩國のその他の多くの決定的因素如何によつて定まる。若しこれ等の條件が餘り急速に實現しなければ、戦争は長引く。併し結果は同様に、日本の必敗と中國の必勝である。唯犠牲が大きく、非常に苦しい時期を經過しなければならぬだけである。我々の戦略方針に、我々の主

力を非常に長い運動して定まらない戦線に於ける作戦に使用することではなければならない。訓練ある軍隊をして運動戦を進行させる以外に、尙農民中に於て政治軍事的に多數の遊撃隊を組織しなければならない。戦争の過程に於て：中國軍隊の機械裝備を漸次強化し、それによつて戦争の後期に於て陣地戦をなし、日本の占領地に對して陣地の攻撃を進行することを可能ならしめる。かくの如く、中國抗戦の長期の消耗の下に於て、日本の經濟は將に崩潰せんとして居り、無數の戦争の摩擦中に於て、その士氣は頹廢する。中國は、抗戦の潜伏力が日々々と奔騰高漲し、多數の革命民衆は不斷に前線に繰出され、自由の爲に戦ふ。これ等の因素とその他の因素とを總て配合し、我々をして日本占領地の保衛及び根據地に對して最後の致命的攻撃をなし、日本侵略軍を中國から驅逐することを可能ならしめる。」
(一九三六年六月スノウとの談話)「中國政治形勢はこれから新段階に發足する……この段階の最も中心的な任務は、あらゆる力量を動員して抗戦の勝利を爭取することである。勝利を爭取する中心點は、既に發動せられた抗戦を全面的に全民族の抗戦にまで發展させることに在り、かくして始めて抗戦を最後の勝利に到達せしめることが出来る。當面の抗戦には尙多くの弱點が存在してゐる爲、今後の抗戦過程に於て挫折、退却、内部的分化叛變、暫時的且つ部分的妥協等の不利な情況の發生する可能性があるからである……故にこの抗戦は艱苦の持久戦であると見るべきである。併し我々は次の事を信じてゐる。既に發動せられた抗戦は、必ず全中國人の努力によつてあらゆる障礙物を突破して引續き前進し發展するであらう。『中共八月決定』。これ等は結論である。亡國論者は敵を見ること神の如く、自己を見ること芥の如くであるが、連勝論者は敵を見ること芥の如く、自己を見ること神の如くである。これ等はともに錯誤である。我々の意見はそれと異り、抗日戦争は持久戦であり、最後勝利は中國のものである——これが我々の結論である。」
(二〇) 私の講演はこれで終る。偉大な抗戦は正に展開せられて居り、非常に多くの人々は經驗を總結して、全體的な勝利を爭取せんとを希望してゐる。私の説く所は、唯十箇月の經驗中に於ける一般的なものであり、總結でもある。この問題は廣大な注意と討論を惹起するに足るものであり、私の説く所は唯一個の「概論」に過ぎず、諸君が研究討論して、修正せられんことを希望する。
(註……是は最後の校正本であり、『解放報』に發表したものと、その字句に些小の異同がある——著者一九三八年七月九日) 完

二、新段階論

六四

抗日民族戦争と民族統一戦線の發展的新段階——一九三八年十月十二日より十四日に亘り、中共擴大六中全會に於ける報告

毛澤東

同志諸君。私は中央政治局を代表して、擴大六中全會に對し報告をなすに當り、私は何を言はんと準備してゐるか？ 私の言はんとする所は次の如き數項に分たれる。(一)五中全會から六中全會まで。(二)抗戰十五個月の結論。(三)抗日民族戦争と抗日民族統一戦線發展の新段階(四)全民族の當面せる緊急任務。(五)長期戦争と長期合作。(六)中國の反侵略戦争と世界の反ファシズム運動。(七)民族戦争に於ける中國共産黨の地位。(八)黨の第七次全國代表大會。私の言はんとする所は此等の問題である。

同志諸君。砲火全國を蔽ひ、全世界また戦争の危機切迫しつゝある環境の中に於て、我が六中全會擴大會は開催せられた。我々は如何なる工作をなすべきか？ 我々の目的は何處に在るか？ 我々は必ず全中國の凡ゆる愛國黨派及び凡ゆる愛國同胞と永久に團結して、新しい困難を克服し、新しい力量を動員し、目前に於ては敵の進攻を停止し、將來に於ては、我が反攻を實行し、日本帝國主義を驅逐し、三民主義共和國建設の目的を達成しなければならぬ。我々は必ず自由と勝利とを獲得しなければならぬ——此れこそ我々の目的であり、且つまた私の報告の全方向である。

一 五中全會より六中全會まで

(1) 擴大六中全會の召集

我が黨の中央全會會議は、一九三四年一月江西に於て第五次中央全會を開催してより以來、約五年の歳月を閲した。各中央委員が分散し

て國內外の種々異つた環境に於て工作してゐた爲、我々は一個所に集合する事が出来なかつたからである。今回は、數人の同志を除き、他の全中央委員が悉く出席したのであるが、更に全國各地の工作を領導してゐる多數の同志の出席に依つて、今次中央全會は第六次全國代表大會以來最も多數の人員が集合をみた會とはなつた。本來、第七次全國代表大會は本年召集さるべく準備を進められて来たが、戦争が緊迫した爲、七次大會は明年まで延期せざるを得なくなつた。而かも、當面せる時局が我々に提示せる幾多の問題は、抗戰の勝利を爭取する爲には斷じて明確な解決を我々に要求してをり、それ故に、今次擴大中央全會の召集をみたものである。

(2) 五中全會から六中全會まで

過去五年間、我が黨は幾多の重大なる事變を體驗して来た。最大にして最主要なるものは、國內各黨派各階級の相互對立の局面から抗日民族統一戦線への轉換であり、國內戦争から抗日戦争への轉換である。

過去に於て國內戦争を形成した原因は、一九二七年に於ける國共兩黨統一戦線の不幸なる破滅からであるが、之は當時の歴史的環境から形成され来たものである。

抗日民族統一戦線の政策は、然らば如何にして形成せられたものであるか？ それは新たな歴史的環境に依るものである。諸君が既に極めて明瞭に知つてゐる如く、九一八事變以來、中華民族の敵、日本帝國主義は、東三省侵略といふ第一段階を終り、進んで全中國侵略への第二段階を準備し且つ實行して来た。かゝる空前の歴史的事變は、國內、國際狀況共に變化を生ぜしめるに至つた。先づ國內各階級・各黨派・各集團間の相互關係を變化せしめ且つ今尚ほ變化せしめつゝある。それと同時に、國際間の相互關係をも變化せしめ且つその變化は現在も持續されつゝある。故に我が黨は、かゝる空前の歴史的事變と新たな國內・國際關係とに基き、一九三三年以來既に探り來つた新たな政治的立場(三個の條件の下に、國民黨内に於て我々との合作を欲する凡ての分子と抗日作戦協定を訂立する)の路線に沿つて、新しい政治的立場を抗日民族統一戦線の新政策にまで引き上げた。それが爲に、一九三五年八月の宣言(十二月の決議・一九三六年八月の「救國民黨宣言」九月の民主共和國決議を發表したのであるが、これらに基き、同年十二月に發生した西安事變に於て和平解決の方針を堅持すること)が出来、更に一九三七年二月には國民黨三中全會對し、團結抗日の具體的建議を提出した。昨年(民國二十六年)譯註五月には第一次臨時代表大會(ソヴェト區代表大會)と稱し、當時のソヴェト區非ソヴェト區及び紅軍代表が參加した)を召集し、「抗日民族統一戦線

二、新段階論

六五

の現段階に於ける任務』を通過させ、紅軍の改編を實行して國民革命軍となす事、及びソヴェットの民主制改変を實行する事を批准した。かくの如く、事實の上で國內戰爭の狀態から轉じて抗日民族統一戦線建立の新たな段階が展開し始めた。當時、中國國民黨も亦漸次其の政策を改變して、徐ろに團結抗日の立場に轉じた。若し、國民黨政策の轉變が無かつたらば、抗日民族統一戦線の建立は不可能であつたであらう。當時、救國團體は幾多の地方に於て組織せられ、其の他の黨派も亦抗日の要求を掲げてゐた。國共兩黨雙方の政策轉換に依つて、蔣介石先生の領導に依つて、全國軍民の擁護に依つて、其の他の集團、黨派の協力に依つて——全中國を滅亡せんとする日本帝國主義の侵略の道程をして、未だ曾つて無き全民族を擧げての反抗に遭遇せしめた。昨年七月七日、蘆溝橋事變發生以來、全中國は民族の領袖にして最高統帥である蔣委員長の統一領導の下に、神聖にして正義なる戰爭の火蓋を切り、全中國は空前の抗日大團結を形成し、偉大なる抗日民族統一戦線を形成するに至つた。蘆溝橋事變勃發の翌月、即ち昨年八月に、我が黨は抗日救國の十大綱領を發布した。同時に、八路軍は改編を完了して華北作戦に赴いた。九月二十二日、我が黨は三民主義を基礎となし國民黨と共に精誠團結して國難に赴く旨を天下に宣布する宣言を發表した。翌日、國民黨、國民政府及び國民革命軍の最高領袖蔣介石先生は、共產黨の合法的存在を承認して之と團結して救國に當るべき旨の談話を發表した。かくの如くして、國共兩黨を以つて基礎となす抗日民族統一戦線は完全に樹立されて來た。十二月、抗日民族統一戦線を鞏固にし發展させる爲に、我が黨は又、國民黨と抗日を共に進むのみならず、建國をも共になさんと願ふ旨の宣言を發表した。其の後にもなく、南方の紅軍遊撃隊を國民革命軍新編第四軍に改編し、江南作戦に赴かせた。其の後、抗日團結は日々發展した。

同志諸君、斯の如き兩黨十年戰爭から轉じて兩黨再合作に到つたは、且つは極端に困難なる條件の下に此の轉變が行はれたものであつたが、兩黨の長期的合作の基礎は幾多の艱難曲折を経て始めて完成したものである。而して之は中央並に全黨の努力によつて始めて完成したものである。共產國際は完全に我が黨の此の新しい政治路線に同意した。(共產國際決議、九月八日『新華日報』)。且つ、中華民族の勝利の爲に、全世界各國の共產黨と無産階級に、中國の抗日戰爭を援助すべく呼び掛けた。

同志諸君、若し國共兩黨を基礎となす抗日民族統一戦線の發起、其の建立と堅持とがなされなかつたらば、斯かる偉大なる抗日民族革命戰爭の發動、其の持久及び勝利の爭取は、不可能事であつた。今や全中國、全世界の人々は萬人明かに知つた——即ち、中華民族は奮起したのである。百年來の欺辱・侮辱・侵略・壓迫・特に九一八事變以來の彼の堪へ難い奴隸的地位は、改變されて來たのだ。全中國人は手に

手に武器を執つて民族自衛戰爭の戰場に馳せ参じた。全中國の最後の勝利、即ち中華民族の自由解放の曙光は、既に見え始めた。

我々は、我々が今日戦つてゐる此の偉大な民族戰爭が、中國の過去に於ける凡ゆる歴史上の戰爭と全く異つてゐる事を知つてゐる。何故なれば、此の戰爭は、中華民族を半植民地狀態から、亡國滅種の危險の中から、解放する戰爭であり、更に此の戰爭は、中華民族歴史上に於ける最も進歩的な時期に進行してゐるものであり、同時に又、我々の敵日本帝國主義が自ら死路を尋ね崩潰に向つてゐる時期に進行してゐるものであり、同時に又、全世界先進人類が正に曾つて見ざる廣大にして、深刻なる闘争力量を準備して、獨り伊ファシズムに抵抗し且つ戰勝して、世界の光明ある前途を取せんとする時期に進行してゐるからである。斯かる三方面の因素的結合——中國の進歩と進歩の繼續とを主要基礎とする三方面の結合——は、我々の抗日戰爭が、必ず最後の勝利を取し得る事、自由解放の新中國が必ず東亞に出現し、且つ未來の光明ある世界の極めて重要な組成部分になる事を保證するものである。斯かる中國こそ、單に四億五千萬の福祉を計るばかりでなく、更に全人類の福祉をも計るものである。

(3) 六中全會の任務

今次の擴大六中全會は、抗日戰爭が將に新たな發展段階に突入せんとする重要な關頭に於て開會せられたものであり、擴大六中全會は重大なる歴史的任務を擔ふものである。

正に然り！抗日戰爭は一年有餘を勇敢に闘ひ抜いた。全國に偉大なる團結と進歩とが齎らされ、日本帝國主義に痛烈なる打撃を與へた。失へる土地は非常に多いが、然し同時に、非常に多くの勝利をも獲得してゐることは、否定し得ない事實である。戰爭の發展に連れて、中國の進歩の機軸を主動軸としつゝ、同時に日本側の困難の増加及び我が方への國際援助の増強と相俟つて、最後の勝利は我々のものであつて敵のものではない事も、亦豫斷し得る所である。過去の偉大なる成果と未來の勝利の前途を見ないものは、誰でも悲觀主義の深淵に陥入り抜け出る事が出来なくなる。併し、單に此の方面ばかり見るのでは片手落ちである。抗日戰爭には尙ほ別の面、即ち其の消極的な面があるのであつて、それは我々の面前に横たはつてゐる幾多の困難である。眼前の状況は我々に告げる——一年餘以來、中國の凡ゆる奮闘・團結・進歩・勝利にも拘らず、尙ほ敵の前進を阻止し得なかつたし、敵に反攻を加へる力量も有たなかつた。武漢は今や正に敵の脅威に曝されてをり、更に敵は尙ほ廣州・長沙及び西北等の地に向つて進攻せんとしてゐる。茲に於て、全國人民は共產黨の意見發表を待ち望んでをり、

二、新段階論

新たな環境は幾多の問題を提出した。同志諸君、我々は意見を發表しなければならぬ。必ず問題を解決しなければならぬ。然り、我が黨は既に意見を發表してをり、幾多の根本問題も亦既に解決せられてはゐる。併し、新たな環境は、我々に新たな意見の發表と新たな問題の解決を要求してゐるのだ。

新たな問題とは何か？
如何にして現有基礎の上に新しい力量を増進し、戦争の難關を切り抜け、敵の進攻を停止せしめ、我が方の反攻を準備し、敵驅逐の目的を達成するかといふ事こそ、當面する問題の關鍵である。此の問題こそ、全國の無数の人々に依つて論議せられ、焦慮せられてゐる所である。我々は此の問題に對して解答すべきや否や？勿論、解答すべきである。

此の問題は各方面に發展し、幾多の問題を發生した。
例へば、十五個月の抗戰經驗は一體何を證明したか？、抗日戦争が長期のものであるか短期のものであるか？戰略方針は持久戦たるべきか速決戦たるべきか？最後の勝利は中國のものであるか敵のものであるか？抗戰に出路があるのか、それとも妥協に出路があるのか？若し戦争が長期に亘るものであるならば、如何なる方法に依り長期戦争に耐え最後の勝利を得べきや？十五個月の經驗はそれを證明したであらうか？此等凡ての事は、十五個月の經驗の中から明確なる回答を與へ得る根拠を探し得るかどうか？且つ此等過去の基礎を糧として抗戰の新段階に於て積極的な作用を起さしめ、それに依つて新たな困難を克服して新しき勝利を爭取する事が出来るかどうか？此等は凡て重要問題であり、聯關せる問題である。

又例へば、全體として抗日戦争は如何に發展變化するか？所謂新段階とは一體如何なる性質の段階であるか？若し武漢が陥落したならば戦争の趨勢はどうなるか？今後全國の努力の方向、即ち全中華民族の當面せる緊急任務は何であるか？如何なる名案に依つて戦争の難關を切抜ける事が出来るか？更に此等も亦重要問題であり、それはまた聯關せる問題でもある。

又例へば、國共合作の前途と展望はどうか？共產黨は如何なる根拠を以て長期合作を言はんとするの？共產黨は如何なる方法に依り兩黨の關係を改善せんとするものであるか？抗戰合作のみならず建國合作をもなすと言ふ所以のものは、一體如何なる國家を建設せんとするものであるか？三民主義と共產主義との關係は如何？これも亦極めて重要な問題であり、それはまた聯關せる問題でもある。

又例へば、世界の風雲は斯くの如く緊迫してゐるが其の趨勢はどうか？中國の抗日戦争と世界ファシズム運動とは如何なる利害關係を持つか？これも亦重要な問題であり、それはまた聯關せる問題でもある。

更に、民族戦争に於ける中國共產黨の地位如何？共產黨員が黨の政治方針の爲に奮闘する時、その工作态度は如何にあらねばならぬか？共產黨は他黨との合作、人民との聯繫に如何なるより良き方法を持ち、艱難なる時局を有利なる方向に導く事が出来ると言ふのか？共產黨の内部關係は如何？如何なる傑れたる方法に依つて全黨を團結せしめ、依つて以つて抗日戦争殊に當面せる艱難なる時局に於て其の大いなる作用を生ぜしめるか？共產黨第七次代表大會は一體どうするの？之も亦重要な問題であり、それはまた聯關せる問題でもある。

凡て此等の問題は悉く黨内黨外に於て切實に解決を要求せられてゐるものであり、最近數個月以來、我々は常に此等の問題に對する回答を要求する人々に出會ふのである。

同志諸君、我が國は廣大にして複雑なる國家であるが、此の國家は今や正に同じく一個の強力なる帝國主義と決死の闘争をなしてゐる。そして、此の闘争は現在既に新たな發展段階に達してをり、且下正に新段階に向つて發展する過渡期に在る。我々の擴大六中全會は、此の時期に於て閉會せられたものであり、擴大六中全會の責任は非常に重大であり、我々は幾多の問題を解決しなければならぬ。

二 抗戰十五個月の成果

(1) 十五個月の經驗は何を證明したか？ 我々は十五個月の經驗から論を進めよう

十五個月の抗戰の經驗は我々に何を與へたか？ 私は其の主要なるものを三つとする。第一、抗日戦争は長期のものであり、短期のものでない事を證明した。従つて、抗戰の戰略方針は持久戦であり、速決戦ではない。第二、中國の抗戰は最後の勝利を取得出来る事、悲觀論者の根拠なき事を證明した。第三、長期戦争を支へて最後の勝利を爭取する唯一の正確なる路線は、全民族を統一團結し、務めて進歩を求め、且つ民衆を頼り、依つて以つて困難を克服し勝利を爭取する事であり其の外の何物でもない事を證明した。

(2) 抗日戦争は長期のものであり短期のものではない。戰略方針は持久戦であり速決戦ではない。

二 新段階論

抗戦勃發當初、多くの人は、敵我力量の基本的な對比から出發しないで、若干の一次的な、及び表面的な現象から割出して、戦争は久しからずして解決するであらうと豫想し、連勝思想は一時を風靡した。而して、蔣委員長は昨年雙十節の日に明らかに、『今次抗戦は一年や半年で片附くものではない。必ずや非常なる困苦と艱難とを経て始めて最後の勝利を獲得し得るものである。』と指摘してゐる。我々は非常に早くから、抗日戦争の長期性を指摘し、決して短時間に解決し得るものでない事を説いた。『戦争の結果は、日本が必ず敗れ、中国が必ず勝つ、併し大なる犠牲を要し、非常に苦しい時期を経過しなければならぬであらう。』(一九三六年七月十六日、毛澤東とスノウとの談話)この抗戦が艱苦なる持久戦である事を知らねばならない。(一九三七年八月十五日、目前の形勢と黨の任務に關する中共中央の決定)此等は凡て、抗日戦争が長期のものであり短期のものでなく、戰略方針が持久戦であり速決戦でない事を指摘してゐるが、抗戦十五箇月の經驗は、完全に其の正確なる事を證明してゐる。

其の理由は何處に在るのか？ 敵強我弱、敵は優勢であり、我は劣勢であり、敵は帝國主義國家であり、我は半植民地國家であることに在る。

我々は非常に早くから、日本帝國主義に戰勝する三個の必要條件を指摘してきた。第一は中國の進歩である。之は基本的であり、主要である。第二は日本の困難である。第三は國際的援助である。我々は、此等の條件が抗戦十五箇月中に於てどうであつたか、を見てみよう。一言にして之に答へれば、一既に基礎があるが、必要なる程度にはまだ極めて遠い。

第一條件(敵に戰勝する基本的にして主要なる條件)である中國の進歩に就いて言へば、十五箇月來、確かに一箇の基礎が出来た。併し、尙引續き進歩しなければ決定的に敵に打勝つ事は出来ない。所謂中國の進歩とは、國內の政治、軍事、黨務、民衆運動、文化教育等凡ゆる方面を包括するものである。斯かる方面の進歩は、十五箇月來、非常に顯著なものがある。併し單に此等既有のものだけでは、敵の進攻を停止させ、我が反攻を實行する事は不可能である。反攻には、必ず準備時期を要し、必ず全民族の努力に依り、我が民族の凡ゆる活力を廣大に且つ深刻に發動して、かくて反攻して敵に勝つ可能性が生ずる。従つて、連勝論は無根據なものであり、彼等は、敵強我弱といふ特點を忘れ、敵が優勢であり、我が劣勢であり、敵が帝國主義國家であり、我が半植民地國家である事を忘れたものである。中國は非常に大きな潛力量を持つてをり、其の發動により、敗北を轉じて勝利となし、弱を轉じて強となし、根本的に敵我の形勢を變化する事は充分可能である。

ある。併し、之は今後の努力に依るものであり、既成の事實ではない。

第二條件即ち日本の困難に就いて言つても、また同様である。十五箇月間に、敵は百萬の兵を動員し、數十萬の死傷を出し、數十億の費用を使い、軍隊の士氣は日々振はなくなり、財政經濟は日々枯渇し、國際輿論は紛々として非難し始めた。此等は皆、日本の野蠻なる侵略と中國の英勇なる抗戦に依る結果である。併し敵の斯かる既存困難は彼の進攻を停止させ、我が反攻に利するに不十分であり、尙ほ敵の更に大きな困難と我の更に大きな進歩とにより始めて反攻勝敵の機會を得ることが出来る。連勝論が敵情に對して根據を持たないものであることは、十五箇月の經驗が既に證明せることである。

第三條件、即ち國際援助に就いて言へば、現在はまだ最も有利な時期に到つてゐない。十五箇月來、我々は國際間に大きな輿論と聲援とをもつて居り、ソ聯とその他民主國家は國際聯盟の決議により既に我々に幾多の援助を與へ、我々が孤立的でないことを證明した。併し我々は必ず國際和平陣營の各國がそれ／＼異つた情況の下に在ることを知らねばならない。資本主義國家に於て、人民は我々を援助するが、政府は或る程度の中立態度を取つて居り、その資産階級は戦争を利用して商賈をしようとし、大量に軍需品軍需資材を日本に輸送して居る。社會主義國家は根本的に資本主義國家と異つて居り、援軍問題に就いて既に具體的な表現をしてゐる。併し國際形勢は尙ほまだ彼等が現在程度以上の援助をなすことを許さない。これが爲我々は國際援助に對して暫時大きな希望をもつてはいけない。自力更生の方針を放棄して主として外援に期待することは勿論全然錯誤である。十五箇月の經驗が證明する様に、主として自力更生により、同時に外援の爭取を怠せにしないことこそ正確な方向である。この點からも過去の經驗は連勝論を否定する。

要するに、中國方面、敵方面、國際方面のどの方面に於ても、十五箇月の經驗は明らかに連勝論の主張が毫も根據をもつものでないことを證明して居り、顯に戦争の長期性と殘酷性を暴露してゐる。故に我々の戰略方針は速決戦でなくして持久戦でなければならぬ。持久勝敵——これこそ抗日戦争の唯一の正確な方針である。過去に於てこの方針は信ぜられなかつたが、現在では事實が明白に教訓を與へてゐる。もはや疑ふべきではない。

これは十五箇月抗戦の第一の總結である。

(3) 最後の勝利は中國のものである。悲觀論者は些かも根據を持たない。

二、新段階論

抗戰以前に於ては武器だけが大きく論ぜられ、中國の武器は悪劣であるから、戦へば必ず敗亡し、中國は必ずアビシニアの二の舞を演じなければならぬであらうと考へられてゐた。抗戰以後、かゝる議論は表面的でなくなり、蔣でだけ行はれた。抗戰が一度緊張するたびに、斯かる議論は必ず盛んになつた。そして中國は停戦和議すべきであり、もはや戰爭に堪えない、もうこれ以上戦へば必ず敗亡すると考へられた。併し我々は異ふ。我々は中國の武器が誠に劣悪であることは認める。併し武器は人の努力によつて増強出来るものであり、戰爭の勝敗は主として人によつて決定せられるものであり、物によつて決定せられるものではない。持久抗戰の結果は、全民族の努力によつて、中國は必ず漸次自己の弱點を克服し、自己の力量を増加し、被動を主動に轉じ、劣勢を優勢に轉じ得べきであり、同時に敵方面の困難は必ず漸次増加し、國際方面の我々に對する援助は必ず漸次増大するであらう。斯かる因素を綜合するに、最後には必ず日本帝國主義に打勝つことが出来るであらう。蔣委員長は既に明らかに「戦端は既に開かれてゐる。全民族が生命を賭し、徹底的な犠牲を拂つて居り、今更中途で停戦し妥協するといふ理はない。」昨年七月の廬山談話「今次抗戰は國民革命の過程に於て必ず經過せねばならぬものであり、被侵略民族が侵略者に對する獨立生存爭取の戰爭であり、通常の交戦國の勢力が互に平均してゐるものとは大いにその趣きを異にしてゐる。故に武器や軍備によるものではなく、剛毅不屈の革命精神と堅強不拔の民族意識によるものである。」昨年十二月の告國民書と宣示して居り、共產黨も亦夙に「日本は中國抗戰の長期的消耗の下に於て、その經濟は將に崩潰せんとして居り、その士氣は萎靡沈滞したが、中國方面は抗戰の潜在力量が一日一日と奔騰高漲した。これらの因素とその他の因素とを配合するに、我々は信じてゐる。既に發動せられた抗戰は必ず將に全國人民の努力によつて凡ゆる障礙物を突破して引續き前進し發展するであらう。たと必要なら千百萬の群衆を組織して抗日民族統一戦線に進入することである。斯くて抗日戰爭は必ず勝利を贏ち得るであらう。」中共昨年八月の決定と指摘してゐるが、これらは皆十五個月の經驗によつて證明せられた。悲觀論や亡國論は敵が強くて抵抗不可能であり、中國は一戦にも堪えず、妥協のみが出路である等々といふ荒唐無稽なことを考へてゐるが、既に完全に錯誤であることが證明せられた。

理由は如何？敵強我弱は單に一面的な事實であるに過ぎず、敵も尚ほ弱點をもつて居り、中國もなほ長所をもつてゐる。敵の弱點は何であるか？第一は彼が比較的小さな國家であり、彼の兵力、財力が不足して居り、長期的な消耗に耐え得ないことである。彼

の兵力不足は、中國の頑強な抵抗に當面して分散と消耗とを生ぜざるを得ず、彼に全中國を占領するに由無くさせてゐる。即ちその占領地區に於て中國の廣泛な游擊戰爭により、實際は極かに大城市、大道路及び或る平原地帯を占領し得るに止まり、その他は相變らず中國のものである。第二は敵の戰爭の性質が帝國主義的であり退歩的であることである。彼は内部矛盾により侵略戰爭を起し、異常に野蠻な掠奪政策を採用しなければならなかつた。斯くの如く彼の戰爭は、一方に於て全中華民族と絶對的に對立する戰爭になり、中國の少數の漢奸を除き如何なる階層も如何なる黨派も皆團結して抗戰を堅持せざるを得なくなり、他方に於て彼の本國人民大衆と絶對的に對立する戰爭となり、日本帝國主義は人民財産を悉く動員して戰爭に應じた結果、既に彼の國內に在る人民も前線に在る兵士も次第に幾多の不滿を醸成し、戰爭が發展するにつれて、疑ひもなく彼の人民と兵士大衆を斷平たる方法を探つて戰爭自體に反對する趨勢に向はせるであらう。これらは皆十五箇月中に既に證明せられた。これは敵自身の方面に於て敵を必ず敗亡に歸せしめる最も主要な根拠である。第三は、敵の戰爭の性質が帝國主義的であることである。言ひ換へれば、人を傷け自己を利するものであり、彼自身を凡ゆる彼と利害の相反する國家と對立的地位に置かざるを得なくしてゐる。二三のファシズム國家以外の凡ゆる國家、特にこれら國家の人民大衆は皆日本の侵略戰爭に賛成しない。斯くの如く日本は日々その國際的活動範圍を縮小し、日々孤立的地位に陥入らざるを得なくなつた。これも亦十五箇月中に證明せられた。

斯くの如く日本の國力が比較的小さいことは、彼の兵力、財力の不足日本の戰爭の退歩性、日本の國際的地位の孤立化に影響した。これら三者は同時に結合して、日本の戰爭中に存在する先天的な弱點と困難になり、これら弱點と困難とは又日々發展しつゝある。これらに對して、亡國論者や悲觀主義者は皆であり、彼等は全然これを見ず、只だ極かに敵強我弱の一點のみを見てゐる。故に亡國論や悲觀主義は敵情方面に十分な根拠をもつてゐるものであり、十五箇月の經驗は既にこれを證明してゐる。

我々の長所は何であるか？ 第一は我々が大地、地大、物博、人多兵多であること。敵は我が主要大城市と交通線とを占領したけれども我々はなほ廣大な土地を有し、我々の長期抗戰をなし、最後の勝利を爭取する根據地となす。即ち敵の占領地區に於ても我々は亦幾多の游擊戰爭根據地を持つてゐる。かゝる特點はチエッコやベルギー等の小國と根本的に異つて居る。これは我々の第一の長所である。第二は我々の今日の抗日戰爭が中國の凡ゆる歴史時期の戰爭とも異つて居り、我々の戰爭が民族革命戰爭であり、進歩的戰爭であること。戰爭自身の

二、新段階論

性質が進歩的であるばかりでなく、この戦争が中國未曾有の進歩基礎の上を進行するものである。二十世紀四十年代の中國は凡ゆる歴史時期に於ける中國とも異つて居り、我々は如何なる歴史時期とも異なる進歩的人民と進歩的政策と進歩的軍隊とをもつて居る。この基礎の上に進行する抗日革命戦争は、それ自體の中に發展進歩を繼續することの出来る偉大な力量を含んで居る。この點が我々の方面に於て我々に長期戦争を支持させ、最後の勝利を爭取せしめる主要根據である。十五個月の經驗が證明する如く、原有の進歩基礎の上に進行する偉大にして神聖な民族革命戦争は既に全國的進歩を推動し、古い民族の腐敗せる傳統を破壊し、新しい民族進歩力量を生長せしめて居り、全民族の統一團結進歩發展の偉大な過程は將に完成せられんとして居る。抗戰以前の中國は抗戰以後の中國と異なる。これは眼のあるものなら誰でも皆見ることが出来る。而して抗戰第一段階（この段階は現在まだ完結してゐない）に在る中國は又抗戰のその後の段階に在る中國と異つて居り、豫測することが出来るものである。尙ほ、第三は我々の抗日戦争は孤立的なものではないことである。資本主義國家は現在尙ほその幾多の矛盾せる政策を保存して居り、國際情勢は暫時各國の援助程度に影響を及ぼして居るが、併し中國の抗日戦争と世界反侵略反ファシスト闘争とは不可分に結合して居る。日本の侵略戦争に反對するものは中國人だけでなく、歐洲人も阿弗利加人も米國人も漢洲人もその他の亞細亞人も反對して居る。十五個月來世界各國の同情と援助とは我々に斯かる確信を與へた。主として自力更生に依存して居る中國は、同時世界の援助を配合して居る。故に今日の世界は既に從前の世界ではなく、世界先進人類は既に休戚相關の一體になつて居り、敵は我々を孤立に陥れんとする企圖を有して居るが、無敵骨折ではない。

斯くの如く、我々は非常に大きな國家であり、我々の戦争は進歩的戦争であり、我々は又國際的援助を有して居り、これら三者は同時に結合せられて居る。これ等は皆我々に有利な條件であり、既に存在して居るばかりでなく、日々發展して居る。故に亡國論者と悲觀主義者とは同様に盲である。彼等はこれを少しも見ず、只我々が弱國であり、劣勢であり、半植民地であるといふ點ばかりを見て居り、くどくどと『抗戰必亡』、『再戰必亡』などと出鱈目を言つて居り、その中の多くの不良分子はかかる出鱈目によつて密かにその投降妥協の陰謀を進めて居る。我々はこれに反對であり、我々は、十五個月の經驗から既に證明せられたものに基づき、全黨全國に向つて明確に我が國家と我が戦争の長所と短所、有利な條件と不利な條件とを指摘し、長所と有利な條件は全戦争中に於て優勢を占めて居ることを指摘し、全國に努力奮闘を號令し、自己の長所を發揮し、自己の有利な條件を增強し、自己の短所と不利な條件を克服し、最後の勝利を爭取する爲に闘争せねば

ならない。最後の勝利は誰のものであるか？ 我々は確定的に答へる：中國のものである。この基礎の上に決定する我々の政策は、斷平抗戰であるかそれとも動搖妥協であるか？ 我々は確定的に答へる：決して如何なる動搖妥協をもしてはならない、只斷平抗戰することのみ出路がある。東四省の論じ、オーストリアの滅亡、チエツコの分割は皆抗戰の爲でないことは誰にでもわかる。軍隊の消耗、土地の喪失を抗戰の罪に歸することは、完全に間違ひである。現在でも矢張り同じことであり、中國の幾多の優良な條件の下に於て抗戰は必然である。妥協の道を歩むとき滅亡は不可避的である。故に斷平として妥協論に反對し、悲觀主義に反對し、全人民の徹底的奮闘を喚起することこそ唯一無二の方針である。

總じて言へば、敢強我弱といふこの矛盾した對立は、戦争の長期性を決定し、持久戰的戰略方針を決定した。我々は持久戰論者であり、速勝論者ではない。敵小、我大、敵の戦争は退歩的であり、我々の戦争は進歩的である、敵の國際地位は比較的孤立して居り、我々は比較的に外援を得ることが出来る、これ等の矛盾の對立は、又戦争の最後勝利が我々に屬することを證明するものであり、敵に屬するものではない。これは十五個月の抗戰經驗の第二の總結である。

- (4) 長期戦争を支持し、最後勝利を爭取する唯一の道は、全民族を統一團結して進歩を計り民衆に依據することである。

抗日戦争は長期的であり、最後の勝利は中國のものであるといふ、この二個の基本問題は既に十五個月の抗戰經驗により證明せられた。併し長期戦争を支持し最後の勝利を爭取する具體的方案は如何？ 過去に於て國人の意見は不一致であり、多くの人はもと通りにやつて行けばよいと考へ、彼等は全國的團結に注意せず、軍事・政治・文化・民運等各方面の改進に注意せず、甚しきに至つてはなほ障礙を加置し、進歩を阻礙せんとして居る。我々は從來から斯かる意見に賛成せず、全民族を統一團結し、進歩を計り、民衆に依據して始めて長期戦争を支持し、最後の勝利を爭取することが出来る、然らざれば不可能であると考へる。中國國民黨はその抗戰建國綱領中に於て明かに『抗戰必勝建國必成を願ふならば、本來本黨同志の努力により、全國人民協力同心共同負擔すべきである。』と指摘し、中國共産黨も亦夙に『抗戰時期の最も中心的な任務は凡ゆる力量を動員して、抗戰勝利を爭取することである。而して抗戰勝利を爭取する中心的な關鍵は、既に開始せられた抗戰を發展して全面的全民族的抗戰にすることであり、只斯かる全面的全民族的抗戰のみが抗戰を最後の勝利に導き得るのである。』

(中共昨年八月の決定)と指摘してゐるが、これらは完全に正確であり、十五個月の経験は既にこれを證明した。
 抗戰以來、國內の各々相互に對立した階級・黨派・集團は皆團結して來た。各異る區域、異なる軍隊は皆國民政府と軍事委員會の指揮下に統一せられた。十五個月に亙る抗戰の堅持はこの統一團結なくしては不可能なものである。又抗戰によつて始めて各方面を統一團結することが出來たのである。斯かる統一團結は即ち抗日民族統一戰線である。併し十五個月の経験が我々に證明してくれることは、敵の破壞陰謀が嚴重であり、内部團結の鞏固さが不足してゐることである。抗戰は何故非常に多くの挫折に遭ひ、何故今日に至るも敵の進攻を停止し、我々の反攻を實行することが出來ないか、それは客觀的原因の外に統一戰線力量の不足、即ち統一戰線がまだ必要な程度に擴大し鞏固にされてゐないことがその主要原因である。

これによつても解る様に、たゞ更に全民族を統一團結し、抗日民族統一戰線を鞏固擴大することによつてのみ始めて長期戰爭を支持し、最後勝利を爭取することが出來るのである。これは第一であり、第二は十五個月の抗戰は全民族の團結を推動したばかりでなく、同時に又かかる團結の不足を暴露した。而して軍事・政治・文化・黨務・民運各方面の進歩を推動すると同時に、又かかる進歩の不足を暴露した。長期戰爭を支持し、最後勝利を爭取する爲には必ず全民族各階層の凡ゆる生動する力量を發動し、べきであり、この目的を達成せんには、軍事・政治・文化・黨務・民運等各方面に於て進歩を計らねばならない。各方面に於ける更に大きな進歩がなければ、全民族の凡ゆる生動する力量を發動することは出來ず、更に進んでは全民族を統一團結することも出來ない。第三は十五個月の抗戰により民衆の援助する抗戰力量が偉大であることが證明せられた。同時に民衆力量がまだ發動され始めたばかりであり、抗戰が民衆の廣大な援助を得ることが出來なかつたので多くの挫折に遭つたことを證明せられた。これにより得た教訓は、國人は必ず一步を進めて抗戰が民衆に依據するものであるといふことが出來るが民衆を離れては一事も成功することは出來ない。中國の今後の進歩は、必ず民衆力量發動の方面に充分現れるべきである。要するに、長期戰爭の支持と最後勝利の唯一の正確な道路は、全民族の統一團結を鞏固にし擴大し、進歩を計り、以て全民族の生動する力量を發動し、民衆に依據して困難を克服することにある。これこそ我々の第三の總結である。
 同志諸君、抗戰堅持、持久戰堅持、團結と進歩を計る——これこそ十五個月抗戰の基本的な教訓であり、今後の抗戰の總方針である。我

我は敢て戰勝することが出來る。併し我々は全國民的にこの總方針を堅持し且つ長期的廣大な努力をなさなければならぬ。抗日戰爭は正に新段階に向つて發展してゐる。新段階には幾多の新しい任務があるが、この總方針だけは不變である。十五個月の経験は我々に新しい形勢を認識させ新しい任務の基礎を提出した。

三 抗日民族戰爭と抗日民族統一戰線發展の新段階

(1) 戰爭と統一戰線の規律性の研究は政策決定の基礎である

同志諸君、我々が過去の経験を總結した後に於て重要な問題は當面せる形勢の發展傾向を知る事である。抗日戰爭と抗日民族統一戰線は過去の基礎から將來如何に變化發展するか？之は我々が現在解決しなければならない問題であり、この一點は我々が當面せる問題を解決する上に於て重要な意義を有つてゐる。故に若し抗日戰爭の變化發展の全行程に對する大體の見積りがなければ、我々は戰爭に引摺り廻されるだけであり、戰爭に依つて自己を束縛せられ、それを自己の制壓下に置いて調節整理し、戰爭の必要條件を造り出して、戰爭を我々の欲する方向に誘導し、戰爭勝利を爭取することは出來ない。故に抗日戰爭の規律性を理解することにより始めてその戰略指導を實現することが出來、戰爭進行上の凡ゆる戰略・戰術・政策・計畫及び方案を決定することが出來るのである。抗日民族統一戰線も亦同様であり、我々がその規律性を研究し認識しさえすれば、有效に統一戰線を推進し、鞏固な發展の軌道に乗せ、戰爭勝利の爲の支柱的作用をなさしめることが出來る。

我々は先づ戰爭問題を取上げよう。
 (2) 特定の歴史條件と主觀能力の優劣とは戰爭の發展過程を決定する

歴史上、戰爭には一階段だけで終結するものがある。例へば一九〇五年の日露戰役は日軍の進攻と露軍の敗退のみで結末が着いた。又伊テ戰爭は伊大勝利の進攻とアビシニアの失敗のみで落着いた。中國が一九二六年に北洋軍閥に反對して起した戰爭も亦同様であつた。併しこれ等は戰爭の一形態であるに過ぎない。これは一方に於て雙方の強弱が不同であり、他方に於て雙方の指導力の優劣が明瞭であつた爲

二、新段階論

である。これを第一類戦争とする。第二類戦争は二個の段階を経て終結する。例へば露佛戦争に於てナポレオンは進取した後退却し、露西
 亞は退却した後反攻し、雙方は二個の段階を有つた。中國古代に於ける有名な吳越赤壁の役、秦晉混水の役も亦然りである。兩軍の強弱は
 不問であつたけれども、弱者が他の優良條件を善く利用し、正確に指導した爲に、退却後すぐ反攻して敵を辱ることが出来たのであ
 る。併し尙第三類の戦争がある。例へば外國の七年戦争、八年戦争、三十年戦争、百年戦争乃至は二十年前四年間繼續した歐洲大戦、特に西部
 戰線を指す。は皆三個の段階を有つた。即ち甲が進攻し、乙が退却するのが第一階段であり、雙方が長期相持して決しないのが第二階
 段であり、乙が反攻し、甲が退却するのが第三階段である。中國は歴史上少からず斯かる戦争を有つた。斯かる戦争の特長は比較的長期の、
 或は非常に長期の對峙段階を有するところに在る。これも亦特定の歴史的條件と戦争指導集團の特殊性とによるものである。

日支事變ほどの類型に屬する戦争であらうか？私は第三類戦争に屬するものであると思ふ。これは雙方の異なる歴史條件と、異なる戦争指導
 集團の特殊情況によるものである。

(3) 日支事變の長期性は戦争の三段階を表現するものである

日支事變の長期性は、敵方の進攻、對峙、退却、及び我方の防禦、對峙、反攻の三段階を表現するものである。敵方が強く我方が弱く(敵
 方は優勢であり、我方は劣勢である。敵は帝國主義國家であり、我は半植民地國家である)、敵方の進攻と我方の防禦との第一階段を出現
 した。退却と言はず防禦と言ふのは、戰略的運動が防禦即ち抵抗態勢をとつた退却であり、一時に崩潰して退却するものでないからであ
 る。且又敵は小國であり、退歩的であり、援助が少く、我は大國であり、進歩的であり、援助が多いといふ特殊條件が有り、我方の勇敢な抗
 戰は敵方に進攻中に於て分散の困難と消耗の損失を受けさせ、一定時期にはその戰略上の進攻を止め、軍事上その占領地の保守に轉
 じ、政治的經濟的に我方の進攻段階に入る。併しこの時期に於て敵は消耗したと言へ、消耗は未だ失敗程度に達せず、我方も抗戰を堅持
 し、各方面に於て進歩したが、反攻に轉じて敵を國外に驅逐する程度には未だ進歩してゐない。以上の諸原因により、雙方對峙の第二段階
 は形成せられる。第二段階に於て敵の困難と我の進歩とは日々増加し、又國際關係も我に有利にして敵に不利な形勢に在る爲、敵強我弱、
 敵優我劣の元來の状態は逐次變化し始め、全局面は日々敵方の不利と我方の有利に展開して來て、先づ敵の平衡から我優敵劣に到る。
 この時我方の反攻と敵方の退却といふ第三段階に轉ずるのである。

上述の如く三個の段階に分つて見ることは、敵我既存のものゝ將來發生の可能性あるものとの二つの相反する具體的條件によつて作り出
 された一種の戦争の全過程に對する観測であり、現在決して事實であるといふのではなく、一種の可能な趨勢である。我々は主觀努力に依
 つて、この可能趨勢から必要條件を創造して始めて趨勢を事實に變へることが出来る。而して既存條件に依據して、正確な指導と全民族の
 偉大な努力とを附加するならば、斯かる可能趨勢を變じて事實にすることは可能になつて來る。

(4) 連勝論者と亡國論者とは皆斯かる観測に反對する

連勝論者はこの三段階論に反對し、我方の迅速なる反攻の可能を認め、中間段階を必要としないが、これは間違つてゐる。抗日戦争の現
 段階には幾多の困難が存在して居り、かゝる困難を克服する爲には一定の時日を要し、迅速な反攻は不可能である。連勝論者がこの三段階
 論に反對する論據は、一方に於て敵勢力を過小評價すると同時に、他方に於て自己の力量を過大評價するところに在る。亡國論者も亦三段
 階に反對するが、それは對峙と反攻とが共に不可能であり、中國はアビシニアの如きに過ぎないと考へるからである。これも間違ひである。
 彼等は連勝論者とは反對に敵勢力を過大評價し、自己の力量を過小評價するものである。彼等の眼前には唯暗黒があるだけであり、敵は全
 中國を滅亡させることが出来、我が抵抗と努力とは徒勞にしか過ぎず、敵の對峙も亦不可能であると考へ、反攻勝敵などは言ひもしな
 い。故に一方に於て連勝論に反對すると共に、他方に於て亡國論に反對しなければならぬ。斯くて我々は三段階論を堅持することが出来
 る。自前の情況下に於て、亡國論に反對することは連勝論に反對することよりも重要である。その他に尙ほ口先で持久戦には賛成するが、
 三段階論に賛成しないものがある。これも亦間違ひである。所謂持久戦、所謂長期戦争が戦争の三段階中以外の何處に表現せられてゐるか？
 若し持久戦又は長期戦争を認めて三段階に賛成しないならば、所謂持久戦、所謂長期戦争が戦争の三段階中以外の何處に表現せられてゐるか？
 いものとなる。故に如何なる實際的戰略指導も如何なる實際的抗戰政策も實現する事は出来ない。實際上、斯かる意見は連勝論の範疇に入
 り、『持久戦』の外衣を着てゐるに過ぎないであらう。

(5) 三段階論と國際形勢との關係

張鼓峰事件發生當時、國內の一部輿論は盛んに興り、日ソ戦争が勃發したならば、中國は反攻に轉ずることが出来、持久戦は不要であると
 考へた。斯かる觀點の下に於ては、三段階論は勿論成立出來ず、我々の觀測は間違ひであるといふことになる。これは主として外援思想に

依るものであり、連勝思想の一種である。併し乍ら國際形勢は彼等が主觀的に希望する様には發展せず、それ自體の規律に従ふものである。世界の主要重心は歐洲に在り、東方はそれを圍繞する重要部分である。世界の主要和平陣營國家と主要フラスコム國家は正に歐洲戰爭の危機、西方の紛糾を問題にして居り、勿論各大國間の戰爭前夜又は戰爭勃發である。西方の各大小國家は皆歐洲問題解決を議程の第一位に置いて居り、東方問題は暫時第二位に置かざるを得ない。斯かる情況の下に於て日支事態を見るとき、即時反抗の二段階論も亦無意味なものである。我々は必ず自力更生を主とし、三段階を完成しなければならぬ。三段階は日支事態の規律であり、單に敵の力量の比較に基くばかりでなく、國際形勢上に於てもその根據を有つてゐる。

(6) 對特段階は戰爭の重要な關鍵である

三段階の主要特點は、過渡的中間段階を包含してゐることに在る。これは即ち、第一、我が抗戰は必ず凡ゆる努力を拂つて敵の進攻を停止せしめねばならない。若し敵の進攻を一定時間一定地區に止めることが出来ないならば、所謂性質の異つた三段階は存在しない。第二、對特段階が出現したとき、必ず凡ゆる努力を拂つて我が反攻に必要な凡ゆる條件を準備しなければならぬ。若し然らざれば、反攻段階に到達することは出来ず、所謂三段階は無くなる。こゝに於て連勝論者に對して、我々は肯定的に言ふ：必ず準備時期を經過すべきであり、斯くて全國を團結せしめ、困難を克服し、新しい力量を生長せしめ、同時に敵の困難と國際的援助とを配合し、然る後反攻を實行して敵を國外に驅逐する。然らざれば不可能である。重要なことは、自力により敵を破砕する觀點に立ち問題を解決せんとするとき、この結論は不可避的である。亡國論者や悲觀論者に對して、我々は肯定的に言ふ：この過渡的段階こそ全戰爭の重要な鍵である。中國を植民地化するが解放を獲得するかは、第一段階に於ける主要大城市と交通線の喪失により決定されるのではなく、第二段階に於ける全民族の努力程度により決定せられるものである。大城市と交通線の喪失は惜むべきであり、敵の力量を増加し、自己の力量を減少した。併し多くの喪失にもかかわらず、敵を破砕する資本になる。實物の喪失を憂くのは無益である。第一段階中に於て保存した領土及び各種力量、特に既に獲得した軍事・政治・文化・黨務・民運等各方面の進歩は最も貴重なものであり、これは第二段階中に於ても引續き進歩し、反攻の基礎を準備するものである。併しながらそれは反攻を決定することは出来ない。反攻を決定するものは第二段階中に於て増加した力量であり、偉大なる新生力量の増加がないならば、反攻は空念佛に終るであらう。

(7) 三段階の特點 第一段階

抗日戰爭の三段階の特點は既に明らかになつたが、尙ほ未だ明らかでないが豫測出来且つ概略の説明を必要とするものがあり、戰爭の指導と政策の決定とに重要な關係がある。

第一段階には如何なる特點又は重要標識があるか？

以下三方面のものがある。

第一、中國方面：民族統一戰線の形成、全國軍隊の參戰、抗戰の堅決性、國民黨抗戰建國綱領の發布、國民參政會の開催、共產黨及びその他黨派の合法的地位の獲得、游擊戰爭の創設、全國軍隊の進歩、民衆運動の發展等等。これらは皆中國方面に現れた進歩的大事件である。併し同時に、却つて又幾多の不利な事件と不良現象ともある。例へば：主要大城市交通線及び主要商工業の喪失、土地と人口との喪失、全國進歩の不均等（或地方の進歩は非常に遅れてゐる）、政治制度は一般にまだ民主化を開始したばかりである、頑固分子と腐敗現象との存在、妥協傾向の醜態等々。

第二、敵方面：軍力財力の消耗、世界輿論の非難、軍紀の紊亂、軍隊戰鬥力の相對的減退、國內人心及び前線將士の不滿の醜態、張鼓峰戰爭の失敗、漢奸軍隊の組織困難と既成組織の無能力等々。これらは皆その困難を表現する大事件である。併し同時にその能力を表現するものもあるのである。即ち進攻的堅決性、軍力の頑強、占領地の擴大、政治組織力の強靱、陰謀機關の有力等々。

第三、國際方面：援華運動の増長、ソ聯力量の壯大及びその對中國援助。これらは皆中國に有利なものである。併し尙ほ別のものがある。歐洲大戦の醜態、日英間の或程度の妥協傾向、各國軍需資材の援助。これらは皆中國に不利である。以上中國、日本、國際の幾多のものは皆抗戰第一段階の十五個月間に現れた特點であり、之等の特點は夫々新しい段階中に影響してゐる。

(8) 第二段階

武漢陥落の假定情況の下に於て、戰爭形勢は又幾多の新しいものを出現する。敵の武漢占領は對段階の完結即ち新段階の開始ではなく、現在も敵は尙ほ引續き進攻して居り、彼が進攻を停止せしめられる時までには矢張り舊段階から新段階に轉向する過渡的期間である。併し乍

二、新段階論

ら武漢陥落が既成の事實となつた後に於て、幾多の新しい情況が発生せんとする。即ち一方に於て困難が増大すると共に、他方に於ては進歩がある。これこそ新段階の基本特點である。

困難の増大は以下の各方面に現れる：(一)主要大城市と交通線の喪失により、國家政權と作戦陣地とは地域的に敵に分割せられ、これが幾多の新聞問題が発生する。(二)財政經濟の異常な困難。(三)日英關係の或程度の妥協傾向(反面、日本の獨占堅持と南洋脅威の條件下に於て、日英は衝突の可能性を深める)。(四)若し敵が廣州を攻めるならば、中國の主要海上交通は切斷せられる虞れがあり、國際援助は暫時部分的に減少する。(五)全國的に偽政權が形成せられる可能性、及びその抗日戰線に及ぼす影響。(六)抗日戰線中に於ける部分的叛亂の可能性と妥協氣分の増大。(七)悲觀情緒の生長、意見の紛糾現象の増加等々。これ等は皆發生可能にして將來抗日戰爭に加はる新しい困難である。この困難を豫測して始めて準備をもち計畫的に之を克服することが出来るのである。

次に進歩は以下各方面に現れる：(一)蘇委員長と國民黨の抗戰堅持方針とその政治上に於ける進歩。(二)國共關係の改善、抗日民族統一戰線の鞏固と擴大。(三)軍隊改造工作の進歩。(四)游擊戰爭の廣大な發展。(五)國家民主化の進歩。(六)民衆運動の擴大發展。(七)新しい戰時財政經濟政策の實施。(八)抗戰文化教育の提高。(九)ソ聯の援助繼續とその増加の可能性、及び中ソ關係の親密化等々。

第二段階は即ち對時段階であり、中國の反抗準備段階である。その時間の長短は、敵我力量の變化程度と國際環境如何によつて定まる。併し我々は長期戰爭を準備して、この困難な路程を克服し、勝利の大道に出なければならぬ。

(9) 第三段階

具體的な情況を豫測することは出来ないが、この時我が反攻條件は既に準備を完了し、同時に敵の困難程度は大いに増加され、國際形勢も亦大いに我に有利でなければならぬ。この時期の戰爭形勢は、戰時的防禦でもなく、戰時的對峙でもなく、戰時的反攻である。戰時的

内線でなくして、戰略的外線である。この時期に於ける國內政治は必ず大いに進歩し、軍事も新式技術を有たねばならない。然らざれば、反抗は不可能である。

(10) 武漢の保衛は時間爭取の問題であり、死守問題ではない。武漢保衛の闘争目的は、一方に於て敵を消耗すると共に、他方に於て時間を爭取して我が全國工作の進歩に在り、據點の死守ではない。戰況が確實に我に不利であり、放棄した方が有利である時は、地方を放棄して軍力を保存することを原則とすべきである。故に必ず大いに不利な決戦は避けなければならない。戰略的決戦は一二の兩段階に於ては決してやつてはいけない。それは抗戰の堅持と反抗の準備とを妨礙するに十分である。故に必ず避けなければならない。戰略的決戦を避けて有利なる條件下に於ける戰役と戰術的決戦を力爭するには、持久戰の方針を探るべきである。必要時期と一定條件との下に於て守らなくてもよい城市を放棄することは、止むを得ないばかりでなく、敵を誘つて深入させ、敵の積極的政策を分散消耗疲弊せしめるものである。抗戰を堅持して妥協投降しない大前提の下に於て、必要時期に或據點を放棄することは、持久戰の方針下に於て許さるべきであり、決して驚く必要はない。

(11) 目前の過渡段階より對時段階に到る。敵の進攻を停止して始めて我に有利に反攻を準備することが出来る。而して若しこの目的を達成せんとするならば、大いに努力しなければならぬ。故に目前の過渡段階から敵を壓迫してその戰略的進攻を停止せしめ、更にその占領地の保守に轉入させ、敵の對時段階を出現させることは、一つの闘争過程であり、幾多の困難を克服して後始めて達成出来るものである。故に敵の武漢占領後に於て直ちにその進攻を停止せしめないならば、彼は必ず西安・宜昌・長沙・衡州・梧州・北海・南昌・汕頭・福州等の地、及びその附近の地區に向つて進攻するであらう。我々が敵の進攻を停止せしめようとするならば、敵の引續き執行せんと企圖する戰術的運動防禦戰に對して、最大の努力を拂つて戰闘を進行し堅持し、更に大量に敵を消耗し、敵の豫定を狂はせ、敵に進攻を停止せざるを得なくさせて、戰局を敵我對峙の有利な局面に展開すべきである。

(12) 對峙局面は將に到來せんとする。

敵の武漢占領以後、彼の兵力不足と兵力分散の弱點は將に露呈せんとする。若し彼が更に西安・宜昌・長沙・南昌・梧州・福州等の地を

二、新段階論

進攻し、之等を上領せんと企圖するならば、彼の兵力不足と兵力分散の弱點は彼に極めて大きな困難を齎し、必ず彼の進攻力の最高段階に到達するであらう。これは我が正面主力軍の頑抗と、我が敵後の廣大な領土内に於ける游撃戦争の威力であり、敵に兵力不足（彼は補充用來ない）と兵力分散（彼は分散せざるを得ない）といふ極めて大きい困難を與へる。この形勢——敵の兵力不足と兵力分散、我が正面防禦と敵後脅威——は敵にとつて最大の劣勢であり、我にとつて最大の優勢である。勿論敵の全力量を比較するとき、敵強我國敵優我劣の基本形勢には變化がない。これは長期對峙段階内に於て我が全民族が最大の努力を拂ひ、國外條件が追加されて始めて變化し得るものである。併し敵の武漢戦争中に於けるその強い力量は更に一段強く發揮せられる。斯かる強い力量が更に強く發揮せられることは、一方に於て固より我々に損失を與へるものであるが、同時に彼自身にも困難を與へるものである。故に敵の強い力量（同時にその力量の不足と分散が更に強力に發揮せられた後には、氣力が減退して、全體的に戰略的進攻がその頂點に接近せざるを得ない。我々は敵の進攻にまだ餘力のあることを認め、且つ最も好い、最も適當な事は彼のかゝる餘力がまだ相當大であるといふ觀測をなすことである。故に彼が西安・宜昌・長沙・南昌・梧州・福州等の地及びその附近を攻略せんとし、甚しきに至つては、彼が粵漢全線及び西開公路の進攻をなさんとしてゐることは十分可於て英佛に對し、國內的に人民を鎮壓しなければならず、その力量が如何に多くても、中國方面に使用出来るものは餘り多くはない。且つその正面と占領地内に於ては廣泛な戦争を行はねばならず、日ソ・日米・日英・日佛間の矛盾は増大して居り、國內政府と人民との矛盾、前線將校と兵士との矛盾、大量支出と財政枯竭の矛盾は深刻化してゐる。これ等は皆敵の頭痛の種である。我々及び全國人民は必ずかゝる現象を注視して、主要城市と交通線の喪失に驚かず、政府を援助して全國の作戦を調整し、計畫的に粵漢路、隨海路、西開公路及びその他鐵路地區に於ける作戦に従ひ、廣大な敵後地區に於ける游撃戦争に従ひ、敵の兵力不足と兵力分散の弱點につけ込み、更に多く消耗させ、更に大きく分散させて、戰爭勝利を敵我對峙の新段階に轉入させることこそ全國當面の緊急任務である。

(四) 敵の力量は逐次減少し、我が力量は漸次増加中である。

敵の力量は増加するか？ その原有力量に就いて言へば、何等増加してゐない。反對に、その力量は大いに減少してゐる。敵の原有軍事力と經濟力は大いに消耗した。十五個月の戦争中に於て、彼の軍事力は數十萬人の死傷と大量の武器、彈藥と軍用資材とを消耗し、數百機

の飛行機と百餘隻の軍艦を失ひ、數十億元の經費を支出した。この消耗は日本歴史上空前のものである。彼はその戰略的進攻を停止せしめられるならば、その力量の大消耗を止めるであらう。この點彼の盟友であるヒットラーが大いに心配してゐるところである。併し敵は毫も力量を増加しなかつたか？ 増加した。それは中國主要大城市と交通線及び一部鄉村の占領であり、各國及び中國民族資本の手中から市場を奪ひ、中國から資源と生産手段を奪ひ、幾多の人力を奪つた。これ等は日本の唯一の戰爭目的であり、彼は暫時これらのものを増加した。併し問題は、これらのものは戦争の消耗を償ふことが出来るかといふことであり、それに對しては不可能であると答へねばならない。戦争に『投資』せられたものは凡て消耗せられてしまつた。彼が償還を求めんとすれば新しい生産投資をなさなければならぬ。問題はまた有る：日本の生産投資は不能である、假令可能であるとしても、それは戦争による消耗を償ふことは可能であるか？ それも不可能である。故に以後も依然として廣大な戦争を続けるならば、依然として毎日消耗しなければならぬ。若し廣大な敵後に於ける游撃戦争を続けるならば、例へば華北の游撃戦争の如く、彼の償還は非常に困難である。不斷の戦争により、彼は古い支出を償還出来なればかりでなく、新しい支出をなさなければならぬ。若し我々が抗戰を堅持して行くならば、日本のこの憚むべき運命は大體確定的である。我々は日本が第一戰略段階即ち對峙段階中に於て漸次弱体化し、劣化すると言ふが、斯かる消耗の繼續は決定的である。今中國方面を振り返つてみるに、中國の力量は結局減少したであらうか？ それとも増加したであらうか？ 我々の回答は減少したが又増加したと言はねばならない。減少したのは原有力量の質と量であり、これは軍隊の兵員及び武器の消耗、人口、工業、土地及び資源等の損失の中に現れる。これは我々に困難を感じさせる重要な一面である。併し増加した方面も無いわけではない。増加したのは、新しい質と量であり、これは全國的團結、軍隊の進歩、政治的進歩、文化的進歩、人民の覺悟程度と組織程度の上上に現れてゐる。主力軍は後退したけれども、游撃戦争は却て前進した。一部分の土地は損失したけれども、他の一部分の地方は反つて進歩した。問題は、増加程度がまだ十分でなく、今日はまだ敵の進攻を阻止するに十分でない、今後は更に我が反攻を實行するに足らない、故に廣大な持久的努力を以て新しい力量の増加をはからねばならぬといふ問題が発生する。而してかゝる増加は即ち全民族各階層に生動する力量の更に大きい發動と黨政軍民各方面の更に大きい進歩であり、それは今後の廣大な持久的努力に基き完全に可能になるのである。主要なことは自己の生長する力量に依り、敵の困難の加重と國際援助の増強とを配合して、敵我形勢に變化を發生せしめ、敵優我劣の現在形勢から先づ敵我の平衡に到り、更に我優敵劣に到る。これこそ長期對峙段階

階中に於て必ず解決すべき又解決可能な根本問題である。

(4) 敵は城市に據り、我は鄉村に據る、故に戦争は長期的である。併し鄉村は最後に城市に勝つ

茲に於て問題は、敵は中國の主要大城市と交通線を占領した後、敵は城市に據つて我に對し、我は鄉村に據り敵に對する。鄉村は城市に勝ち得るか？ 答は、困難が伴ふが可能である。抗日戦争の長期性は、敵が帝國主義國家であり、我が半植民地國家であることによるばかりでなく、この帝國主義が又我が城市を占據し、我が鄉村に退いて抗敵するが爲に、長期的になつたのである。連勝論はこの點に於ても根據を有さない。而して今日の中國に於ける城市鄉村問題と資本主義の外國に於ける城市鄉村問題とは性質が異つてゐる。資本主義國家に於ける城市は實質的に形式的に鄉村を統制して居り、城市といふ頭を切れば、鄉村といふ四肢は生存出来なくなる。英・米・佛・獨・日・伊等の國に於ては、長期的な反城市の鄉村農民戦争を支持することが出来るとは思ひもよらない。半植民地的小國に於ても亦不可能である。半植民地的大國である中國に於ても、數十年前までは非常に困難であつた。半植民地的大國である中國は今日に至り始めて斯かる可能性を産み出すことが出来た。此處に明らかなきことは三位一體の條件である。第一は半植民地條件である。半植民地に於て、城市は領導的性質を帯びてゐるが、完全に鄉村を統制することは出来ない。故に城市は小さ過ぎ、鄉村は大き過ぎ、廣大な人力物力は鄉村に在つて城市に無い。第二は大國の條件である。一部分を失つてもまだ一部分がある。敵は寡兵を以て大國に臨み、その上更に我が堅強な抵抗に遭ひ、敵は兵力不足と兵力分散とに苦しまなければならず、斯くて我は確固たる抗日根據地即ち大後方、例へば雲南・貴州・四川等の地を有つて居り、敵は占領が不可能である。且つ敵後に於ても我は廣大な遊撃活動の地盤をもつてゐる。例へば雲北・華中・華南等の地に於て、敵に完全な占領を許さない。第三は今日の條件である。若し數十年前に中國が一個の強大な帝國主義國家の武装侵略を受けたならば、英國によつて印度が占領せられた様に、亡國となることは免れ難い。併し今日は運ぶ、今日重要なことは中國が進歩したことである。新しい政黨と軍隊と人民とを有つてゐることであり、これは敵に勝つ基本力量である。次に敵の退歩がある。日本帝國主義の社會經濟的發展過程は既に老衰の境地に到達した。日本資本主義の發展は自己の墓穴を掘るものである。更に國際形勢の變化がある。古い世界は死滅に接近して、新しい世界の曙光が現れて来た。この道理は、私の『論持久戦』中に詳細に説いてある。要するに、今日の半植民地大國中國には幾多の優良な條件があり、我々が堅持する長期的廣大な戦争を組織するに優利であり、城市を占領せる敵に對抗するに、大牙錯綜せる戦争を行ひ、城市を包圍し、城

市を孤立させ、長期戦争から漸次自己の力量を生長せしめ、敵の形勢を變化せしめ、更に世界の變動を之に配合することにより、敵を驅逐して城市を恢復することが出来る。勿論鄉村の城市に對する反對は今日の中國に於ても困難である。それは城市が集中的であり、鄉村が分散的であるからである。敵が我が主要大城市と交通線とを占領した後には、我が行政區域と作戦陣地とは地域的に分割せられて居り、我々に非常に多くの困難を與へる。これは抗日戦争の長期性と殘酷性とを規定するものである。併し我々は、鄉村は城市に勝つことが出来るのは上述の三位一體の條件によるものであると言はねばならない。内戦といふ條件の下に於て、極小部分の鄉村は長期的に城市に反對する戦争を支持した。これは帝國主義諸國が一致して反共した時期に於てである。民族戦争の條件の下帝國主義陣營分裂の時に於て、中國の極大部分の鄉村が長期戦争を支持し、城市の敵に反對出来ないと云ふ事が出来ようか？ 勿論出来る。且つ現在の所謂鄉村は内戦時期の鄉村と非常に異つてゐる。それは地域的に廣大であるばかりでなく、雲南・貴州・四川等の省に在る大後方には、尙ほ幾多の城市と幾多の工業があり、外國と聯絡することが出来、建設することが出来る。大後方の保持と敵後遊撃戦となる根據地の建立は、長時期に亘り我が力量を生長させ、敵の力量を削減し、その上將來國際間に於ける有利な條件を配合して反攻を行ひ、城市を回復することが出来る。蔣委員長は昨年十二月『告國民書』中に於て指摘してゐる：「中國の持久抗敵は、その最後の勝利の中心が南京にないばかりでなく、各大都市にも無い、それは實に全國の鄉村と廣大固なる民心にあるのである。」と、これは完全に正確であり、戦争は困難ではあるが、勝利の前途は存在してゐる。

(5) 妥協の危機は嚴重に存在してゐるが、それは克服出来るものである。
我々が既に述べた如く、一部の恐日病患者は常に政府の抗戰決心を動搖させようと企圖してゐる。所謂和平妥協の主張は嘗て南京陥落當時現れたが、現在に至るも尙ほ活動を續けてゐる。これは敵の陰謀が抗日陣營内部に反映してゐるものである。かゝる危機は嚴重に存在して居り、國人は必ず十分注意して、親日派に變返りを打たせない様にならなければならない。親日派の企圖と敵の企圖とは一致して居り、必然的に反蔣反共に集中せられる。もしも彼等が變返りを打てば、抗戰の前途は大問題になる。故に全國民は上下を擧げて敵の陰謀と内部反間の畏るべきを知つて、自發的にかゝる陰謀に反對するやう努力し、一刻も忽にしてはならない。斯かる危機は克服出来るものであるかどうか？ 克服可能である。それは親日派が結局大きな勢力を持たず、抗日派の勢力が親日派よりも大きいからである。

(6) 對峙段階中に於ける遊撃戦争の新形勢

二、新段階

新段階中に於て、正面防禦をするのは主力軍であるが、敵後の游撃戦争は暫時主要形式になる。併し敵後游撃戦争は敵我對峙の新段階中に於て、一種の新形勢を採つて發展しようとしてゐる。游撃戦争の新段階とは何であるか？ 第一、廣大な地域中に於て廣泛な發展をすることが出来る。これは我方の土地廣大と敵方の兵力不足及び兵力分散によるものであり、我方がよく游撃戦争發展の方針を堅持し、之を正確に指導しさえすれば、敵は根本的に我が發展を阻止することは出来ないであらう。第二、或る重要な戰略地點、例へば華北及び長江下流一帯に於て、敵の殘酷な進攻に遭遇するとき、平原地帯は大きな兵團を保存し難いが、山地は主要根據地になる。或地區の游撃部隊は暫時その數量を縮小することが出来る。現在この形勢の到来を準備すべきである。現在正面主力軍の戰鬥に策應して、新段階轉入を準備する爲、敵後游撃戦争は大體兩地區に分つべきである。一は游撃戦争の充分發展した地區例へば華北の如くであり、主要方針は既に建立せられた基礎を鞏固にすることであり、新段階中に於て敵の殘酷な進攻に打勝つ準備をなし、根據地を堅持することである。他は游撃戦争が未だ充分發展せず或は目下發展を開始せる地區例へば華中一帯の如くであり、主要方針は迅速に游撃戦争を發展させ、以て敵の掃蕩による游撃戦争の困難を免れることである。將來は、正面防禦に配合して主力軍に休息と整頓の機會を有させ、力量を蓄え戰略的反攻を準備する爲、凡ゆる努力を拂つて根據地の游撃戦争を保衛堅持し、長期堅持中に於て、游撃部隊を鍛練して強力な軍隊になし、敵を牽制して、正面に協力すべきである。一般的に言へば、新段階中に於ける敵後游撃戦争は前段階に較べて非常に困難である。我々はこの困難を見てこの困難を承認し、前段階の發展が容易であつたことに較べて頭を痛めてはいけぬ、敵は必ず游撃戦争の進攻に轉じて来るからである。而して堅持を可能ならしめるものは、すべての敵後工作を領導する人物が自信をもつことである。故に民族戦争中に於ける游撃戦争は、敵が如何に強くとも、内戰時の條件に較べれば非常に恵まれて居る。かくて僞軍を爭取し瓦解せしめ、日寇を孤立させることは非常に重要な任務である。

(II) 抗日戦争發展の新段階は同時に抗日民族統一戰線發展の新段階である

以上述べたところは皆抗日戦争の形勢問題である。以下述べんとするところは抗日民族統一戰線の形勢である。抗日戦争が發展して新しい段階に到達した時は、同時に抗日民族統一戰線が發展して新しい段階に到達した時である。新段階中に於ては以前より更に多くの困難に逢着するが、抗日民族統一戰線に於ても亦かゝる情況に適應して、困難な闘争と如何なる困難な戦にも勝ち抜く

偉力とを現出しなければならぬ。目前の過渡期間と將來の新段階との爲、中國抗日民族統一戰線は、その困難に對する無能を表示せず、そのもつてゐる困難を克服する偉力を表示せんとするならば、必ず眞面目に統一戰線を鞏固にし、統一戰線を擴大すべきである。長期的戦争は長期的統一戰線を有つことによつて始めて支持出来るものであり、戦争の長期性と統一戰線の長期性とは不可分離のものである。

(III) 國民黨の前途に光明あり

抗日民族統一戰線の基礎は國共兩黨であり、兩黨中、國民黨は第一大黨であり、抗戰の發動と堅持とは、國民黨を離れては考へられない。國民黨は光輝ある歴史をもつてゐる。その主要なものには滿清の覆滅、民國の建立、袁世凱反對、勝リ、聯共、農工政策の建立、民國十五年の大革命の遂行であり、今日は又偉大な抗日戦争の領導をしてゐる。彼は三民主義の歴史の傳統を有し、孫中山先生、蔣介石先生の前鋒する二人の偉大な領袖を有し、多数の忠烈愛國の黨員を擁してゐる。これらは皆國人の無視すべからざるものであり、これらは皆中國歴史の發展的な結果である。

抗日戦争の進行と抗日民族統一戰線の組成中に於て、國民黨は領導的基幹的地位を占めてゐる。十五個月來、全國の各抗日黨派は皆進歩したが、國民黨の進歩も亦顯著であつた。彼は臨時代表大會を召集し、抗戰建國綱領を發布し、國民參政會を召集し、三民主義青年團の組織を開始し、各黨各派の合法的存在と、共同抗日建國を承認し、或程度の民主權利の軍事上及び政治機構上に於ける或種の改革の外交政策の抗日に適合する要求等々を實行した。これらは皆歴史的意義をもつ大事件である。抗戰堅持と統一戰線堅持の大前提の下にこれを豫測するとき、國民黨の前途には光明がある。

併し今日に至るも尚ほ國民黨に對して一種の不正確な觀察をなすものが居る。彼等は國民黨の前途に對して懐疑的である。彼等の國民黨に對する懷疑は、抗戰を繼續出来るや否やであり、進歩を繼續出来るや否やであり、抗日建國の民族聯盟が出来ると否やである。而してこの三個の問題は相互に結合して分離し難いものである。我々の意見はどうであるかと言ふに、我々は國民黨の前途に光明を認めるものである。各種主觀客觀的條件によるも、彼は抗戰を繼續し、進歩を繼續し、且つ抗日建國の民族聯盟を成就出来るものである。

敵の進攻の堅決性、敵の中國各階層に對する嚴重なる打撃と掠奪、全國軍隊の敵に對する憤怒と抗戰的英勇、全國人民の抗日運動の高漲、國際的に有利な形勢の存在等の事實により、基本的に全中國と國民黨の政治方向は決定せられる。第一、如何なる黨派も——國民黨共産黨及び

その他抗日的政黨と團體とをその内に包括する——は抗戦を繼續しなければならぬ。誰でも抗戦を繼續しないものには漢奸になる途だけが遺されて居り、その他に如何なる出路もない。第一、如何なる黨派も抗戦を繼續するため進歩を繼續しなければならぬ。遂に、國內政治の進歩の不迅速と不普遍とは、戦争の損失を招来した。且つ損失することにより、今後の政治、軍事、文化、黨務、民運各方面に於て進歩を求められなくなり、その結果抗敵、失地恢復は不可能になる。これは権力を握つてゐる國民黨ばかりでなく、その他の黨派に於ても然りであり、進歩を繼續しなければならぬ。第三、國內進歩の重要な一環をなすものは、國民黨組織形式の民主化であり、それ自體を抗日建國の民族聯盟に變へ、抗日民族統一戦線の最良の組織形式に變へることである。斯かる可能性はるかどうか？ 私は矢張り有ると思ふ。抗日戦争の大勢の趨く所、國民黨が若し、廣大な民衆に向つて門戸を開放せず、全國の愛國黨派と愛國志士とを偉大な組織中に容れなければ、抗戦を繼續して敵を打倒する困難な任務を擔任することは不可能になるであらう。國民黨は五十餘年の歴史中に於て、大きな革命闘争に遭遇する度に自己を革命民族聯盟のなかに變へねばならなかつた。最も顯著な最も歴史的意義のある事が二度あつた。第一は、同盟會組成以來辛亥革命に到るまでの間であり、孫中山先生は滿清に反對して民國を建立する目的の爲に凡ゆる反滿的革命黨派（光復會より哥老會に到る）を聯合した。この期間中に於て、彼の黨員は英勇闘争の事蹟に充滿し、戦へば戦ふ程烈しく、活潑な元氣に富み、それが爲に辛亥革命の成功を獲得することが出来た。第二は、民國十三年より十六年までの間であり、反帝反軍閥の目的の爲、對内的に農工と共產黨を聯合し、對外的に社會主義の蘇聯と聯合して有名な『三大政策』を建立した。これによつて、黄埔軍官學校を創設し、黨軍を建立し、北伐戦争の勝利を取得した。これらは皆國民黨の統一戦線政策の發展を表現するばかりでなく、三民主義の發展を表現するものである。今日は國民黨歴史上に於ける第三の革命民族聯盟の時機であり、日本帝國主義に反對し、三民主義共和國を建立する爲に彼自身を抗日建國の民族聯盟に變へることは必要であり可能でもある。この偉大な運動は既に開始せられて居り、共產黨とその他黨派の合法的な存在を承認し、八路軍の國民革命軍系統に加入することを承認し、抗戰建國綱領中に明らかに「抗戰必勝建國必成の爲本黨同志の努力に頼ると共に必ず全國人民の奮力同心共同負擔によるものである」と宣布し、且つ國民參政會の召集と三民主義青年團の組織をなした。これらは皆彼自身を抗日建國の民族聯盟に變へ始めてゐるものである。現在の問題は：共產黨は國民黨のかゝる組織擴大運動に對して如何なる態度を探るべきか？である。賛成すべきか？反對すべきか？我々は言ふ、我々は如何なる時期に於ても、常に國民黨の自己を擴大發展させることにより、革命民族聯盟的

なものにすることに賛成する。民國十三年の國民黨改組の時於て、我々は贊成政策を採つた。今日は更に民族危機が嚴重な時に際會して居り、我々は凡ゆるものを擧げて之に賛成するものである。その理由は抗日の友軍が大きければ大きい程よく、單なる共產黨だけの發展進歩では、日本帝國主義を打倒することは出来ないのである。第二黨の地位に在る中國共產黨は、各黨各派各界各軍の統一戦線を發起し堅持するが、それと同時に、自己の組織上に於て廣く革命志士に門戸を開放し、抗日勝利の爲に力爭する。併し若し第一黨的地位に立つ國民黨が依然として過去の古い状態を保存するならば、抗戦に對しても統一戦線に對しても非常に不利である。抗戦は勝利を獲得出来ず、全民族は危險に瀕し、共產黨と無黨階級もこの危險を逃れることは出来ぬ。故に共產黨は單に反對しないばかりでなく、十分希望を以て國民黨の組織擴大と鞏固、黨内民主化の實行及びその本身を革命的民族聯盟に變へ、以て抗戰繼續と最後の勝利の爭取に利することに賛成するものである。

(四) 併し國民黨の前途には尙ほ障礙物があり、努力して克服することにより始めて發展させることが出来る

國民黨の前途には光明があり、その進歩と發展とは可能であり、蔣介石先生と國民黨の大多數は國民黨を領導し推動して前進させてゐる。併し誰もが知つてゐる如く、國民黨中には尙ほ幾程かの保守的分子が居り、國民黨進歩の速度と程度との障礙になつてゐる。かゝる分子の存在と社會にある幾多の保守的分子との結合により、民族革命戦争の大流中に於て逆流を形成して、頑固に進歩の舟に抵抗して居り、相當有力に國家の民主化を阻礙し、凡ゆる抗戦に必要な進歩的事業の推行を妨げ、蔣介石先生の數次の宣言、談話、演説、命令中に在る非常に多くの立派な方針方法の推行を妨げ、國民黨の抗戰建國綱領の實施を妨げ、民衆運動の發展を妨げて居るが、これらは皆事實であり、國民黨進歩の不迅速不普遍と抗戦を受ける幾多不利の重大な原因である。彼等は國民黨の進歩に反對し、國民黨の發展に反對し、甚しきに至つては妥協を主張するものもある。若しかゝる分子が優勢になるならば、この中國の民族解放事業は極めて大きな挫折を受けねばならぬ。故に嚴重に注意すべきである。併し我々が堅く信じてゐることは、かゝる保守勢力が永く存在し得ないといふことであり、優勢を占めて居らず、優勢を占め得ないものであるといふことである。彼等は逆流であり、決して主流ではない。蔣委員長の領導、國民黨大多數の努力と全國人民の贊助の下に於て、かゝる保守傾向は克服出来るものである。共產黨は確固として國民黨の

進歩に賛成しこれを援助するものであり、進歩を阻礙する保守的分子に對しては彼等が舊を棄て新を圖り、一緒に進歩することを希望する。我々は彼等が『君子之過如日月蝕』なることを悟つて變化することを希望し、彼等が改變しなすればそれでよいのである。事實上少からざる保守的な人が抗戰の過程中に於て進歩したのを見た。今後必ずや幾多の人は抗戰の教訓により覺悟を生じ、大衆と共に進歩するであらう。これは抗日戰爭中に於ける保守的分子の可變性である、併し亦少数人は尙ほ一層悪化し、甘んじて抗戰の巨濤に捲き込まれてしまふ可能性もある。これも亦可能性の一面であり、彼等には何も惜むべきものはない。

②) その他の黨派の前途にも同じく光明がある

凡ゆる抗日戰爭と抗日民族統一戰線に参加する黨派は、抗戰を堅持し統一戰線を堅持する大前提の下に發展的前途がある。我々はこれと共に長期合作を建立し、可能な援助は盡く之に與へんと願ふものである。これは無黨第三黨、國家青年黨、國家社會黨、救國會派、その他如何なる集團、如何なる黨派に對しても皆同様である。非常に明瞭なことは、所謂凡ゆる黨派が抗戰を堅持し統一戰線を堅持するといふ大前提の下に前途の光明を有つてゐるといふことであり、これは又各黨内に於ける保守的傾向を克服せんとする努力を包括するものである。これは勿論國民黨であれ、共産黨であれ、その他の黨派であれ、皆一律に充分注意すべきである。

③) 中國抗日民族統一戰線の特點

中國の歴史原因により、今日の中國の抗日民族統一戰線は、如何なる外國の統一戰線とも異り、人民戰線等の如きものも中國の歴史上に於ける統一戰線と異つてゐる。第一次國共合作等の如き今日の中國の特點を有するものである。かゝる特點を認識して、抗日民族統一戰線を愛護にし擴大することは、非常に重大な意義をもつものである。

斯かる特點とは何であるか？ 要約すれば次の八項目になる。即ち：全民族の抗日、長期性、不平衡、軍隊を有つてゐること、十五年の經驗、民族の大多数が無組織であること、三民主義、新しい國際環境。

第一は全民族の抗日である。この特點は我々の統一戰線の根本性質を規定する。一方に於て、我々の統一戰線の目的は、國土に侵入する異族日本帝國主義に反對して建立と發展となさんとするものであり、又一方に於て、我々統一戰線の組成は、全民族の凡ゆる異つた黨派、異つた階級、異つた軍隊、異つた國內民族の最大の團體を包括するものである。これにより異族の侵略に反對し、それが爲にその組織

成分はかくも廣大になることが出来るのである。組織成分の異常な廣大により、この統一戰線は偉大な力量を具有してゐるのである。併し同時に、統一戰線は内部に幾多の相互間の磨擦を有つことを免れ得ない。而して適當にこれを調整して始めて團結して外に對する目的を達成することが出来るのである。我が統一戰線のかゝる最基本的特點——政治目的が異族の侵略に對する反對と組織成分の異常な廣大、フランスやスペインの人民戰線とも異り、第一次大革命時期に於ける民族戰線(作時の國共合作)とも異なる——は今日の統一戰線から幾多の特點内容と特殊結果とを發生させた。

第二は長期性である。この特點は第一の特點から派生したものである。この統一戰線は民族戰線により日本帝國主義に反對し、而して日本帝國主義は強力な帝國主義であるため、抗日統一戰線の長期性を招來し、それが爲に統一戰線の長期性をも招來した。この點に關しては、私の報告の第五部分に於ても觸れてゐるが、これは凡ゆる政策の出発點であり、且つ第一次國共合作とも異つてゐる點である。

第三は不平衡である。歴史原因により、各黨派各階級政治力に不平衡を生じたが、同時に地域分布の上にも斯かる不平衡が現れた。國民黨は實力を具有する第一の大黨であり、共産黨は第二大黨であり、その他はこれに次ぐ。かゝる情況は幾多の特殊なものを派生した。

第四は軍隊を持つてゐることである。國共兩黨は共に軍隊を有つてゐる——これは特殊な歴史條件によつて生じた結果であり、缺點でなくして長所である。兩黨が共に軍隊を持つてゐる爲に、抗日戰線中に於て兩黨は克く責任を分擔して合作することが出来、且つ相互に切磋琢磨するといふ長所も多い。これはスペインとは些か似てゐるが、フランスとは異つて居り、第一次國共合作とも異つてゐる。これは又兩黨の長期合作を可能ならしめる因素の一である。

第五は十五年間の經驗である。一九二四年から二七年までの第一次國共合作の四個年、一九二七年から三六年までの國共分裂の九個年、更に現在までの第二次國共合作の二個年、この十五年間の合作——分裂——合作の經驗は、最も深刻に國共兩黨及びその他の黨派と全國人民とを教育した。その結論は：合作すべし、分裂すべからずである。これも亦長期合作の基礎の一である。この貴重な經驗は、世界各國とも欠如し、第一次國共合作當時にも無かつたものである。

第六は民族の大多数が無組織であることである。これは中國の特點であり、西洋各國との相異點であり、缺點である。統一戰線は組織化せられた民族の基礎を欠如してゐる。併し同時に、各黨は分業的に民衆を組織することが出来、一緒になつて磨擦すべきでない。故に無組

二、新段階論

様な民衆は直ちにこれを組織して抗戦の急務に應ずべきである。

第七は三民主義である。抗日民族統一戦線は三民主義を以て政治基礎としてゐるが、これは抗日合作の基礎であるばかりでなく、建國合作の基礎でもある。三民主義に於ける民族主義はかゝる合作を誘導して全民族の解放を爭取せしめるものであり、その民権主義はこの合作を誘導して徹底的に民主國家を建立せしめるものであり、その民生主義はこの合作を誘導して非常に長期的ならしめることが出来る。三民主義の政治綱領と政治思想とは統一戦線の長期性を保障するものである。

第八は新しい国際環境である。今日の世界政治経済條件は、第一次合作と兩黨内戦當時とは異つてゐる。今日では一部の帝國主義國家例へば日獨伊等が國共合作と抗日民族統一戦線に反対してゐるだけである。他の帝國主義國家は彼等と日本との矛盾により、現在は決して我々の統一戦線に反対するものではなく、反つて贊助的立場を採つてゐる。凡ゆる國家の進歩的な人民は皆我々を贊助するものであり、ソ聯は殊に熱烈に贊助してゐる。かゝる新しい国際環境は、我々の長期合作に對して重大な影響をもつものである。

上述の各特點を深刻に研究し諷諭して始めて適當な政治上の政策と工作上的態度とを採ることが出来る。頭痛に對して頭を、脚痛に對して脚をとといふ様に部分的にばかり政治問題工作問題を處理せず、科學的基礎の上に立つて正確に問題を解決すべきであり、抗日戦争の勝利と抗日民族統一戦線の鞏固と擴大の爲にはかゝる科學的基礎が必要なのである。

② 統一戦線の新形勢

抗日戦争の新段階に於て、抗日民族統一戦線は必ず一種の新しい姿態を出現してこそ、始めて戦争の新局面を處理出来るのである。斯かる新姿態は即ち統一戦線の廣大な發展と高度の鞏固である。十五個月の團結抗戦の教訓は各黨にかゝる發展と鞏固との必要を認識させた。發展方面は、各黨の組織の擴大と民衆の組織の擴大である。鞏固方面は、各黨が新しい政策と新しい工作とを採用して、相互間の齟齬を減少し、眞に精誠團結し、共に困難に赴くに到ることである。抗戦新段階中には幾多の困難があるが、統一戦線各黨がその組織を廣大に發展させ、各黨の内部關係と各黨間の相互關係を鞏固にすることにより始めて有力に新しい政治任務を執行し、新しい困難に戰勝して、敵の進攻を停止し我々の反攻を準備する目的を到達することが出来るのである。これは抗日戦争新形勢中に於ける統一戦線の新形勢であり、各黨の共同努力と全國人民の熱烈な擁護により、かゝる新形勢の到来は完全に可能になるのである。

四 全民族の當面せる緊急任務

過去の抗戦の歸結と現在の抗戦及び統一戦線發展の新段階とを眺み合はす時、全民族の當面せる急務は何でなければならぬか？ 過去のそれと何處が異つてゐなければならぬか？

全體的任務はかくあるべきである：即ち抗戦を堅持し、持久戦を堅持し、統一戦線を強化擴大し、以て困難を克服し、敵の進攻を阻止し、力量を準備し、我方の反攻を實行し、敵を驅逐する最終的目的を達成することである。

これを分述すれば、次の如く各方面に具體的任務がある。凡ゆる抗日民族統一戦線の組織分子は、政府を援助し、且つ政府の領導の下に全民族の動員を實行すべきであり、共產黨員はかゝる任務遂行の模範とならねばならぬ。

(1) 高度に民族の自尊心と自信を發揚し、抗戦を徹底的に堅持し、悲觀的氣分を克服し、妥協企圖に反對する。新しい抗戦形勢に想到する時、一部の者は必ず主要大都市と交通線の喪失、財政經濟の困難、國際援助の不十分により、抗戦の前途に對して悲觀的氣分を起し、且つ増大させてゐる。日寇、漢奸、親日派は必ずかゝる氣分を利用して、大いに和平妥協的空氣を醸成し、我々の抗戦の決心を動搖させんと企圖してゐる。これが爲に、全民族の第一の任務は、高度に民族の自尊心と自信とを發揚し、一部の人士の悲觀氣分を克服し、政府の抗戦總方針を擁護し、如何なる投降妥協の企圖にも反對し、徹底抗戦を堅持することにある。この任務は過去の如何なる時期に於けるよりも重要になつてゐる。

この目的の爲には、必ず新聞、刊行物、學校、宣傳團體、文化藝術團體、軍隊政治機關、民衆團體及びその他の凡ゆる可能な力量を動員し、前線の官吏將兵、後方の守備部隊、滄陷區の人民、全國の民衆に向つて、廣大なる宣傳鼓舞をなし、斷乎として計畫的にこの方針を執行し、徹底抗戦を主張し、投降妥協に反對し、悲觀氣分を消除し、繰返し最後勝利の可能性と必然性とを説明し、妥協は即ち滅亡であり、抗戦だけが出路であることを指摘し、全民族に呼び掛けて團結させ困難を恐れず犠牲を恐れざらしめねばならぬ。我々は必ず自由にならねばならないし、我々は必ず勝利を得なければならぬ。それが爲に全國一致して抗戦繼續の目的を達成しなければならぬ。

二、新段階論

この目的の爲に、凡ゆる宣傳鼓舞は以下の各項を顧慮せねばならない。一方に於て發生し且つ今尚ほ發生しつゝある民族革命典型（英勇抗戦し國家の爲に一身を犠牲にせる平形閣、茶兒莊の八百の勇士、遊撃戦争の前進、惜みなく獻金する愛國の華僑等々）を利用して前線後方國內國外に廣く宣傳し、他方に於て民族陣營中に存在し増大しつゝある消極性（妥協傾向、悲觀氣分、腐敗現象等々）を暴露し清除し淘汰することである。更にもう一方に於て敵の凡ゆる殘暴獸行の具體的な例を全國に向つて公布し、全世界に訴へ、以て民族の覺悟を高めし、民族的自尊心と自信を高揚する目的を達成することである。かゝる覺悟と自信の不足は困難の克服と反攻の準備といふ基本的任務を甚しく妨害するものであることを認識しなければならぬ。

(2) 蔣委員長を擁護し、國民政府を擁護し、國共合作を擁護し、分岐分裂に反對し、如何なる漢奸政府にも反對する。新段階中に於て、敵の方針は、必ず反蔣反共に集中し、全國的に漢奸政府を建立し、蔣委員長を失脚させ、國民政府を顛覆させ、國共合作と全國團結を破壞するにあるであらう。敵のかゝる方針に對する全民族の第二の任務は、全國に號令し、全體一致して誠心誠意蔣委員長を擁護し、國民政府を擁護し、國共合作を擁護し、全國の團結を擁護し、蔣委員長、國民政府、國共合作及び全國の團結に不利な、敵方の如何なる行爲にも反對し、如何なる漢奸政府の中國統治にも反對することである。

この目的の爲に、必ず國共兩黨の關係を調整し、中央と地方との關係を調節し、抗戦各軍の關係を調節し、政府と人民との關係を調節せねばならない。これらの關係の中に、公平合理互助互護の精神を提唱し、摩擦を減じ、意見の紛岐現象を減少せしめ、困苦の爲に政府を非難するが如き行爲に反對する。全國に號令して敵、漢奸、親日派が我々の内部に於て離間を挑發し、不満を醸成し、紛岐を造成し、摩擦を獎勵する陰謀鬼計に對し嚴重に注意を拂はせる。斯くして始めて蔣委員長及び國民政府の威信は如何なる影響をも受けず、國共合作と全國の團結とは日々親密になり、困難なる環境中に於て抗戦を繼續する堅固な重心を樹立し、以て敵と漢奸政府に對抗し、困難を克服し、反抗を準備すべきである。

(3) 主力軍の戰鬥力を提高し、華中華南及び西北を保衛し、敵の進攻を阻止する。敵の現在武漢を進攻し、引續き華南及び西北を進攻せんとする企圖に對して、全民族の第三の任務は、主力軍の戰鬥力を提高し、現有軍隊を整理し、新しい軍隊を増加編成し、華中華南及び西北の保衛の爲に戦ひ、以つて敵の進攻を阻止することにある。この目的達成の爲に

は中國主力軍方面にあつては第一、高度の運動戰を發展せしめ、同時に必要且可能な防禦陣地によつてこれを補助し、屢々敵と交戦してその實力を消耗せしめなければならぬ。第二、後方に出来るだけ軍需工場を設立し、製造能力を増強し、前線の銃機彈藥を補充せねばならぬ。第三、軍隊内に於て民族革命政治工作を實施し、政治文化娛樂等の教育を實施し、全軍の勇戰奮闘、苦戰に耐える精神を強化せねばならぬ。第四、現有物資は將兵の生活を改善する基礎である。連隊内に經濟委員會を組織して、將兵に食糧を管理させる。第五、紀律の自覺を提唱し、恩罰制度を廢止し、官吏軍人間の親愛團結を提唱して官吏軍人の關係を改善する。第六、公費公員を實行し、人民の氣分を和せ、食糧、人夫の徵發及び徵兵を強制せず、政治動員方式を改めて食糧、夫役及び新兵の問題を解決し、以て軍民の關係を改善する。第七、前線各軍間及び前線と後方の各軍間に友愛互助精神を高揚し、作戦すれば相互策應し、工作すれば相互に切磋琢磨し、相互に傍觀し嫉妬するが如き不良現象を消滅させ、以て各軍の間の關係を改善する。第八、現有軍隊を整理し、缺員を補充し、同時に新しい軍隊を増編し、教育訓練を強化し、以て持久作戰に利する。これらの凡ゆる方法を用ひて主力軍の戰鬥力を増強し、以て華中華南及び西北保衛の爲に戦ひ、敵方の進攻を阻止し、我方の反攻を準備する爲に奮闘する。

(4) 敵後遊撃戰爭を廣大に發展させ、我方の根據地を創設し鞏固にし、敵の占領地を縮小させ、主力軍の作戦に配合する。敵の目的は尙ほ我に對する進攻を繼續し、且つ或る一定時期に至れば兵を割いて遊撃戰爭に矛先を轉じその占領地を鞏固にして、中國の反攻を困難ならしめんとするにある。全民族の第四の任務は敵後方の遊撃戰爭を廣大に發展させ、幾多の根據地を創設し、既有的根據地を鞏固にし、以て敵の占領地を縮小さしめることにある。現在に於ては主力軍に配合して敵の進攻を阻止する爲に戦ひ、將來に於ては主力軍に配合して反攻を實行する爲に戦ふ。

半殖民地の中國の抗日民族戰爭の重要特徴の一は、遊撃戰爭の廣大性と長期性にある。かゝる遊撃戰爭がなければ大盤の敵軍を牽制して、有力に正面の主力軍の作戦に配合して敵の進攻を阻止することは出来ない。即ち敵の占領地を一定地帯に制限し、全地占領の術ならしめることも出来ない。更に又敵の後方に幾多の抗日堡壘を建設し、遊撃作戦を堅持し、且將來主力軍の戰略に配合して反攻をなす準備をすることも出来ない故に第一、凡ゆる敵後地方地帯の遊撃戰爭を廣大に發展させ、且つ多數の遊撃根據地を創設し、既設の根據地を鞏固に

すべきである。第二、華北の例に倣ひ、充分な数量の正規軍を敵後の各戰略地區に駐屯又は派遣し、長期に亘り遊撃戦争を堅持する骨幹部隊を援助し遊撃戦争を漸次正規軍に提高させ正規戦争の道路を進ませるべきである。第三、凡ゆる戦區と敵後方に於ては凡ゆる男女人民の團結保衛心を喚起し、彼等を多數動員し、生産を離脱せる遊撃隊に加入させ、敵後の正規軍を補充するばかりでなく、彼等をして半軍事的性質を有つた抗日人民自衛隊にまで組織すべきである。抗日人民自衛隊の組織は、凡ゆる戦區及び敵後方の普遍的且經常的な民兵制度であり、彼等をして生産を離脱させないやうにすべきである。第四、必ず人民を援助して廣泛な遊撃隊を組織せねばならない。この遊撃隊は生産活動を脱離するもので、各縣各區に總てこれを設け、敵の地方的普通の小部隊を襲撃させる。第五、必ず遊撃部隊内の政治工作を確立し、その軍事政治文化娛樂の教育を強化し、以てその戰鬥力を増強せねばならない。第七、土匪部隊を改造し、彼等をして抗日の道を歩ませ、我軍後方及び敵に利用せられてゐる土匪を掃蕩する。第八、遊撃戦争の銃器彈藥の補充は最も重要な問題であり、一方に於て後方から能ふ限りこれを補充すると共に、他方遊撃戦争の根據地毎に能ふ限り小規模の兵器工場を設立し、彈藥、小銃、手榴彈等を自製する程度に至らしめ、遊撃戦争に於て銃器彈藥不足の虞れなからしめる。第九、敵情並に我方の戰略上の必要に應じ、新たに敵後各地作戦區域及び行政區域を測定し、以て新戰況に適合せしめる。第十、戰略的需要に應じて敵後方の各部隊及び行政區域の領導を統一し、以て抗戰力を集中し、内部矛盾を消滅せしむべきである。併し彼此互に併呑する軍閥行爲には反對せねばならぬ。

(5) 軍事技術を高揚し、機械化兵團を創立し、反攻實力を準備する
 敵が我方より少い兵力を以てよく與深く進攻し得た所以は、我方の政治原因による以外に、我方の技術的落後がその主要原因である。敵の長所にして且つ我方の短所たるこの點に對する全民族の第五の任務は、軍事技術を高め、飛行機大砲戰車等の數量及びその人材を増加し、反攻を實行する爲に實力を準備することに在る。この目的を遂げる爲には、一方に於て現有の及び増加可能な製造能力を發揮して部分品製造と修理とから始めて、眞面目にこの工作を行はねばならない。又他方に於ても何とか方法を講じて外國から新式の武器を輸入し、漸次軍隊の裝備を改善し、眞に現代化された機械化兵團を創立せねばならない。疑もなく、實際問題に就いて見るに、現在、實際に戰鬥に携つてゐるのは大量の低級武器のみであり、それ故に、我々は全國の軍隊及び武装人民に、武器は低級であつても政治精神を高揚し、作戦方法を改善し、遊撃戦争を發展せしめ、以て新式技術の不足を補へば、敵に勝ち得るといふことを知らせねばならない。この方面に力を致さず常面せる實際問題を無視するならば、目前の困難を克服することは出来ない。將來に於て、戰略反抗を準備する爲には、新式技術を高め、新式軍隊を建設せねばならない。現代的新式技術、裝備を有しない如何に多數の軍隊を以てしても、反抗の實行、失地の恢復は不可能なることを認識せねばならぬ。この點に留意せずして可能範圍内に於て誠心誠意實行しても、それは現在を見るのみで將來を忘れたものであり、前途の困難を克服することは出来ない。人的物的資源の豊富な中國に於て、たゞ政治條件が改善され、動員方法が進歩し、更に外國の援助により、漸次技術裝備を改善すれば、それは決して不可能なことではない。

(6) 統一領導下に民主政治を實行し、政府と人民との聯繫を密接にし、抗日政權の最大能力を發揮する
 敵の乘じてゐる我方の弱點は、軍事上にあるのみでなく、政治上にもある。政治制度上の不民主化は、歴大な人民との密接な聯繫を不可能ならしめてゐる。この弱點を補ふ爲の全民族の第六の任務は、統一領導下に民主制度を實行することにある。かゝる方面の改進なくして、最終的に日寇に戰勝することは不可能である。民主政治は全民族の凡ゆる生動する力量を發揮せしめる推進機であり、この制度があれば、全國人民の抗日の積極性を計画的に發動することが出来る。無盡不竭の源泉となすことが出来る。我が全民族が徹底的に統一團結する偉大な過程の完成も亦民主制度の樹立にのみよるものである。この點に關して、各方面から實施せねばならない。第一、國民參政會の開催は既に國家民主化の第一歩を開始せるものであるが、以後該會の工作を公開的且つ有効に進行せしめ、該會の議決事項は悉くこれを實行に移し、又該會の決定方案に従つて各省各級の地方參政會の設立に努力し、以て民主政治を推進せねばならない。第二、抗戰建國綱領に規定せられてゐる人民の言論・出版・集會・結社・信仰等の自由を保證し、これを全國的に實施せねばならない。かゝる自由は抗戰建國範圍内の自由であつて、かゝる自由を充分に保證して始めて、抗日建國の力量を普遍的に發揮せしめるに有效である。この間問題となるのは、中央の法令が各地方に於て實施せられる場合地方の勝手な制限を受けたりも保證することである。たゞ制限しなければならぬのは抗日建國を毒する所の自由、即ち漢奸・親日派の自由であつて、その他は總て制限を加へてはならない。第三、戦區及び敵後から種々の民主制を實行せねばならない。例へば人民が各級の地方政府を選び、上級機關がこれに委任する。戦區の各級政府は民主集權の委員制を採用し、又各階級の人民代表機關を設立する。戦區の政府は或る種の必要な工作部門を増設し、公文程式を改變し、貪汚腐化無能分子を一掃し、積極的抗日分子を

二 新段階論

吸収し、俸給を削減し、耐乏生活を提唱し、以て戦區の困難、複雑且流動的な環境に適合せしめる。戦區の地方政府は中央政府の統一の領導の下に地方軍行法令頒布の権を有する。戦區の男女公民は、漢奸を除き、すべて選挙被選挙権を有し、言論・出版・集會・結社及び武装抗日の自由を有する。戦區にある總ての抗日黨派は公開合法の地位を有する等々の如きである。戦區殊にそれが敵後方にあるに於ては、かゝる政治改革なくしては、長期の困難な抗日戦争を支持せんとすも不可能である。以上の各項は、いづれも政府と人民との聯繫を密接ならしめ、政府の實力を増強せしめるものであつて、これをして抗日戦争中最大の能力を發揮せしめることが出来る。疑ひもなく、全國の如何なる地方政府に於ても中央政府の領導下に集中すべきであり、行政區域が敵に分割されたからとて、中央の領導を尊重しない態度をとつてはならない。全國必ず中央の法令に依據して民主制を推進すべきであるが、而も全國必ず中央に統一せらるべきである。

(7) 統一的民衆運動を擴大し、全力を盡して戦争を援助する

全民族の第七の任務は、各種の民衆運動を擴大し、且つこれを統一して、全力を擧げて戦争遂行を援助することにある。長期耐乏の抗日戦争は、總べて民衆に分け與へられねばならない。故にもし普遍的發展的にして且つ全國統一的な民衆運動がなければ、長期に亘つて戦争を支持せんとすも不可能である。特に戦區及び敵後方に於ては、速かにこれを實行せねばならない。抗日戦争は正に新しい困難に逢著して居り、唯民衆を動員することによつてのみ、有效にかゝる困難を克服し得るのである。全國、特に戦區及び敵軍後方に於ては、速かに次の各項を實行しなければならぬ。第一、一切の抗日民衆團體と抗日民衆運動の自由を保證し、民衆團體の法律上に於ける地位を確立する。第二、物質的に民衆團體を援助し、民衆團體の獨立性を尊重する。第三、廣大な民衆の参加する工人・農民・青年・婦女・商人・自由職業者・文化人及び兒童の各種救國會を組織し、地域と職業の二原則に従つて聯合的組織を樹立せしめる。第四、民衆を動員して各方面の抗戰工作に積極的に参加せしめ、又政府と軍隊を積極的に援助せしめる。特に戦區に於てはこれを忽せにしてはならない。

(8) 民衆生活を改良し、民衆の抗戰情熱と生産情熱とを振起す

民衆生活改良の問題は、過去に於ては甚だ微弱にししか行はれてゐなかつた。故に廣大な勞働人民の抗戰情熱と生産情熱とを振起し得ず、長期戦争の堅持にとつては非常に不利であつた。従つて今後の全民族の第八の任務は、次の各項の民衆生活改良政策を實行することにある。第一、抗日軍人家族及び抗日傷病軍人を優遇する。第二、戦區の災民難民及び失業工人を救済する。第三、或區及び敵後に於て適當に

減租減息を開始する。第四、糧食及び重要日常必需品を調節する。第五、適當に勞賃を増加し、工人職員の待遇を改善する。第六、工人・農民の雇主及び地主に對する團體契約權を承認する。第七、雇主・地主・親方・工人徒弟に對する虐待行爲を禁止する。これら初步的生活改良辦法を實行したる後には、必ず工農の貧民大衆を高めて政府を擁護し、積極的に戦争に参加し、生産に従事せしめることが出来る。戦争の需要する一切を動員して將來の大改革を援助することが出来、且農工業生産の量質と商業の流通も大いに増大され、國家財政も亦新しい農工商業の基礎の上に満足な解決を見るに至るであらう。

(9) 新しい戰時財政政策を實行し、戦争の機關を突破する

主要な大城市と交通線とを喪失したる後は、國家財政經濟は必ずや大困難に逢著する。若し新しい有効な辦法がなければ、この戦争の機關を突破し得ざるに至つてゐる。併し乍ら新しい政策を實行し、人民の力量を動員しよすれば、如何なる困難をも克服することが出来る。故に、全民族第九の任務は、一種の新しい財政經濟政策を實行することである。その主要事項は次の如くである。第一、新政策は、抗日武装部隊の凡ゆる必需品の供給を保障し、人民の必需品要求を満足させ、且つ敵の經濟封鎖と經濟破壞とに對して闘争することを目的とする。第二、計畫的に内地に新しく國防工業を創立し、小規模な急務部門から始めて、漸次發展改善する。政府・民間及び外國三方面の資力を吸収し、且つ政治的に工人を動員し、その最低限度の物質待遇を保障し、工場管理制度を改良し、生産能率を高める。これらには必要であるばかりでなく、且可能なものである。第三、政治動員と政府法令とを配合し、全國の農業と手工業生産とを發展させ、春耕秋收運動を組織し、全國の農業手工業を新しい形態の下に發展させる。戦區に於ては農具牲畜及び手工作坊の保護に注意し、封鎖せられた區域の經濟自給を保證する。第四、私人工商業の自由營業を保護し、同時に、合作事業發展に注意する。第五、右錢出錢の原則下、各種酒税を改訂して統一的累進税になし、苛税雜稅及び剝削制度を取消し、以て民力を節省して稅收に利する。第六、政治動員と政府法令とを配合し、救國公債・救國公債を徵募し、且つ人民を發動して自主的に經費及び食糧を附し、作戰軍隊に供給せしめ、以て財政收入を充實させる。第七、計畫的に數個の貨幣發行及び法幣破壞政策に對して闘争をなし、封鎖せられた區域に地方銀行を設立し、地方紙幣の發行を許可する。第八、廢舊運動を勵行し、俸給法を改訂し、最低生活標準に基き、大體平等なる俸給法を規定する。第九、國家銀行に於て低利貸付を行ひ、生産事業の發展及び商品の流通を補助する。第十、戦區の郵便電信交通を恢復し發達せしめる。以上擧げた所は、大略に過ぎぬ。必ず

二、新段階論

眞面目に新制を改革し、新制を執行するの決心を持たねばならない。かゝる決心を堅持して始めて新制に伴ふ困難を除き、長期戦争を支持することが出来る。その重点は廣大な人民の生産の積極性を組織し、以て戦争供給に有効ならしめるにある。中國の抗戦は一種特殊な情況の下に進行せられるものであり、主要な大城市交通線は敵に占領せられ、抗戦の依拠する所は主に鄉村と農民とである。農民は偉大な力量を以て戦争を支持するものであるが、併し必要な政治方面及び經濟方面の改革を實行せねばならない。茲に説く所の各種新政策は、かゝる特殊情況に基いて提示したものである。

(四) 抗戦教育政策を實行し、教育を長期戦争に動員する

總てを戦争に動員するといふ原則の下に、一切の文化教育事業を戦争の需要に適合せしめねばならない。故に全民族の第十の任務は、以下各項の文化教育政策を實行することである。第一、學制を改訂し、不急不要の課程を廢止し、管理制度を改變し、戦争必需の課程を教授し、學生の學習積極性の發揚を原則とする。第二、各種の幹部學校を創設し、擴大強化し、多数の抗日幹部を養成する。第三、民衆教育を廣泛に發展せしめ、各種の補習學校・識字運動・戲劇運動・歌詠運動・體育運動を組織し、敵前敵後の各地方通俗新聞を創刊し、人民の民族文化と民族自覺を昂める。第四、義務的小學教育を施行し、民族精神を以てヤング・デネレイションを教育する。これらはすべて政治上の民力動員と政府の法令とを配合せねばならぬ。重要なものは人民の教育に關する自主性を發動し、政府がこれに適當な指導と調整とを與へ、又出來得る限り物質的援助をなすにある。政府のみに頼り有限な財力を以て經營する學校新聞等々では民族文化と民族の自覺を高めるといふ偉大な任務を果すことは出来ない。抗戦以來教育制度は既に變化しつつあり、將に戦區に於ては顯著な改進があつた。併し現在迄の所全制度を抗戦需要に適應せしめる變化はなかつた。かゝる情況はよくない。偉大なる抗戦には偉大なる抗戦教育運動の隨伴するを必要とし、兩者の間の不一致現象は速かに廢除さるべきである。

(四) 國際援助を力爭し、日本帝國主義反對を集中する

長期戦争と反日本帝國主義集中の原則より出發し、凡ゆる可能な外援を組織することは忽視すべからざるものである。故に當面せる第十の任務は、第一に一部人士の所謂獨伊路線を行く主張に絕對反對することにある。何となればこれは實際上二種の敵に投降する前提であるからである。第二に各民主國家と蘇聯の我方に對する物質助援助の増加を力爭し、同時に各國をして國際聯盟の日本制裁決議實行を促進

せしめるにある。第三に一定機關を設立し、凡ゆる敵軍の暴行を系統的に蒐集し、具體的な文書・報告を製作して國外に宣傳し、全世界の注意を喚起し、日本ファシストを懲罰する。第四は、各黨派各人民團體から代表を選出し、國際宣傳團體を組織して、列國を周遊し、各國人民及び政府の同情心を喚起し、我國の外交に配合するに在る。第五に、凡ゆる同情國の中國に居る居留民及びその和平通商傳教等の事業を保護する。第六、華僑利益の保護に注意し、且つ華僑の努力によつて各國の反日投票運動を推進する。これらはすべて、假令各國の援助程度が如何に暫時的であり、増加が無く、甚しきに至つては出來るだけ減少しようとし、國際聯盟決議は依然一句の馳きよい話であらうとも、我々はこれらの事項に努力せねばならない。抗戦の長期性に基き、外交方針も亦長期性に著眼し、眼前の利益を重んぜず、將來の増援を重視すべきである。かゝる遠大な思慮は缺くべからざるものである。

(四) 中國と日本の兵民及び朝鮮臺灣等の被壓迫民族との反侵略統一戦線を樹立し共同して日本帝國主義に反對する

日本帝國主義の侵略戦争は、單に中華民族に危害を與へるのみならず、同時に日本全體の兵民及び、朝鮮臺灣等の被壓迫民族をも害するものであり、若し日本の侵略戦争を失敗せしめんとすれば、必ず中日二大民族の軍民大衆及び朝鮮臺灣等の被壓迫民族は廣大且堅固な共同努力をなし、共同の反侵略統一戦線を樹立せねばならない。この目的の爲に、全民族の第十二の任務は次の如くである。第一、兩國の人民兵士大衆及び朝鮮臺灣の民族に向つて、この反侵略統一戦線の方針を提出し、彼等を糾合してこの目的の爲に闘争せしめる。第二、政府が命令して總ゆる抗日軍隊抗日游撃隊の全官兵をして一律に必要な適當な内容の日本語を學習せしめ、高級政治部は日本語教員を準備し、各軍隊に派遣し、教授を實施せしめる。敵艦學習から日軍の官兵に對し一篇の道理を講し得るに至らしめる。全抗日官兵を教育して敵軍の全兵士下級將校に對して口頭宣傳をなし得るに至らしめ、同時に文字圖書による宣傳を以てこれを補ひ、漸次彼等を感化して、彼等に共同の反侵略統一戦線樹立に同意せしめ、百餘萬の日本侵略軍を變じて我が友軍となし、中國を徹底して、日本ファシストを打倒せしめる。第三、敵軍の俘虜を尊重し優待し、教育により、彼等を通じてその他の敵軍に影響を及ぼし反侵略統一戦線樹立に努力せしめる。第四、日本内地より反侵略的文化人を組織して中國に招き、この闘争に参加せしめる。第五、中國に在在する誠實な日本居留民を保護する。第六、我國の軍民大衆を教育し、二面民族的自尊心を高揚すると共に、他國軍隊及び人民中の一部誤まれる思想を糾正し、日本帝國主義と日本人民とを

二、新段階論

區別し、敵軍の將校と兵士とを區別し、上級將校と下級將校とを區別すべきである。上述の方針辦法を實行するには、絶大且堅固な努力を要し、これあつてこそ始めてこの反侵略統一戰線を樹立することが出来る。中國の勝利は主に自己の實行力の増加によるが、併し同時に敵の困苦と國際的援助とを必ず配合し顧みなければならない。敵の困苦窮乏に就いては我方の長期堅持によつて漸次に消耗せしめ、外交活動によつて敵を孤立に陥らしめるのみならず、日本兵民大衆及び朝鮮臺灣等の民族と共に共同反侵略戰線を樹立する政策も亦缺くべからざるものである。日本侵略戰爭が延長すればそれだけ、この統一戰線樹立の基礎が確立されるのである。

(三) 中華民族を團結して、一致して日本に當る

我々の抗日民族統一戰線は、國內の各黨派各階級のものである許りでなく、國內各民族のものである。敵は我國內の各少数民族を分裂せしめんとする計畫を既に實行し、又將來これを擴充せんとするが、これに對して當面せる第十三の任務は、各民族を團結して一體となし、共同して日寇に當ることである。この目的の爲には、必ず以下の各點に注意せねばならない。第一、蒙・回・藏・苗・瑶・夷・番の各民族と漢族とは平等の權利を有することを認め、又共同抗日原則の下に自治權を有し、同時に漢族と聯合して統一的國家を樹立することを認め、第二、各少数民族と漢族との雜居する地方に於ては該地政府は須らく當地の少数民族よりなる委員會を組織し、省政府の一部門となし、彼等に關係ある事務を管理し、各民族の關係を調節すべきであり、又省政府委員中に彼等の位置を設くべきである。第三、各少数民族の文化・宗教・習慣を尊重し、彼等に漢文漢語の學習を強制せざるのみならず、彼等各民族の固有言語文字による文化教育の進歩發展を援助すべきである。第四、現存する大漢族主義を是正し、漢人が平等的態度を以て各族と接觸すべきことを提唱し、日々親善ならしめ、同時に彼等を侮辱し輕蔑するが如き言語・文字及び行動を禁止する。上述の政策は一方に於て各少数民族が自己を團結して實現を圖るべきであるが、他方に於て政府が自主的に實施して始めて國內各民族の相互關係を徹底的に改善し、團結對外の目的を達することが出来る。懷柔などといふ舊い方法は通用しない。

(四) 煽動運動を進行し、前線及び後方を強化する

新しい形勢の下に於て、漢奸・敵探・トロツキスト・親日派は、必ずや以前より猖獗を極め、謠言捏造、貪汚行爲・分裂・破壞の陰謀を恣にするであらう。故に當面せる第十四の任務は、次の方法を實現し、煽動運動を進行することである。第一、前線後方を通じ總ての軍民の警戒

心を喚起し、漢奸・敵探・トロツキスト・親日派の活動を嚴重に監視し、政府の法令に照らして容赦なくこれを鎮壓する。第二、國家の機密保護に注意し、機密洩洩の徒を叛罪によつて處罰する。第三、學校教科書に煽動の課を加へ、警戒心高揚教育を實施する。第四、軍隊内に各級の煽動工作を管理する部門を設け、民衆團體及び人民自衛隊内に煽動小組を設け、國家警察は煽動教育を重視し、奸徒をして大衆の注視の下に潛伏し得ざらしめる。抗戰以來、これらの奸徒による損害は實に計り知るべからざるものがある。前線の將士は、異日同音に漢奸の作戦に及ぼす損害の大なるに驚嘆してゐる。銃後に於て、國家の機密を洩洩し、敵機を誘導することも亦中外の怒を買つてゐる。長期戦中に若し奸徒を肅正しなかつたらば、將來に於て戰勝を期待し得ない。廣大なる民衆の民族革命の覺悟性を發動し、上述の煽動辦法を勵行し、更にこれを廣泛な運動となすことは戰勝に缺くべからざる重要任務である。それには次のことを指摘しなければならない：即ち煽動運動には首謀者と従犯者、自覺的な者と騙された者、頑強な分子と動搖せる分子とを夫々區別し、前者は重く後者は軽く扱ひ、且つ後者の轉向爭取に注意し、決して一律に看做してはならないことである。尙ほ確實な證據に注意し、拷問を用ひず、甘言に乗らざるやう嚴に注意せねばならない。煽動の目的は眞の奸徒を肅正するにあり、正確な政策と正確な方法とを用ひて始めて、目的を達し得るのである。

(五) 國共兩黨及び各抗日黨派を發展せしめ、統一戰線を強化し、長期戰爭を支持する

前述せる各項の緊急任務は、抗日民族統一戰線に於て各黨派が各民族を推動し、蔣委員長の統一領導の下に堅實に實行することが必要である。而してこの目的を達するには、統一戰線内の各黨派の組織力量を發展させなければ駄目である。現有力量は、どの黨も過小であり發展を要する。而して國共兩黨の大々的發展が當面の緊急任務である。この發展的任務中に於て、各黨は總て互に他黨の發展を援助すべきであり、互に嫉視又は妨礙をしてはならない。抗日黨派でさへあれば如何なる黨の發展も總て抗日に有利なることを知らねばならない。統一戰線は國共兩黨を基礎とし、又兩黨の中國民族を主とすべきは勿論であり、我々はこの事實を承認せねばならない。故に、我々は蔣委員長及びその領導下の國民政府國民黨を擁護するものであり、全國に一致擁護を號召するものである。この主義を承認擁護すると同時に各黨を發展せしめることは、互に聯繫を保ち而も決して互に衝突しないことである。數量上に於て、私は國民黨を五百萬以上に發展させ、共產黨及びその他の黨派を百萬以上に發展させべきであると思ふ。偉大なる抗戰時代に當つて、四億五千萬の人口を有する大民族中に於て、數百萬の優秀分子を各抗日黨派に加入せしめることは、單に必須なるのみならず、完全に可能である。これが實現すれば、抗日民族統一戰線

は増大し、同時に益々鞏固になり、敵に戦勝する爲の凡ゆる任務の遂行は、充分保證せられ、長期戦争と長期合作とは支持され、日寇を逐し三民主義新中國を建設するといふ根本目的は、達成せられざるを思へなくともよい。

五 長期戦争と長期合作

今、我々は専ら抗日民族戦線の長期性の問題に就いて討論し、國共兩黨の關係に異常な關心を有する人士の抱く許多の疑問に對して、一般的な解答を與へよう。この點、即ち抗日民族統一戦線の強化擴大、國共合作の強化擴大に對し、當面せる緊急任務を順次實行し、戦争の機關を突破すること、これは重要な意義を有するものである。

問題の所在は次の各項である。：即ち戦争の長期性は合作の長期性を決定し、戦争中の合作は戦争後の合作を決定する。長期合作の内容と主要條件、三民主義と共產主義・長期合作の組織形式、長期合作中の互助互讓政策、民主共和國問題等これである。これらは皆多數人士の關心を有する所にして、我々は皆これに明確な解答を與へねばならない。

(1) 戦争の長期性は合作の長期性を決定する
抗日戦争の長期性により、全抗日民族統一戦線も亦長期的であることが出来、且つ必ずさうあらねばならない。その主要な二黨——國民黨と共産黨の合作も、亦長期的であることが出来且つ必ずさうあらねばならない。これは凡ゆる政策の出発點である。故に我々の政策は、如何にしても長期的民族統一戦線を要し、長期合作を要する。又如何にしても一個の統一政府を共同して維持し、粉岐と分裂に反對するを要する。而して始めて戦争の機關の突破、敵側の破壞との抗争、日本帝國主義の打倒、竝に戦後に於ける新中國建設の任務完成に利あらしめることが出来る。これは一九二四年から一九二七年に至る間の國共合作と根本的に異なる所以のものである。前のは短期的のものであり、今次のは長期的のものである。

(2) 戦争中に於ける合作は戦争後の合作を決定する
所謂長期合作は、戦争中のものであるのみならず、戦争後のものでもある。抗日戦争は長期的なものであり、戦争中の合作も亦長期的である。

なければならぬ。併し尙ほ不十分であり、我々は合作の續行を希望し、又必ず合作を繼續せねばならない。これは如何なる保證をもつものであるか？保證は、即ち戦争中の合作は戦争後の合作を決定することにある。抗日民族統一戦線中の主要な國共兩黨は、患難を同じくし、生死を共にし、進歩に努力すべきであり、且つ長期の努力によつて始めて日本帝國主義を打倒することが出来、然らざればそれは不可能である。戦争後、かく長期に互つて患難を共にし、進歩した兩黨は合作を繼續する基礎をもつものである。その際に於ける國內的國際的條件は更に合作に有利なるであらうことは、現在に於ても想像し得る所である。疑ひもなく、戦争中の合作には必ずその各段階の内容を有し、戦争後の合作は更に新しい内容を有する。併しながら戦争中の合作は、戦争後も亦合作し得ることを決定する。これは根據のない豫測では決してない。

(3) 長期合作の内容と主要條件

所謂長期合作とは即ち長期的民族統一戦線である。資本家より工人に至る凡ゆる階級、國民黨より共産黨に至る凡ゆる政黨、漢族より苗族等の弱小民族に至る凡ゆる民族、中央軍より八路軍に至る凡ゆる軍隊、國民政府より陝甘寧邊區政府に至る凡ゆる政府は叛徒以外すべてこれに屬し、而も長期に互つてこれに屬するのである。民族統一戦線内に於て、長期の戦争中には、耐えられない困苦の闘争に當面して、或は個人的利益が全體的利益より大きくなる時或る者は民族的叛徒に變ることがある。故に民族統一戦線はかかる叛徒を不斷に除外せねばならない。併し彼等を除外しても依然として民族統一戦線たるに變りはない。何となれば、長期合作の主要條件は先づ敵側の戦争の野蠻性と長期性である。敵側の戦争の野蠻性は、嚴重に全民族各階級の生存を危くする。かくて上層階級をしてその他の階級と共に抗日の一途をとらざるを得ざらしめる。上層階級中の一部分が抗日戦線を脱出するのは免れ難い所であるが、併しその他の部分及びその他の階級は大體同じ様に壓迫を受け、反抗以外に出路がないのである。又かかる野蠻な戦争が長期的であることは合作が長期的であることを決定する。これらは長期合作を決定する一方面的である。併し尙ほ第一の方面がある。即ち合作中の各黨、即ち國共兩黨が先づ正確なる政策を採用し、必要な工作を實施すべきことである。如何なる政策と工作を施すべきか？長期戦争と長期合作の基點より出發して規定し實行する所の政策並に工作でなければならぬ。現在を顧慮し且將來をも顧慮し、この階級を顧慮し、あの階級を顧慮し、この黨派を顧慮しあの黨派を顧慮し、この軍隊を顧慮し、あの軍隊を顧慮し、この民族を顧慮し、あの民族を顧慮する所の政策並に工作でなければならぬ。然らざれば政策は

二、新段階論

不正になり、工作は行はれなくなり、自ら秩序が亂れて、合作の持久を困難ならしめる。かくの如く、一方に於て敵側の戦争の野蠻性と長期性があり、他方に於て統一戦線中の正確な政策と必要な工作が中国の民族統一戦線をして長期的であることを必要ならしめるばかりでなく更にこれを可能ならしめる。これは人民戦線に非ず、民族戦線である。これは戦争後に分裂し内戦する国共合作を企圖するに非ず、戦争中及び戦争後に於ける国共合作を包括するものであり、戦後に於て分裂したり内戦したりする国共合作ではない。

(4) 三民主義と共産主義

三民主義に抗日民族統一戦線と国共合作との政治基礎であるが、併し乍ら三民主義と共産主義との関係はどうであるか？共産黨員は三民主義に對して如何なる態度をとるべきであるか？現在に至るもまだ明確に認識してゐない者がある。故にもう一度解釋をする必要がある。一九三七年五月に開かれた我黨の臨時代表大會に於て、次の如き「三民主義進行」に關する提議が通過した。

「共産黨は三民主義に同意しないか？我々の解答は同意するである。三民主義にはその歴史的变化がある。孫中山先生の革命的三民主義は、曾ては共産黨との合作と勵乎たる執行とによつて、人民の信用を得て、一九二五——二七年の勝利の大革命を贏ち得たのである。又曾て共産黨排斥（清黨運動）により、相反する政策を實行して、人民の信用を失ひ、革命の失敗を招來したのである。現在は民族危機と社會の危機とは極めて嚴重であり、それが爲全國の人民と國民黨内の愛國分子とは、兩黨の合作を切實に望んでゐる。故に新しく三民主義の精神を整理し、對外的には獨立解放の民族主義であり、對内的には民主自由の民權主義であり、更に人民の幸福を増進する民生主義であることに於て兩黨は改めて合作し、人民を領導して確實に實行せしめることは、完全に中國革命の歴史的要求に適合するものであり、共産黨員は誰でもこれを明白に認識せねばならない。共産黨は決してその社會主義と共産主義との理想を抛棄せず、彼等は資産階級の民主革命段階を経て、社會主義的且つ共産主義的段階に到達せんとするものである。共産黨は自己の黨綱と政綱とを有し、その黨綱は社會主義及び共産主義であり、これは三民主義と區別されるべきものである。その民主的の革命政綱も亦國內の如何なる黨派よりも徹底してゐる。併し國民黨の第一次及び第二次代表大會に於て宣佈せる三民主義綱領に對しては、根本的には相衝突しないものである。故に我々は三民主義を擁護せざるのみならず、却つて三民主義を確實に實行せんと欲するものであり、且つ國民黨に我々と共に三民主義を實行せんことを要求し、且つ全國人民に三民主義の實行を號召し、國民黨、共産黨、全國人民は共同一致して民族獨立・民權自由・民生幸福のこの三大目標の爲に奮闘しなければならぬ。」

開しなければならぬ。」（中國抗日民族統一戦線の現段階に於ける任務。第十一項）

昨年九月二十二日、我黨の中央は國共合作成立の宣言中に重ねて言つてゐる、『孫中山先生の三民主義は中國が今日必需してゐるものであり、我が黨はその徹底實現の爲に奮闘せんと欲するものである。』と。

共産主義の政黨は何故かゝる態度をとるか？非常に明顯である。民族獨立・民權自由及び民生幸福は共産黨の民族民主革命段階に於て實現せんとする總目標であり、全國人民が實現せんとする總目標でもあり、決して或る黨派が單獨に要求するものではないからである。若し共産黨生以來の文獻を見れば、その政治綱領は自ら明かである。故に、過去に於て、一九二四年から二七年に至る第一次國共合作時期に、我々共産黨員は三民主義を確實に實行したばかりでなく、一九二七年兩黨の合作が不幸にも分裂した後に於ても、我々のとつた凡ゆる行動は三民主義に違背するものではなかつた。當時、我々は斷乎帝國主義に反對したが、これは民族主義に符合するものである。我々は人民代表會議の政治制度を實行したが、これは民權主義に符合するものである。我々は又『耕者有其田』の土地制度を實行したが、これは民生主義に符合するものである。當時、我々の採つた凡ゆる方法は決して資産階級の民主革命の基本範疇である私有財産制を超越するものではなかつた。現在の抗戰段階及び戦後の徹底的に完成した民主共和の段階は皆三民主義的段階であり、皆資産階級の民主革命的性質の段階である。この民主革命段階の任務を徹底的に完成する爲には、凡ゆる共産黨員は疑ひもなく、自己の一貫せる革命方針及び自己の決議と宣言に基づき、中國國民黨、全國のその他の黨派及び全國の人民と共に、誠心誠意三民主義を實行すべきである。誰が三民主義の信奉と實行とに忠實でないことがあらうか。誰が口が是であり心が非であり、表裏一致しないものがあらうか。誰が忠實なマルクス主義者でなからうか。中國に於て、忠實なるマルクス主義者は誰でも、現時の實際任務と將來の遠大な理想といふ二つの責任を同時に兼備するものである。又まさに理解すべきことは：現時の實際任務が出来ただけ徹底的に完成されて始めて根據をもち基礎をもつて、將來の遠大な理想的段階に發展することが出来る。所謂將來の遠大な理想とは、共産主義であり、これは人類の最も立派な社會制度であり、孫中山先生も亦曾て必ずこれを實行することにより、始めて將來の社會問題を解決することが出来るものと認めたものである。所謂現在の實際的任務とは、即ち三民主義であり、これは「國際的地位の平等を求め、政治的地位の平等を求め、經濟的地位の平等を求め」ところの現段階の基本任務であり、國共兩黨及び全國の人民との共同要求である。故に共産黨員は彼等が共産主義を研究すると同様に十分三民主義を研究し、マルクス主義的

眼光を以て、三民主義の理論を研究し、如何に三民主義を具體的に實施するかを研究し、如何に正確な三民主義思想を人民大衆に教育し、これを了解せしめることにより、積極行動に移らしめ、以て日本帝國主義を打倒し、三民主義新中國の建設の爲に闘争せしめる機研究しなければならぬ。

(5) 長期合作の組織形式

長期合作を保障する爲には、合作の組織形式問題を解決しなければならぬ。我々は曾て一黨主義を批判し反駁したが、過去の歴史に就いても、現在の任務に就いても又中國社會の性質に就いても、所謂一黨主義は根據なく、實行不可能であり、一致團結して抗日建國の大目標に邁進し、百害あつて一利もないものであるとなした。然らば各黨共存し、互に結合して一個の抗日民族統一戰線を形成するには、一種の統一的共同の組織を必要としないか？必要である、絶対に必要である。若しかかる統一的共同の組織がなければ、抗日團結に不利であり、長期合作には更に不利である。故に各黨は眞面目にこれを研究し、長期合作に最も適した統一的共同の組織形式を求めねばならぬ。今我々は之を研究しなければならぬ。

中國政治經濟及び各黨派の歴史の特點により、今日見るが如く、抗日民族統一戰線は次の如き三種の組織形式をもつことが出来る。

- 第一、國民黨自體を民族聯盟に變へ、各黨派を國民黨に加入させ而もその獨立性を保存する。併し第一次國共合作とは異なる。もし國民黨が共產黨員の加入に同意するならば、我々は如何なる態度を取るべきか？先づ我々はかかる方法に賛成するものである。何となればこれは抗日民族統一戰線の最良の統一組織形式であり、抗日建國に有利なるが故である。共產黨のみならずその他如何なる黨派の國民黨加入も、國民黨の同意がありさへすれば、我々は決して反對するものではない。斯くの如くすれば我々は十三年の合作とは異なる方法を實行することが出来る。即ち第一、凡ゆる共產黨員は公開的に國民黨に加入することが出来、加入黨員の姓名を國民黨の領導機關に交附する。第二、如何なる國民黨員も共產黨に加入することを拒絶し、もし加入を希望する者あらば、彼等に大同を願ふべきことを勧め、その加入を拒絶する。第三、我々の青年黨員が國民黨の同意を得て三民主義青年團に加入する場合も同様にして、秘密黨團を組織せず、又非共產黨員の加入も拒絶する。かかる方法を用ひてこそ全體が安んずるを得、利あつて害なきを得る。これ即ち第一種の統一戰線の組織形式である。
- 第二種の統一戰線の組織形式は、各黨が共同して民族聯盟を組織し、蔣介石先生をこの聯盟の最高領袖に推戴し、各黨は平等の形式を以て互に代表を派遣し、中央及び地方の各級共同委員會を組織し、共同綱領の執行、共同事務の處理の爲に努力する。これも亦非常に立派な形式であり、我々も亦これに賛成を表明するものである。かかる形式は、我々が非常に早くから提議した所であるが、惜しい哉未だに實行されずにある。

第三種の統一戰線の組織形式は、即ち現在の方法であり、成文を具へず、固定を要せず、事件の發生する度に協議し、以て兩黨に關係ある問題を解決する。併しかかる形式は餘りにも密切でなく、幾多の問題は適當な時期を得た解決をなされない。例へば多くの大政方針の遂行、下級機關問題の調整は、皆固定組織がない爲、遷延し、従つてかかる方法は長期合作に不利である。併し乍ら第一第二の辦法が行はれないときは、この辦法を暫時用ふるのも止むを得ない。

要するに長期合作に於て組織形式の問題は一重要問題である。我々はある統一形式を具へこれをして長期合作に利せしめることに極力賛成するものである。

(6) 長期合作中の互助互讓政策

長期合作が長期の統一戰線を要することは既に述べたが、これは凡ゆる政策の出発點である。故に共產黨員はその工作中に於て、又その友黨との間に發生した關係中に於て、到る處何時でもこの長期性といふことを顧みねばならぬ。凡そ長期合作に有利なことは斷乎として勇敢に爲すべきであり、不利なことは決して爲してはならない。

こゝに各黨間の互助互讓問題が発生する。互助に就ていへば、例へば各黨は皆發展し、皆鞏固にならねばならない。従つて如何なる一黨も自己を發展強化せしめるのみならず、友黨の發展強化に對しても贊助的態度を取らねばならない。國民黨の發展と強化に對して、共產黨員は如何なる態度を取るべきか？一言にして言へば、これを贊助することである。その理由は國民黨の發展強化は抗日戰爭に有利であり、更に全民族に有利であり、従つて労働人民及び共產黨にも有利なることは既に述べた。現在國民黨は三民主義青年團を組織してゐるが、これに對し共產黨員は如何なる態度を取るべきか？疑ひもなく、贊助的態度をとるべきである。我々は三民主義青年團が廣大な發展を遂げ、蔣介石先生の三民主義青年團に關する宣言に基いて行動し、該團の發展の前途に光明あらんことを希望するものである。正に贊助するが故に、我々は該團の現行辦法中のある事項に對して、修正されんことを希望する。然らざれば、立派な勳も、立派な結果を得難くな

るであらう。三民主義青年團は全國の廣大な青年大衆を救國の統一組織に團結せしめ、各黨派各界の青年個人及び青年團體を吸収し加入せしめ、全青年を集中的に民族革命的教育訓練を受けしめる所の一大集團たらしめるべきである。故に組織上は民主化させるべく、政治上は團員の自動自覺精神を發揚し、青年群衆の積極性を發揚すべきである。これ即ち我々の三民主義青年團に對する態度及び意見である。

互助は互害ではない。人を損ひ己を利することは個人道徳に於ても間違ひであるが、民族道徳に於ては更に間違ひである。故に理由なき磨滅、甚しきに至つては監禁殺人等は、如何なることがあつても許されぬ。共產黨員はかかる態度を以て友黨に對してはならない。而して若し友黨がかかる態度を以て我に對する時は、我々も亦決して容認する様なことはしない。凡そ不合理な事には嚴正なる態度を以てこれに對處せねばならない。かくてこそ自己を立て人を遇する正道たるを得る。互に過を諷めることは、友人間の美德であり、政黨間にも提唱さるべき作風である。

統一戰線中に如何なる互諒があるか。我々は曾つて政治上に於て讓歩したことがある。即ち土地の沒收を停止し、赤軍を改編し、ソヴエト風制度を改變した。これは一種の政治上の讓歩であり、統一戰線を樹立し、全民族を團結し共同して敵に當る爲に必要な段階であつたが爲である。我々の友黨も亦讓歩した。それは共產黨の合法的地位を承認すること等である。これらは團結抗日の爲であり、長期合作の互諒政策の爲であつて、非常に妥當な行爲であつた。たゞ政治上に暗いものや他に當面する所ある者は言ふ。…共產黨は國民黨に投降したとか國民黨は共產黨に投降したと。

現在我々は又凡ゆる各統一戰線中の黨派は、互に他黨の内部に於て黨員を募集し、支部を組織し、秘密活動を進行したりしないことを主張する。我々はかかる政策が必要なのであることを認める。現在は當然過去と異なるのである。過去の内戰時代には、國共兩黨は表面的な戰爭以外に互に秘密手段を用ひて、相手を破壊せんとする活動を進行してゐた。合作後は、當然互に破壞的動機及び行爲があつてはならない。又他黨の内部に於て秘密裡に黨員を募集し、支部を組織する方法は停止すべきであり、彼此互に安心せしめて始めて長期戰爭中に於ける長期合作の目的に適合することが出来る。我々は現在正式に國民黨同志に向つて宣明する。我々は諸君の内部に於て黨員を募集し支部を組織するが如き活動を停止し、統一戰線が如何なる共同組織形式を探らうとも、我々は皆かくするであらう。併し同時に、諸君もかくする

ことを希望する。双方約定の後に於て下級黨員が若しこれに違背する様なことがあれば、違背せる側の上級黨員が責任を以て處断する。この外、双方の同志の接觸には、謙讓・尊敬・協同的態度を探り、傲慢・輕視・獨斷的態度を探らず、以て双方の關係を改善する。これも亦必要である。

我々の説く所は總て、共產黨員が先づ實行すべきであり、相手の誰が同様な政策方法態度を以つて我々に對さなくてもかまはない。我々はやはりかかる態度を取らねばならぬ。然らば長い間には相手の一時は理解出来なかつたものも理解して来るであらう。

共產黨員は凡ゆる國家及び人民の爲の事業に對して、自己の立場を堅持し、終始變ることなく日寇に戰勝し、新中國を建設する方向に向つて努力せねばならない。かかる立場、かかる方向に違背する者は、誰でも共產黨員たる資格を喪失する。併し共產黨員は又互助互諒の精神を有すべきであり、友黨を尊重し友黨の同志と、謙讓協同的態度を以て問題を解決する精神を有さねばならない。又凡ゆる友黨同志の居る地方に於ては、彼等と協同してこの關係ある問題を解決すべきであり、獨斷であつてはならない、かかる精神なくしては、統一戰線を鞏固にすることが出来ず、所謂國家人民の爲の事業、日寇に戰勝し新中國を建設するといふ目的は達成せられないであらう。故に必要な互諒政策を消極行爲であると解釋することは決して出来ない。互助が積極的であるばかりでなく、互諒も亦積極的である。何となれば必要な讓歩は、兩黨の合作を鞏固にし、更によく團結させ、更に大きな進歩を得る爲の缺くべからざる條件だからである。

(7) 民主共和國問題

我が黨は一九三六年の九月に、民主共和國建立に關する決議案を公布し、又中央同志も曾つてこの問題に關し、説明を加へ來つたが、外部に於ては我々の主張に對して尙ほ多くの疑問を抱いてゐる。これは抗戰前途に關する問題である。抗戰の結果はどうなるか？所謂抗戰建國は、共產黨の意志によれば、究局に於て如何なる國を建設せんとするものであるか？これは現存せる問題である。今一度この問題を解釋することは、各黨各派の長期合作にとり利益がある。

如何なる國家を建設すべきか？一言にして答へれば、三民主義共和國の建設である。

我々の所謂民主共和國とは三民主義共和國であり、その性質は三民主義的なものである。孫中山先生の言によれば、即ち「國際地位の平等を求め、政治地位の平等を求め、經濟地位の平等を求め」所の國家である。第一、この國家は民族主義的國家である。これは獨立國で

あり、それは如何なる外國の干渉を受けず、同時に又如何なる外國にも干渉せざる國家である。即ち中國從來の半植民地的地位を離脱し、獨立せるものである。併し同時に勿論如何に強大となつても決して自己を帝國主義に變せず、平等精神を以て中國の獨立を尊重する凡ゆる友邦と平和的に往來し、共存互恵を圖るものである。國內各民族に對しては、平等權を與へ、自發的に相互に團結するを原則とし、統一の政府を建設する。第二、この國家は民権主義的國家である。國內人民の政治地位は一律平等であり、各級官吏は民選であり、政治制度は民主集中制であり、人民代表會議である國會及び地方議會を設立し、十八歳以上の公民は犯罪者を除外し、階級・男女・民族・信仰及び文化程度を區別せず、皆選舉權及び被選舉權を有する。國家は人民に言論・出版・集會・結社・信仰・居住・移轉の自由を與へ、且つ政治上物質上これを保護する。第三、この國家は民生主義的國家である。これは私有財産制を否認しない。併し勞働者には職を與へ、労働條件を改良する。農民には土地を與へ、苛捐雜稅重租重利を廢除する。學生には就學の機會を與へ、貧窮者の入學を保證する。その他の各界も皆その職を得させ、その力を充分に發揮せしめる。一言を以て言へば、人々をして着るに衣類あり、食ふに食糧あり、讀むに書籍あり、寫すに仕事あらしめることである。我々の所謂民主共和國とは、かゝる國家であり、真正三民主義の中華民國である。ソヴェートでもなく、社會主義でもない。

中國がかゝる國家になる爲には、誰と鬭争せねばならないか？即ち日本帝國主義と鬭争せねばならないのである。日本帝國主義は我々の獨立を窮乏したが、我々は彼に對して獨立を要求せねばならない。日本帝國主義は我々を奴隷にしたが、我々は彼に對し自由を要求せねばならない。日本帝國主義は我々を飢饉線に陥らしめたが、我々は彼に對し食ふべき食物を要求せねばならない。如何になすべきか？銃口を以て彼に要求するのである。一言にして言へば、日本帝國主義を驅逐して、始めて獨立自由幸福の三民主義新中華民國を建設し得るのである。

六 中國の反侵略戦争と世界の反ファシズム運動

(1) 中國と世界とは不可分である

中國は既に世界と緊密に一體をなして居り、日支事變も世界戦争の一環をなしてゐる。従つて中國抗日戦争は世界から孤立することは出来ぬ。若し新しい抗戰形勢中に於て暫時一部の外國の援助を減少せしめることが出来るならば、それは中國自力更生の意義を大ならしめるものであり、中國は如何なる時に於ても自力更生を基本立脚點にしなければならぬ。我々は閉門主義者であり得ないばかりでなく、中國も最早閉門してゐることは出来ない。現在は更に世界的な帝國主義が戦争手段に訴へて全中國に向つて進進してゐるのだ。全中國人は皆、世界と中國との關係に注意しなければならぬ、特に目前の歐洲戰局の變動に注意しなければならぬ。故に我々が當面せる國際情勢を分析することは有意義なことである。

(2) 世界再分割の第二次世界大戦は既に開始せられた

資本帝國主義の本質は、單に本國人民大衆と矛盾してゐるばかりでなく、植民地半植民地とも矛盾して居り、社會主義國家とも矛盾してゐる。この最後の矛盾が歴史上最も尖鋭な表現を以て現れたのは、二十年前の世界大戦であつた。その兩帝國主義間の戦争の結果は、新しい國際形勢を展開した。戦後の世界政治經濟の新しい發展の結果は、世界を新しい大戦に直向させた。東方に於ける日寇の東四省(滿洲)侵略と、西方に於けるヒトラー登場後、新しい世界再分割戦争は既に開始せられた。『ファシズムとは戦争である』といふ事には些かも誤はない。この情勢の下に於て、一方に於ては日獨伊が侵略擴張を構成して、大規模の侵略を實行した。他方に於て各民主國家は保守により利益を得んとし和平の名義の下に戦争を準備した。併し今日に至るも實力によつて侵略者を制裁しようとする。特に英國の妥協政策は實際上侵略者を援助するものである。かゝる情況の下に於て、中國東四省は先づ犠牲に供せられ、次いでアビシニヤが伊太利に滅亡させられ、スペインは叛軍の氣を助長させ、中國も亦日寇の新しい大規模な侵略を受けた。最近に至り、オーストリア及びチェッコも亦前後してヒトラーの犠牲になつた。全世界人口中六位は戦争の渦中に捲き込まれ、その範圍は亞細亞、アフリカ、歐洲に及んだ。これは新しい世界戦争の現狀である。

(3) 現在世界戦争の特徴

一方に於ける日獨伊等のファシズム國家の斷乎たる侵略意思と、他方に於ける各民主國家の實力制裁を願はざる、特に英國の如き妥協政策とは、新しい世界戦争の現狀が第一次世界大戦と異つた特點を表現して居り、これは先づ中間國家を侵略し、各種不同の戦争形式

を採つた。中國、アビシニヤ、スペイン、オーストリア、チエツコ等の國家は、皆半獨立國家又は小國であり、日獨伊諸國は、これ等肥肉を搦んで先づ併呑した。かかる中間國家の侵略に於て、侵略者は三種の特殊な戦争形式を採つた。第一種は日本對中國、伊太利對アビシニヤの戦争であり、これは公開的直接的な大規模戦争である。併し乍ら宣戰せざる形式の下に進行せられたものであり、戦争史上に一新紀元を畫するものである。かゝる宣戰なき戦争政策を採つた目的は、侵略者が各民主國家の制裁意氣なき、特に英國の妥協政策を利用して、暫時彼等と直接衝突するのを避け、中間國家の行動を奪ふに便ならしめようとするに在る。第二種は獨伊兩國のスペイン侵略の方式であり、叛軍援助の方法を採用するものであり、これは歴史的に古い方法の蒸し返しであり、歴史上かゝる方法は現れたことがある。第三種はヒットラーのオーストリア、チエツコ兩國侵略の方式であり、こゝには戦争の表現はなかつた(戦争は行はれなかつた)が、併し戦争と同じであり、強大な兵力を出動させオーストリア全部とチエツコの一部とを占領し、チエツコの他の部分はその統制下に歸屬した。これは戦争はせずして他國を滅亡させる最も巧妙な方法である。これら三種の戦争形式の採用は、皆一方に於て侵略國自身の力がまだ不十分であり、暫時各大國と直接的に戦争しないために採つた巧妙な戦争方法であり、自己を先づ壯大にして、同時に各大國の力を弱めんと企圖するものであり、更に各大國と作戦するであらう。他方は、各民主國家は侵略者の制裁を願はず、特に英國の怯懦な妥協政策の結果であり、かゝる政策は實際上侵略者を援助し、その各中間國家の侵略を益するものである。

(4) 英國の妥協政策は、フラスシズム各國をして更に大規模の戦争を實行させるであらう。

チエンパレンが首相であつた英國保守黨内閣は、正に漸次所謂四強合作政策を進行せしめて居り、ミュンヘン協定の後、歐洲政局は暫時逆轉の可能性があつた。英國保守黨の政策は大部分常にソ聯を排斥し獨伊と妥協するのが原則であつた。彼等はソ聯が強盛になるのを恐れ、自己が過早に戦争に捲込まれるのを恐れ、本國人民運動と植民地獨立運動を恐れ、夙にスペイン、オーストリア、チエツコ等の國を犠牲にせんと決心して、ソ聯を排斥し、獨伊と妥協せんとする企圖を成就した。過去に於ては保守黨内部の不統一、佛蘭西人民戦線の積極政策、國內國際輿論の非難により、成功しなかつた。併し現在では英國及び全歐洲人民の戦争回避心理を利用し、佛蘭西フアラントン黨の右傾を利用して、ヒットラーの威嚇下に、ミュンヘン協定を訂結した。この協定は英國妥協政策の結果であり、假令英國がその政策を改變しなくとも、大勢はフラスシズム各國を誘つて大規模な冒險戦争を進行した。各大國間の戦争は暫時爆發せず、暫時中間國家侵略の過程に

止まり、それを續けてゐるが、併し大勢の趨く所最後には必ず各大國は空前未有の殘酷な戦争に捲き込まれるであらうことは、疑ふ餘地も無い前途である。「石を動かして自分の脚を傷つける」、これはチエンパレンの政策の必然的結果である。

(5) 全世界人類の大多数は逐次動員せられつゝある。

資本主義各國に於ては、經濟的軍大危機に臨み、資本主義は既に全然出路を失つてしまつた。六億の人口を擁する戦争は全世界に影響を及ぼし、新しい擴大せられた戦争は全人類を威脅した。社會主義國家方面に於ては、凡ゆるものは光明的進歩的強盛である。かかる二種の相反する對比の下に於て、全世界の大多数の人類は逐次如何にして自己を保護し、自己を解放するかの方向を捜し、正に空前の大きさと未曾有の深刻さとを以て逐次自己を團結し、闘争を準備してゐる。第一次世界大戦以後二十年間に、社會主義國家は強盛になり、資本主義國家は衰落した。六七年來フラスシズム國家の侵略戦争、中國の偉大なる抗日戦争、スペインの人民戦争乃至チエンパレンの妥協政策等には、漸次に英佛等の國家及び全世界の人民を教育し、彼等をして組織と闘争によつてのみ出路を得ることが出来、世界の凡ゆる解放を求めてゐる人類を一體に團結させ、世界の人民と被壓迫民族の統一戦線を持つことにより始めて出路を得ることが出来る。この全世界人民の覺悟・組織・闘争と統一戦線の偉大なる過程は進歩發展しつゝある。併し非常な艱苦努力によつて始めて完成することが出来るのである。フラスシズムの戦争威脅とチエンパレンの妥協政策とは、最後に偉大な反抗に遭遇することは疑の餘地のない所であり、フラスシズム戦争とチエンパレン政策の必然的な結果でもある。

(6) 中國の反侵略戦争と世界の反フラスシズム運動の配合

諸君が皆知つてゐる様に、過去に於ける各民主國家は或程度に於て皆中國を援助してゐたが、その主要なものは人民の中國に對する同情であつた。ソ聯の援助はそれらに較べて更に積極的であつた。現在に於ては日寇の進攻が深入りして居り、更に英米佛ソの日本に對する矛盾が深められてゐる。けれども英國は西方の妥協政策を東方にまでも持つて來て、日本の占領地區内に於て商業を多少なりとも保存しようとする企圖し、日本の南洋に對する威脅を軽減しようとする。英國は日本と或る程度の妥協をすることは可能であるが、併し根本的に妥協することは困難である。少くとも暫くは困難である。これは日本の獨占政策の結果であり、東方問題と西方問題とは當面の具體的情況の下に於ては或る程度の區別がある。日本が深く進攻して來れば、それだけ日米間の矛盾は深まり、ソ聯と中國との友誼は増長し、中米ソ三國

二、新段階

は一層親密になることが出来る。併し我々が第一に忘れてならないことは資本主義國家と社會主義國家の區別であり、第二に忘れてならないことは資本主義國家の政府と資本主義國家の人民との區別であり、第三にもつと忘るべからざることは、現在と將來との區別であり、我々は前者に對して過高の希望を寄せるべきではない。必ず努力して前者の凡ゆる可能な援助を爭取すべきであり、或る程度上に於ては可能であるばかりではなく、事實である。併し過高の希望は不適當である。中華民族解放運動と外援との配合、特に先進國家と全世界の廣大な人民の反ファシズム運動の將來との配合は、自力更生を主とすると同時に、外援爭取の方針を忽ち捨て去るべきではなく、かゝる基點の上に立つべきである。

七 中國共產黨の民族戰爭中に於ける地位

(1) 問題の性質

同志諸君——我々は光明ある前途を有してゐる。即ち中國は必ず日本帝國主義に戰勝すべきであり、彼に戰勝することが出来る。併し現在からこの光明に到達する間には、一段と艱難な路程が存在してゐる。光明ある中國の爲に闘争する我々と全民族とは、必ず一步一步日寇の暗黒勢力と作戦しなければならぬ。彼に戰勝する爲には、長期戰爭を經過することあるのみである。この戰爭中に、共產黨員は如何なる地位にあるであらうか？彼等はどうか？最善の努力を盡すことが出来るか？抗戰以來の經驗を總結し、當面の形勢も考察し、全民族の緊急任務も提出し、長期合作により長期戰爭を支持する理論と方法も説明し、國際形勢も分析した。それでは、尚ほ何かあるか？同志諸君！その一點とは中國共產黨が民族戰爭中に於て如何なる地位を占めるかといふ問題であり、これは共產黨員は如何に自己を認識し、自己を加強し、自己を團結することによつて民族戰爭中に於ける自己の最大責任を盡すかといふ問題である。

(2) 愛國主義と國際主義

國際主義的な共產黨員は、同時に亦愛國主義者であり得るかどうか？それは可能であり、さうすべきであり、何等かの歴史的條件によつて決定するものである。日本侵略者やヒットラーの愛國主義もあれば、我々の愛國主義もある。日本侵略者やヒットラーに對して、共產黨

員は斷乎として所謂愛國主義に反對するものであり、日本共產黨や獨逸共產黨は皆敗戦主義者であり、凡ゆる方法を用ひて日本侵略者やヒットラーに敗戦せしめ、敗戦が徹底的であればある程よいとしてゐる。日本共產黨や獨逸共產黨は皆かくすべきであり、又正にかくしてゐる。理由は、日本侵略者やヒットラーの戰爭は世界人民を侵略しその本國人民をも侵害する。我々にとつて、愛國主義と國際主義は實に結合して居り、我々の口號は祖國保衛、侵略者反對の爲に戰ふものである。我々にとつて、敗戦主義は罪惡であり、全力を擧げて蔣委員長と國民政府とを援助することを以て天職とするものであり、責任を他に轉嫁せず、こゝに於ては些かの消極性も有り得ない。理由は、祖國保衛の爲に戰つてのみ全民族を水火から救出し得るからであり、全民族の解放があつて始めて無産階級と勞働人民の解放があるからであり、愛國主義は國際主義の民族革命中に於ける實踐である。この理由により、各共產黨員は必ずその凡ゆる積極性を發揮し、民族革命戰爭の戰場を廣げ、各統口を日本侵略者に向け、如何なる消極性をも許容すべきではない。必ず全力を盡して友黨友軍を援助し、如何なる日和見的な心理も許容すべきではない。この理由により、我々は九一八事變開始以來、民族自衛戰爭を以て日本侵略者に反抗する口號として提出したが、その後又抗日民族統一戰線を提唱し、堅持し、紅軍を改編して抗日的國民革命軍として前線に赴かせ、自黨の黨員に命令して最前線へ行かせ、祖國保衛の爲最後の一滴の血まで流させた。かゝる行爲、かゝる愛國主義はすべて正當であり、當然であり、必須であり、正に國際主義の中國に於ける發揮であり、些かも國際主義に違背するものではない。唯政治的に偏見し又は別に意圖する所のあるもののみが眼を閉ちて我々の行爲が間違つてゐると出鱈目を言ひ、我々が國際主義を擁護するものであると言ふ。

(3) 共產黨員の民族戰爭中に於ける模範作用

上述の理由に基き、共產黨員は民族戰爭に於て高度の積極性を表現すべきであり、而してかゝる積極性は之を具體的に各方面に表現すべきである。即ち各方面に於てその先鋒的模範的作用を起すべきである。我々のかゝる戰爭は困難な環境の中で進行せられるものである。かゝる困難な環境の下に於て、我民族の廣大にして活潑な力量は、今日に至るも尚ほ發動を開始したばかりであり、大多數民衆の民族覺悟、民族自尊心及び自信は不足して居り、大多數民衆の無組織、軍力の不堅強、經濟の落後、政治的不民主化及び腐敗現象と種種情弊は、存在して居り、統一戰線内部の團結の鞏固さは不足して居り、これらは皆困難な環境を形成する主要原因である。かゝる原因により、共產黨員は全民族を團結させ、落後を救済するといふ重大責任を自覺的に負擔せざるを得ない。茲に於て、共產黨員の先鋒作用と模範作用とは十分

重要なものになる。八路軍と新四軍とは英勇作戦の模範となり、命令執行の模範となり、規律の模範となり、政治工作の模範となり、内部團結統一の模範とならなければならない。共產黨員は友黨友軍と發生した關係中に於て、統一團結の立場を堅持し、統一戰線の綱領を堅持し、抗戰任務實行の模範となるべきである。言は必ず信あり、行は必ず果し、傲慢なる態度をとつてはならない、誠心誠意友黨友軍と問題を協議し、工作を協同し、統一戰線中各黨相互關係の模範となるべきである。共產黨員は政府工作中に於て、十分廉潔であり、私人を用ひず、多く工作をなし、報酬を少し取る模範となるべきである。共產黨員は民衆運動中に於て、民衆の友であるべきであり、民衆の上司であつてはならない。人を救へて倦まざる教師であり、官僚主義的政客であつてはならない。共產黨員は何時如何なる所に於ても個人利益を第一に置くべきではなく、個人利益は民族的大衆的利益に從屬するものである。これがため、私利私慾、サボタージュ、貪汚腐化、出しやばり等は最も卑劣なものである。而して大公無私、積極的努力、克己奉公、埋頭苦幹等の精神こそは、尊敬に値する模範である。共產黨員は黨外の凡ゆる進歩的分子と協同一致して、全民族を團結し落後を提高する爲に努力すべきである。必ず知るべきことは、共產黨員は全民族中の一小部分であるに過ぎず、黨外には尚ほ多くの進歩分子と積極分子が居ることであり、我々は必ず彼等と協同工作をしなければならぬ。彼の『自分だけが良くて、他人は皆悪い』といふ考へ方は、完全に誤りである。共產黨員の落後分子に對する態度は、彼等を輕視したり、彼等を見下けたりせず、彼等を尊重し、彼等と團結し、彼等を説服し、彼等の前進を鼓舞する。共產黨員は工作中錯誤を犯した人達に對して、教訓不可能なるものを除いては、排斥態度を採らずして忠告的態度を採り、之を翻然と悔悟させ、罪を捨て、新を圖らしめるべきである。共產黨員は眞理を追求する模範となり、見識の卓越せる模範とならなければならない。何となれば、眞理を追求することによつてのみ任務を確實に完成することが出来、見識が卓越してゐることによつてのみ、前進方向を見失はないことが可能である。これが爲、共產黨員は又學習の模範とならなければならない。彼等は毎日民衆の教師であり、同時に又毎日民衆の學生であり、民衆から學び、環境から學び、友黨友軍から學び、彼等を了解して始めて工作に對しては眞理を追求し前途に對してはすぐれた卓見を有することが出来る。長期戰爭と艱難な環境中に於て、共產黨と友黨友軍と人民大衆中の凡ゆる進歩的分子とが協同して、高度にその先鋒的模範的作用を發揮することによつて始めて全民族の凡ゆる活潑な力量を動員し、落後を救済し、困難を克服し、敵を撃破し、新中國を創造する爲に奮闘出来るのである。

(4) 全民族を團結し、民族戰線中の漢奸に反對する

困難を克服し敵を撃破する爲の中心任務は、全民族を團結し、統一戰線を鞏固擴大し、全民族各階層中の凡ゆる活潑な力量を發動することであり、これが唯一無二の方針である。併し同時に、民族統一戰線中には破壞作用をなす漢奸が既に存在して居り混入して来た。これは隠微的であつて、外面上は抗日の面貌を以て現れるところの彼漢奸、トロツキスト、親日派分子である。共產黨員は隨時かゝる漢奸に注意し、且つ現實的な證據を基礎にして、具體的情況に照らして、これら漢奸の罪惡を摘發し、同時に友黨友軍及び人民大衆に彼等の術中に陥らざる豫忠告しなければならない。民族中に於ける漢奸の政治覺悟性を提高することは、共產黨員の負ふ重要な責任である。漢奸の摘發除却は、民族統一戰線の擴大鞏固と分離することの出来ないものである。

(5) 共產黨を擴大し、漢奸の混入を防止する

困難を克服し敵を撃破する爲に、共產黨員は必ずその組織を擴大し、革命に誠實であり、黨の主義を信仰し、黨の政策を擁護し、且つ喜んで規律に服従し、工作に努力する廣大なる工人農民及び青年の積極分子に對して門を開き、黨を偉大な大衆的性質を帯びた黨たらしめるべきである。こゝに於て、關門主義的傾向は容許することは出来ない。併し同時に、漢奸の混入に對する警覺性も亦決して減少させてはならない。日本帝國主義の特務機關は、常に我黨の破壞を企圖し、常に切かに漢奸、トロツキスト、親日派、腐化分子、投機分子を利用して積極的な機子をして我黨に混合させる。これら分子に對する警戒と嚴重防止は一刻も緩めてはならない。漢奸の混入を怕れて關門せず、大胆に黨の發展を計ることこそ我が確定的方針である。併し同時に、大胆に發展させることにより漢奸及び投機分子の機會に乘じて侵入することに對する警戒を緩めてはならない。『大胆に發展させ、而も一個の破壞分子の侵入をも許さず』、これこそ我黨發展の總方針である。

(6) 統一戰線を堅持し、黨の獨立性を堅持する

若し中國が一個の階級、一個の黨派だけしか持たないならば、何も統一戰線などは要らない。所謂統一戰線は二個以上の階級及び黨派の存在を前提としてゐる。抗日民族統一戰線を堅持して始めて敵に勝つことが出来、且つ長期的に堅持すべきであり、これは確定せる方針である。併し同時に、必ず統一戰線に加入せる黨派も如何なる思想上政治上及び組織上に於て獨立性を保持すべきであり、國民黨であれ、共產黨であれ、その他の黨派であれ、この點は皆一様である。三民主義中の民權主義とは何であるか？黨派問題に就いて言へば、聯合統一を

二、新段階論

許容し、同時に又その獨立共存を許容するものである。獨立性を否認して統一性のみを論ずるならば、これは民権主義的思想を背棄するものであり、唯に我共産黨が同意し得ないばかりでなく、如何なる黨派も亦同意し得ざるものである。勿論統一戰線中に於ける獨立性は統一性を超越することは出来ない、而して服従的統一性も、統一戰線中の獨立性も相對的なものでしかあり得ない。かくの如くせざれば、統一戰線を堅持することが出来ず、團結對敵の總方針を破壞するだらう。併し同時に、決してかゝる相對的獨立性を抹殺することは出来ない、思想的にも政治的にも組織的にも、各黨は必ず相對的な自由權を持つ。若しかゝる相對的獨立性又は自由權を人から抹殺され又は自から放棄するならば、同様に團結對敵を破壞し、統一戰線を破壞するものである。これは各共産黨員が、同時に又各友黨黨員が、明白に知らねばならないことである。

階級闘争と民族闘争の關係も亦同様である。抗日戰爭中に於て、總てを抗日利益に服従せしめるを以て總原則となし、階級闘争は必ず民族闘争の利益と要求に服従せしむべきであり、決して相違背してはならない。併し同時に、階級社會の存在する條件下に於て、階級闘争は消滅し得ざるものであり、消滅すべき方法もなく、根本的に階級闘争の存在を否認せんと企圖する理論は歪曲された黨論である。我々はそれを否認せず、それを調節するものであり、我々の提唱する互助互讓政策は黨際關係に適用するばかりでなく、基本的に階級關係にも適用するものである。團結抗日の爲に、一種の各階級相互關係を調節する適當な政策を實行すべきであり、勞苦大衆に些かも政治上生活上の保證を無からしめてはならないと同時に、裕福な者の利益をも顧慮すべきであり、かくして始めて團結對敵の總要求に適合することが出来るのである。

(7) 全局を顧慮し、多数を顧慮し、且つ同盟者と協同する

共産黨員が大衆を領導し、統一戰線に参加し、且つ敵と闘争する時、全局を顧慮し、多数を顧慮し、且つ同盟者と協同する精神を無視してはならない。共産黨員は局部需要に服従せねばならないことを知らねばならない。局部情況を見て良いと認められる場合でも、全局的に見て悪いと認められるときは、局部は全局に服従すべきである。その反対も同様であり、局部情況を見て悪いと認められる時でも、全局から見て良いと認められる時は、局部は全局に服従すべきである。これは即ち全局を顧慮する觀點である。共産黨員は決して大衆の多数と離れてはならない。多数人の情況を顧慮せずして、少数先進隊伍を率ゐて單獨で冒進するならば成功することは出来ない。隨時先進分

子の組織と廣大なる群衆の間の密接な聯繫とに注意するならば、これは多数を顧慮する觀點である。凡ゆる同盟者の存在する地方に於ては、事ある毎に同盟者と協同すべきであり、獨斷專行は、同盟者を顧慮しない態度であり、間違ひである。これらは皆共産黨員の藝術及び工作を領導する精神方面であり無視してはならない。優秀なる共産黨員は、よく全局を顧慮し、よく多数を顧慮し、よく同盟者と協同して工作する。これらに違背するものは優秀な黨員ではない。

(8) 幹部 政策

中國共産黨は數億の人口を擁する大民族中に於ける偉大な革命闘争を領導する黨であり、多数の才徳兼備の領導幹部を有しなければ、その歴史的使命を完成することは出来ない。十七年來、我々は既に少なからざる領導人材を培養し、軍事、政治、文化、黨務、民運各方面に於て、我々の幹部を有してゐた。これは黨の光榮であるばかりでなく、全民族の光榮でもある。併し同時に、現在の幹部を以てしては闘争の大事業を支持するには不十分であり、尙ほ一層人材を培養すべきである。偉大な民族闘争中に於て、既に無数の天才、領導者を輩出し且輩出しつゝある。我々の責任は、彼等を組織し彼等を培養し、彼等を愛護し、彼等を善用することに在る。『政治路線の確定したる後に於て、幹部は決定的な因素になる』我々はこの眞理を忘れてはならない。茲に於て、現有幹部の基礎を以てしては不十分であることは必然的である。故に計劃的に多数の新幹部を培養すべく努力することこそ我々の闘争任務でなければならぬ。

黨の幹部に關心をもつばかりでなく、尙ほ非黨幹部にも關心をもたねばならない。黨外には非常に多くの人材が存在して居り、共産黨は彼等を度外視することは出来ない。傲然と獨立する態度を去つて、非黨幹部と善く共同し、誠心誠意彼等と團結し、同時に善意を以て援助を與へ、彼等を遇するに熱烈なる同志的態度を以てし、彼等の積極性と才能とを組織して抗戰建國の偉大な事業に参加させることこそ各共産黨員の責任である。自強自謙、眼中に他人無しといふ態度は錯誤である。

必ず幹部を識別すべきである。幹部の長短優劣の識別に於ては、彼の表現を見るばかりでなく、彼の本質を見るべきであり、彼の一時一事のみを見ることな、彼の全歴史全工作を見るべきであり、これは幹部識別の正確な方法である。茲に於て粗雑であり主観的であつては問題を解決することは出来ない。必ず幹部を善用すべきである。領導者の責任と工作とを歸結すれば二事あるのみだ、即ち意見を出し、幹部を用ふることである。凡ゆる計畫決議命令指示文告著述講演等は皆意見を提出することに屬し、凡ゆる『意見』の實行を見る爲に

二、新段階論

は、必ず幹部を團結させ、彼等を鼓舞して工作させねばならない。それは皆「幹部の使用」に屬する。この二項は、中國の習慣によれば「用人行政」と言ふ。この幹部使用の問題に於て、我が民族歴史中には常に二個の相對立する路線があつた。一は「任人唯賢」であり、一は「任人唯親」である。前者は明君賢臣の人を用ひる方針であり、後者は愚君奸臣の人を用ひる方針である。我々が今日幹部使用問題を説く時、革命的立場に立つものであり、根本的に古代と區別せらるべきであるが、「任人唯賢」といふこの標準を離れるものではない。喜怒を以て愛憎し、阿諛逢迎を奨め、硬骨正直を罰することは古代に於ても不可であつたが、我々にとつても不可である。レーニン、スターリンの幹部政策は、斷平黨の路線を執行し、黨の規律に服従することにあり、大衆と密切に聯繫し、獨立工作の能力をもち、積極的に工作し、私利を計らざる等々を以て標準となすものであり、それ以外のものではない。こゝに於て、過去の張國燾の幹部政策は正に反對である。張國燾は阿諛者を奨め、正直者を罰し私黨を組み、別に企圖を有し、彼の小組の派閥主義は長い歴史をもつものであつた。併し乍ら彼の斯かる個人を中心となし黨の政治原則を中心としない幹部政策は、彼の目的と反對の結果を生じ、凡ゆる幹部は皆彼を離脱し、張國燾一人だけ剩され、黨に叛き去つた。これは大きな教訓である。半殖民地半封建社會の政治經濟的落後性は、黨内にも反映し、自由主義・個人主義及び派閥主義等の劣悪な傾向の根源である。斯かる根源の存在を認識して、レーニン、スターリンの組織路線と幹部政策とを堅持し、不正不合理な劣悪傾向に反對し、黨の正確なる路線上に於ける統一團結を鞏固ならしめることは、中央及び全黨同志の責任である。

必ず善く幹部を愛護すべきである。黨の育成と困難なる闘争中に於て創造せられたる幹部は、民族の寶であり、全黨の榮譽であり、全黨同志の尊重し愛護すべき所であり、各級領導機關は實際に辦法を講じて愛護の實を上げ可き責任を負ふ。それが爲には如何なる方法を講ず可きか？第一、彼等を指導する。これは彼等に自由に工作させて、彼等に責任を負はせ、錯誤を犯すことを恐れざらしめる。併し同時に又隨時隨地に於て工作環境に適合せしめ、工作方針と工作方法との指示をなし、彼等をして能く黨の政治路線に沿つてその創造性を發揮させることである。第二、彼等を向上させる。これは理論及び方法學習の機會を與へ、彼等を教育し、彼等をして思想的に領導能力を過去に於けるよりも一步向上させることである。第三、彼等の工作を檢査する。毎日檢査せず、隨時檢査して、彼等が經驗を綜合することを援助し、缺點を糾正し、成果を擴張する。これは必要なことであり、放任して檢査せず、嚴重な錯誤を犯すに及んで始めて注意するが如きことは、幹部愛護の方法ではない。第四、彼等を改造する。これは缺點あり、錯誤を犯し、不正確な思想を持つ幹部に對するものであり、主として

脱服方法を用ひ、止むを得ざる時は闘争方法を用ひて、彼等を改造させる。こゝに於ては忍耐力が必要である。決して大きな原則的錯誤でもなく、言つても聞かないといふわけでもないのに、輕々して「機會主義」、「アチナル根性」などといふ大要なレッテルを貼る方法は不適當であり、輕々しく「闘争展開」といふ方法を採るのも不適當であり、皆間違つてゐる。第五、彼等の困難を顧慮する。幹部の疾病問題・生活問題・家庭問題等に對して、黨の領導機關が熱烈に親切に同志的關心を與ふべきであり、漠然と放置し、冷淡に處理しないが如き態度は錯誤である。疾病には醫療と休養とを與へ、生活は工作の必要と切實に適合せしめ、家庭問題は可能な範圍内に於て解決を與へるべきである。これ等はすべて、物質及び環境の許す限度内に於て顧慮し、幹部の工作精神を激勵し、全黨を團結して一體となす目的にとつて、重要な意義を有するものである。

(9) 黨の 紀 律

十七年來、特に五中全会以來の黨の闘争經驗は、黨内、即ち八路軍及び新四軍内部に、鐵の規律を引續き堅持する必要があることを證明した。紀律は路線執行の保證であり、若し紀律が無ければ、黨は大衆と軍隊とを領導して勝利の闘争を進行することは出来ない。過去に於て、張國燾一味の規律破壞傾向を克服し、抗日民族統一戰線と抗日戰爭の順調なる執行を保證した。今後に於ても必ずかかる規律を堅持すべきであり、かくしてこそ始めて全黨を團結し、新しい困難を克服し、新しい勝利を爭取することが出来る。こゝに於て、數個の基本原则を忽視することは出来ない。(一)個人は組織に服従する。(二)少数は多数に服従する。(三)下級は上級に服従する。(四)全黨は中央に服従する。これらは黨の民主集中制の具體的實施であり、誰がそれらを破壞したか、誰が黨の民主集中制を破壞したか、誰が黨の統一團結と黨の革命闘争とに大損害を與へたか、これらに對して黨の各級領導機關は、上述の基本原则に基き、全黨特に新しい黨員に必ず紀律教育を與へねばならない。過去の經驗は、紀律を破壞するものは、何が黨の規律であるかを知らないからであることを證明してゐる。知りながら故意に犯すもの、例へば張國燾の如きは、一部黨員の無知を利用して悪事を働くのである。故に紀律教育は、一般黨員の紀律服従のよい作風を養成する上に必要であるばかりでなく、同時にそれは又必ず黨員と幹部との自覺性の上に建立せらるべきものであり、決して片面的な命令主義ではない。かゝるが故に、中央から地方に至るまでの領導機關は、一種の黨紀を制定すべきであり、それを黨の法紀の一部と看做して、一度制定せられた後は、確實に實行して以て各級領導機關の行動を統一し、且つそれを全黨の模範たらしむべきである。

偉大なる闘争に直面してある中国共産黨は、黨の領導機關、全黨の黨員と幹部に、高度にその積極性を發揮することを要求する。斯くして始めて闘争を勝利に向つて導くことが出来るのである。所謂積極性の發揮は無内容な言葉であつてはならない、必ず具體的に、領導機關、幹部及び黨員の創造能力、責任精神、活潑な工作、問題の提出、意見の發表、缺點の批評及び領導機關及び領導幹部に對する愛護的立場からする監督作用等々の上に現れなければならない。然らざれば、所謂積極性は無意味なものになつてしまふ。而してかゝる積極性の發揮は、黨内生活制度の民主化にあり、民主生活が無かつたり或はそれが缺乏してあるときは、積極性發揮の目的を達成することが出来ないものである。有能な人材を大量に産出することも、民主生活中に於て始めて可能になるのである。

我黨が今日に至るまで民主生活が無かつたことは、民主生活不足の現象を發生せしめ、かゝる現象は、實際全黨の積極性を十分に發揮することを妨げた。同時に、統一戰線、民衆運動中にも民主化の不足は影響してゐる。故に必ず黨内に於て民主教育を施行し、黨員をして民主生活、民主制と集中制との聯繫は何であり、且つ如何に民主集中制を實行するかを知らしめねばならない。斯くして始めて、一方に於て、確實に黨内民主生活を擴大すると共に、又他方に於て、極端な民主化や自由放任主義に走らない様になることが出来る。

軍隊中に於ける黨も亦必要な民主生活を増加して、以て黨員の積極性を高め、軍隊の戰鬥力を増強すべきである。併し同時に、軍隊の民主は地方黨の民主よりも少くすべきであるが、それは軍隊紀律を鞏固にし戰鬥力を増強するためであつて、紀律及び戰鬥力を低下させてはならない。地方黨に於ても、黨の紀律を鞏固にし、黨の戰鬥力を増強するに有利ならしめるべきであり、それに反してはならない。

黨内の民主を擴大することは、黨を鞏固にし、黨を發展せしめるに必要な條件であり、黨を偉大なる闘争中に於て活潑に活動させ、愉快にならせ、新しい力を生長させ、戰爭の機關を突破させる有用にして重要な武器である。

(四) 我黨は既に二條の戦線に於ける闘争中に鞏固になり壯大になつて来た

十七年來、我黨は一般に既にマルクス主義の武器——思想的政治的及び工作的に二條の戦線に於て闘争する方法、即ち一方に於て右翼機會主義に反對し、他方に於て左翼機會主義に反對する——を使用することに習熟して来た。

五中全会以前に於て、我が黨は陳獨秀の右翼機會主義と李立三の左翼機會主義に反對した。この二度の黨内闘争の勝利は黨に偉大な進歩を獲得させた。五中全会以後の二次に互る歴史的意義を有する黨内闘争は、連業會議と張國燾の除去である。

連業會議は反五次圍剿闘争中に於て犯した左翼機會主義性質の嚴重な原則的錯誤を糾正し、黨と紅軍とを團結し、中央と紅軍とをして長征を勝利的に完成させ、抗日の前進陣地に轉入させ、抗日民族統一戰線の新政策を執行させた。巴西會議及び延安會議に於て(張國燾路線の錯誤に對する反對は巴西に於て開始され、延安に於て完成した)張國燾の右翼機會主義に反對し、全紅軍を一處に會合せしめ、全黨を更に團結せしめ、勇敢な抗日闘争を進行させた。この二種の機會主義錯誤は皆國內闘争中に發生したものであり、彼等の特點は戰爭中に於ける錯誤である。

この二度の黨内闘争から得た教訓は何處にあるか？(一)中國革命戰爭中に於ける特點を認識せざるにより發生し、反五次圍剿闘争中に於ける嚴重な原則的錯誤を以て現れ、主客觀的條件の「左」的急性病傾向を包含しかゝる傾向は極端に革命戰爭に不利であり、同時に如何なる革命運動にも不利である。當時のかゝる錯誤は決して黨の總路線的錯誤ではなく、當時の總路線執行中に犯した戰爭策略と戰爭方式上に於ける嚴重な原則的錯誤である。(二)張國燾の機會主義は、革命戰爭中に於ける右翼機會主義であり、その内容は退却路線、軍閥主義及び反黨行為の綜合である。たゞそれを克服することによつてのみ始めて本質を良くし、且つ長期的に勇敢に闘争する紅軍第四方面軍その廣大な幹部と黨員とを作ることが出来、張國燾の機會主義統治の下から解放し、中央の正確な路線の下に轉入することが出来る。(三)中央ソヴイエト區時代の偉大な組織工作は、軍事建設にせよ、政府工作にせよ、民衆工作にせよ、黨の建設にせよ、偉大な成績を挙げた。若しかかる組織工作と前線の勇敢な戰鬥とが配合されなかつたならば、當時の殘酷な闘争は不可能であつた。併し乍ら當時黨の幹部政策と組織原則とは、嚴重な原則的錯誤を犯してゐた。それは宗派傾向、懸殊主義及び思想闘争中に於ける過激政策の表現をとつた。これは過去に於ける李立三路線の殘餘が未だ蕩清せられざる結果であり、當時の政治的・原則的錯誤の結果である。これらの錯誤は、連業會議により糾正せられることが出来、黨を一般的に正確な幹部政策と組織原則の下に轉入させることが出来た。張國燾の組織路線方面に於ては、完全に黨の凡ゆる原則を離れ、黨の紀律を破壞し、小組織活動から一直線に反黨反中央反國際的行為にまで發展した。中央は張國燾の罪惡的組織路線と反黨行為とに對して、凡ゆる可能な努力を拂つてそれを克服し、且つ張國燾自身をも救済しようとした。併し張國燾は堅持して變らなければかりでなく、兩面派的行為を採り、最後には叛黨を實行した。故に彼の黨籍を剝奪せざるを得なかつた。この黨籍剝奪は、全黨の擁護を獲

得たばかりでなく、凡ゆる民族解放事業に忠實な人達の擁護をも獲得した。共産國際もこの黨弱毒を批准して、張國燾が逃兵であり叛徒であることを認めた。

二二八

以上の教訓と成功とは、我々に今後全黨を團結し、思想的、政治的、組織的の一致を鞏固にし、勝利的に抗日戦争と抗日民族統一戦線を執行するに必要なる前提を與へた。我々は既に二條の戦線に於ける闘争中に鞏固になり壯大になつて来た。

(四) 當面せる二條の戦線に於ける闘争

今後の新しい抗戰形勢中に於て、政治的に右的悲觀主義に反對することは最も重要なことである。併し同時に「左」的急性病にも矢張注意しなければならぬ。統一戦線問題に於て、黨の組織と民衆組織問題に於て、引續き「左」的闘争主義に反對し、以て長期公同作、黨の發展及び民衆運動の發展を許すべきである。併し同時に、無條件的に合作し、無條件的に發展するかゝる右翼機會主義傾向にも注意しなければならぬ。然らざれば合作を妨礙し、發展を妨礙して、投降主義的合作と無原則的發展とに變じてしまふ。

二條の戦線に於ける闘争は必ず切實に具體的對象の實際情況に適合せしむべきであり、決して抽象的に問題を見るべきではなく、一般に具體的應用と區別せられる。所謂「亂戰帽子」の惡習慣は彼の抽象的にこの方法を應用することの間違ひを言ふものである。

傾向に反對する闘争中、兩面派的行爲に反對することは、嚴重に注意すべきことである。何となれば兩面派行爲の最大危險性は、それが小組織行動にまで發展する可能性があることに存する。張國燾の歴史はその證據である。表面上服従し裏面に於て服従せず、口は是であり心は非であり、面と向つては腹を語り、背に於ては腹を刺す。これは兩面派行爲の實質である。幹部と黨員の兩面派行爲に對する注意力を高めることは、黨の規律を鞏固にする上に於ける重要な要求である。

(四) 學習

一般的に言へば、相當な研究能力を有する共產黨員はすべて、マルクス、レーニン、スターリンの理論を研究し、我民族の歴史を研究し、當面せる運動の情況と趨勢とを研究せねばならぬ。且つそれによつて、文化水準の比較的低い黨員を教育すべきである。特殊的に言へば、幹部はこれらの研究を重んじ、中央委員會と高級幹部は、特に研究を加強すべきである。偉大なる革命運動を指導して勝利に向はしめんとしても、革命理論と歴史知識實際運動の了解がなければ、勝利不可能である。

マルクス・エンゲルス・レーニン・スターリンの理論は、『何處にでもあてはまる』理論である。彼等の理論を教條と看做さずして行動の指南となすべきである。マルクス・レーニン主義のA B Cを學ばずして彼等の問題觀察と問題解決の立場と方法を學習すべきである。この行動指南、この立場と方法があつて始めて革命的科學であり、我々の革命對象認識と革命運動指導の唯一正確の方針であり得る。中共黨のマルクス主義的修養は、現在既に大進歩を遂げたが、併し普遍的でなく深く入り込んでもゐない。この方面に於て、我々は之を若干の外國の友黨と較べて遜色あるを免れない。而して我々の任務は、四億五千萬の人口を擁する大民族を領導して、空前の歴史の闘争を進行することに在る。故に深く理論を研究する任務は、我々にとつて、極めて解決を期待され、十分な努力を拂つて解決すべき大問題である。我々は努力しよう。我々の今次擴大の六中全会以後、全黨の學習を奨励して、誰でも眞實なものを學び、誰でも多量かつよく學ぶ様にしなければならぬ。我々の工作は非常に正確である。併し若し一段と理論の學習を深めなければ、我々の工作を更に好くすることは出来ない。我々の工作を更に好くしてこそ、我々の勝利があり得るのである。故に理論の學習は勝利の條件である。主として領導責任の觀點から言へば、若し中國に百乃至二百の系統的にして養育ならぬ、實際的にして空洞ならざるマルクス主義を會得した同志が居れば日本帝國主義を打倒するに足る。同志諸君、我々は必ずマルクス主義を學習せねばならぬ。

我々の歴史遺産を學習して、マルクス主義の方法を以て批判的結論を下すことは、我々學習の他の二任務である。我々のこの大民族數千年來の歴史は、その發展法則をもち、その民族特點をもち、その幾多の貴重品をもつてゐる。之に對して、我々は尙ほ小學生である。今日の中國は、歴史的中國の發展したものであり、我々はマルクス主義の歴史主義者であり、我々は歴史を判斷すべきではない。孔夫子から孫中山まで、我々は結論を求め、この貴重な遺産を繼承せねばならない。遺産の繼承から轉じて方法となり、當面の偉大なる運動を指導することに對して、重大なる援助を有する。共產黨員は國際主義的マルクス主義者であるが、マルクス主義は必ず民族形式を通過して始めて實現し得る。抽象的マルクス主義でなくして、具體的マルクス主義である。所謂具體的マルクス主義は、民族形式を通過したマルクス主義である。即ちマルクス主義を中國の具體的環境の中で具體的に闘争することであり、抽象的にそれを應用することではない。偉大なる中華民族の一部であり、この民族と血肉的聯繫をもつ共產黨員が、中國の特點を離れてマルクス主義を論ずるならば、抽象的的空洞的マルクス主義になつてしまふ。故にマルクス主義の中國化は、その表現中に常に中國の特性を帯びさせなければならない。即ち中國の特點に應じてそれを

二、新段階論

二二九

應用してこそ、全黨の了解を得、且つ解決すべき問題となる。西洋かぶれは必ず止め、空洞抽象的なことを言はない様にならなければならぬ。教條主義は止めねばならない。而して之に替つて新鮮活潑にして、中國人民が喜ぶ中國作風と中國氣派が現れねばならない。國際主義的内容と民族形式との分離は、些かも國際主義を解さない人のやり方であり、我々は兩者を緊密に結合しなければならぬ。この問題に就いて、我々の隊伍中に存在してゐる嚴重な缺點は、眞面目に取除かれねばならない。

黨面せる運動の特點は何であるか？ それは如何なる規律性を有してゐるか？ 如何にこの運動を指導すべきか？ これらは皆最も實際的な問題である、今日に至るまで、我々は未だ日本帝國主義の全體を理解してゐないばかりでなく、中國の全體さへも理解してゐない。問題は發展中であり、新しいものが續いて来る。新しいものは無限に出て来る。この運動の全體とその發展を研究することは、我々が常に眼を大きく見開いて注意すべき大問題である。若し誰かこれに對して眞面目に微細に研究することを拒絶するものがあるれば、それはスペインのドン・キホーテに中國の阿Qを附加したものであるに過ぎず、マルクス主義者ではない。如何に研究するか？ マルクス主義——唯物辯證法によつて。誰について研究するか？ 我々の先生は非常に多い——工人・農民・小資產階級・資本家・地主・日本帝國主義及び世界がある。彼等は皆我々の研究對象であり、同時に我々の先生でもある。我々は彼等から多かれ少かれ何物かを學ぶべきである。

學習の敵は自己満足であり、眞面目に學習する爲には、自己満足せざることをより始めるべきである。自己に對しては、『學びて厭はず』人に對しては、『教へて倦まず』、我々はかゝる態度を取るべきである。

(四) 全黨の團結から全民族の團結に到る

偉大なる闘争は偉大なる力量を必要とする。全民族を團結し、全民族の凡ゆる生動する力量を發動してこの闘争中にもたらすことは我々の確定的な方針である。而してこの目的を達成する爲に、中國共產黨内部の團結は、重大なる作用を有するものであり、最も基本的な條件である。遵義會議と張國燾錯誤克服の後、我が黨は第六次全國代表大會以來最も團結し最も統一した時期であつた。現在我が黨内には、政治路線上に於ても、戰略方針上に於ても、時局統計と任務提出上に於ても、中央委員會と全黨との意見は皆一致してゐる。かゝる政治原則の一致は、團結の基本條件である。黨員と黨員、幹部と幹部、領導者と領導者との相互關係、習慣的に所謂人事關係に於て、我々は幾多の正確な適當な方法を學び、正確な政治原則下に和衷共濟の空氣を造成し、更に良好な相互關係を有した。地區の廣大と、情況の複雑と工

作部門の不同とにより、意見の相異は免れ難く、當然の事であり、黨内民主の實際は、如何なる不同の意見の提出討論をも許容するものである。民主方法により、意見の交換を保證し、これを概括して結論を導き出し、全黨一致の方針を形成すべきである。こゝに於て、客觀的全面的に問題を見る態度は、主觀的偏見や意氣を離れず、一方的に問題を見るべきでない。かゝるマルクス主義の方法を、我々は漸次習得した。これは又黨の團結を保證するものである。我々は科學的マルクス主義者であり、自らはであると思ふ偏見と意氣を以てする作風は、派用の長物である。十七年來鍛練せられて來た中國共產黨及びその領導人員は、既に老練な作風をもつて居る。これ等はすべて、能く中央及び全黨の一致團結を保證するものであり、能く全民族中に一致團結の核心と重心とを形成するものであり、抗戰を推動して勝利に到らしめるものである。同志諸君、全黨が團結し、全民族が團結すれば、勝利は必ず我々のものである。

八 黨の第七次代表大會召集

今、余は最後の問題である七次大會召集の問題を説く。

同志諸君、我が黨の全國代表大會は、一九二八年に第六次代表大會を開いて以來、環境的原因により、既に十年間大會を開かなかつた。昨年十二月政治局會議は七次代表大會召集準備を決定したが、準備工作が尙ほ未完成である爲本年中に召集することは尙ほ困難である。今次全國擴大會はこの準備工作強化に關する問題を討論し、遂からず大會の召集を實行することを決定すべきである。今次大會の政治意義は重大である。それは過去の經驗に結論を與へるものであり、主要なものは全國抗戰と抗日民族統一戰線の經驗である。國內國際の政治形勢を討論せよ。如何にして全民族の團結と國共兩黨及びその他黨派の團結を促進し、抗日民族統一戰線の鞏固と擴大とを促進するかを討論せよ。如何にして長期戰爭と長期合作との中に於て抗戰最後の勝利を爭取すべきか、その方針方法及び計畫を討論せよ。如何にして全國工人階級及び労働人民を更に積極的に抗戰参加に動員すべきかを討論せよ。而して黨が置かれてゐる新しい情況の下に於て、如何に自己の團結を促進し、自己を加強し、自己と國民黨その他黨派及び全國人民との聯繫を鞏固にして、以て抗日民族統一戰線を有利に導く總方針を討論すべきである。これら政治的組織的な問題以外にも、七次大會は新しい中央委員會を選挙し、全黨中最も威信ある幾多の領導同志から中央

1111
委員會を選び、全党工作の領導を強化すべきである。同志諸君、今次大會の意義は斯くの如く重大である。故に擴大的六中全會閉會後、諸君同志は各地に歸つて工作するや、黨を發展させ、黨を鞏固ならしめる基礎に立つて、民主的方法に依り、適當な時期と場所にて選舉を行ひ、最も優秀な最も有爲な黨員、羣衆の信頼する幹部及び黨員をして大會代表に當選させ、七次大會には全黨優秀代表を一堂に召集させ、大會の成功を保證する様に努力すべきである。我々は信じてゐる、今次全國代表大會は必ず成功し、必ず日本帝國主義の侵略競争に最も莊嚴有力な回答を與へ、日本帝國主義をして我が全國代表大會の面前に屈ひ上らせ、東の海に擲け込ませ、中國民族は必ず勝利を獲るであらうことを信じてゐる。
余の報告は茲に終る。

三、新民主主義論

(中國文化雜誌の爲に作る、原名「新民主主義的政治と新民主主義的文化」)

一 中國は何處へ行くか?

抗戰以來、全國人民は何だか欣然雀躍の氣持を抱き、皆今や出路が求められたと考へ、眉を顰め眼をつぶるが如き消極的な態度は、之が爲に一掃された。併し、近來、妥協的空氣や、反共の擧聲が囂然と捲き上り、且つ全國人民を不可解な問題の中に投げ込んだ。特に文化人及び青年學生は感傷鏡像であるが故に、先づこれに衝突した。茲に於て如何にすべきや? 中國は何處へ行くか? が問題になつて來た。故に『中國文化』の出版に際し、中國の政治並に文化の動向問題に就いて若干の説明をすることも或は無駄でないであらう。文化問題に對しては私は門外漢ではあるが、これを研究しようと思ひ、研究を始めたばかりでもある。幸ひ延安に在る幾多の同志は孰れも皆詳細な文章をものして居り、私の粗雑な文章等は、編輯や太鼓の役目を果しさへすればそれでよいのである。全國の進歩的文化工作者にとつて、私の文章が、玉を磨き出す磚であり得るならば、却外の喜びである。諸同志が共同討論をなして正確な結論を導き出し、我が民族の需要に適合せられんことを望むものである。科學的態度は『事實に基いて是なることを求める』ものであり、かの『自ら是となし』或は、『好惡を中心とする』狂妄な態度によつては斷じて問題を解決することは出來ない。我が民族の災難は極めて深刻且つ重大であり、ただ科學的態度と責任精神とによつてのみ、我民族をして解放の道に到らしめることが出來るのである。眞理は唯一である。而して誰が眞理であるかは、主觀的誇張ではなく、客觀的實踐に依つて定まるのである。千百萬人民の革命實踐こそ眞理をテストする尺度である。私は之を以て『中國文化』を出版する態度にし度いと思ふ。

二 我々は新中國を建設しなければならない

我々共産黨員は、多年、中國の政治革命並に經濟革命の爲に奮闘して来たのみならず、中國の文化革命の爲にも奮闘して来た。而して此等すべてのものの目的は、中華民族の新社會と新國家を建設することに在る。此の新社會と新國家とは、單に新政治・新經濟を有するばかりでなく、新文化をも有するものである。即ち我々は單に政治的に壓迫せられ、經濟的に搾取せられ來つた中國を、政治的に自由であり、經濟的に繁榮せる中國に改變せんとするのみならず、舊文化統治により愚昧落伍せしめられたる中國を、新文化統治により文明先進の中國たらしめんとするものである。換言すれば、我々は新中國を建設しなければならない。中華民族の新文化建設こそ我々の文化領域中に於ける目的である。

三 中國の歴史的特殊性

我々は中華民國の新文化を建設しなければならないが、此の新文化は究竟するに如何なる文化であるか？
 所與の文化（觀念形態としての文化）は所與の社會の政治・經濟の反映であり、又その社會の政治・經濟に偉大なる影響を及ぼすものである。而して政治は經濟の集中的表現である。之は文化と政治・經濟との關係及び政治と經濟との關係に對する我々の基本的な觀點である。故に一定形態の政治・經濟は先づ其の形態の文化を決定するものであり、然る後、一定形態の文化は又一定形態の政治・經濟に影響を及ぼすものである。マルクス曰く：『社會意識が社會存在を決定するのではなくして、社會存在が社會意識を決定する』と、又曰く：『從來の哲學者は各種各様に世界を説明するだけであつたが、重要なことは世界を變革することに在る』と。之は人類歴史始つて以來初めて意識と存在との關係の問題を正しく解決した科學的規定であり、而して其の後レーニンがより一層發展せしめた能動的革命的變革論の基本的な出發點である。我々は中國文化問題を討論する時に、此の出發點を忘れてはならない。

かく説き來る時 問題は極めて明瞭である。我々の革除すべき中華民族の舊文化は、中華民族の舊政治・舊經濟と切り離すことの出來ないものであり、而して我々の建設すべき中華民族の新文化も、中華民族の新政治・新經濟から切離し得ないものである。中華民族の舊政治・舊經濟は、即ち中華民族舊文化の根據であり、而して中華民族の新政治・新經濟は即ち中華民族新文化の根據である。
 所謂中華民族の舊政治・舊經濟とは何であるか？ 且つ又中華民族の舊文化とは何であるか？
 周秦以來、中國は封建社會であり、其の政治は封建政治であり、其の經濟は封建經濟であり、而して其の政治・經濟の反映なる文化は封建文化であつた。

外國資本主義が中國を侵略し、中國社會に資本主義的因素が生長して以來、即ち阿片戰爭以後支那事變までの百年間に、中國は漸次殖民地・半殖民地・半封建的社會に變つた。現在の中國は、淪陷區に於ては、殖民地社會であり、非淪陷區に於ては基本的には矢張り半殖民地社會であり、且つ淪陷區たと非淪陷區たとを問はず、共に封建制度が優勢を占める社會である。これは目下の中國社會の性質であり、現在の中國の國情である。統治の點から言へば、この社會の政治は殖民地・半殖民地・半封建的政治であり、其の經濟は殖民地・半殖民地・半封建的經濟であり、且つ此の政治・經濟を反映せる文化は、殖民地・半殖民地・半封建的文化である。
 此の支配者としての政治・經濟・文化形態こそ、我々の革命對象である。我々が革除すべきは、此の殖民地・半殖民地・半封建的舊政治・舊經濟及び舊文化形態である。而して我々が建設すべきは、此の反對物、即ち中華民族の新政治・新經濟及び新文化である。

では何が中華民族の新政治・新經濟であり、且つ又何が中華民族の新文化であるのか？
 中國革命の歴史的過程は、二段階に分たれる。其の第一段階は民主主義革命であり、第二段階は社會主義革命であり、此れは性質の異なる二個の革命過程である。而して謂ふ所の民主主義は、現在既に舊範圍の民主主義、即ち舊民主主義ではなくして、新範圍の民主主義、即ち新民主主義である。

之によつて斷言し得ることは、所謂中華民族の新政治とは、新民主主義的政治であり、所謂中華民族の新經濟とは、新民主主義的經濟であり、所謂中華民族の新文化とは、新民主主義的文化であると言ふことである。

之こそ現在の中國革命の歴史的特殊性である。中國に於て革命に従事する凡ゆる黨派、凡ゆる人士は、此の歴史的特殊性を理解せずして

此の革命を指導し、此の革命を勝利に到らしめることは不可能であり、逆に人民に抛棄せられ、片隅に泣く憐むべき態になつてしまふであらう。

四 中國革命は世界革命の一部である

中國革命の歴史的特殊性は、民主主義と社會主義との二段階に分たれ、而も其の第一段階たる現在は既に一般的民主主義ではなくして、中國的特殊な新しき民主主義、即ち新民主主義たることである。では此の歴史的特殊性は如何にして形成せられたものであるか？それは百年來のものであるか？それとも其の後に發生したものであるか？

中國と世界の歴史的發展を研究するならば、此の歴史的特殊性が、決して阿片戰爭以來存在したものでなくして、其の後即ち第一次帝國主義世界大戰及びロシア十月革命以後になつて始めて形成せられたものであることを知り得る。我々は今此の形成過程を研究しよう。

既にして現在の中國社會の性質が、植民地・半植民地・半封建的であり、其れが中國革命の二段階に分たるべきことを決定してゐる以上、其の第一段階は此の植民地・半植民地・半封建的社會形態を改變して此れを獨立な民主主義社會に變へることであり、第二段階は革命を更に發展させて社會主義社會を建設することである。これは極めて顯然としてゐる。現在の中國革命は即ち此の第一段階に在る。

此の第一段階は、一八四〇年阿片戰爭以後、即ち中國社會が封建社會から半植民地・半封建社會に變り始めてから開始せられたものであり、其の後太平天國運動・中佛戰爭・日清戰爭・戊戌政變・辛亥革命・五四運動・五卅運動・北伐戰爭・土地革命・一二九運動を経て今日の抗日戰爭に至れるものであり、此れ等幾多の個別的段階はまる百年の歳月を費してゐるが、或る點から云へば、其れ等は總べて此の第一段階を實行するものであり、總べて中國人民が時代と程度の違いこそあれ此の第一段階の實行、即ち帝國主義と封建勢力とに對する反對を實行し、獨立の民主主義社會建設の爲に闘争し、第一段階の革命を完成する爲に闘争したものである。而して辛亥革命はより完全なる意義に於いて此の革命を開始したものである。此の革命は、其の社會的性質から言へば、資產階級の民主主義的革命であつて、無産階級の社會主義的革命ではない。此の革命は現在尙ほ未完成であり、更に偉大な氣力を以てしなければならぬ。何となれば此の革命の敵が現在に至る

も尙ほ非常に強大なるが故である。孫中山先生の言はれた「革命は尙ほ未だ成功せず、同志と須らく努力すべし」とは、即ち此の資產階級民主主義革命を指すものである。

併し乍ら中國資產階級民主主義革命は、一九一四年に勃發した第一次帝國主義世界大戰、及び一九一七年ロシア十月革命が地球上六分の一の土地に於て社會主義國家を建設して以來、變化を起した。

其れ以前、中國資產階級民主主義革命は、古い世界資產階級民主主義革命の範疇に屬するものであり、古い世界資產階級民主主義革命の一部に屬するものであつた。

其れ以後、中國資產階級民主主義革命は、改變されて新しい資產階級民主主義革命の範疇に屬するやうになり、而して革命の範疇に就いて言へば、世界無産階級社會主義革命の一部に屬するものとなつた。

何故か？第一次帝國主義世界大戰と始めて勝利を得た社會主義十月革命とが、全世界歴史の方向を改變し、全世界歴史の時代を劃分したからである。

世界資本主義範疇が既に地球の一角(此の一角は全世界六分の一の土地を占める)に於て崩潰し、而して其の他の土地に於ても既に其の腐朽性を充分暴露してゐる時代、否、尙ほ存続してゐる資本主義部分でさへも植民地・半植民地に依存しなければ生活出来なくなつた時代、社會主義國家が既に建設せられ且つ凡ゆる植民地・半植民地の解放運動を扶助して闘争せんことを宣言してゐる時代、各資本主義國家の無産階級が、一日一日と帝國主義的社會民主黨の影響下から脱却し、且つ彼等が植民地・半植民地解放運動を贊助せんことを宣布してゐる時代、此れ等の時代に於ては、如何なる植民地・半植民地國家でも、若し帝國主義に對する反對、即ち國際資產階級に對する反對、國際資本主義的革命に對する反對が發生するならば、其れは最早古い世界資產階級民主主義革命の範疇に屬するものではなくして、新しい範疇に屬するものである。即ち其れは最早古い資產階級及び資本主義的世界革命の一部ではなくして、新しい世界革命の一部であり、無産階級社會主義世界革命の一部である。此の革命的植民地・半植民地は、最早世界資本主義反革命範疇の同盟軍ではなく、世界社會主義革命範疇の同盟軍である。

此の植民地・半植民地革命の第一段階、第一歩は、其の社會的性質に就いて云へば、基本的には依然として矢張り資產階級民主主義的なるものなり。

のであり、其の客観的要求は、基本的には依然として矢張り資本主義発展途上の障礙を除去することに在る。然し乍ら此の革命は、最早古い、完全に資産階級に領導せられる、資本主義的社會と資産階級專制の國家を建設することを以て目的とするものではなくして、新しい、無産階級が領導し又は領導に参加するものであり、第一段階に於て新民主主義社會を建設し、各革命階級聯合專制の國家建設を目的とする革命である。此の革命は、其の進行過程に於て、敵情及び同盟軍の變化によつて、若干の段階に分たれるが、其の基本的性質には變化がなく、社會主義革命に至るまでは、其の基本的性質には變化がない。

かかる革命は、徹底的に帝國主義を打倒するものであり、其れが爲帝國主義の全然許容せざるものであり、帝國主義が極力反對する所である。併し其れは社會主義が許容し、社會主義的國家及び社會主義的國際無産階級の援助する所である。

故に、此の革命は、無産階級社會主義世界革命の一部に變らざるを得ない。

『中國革命は世界革命の一部である』此の正確な命題は、一九二四年より二十七年に至る中國大革命時代に提出せられたものである。此れは中國共産黨員が提出したものであり、當時反帝反封建闘争に参加した凡ゆる人士が贊成した所のものである。併し當時は尙此の理論的意義を十分に展開しなかつた。後、はつきりと此の問題を認識することが出来なかつた。私は蔣介石先生が東に陳炯明を攻撃して潮汕に到り演説を發表した時にも、『中國革命は世界革命の一部である』と言つた事を記憶してゐる。

此の『世界革命』は、最早古い世界革命ではなく、古い資産階級の世界革命は既に終結した。其れは新しい世界革命であり、社會主義的世界革命である。同様に、此の『一部』は既に古い資産階級革命の一部ではなくして、新しい社會主義革命の一部である。此れは絶大な變化であり、此れは世界歴史及び中國歴史にとつて比類なき大變化である。

中國共産黨員の提出せる此の正確な命題は、スターリソンの理論を根據とするものである。

スターリソンは遠く一九一八年の十月革命一周年記念の論文中に述べてゐる。曰く、『十月革命の偉大なる世界的意義の中、最も重要なものは左の三點である。第一、其れは民族問題の範圍を擴大したことであり、即ち民族壓迫に反對する局部問題を、各被壓迫民族・各植民地及び半植民地を帝國主義下から解放する一個の全體的な問題に變へたことである。第二、其れは此の解放に對して廣大なる可能性と真正なる道路を開拓し、大いに西方及び東方の被壓迫民族解放事業を促進し、彼等を吸収して勝利を獲得すべき反帝國主義的共同軌道の止に持た

來たらしめたことである。第三、故に其れは社會主義的西方と被奴隷的東方との間に橋渡しをするものであり、西方の無産者から露西亞革命を經過して、東方の被壓迫民族に到る一列の新しい反世界帝國主義的革命的軌道を建設したことである。』と張仲實譯スターリソンの『論民族問題』(多思)。

此の文章が發表せられて以來、植民地・半植民地革命理論は、舊藩籬を離脱して、無産階級社會主義革命理論の一部になつた。スターリソンは繰返し此れを展開した。其の解釋が最も簡潔明確になつたのは、スターリソンの一九二五年六月に發表したユーゴスラヴィヤの民族主義者との論争の文章である。此の文章は、張仲實譯スターリソンの『論民族問題』中に『再論民族問題』なる題目を以て採録せられてゐる。其の中に次の一節がある。

『シミツツ同志は曾てスターリソンの一九二二年末に著した『マルクス主義と民族問題』中の『民族の闘争は資産階級相互間の闘争である』との一句を引證して、其處に暗示せられたものに依つて、特定歴史条件下に於ける民族運動の持つ社會意義に就き正確な説明を下さうとした。スターリソンの此の小冊子は、帝國主義大戦前に著されたものであり、當時の民族問題は、マルクス主義者にとつて、未だ全世界的な問題ではなかつた。當時のマルクス主義者は、民族自決權の基本的要求を、未だ無産階級社會主義革命の一部であると看做さず、民族問題を資產階級民主主義革命の一部であるとしてゐた。其の後、國際形勢は根本的に變化した。歐洲大戦と十月革命とは、民族問題を資產階級民主主義革命の一部から、無産階級社會主義革命の一部に變へた。若し此の點を理解しなければ、甚だおかしいことになるであらう。レーニンは、一九一六年十月に、『民族自決權問題に関する討論の結論』なる一文の中で言つてゐる。『曰く民族問題中、民族自決權に關して此の基本點は、既に一般民主運動の一部ではなく、其れは既に全無産階級社會主義革命の一構成部分になつた』と。レーニン及びブロンシヤ共産主義の他の代表者の民族問題に關する幾多の深遠なる著作に就いては、更に言ふまでもないことである。故に、我々が既に新しい歴史環境に在ると言ふことに依つて、新しい時代——即ち世界無産階級革命時代である現在に至つて、シミツツ同志が、スターリソンの露西亞資產階級民主革命時期に著した彼の書物中の一文を引證したとて、其れが如何なる意義を持ち得るであらうか？其れは僅かに次の如き意義を持つてゐるだけである。即ち「シミツツ同志の引用は、完全に時間及び空間を遊離せるものであつて、生きた歴史環境を顧慮せず、其れが爲辯護法の基本要素に違反し、一定の歴史的環境下に於いて正確であつても、他の歴史的環境下に於ては不正確であると言ふことを考慮してゐな

これによつても解るやうに、世界革命は二種に分たれる。即ち一は資産階級と資本主義の範疇に於ける世界革命である。此の世界革命の時期は既に過去のものであり、一九一四年の第一次帝國主義世界大戦勃發時、就中一九一七年の露西亞十月革命時に既に終結した。其れより以後、第二次世界革命が始つた。即ち無産階級の社會主義的世界革命である。此の革命は、資本主義國家の無産階級を主力軍となし、植民地・半植民地の被壓迫民族を以て同盟軍となしてゐる。被壓迫民族中の革命に参加せる階級・黨派又は個人が、如何なる階級・黨派又は個人であらうとも、且つ又彼等が此の事を意識して居ても居なくても、彼等が主觀的に此の事を理解して居ても居なくても、只彼等が帝國主義に反對しなへすれば、彼等の革命は無産階級社會主義世界革命の一部となり、彼等は無産階級社會主義世界革命の同盟軍となるのである。中國革命は今日に至り、其の意義は更に増大した。今日は、資本主義の經濟危機と政治危機とが既に一日一日と世界を第二次帝國主義大戦に捲き込みつゝある時期であり、ソ聯が既に社會主義から共產主義に到る過渡期に在り、且つ全世界の無産階級・被壓迫民族及び凡ゆる革命人民の反帝國主義戰爭を領導し援助して資本主義的打倒する能力を有する時期に在り、各資本主義國家に於て無産階級が正に資本主義を打倒し社會主義を建設せんと準備してゐる時期であり、中國共産黨・中國無産階級・農民階級・知識分子及び小資産階級が中國共産黨の領導下に既に偉大なる獨立的政治力を形成した時期である。今日、我々は此の時期に處してゐるのである。然らば、中國革命の世界の意義は更に増大したと見るべきであるや否や？私には増大したと見るべきであると思ふ。中國革命は世界革命の偉大なる一部である。

此の中國革命の第一段階（其れは又幾多の小段階に分たれる）の社會的性格は新しい資産階級民主主義革命であつて、未だ最も新しい無産階級社會主義革命ではない。併し既に無産階級社會主義世界革命の一部になり、現在では更に此の世界革命中の偉大なる一部になり、此の世界革命の偉大なる同盟軍になつた。此の革命の第一・第二段階は、決して中國資産階級專制の資本主義社會を建設するものでもなければ、建設し得るものでもなくして、中國各革命階級聯合專制の新民主主義社會を建設して、其の第一段階を完了せしめるものである。然る後更に此れを第二段階にまで發展せしめて、以て中國社會主義社會を建設するのである。

此れこそ現在の中國革命の最も基本的な特質であり、二十年來（五四）運動より起算してこの新しい革命過程であり、現在の中國革命の生らしい具體的内容である。

五 新民主主義的政治

中國革命は二個の歴史的段階に分たれる。其の第一段階は新民主主義的の革命であり、之は中國革命の新しい歴史的的特殊性である。併し此の新しい特殊性の具體的表現は、中國内部に於ける政治關係及び經濟關係の上に如何に現れてゐるか？以下に私は此の状況に就いて説明しよう。

一九一九年（五四）運動以前（五・四）運動は一九一四年第一次帝國主義大戦及び一九一七年露西亞十月革命後に發生した。中國資産階級民主主義革命の政治指導者は中國の小資産階級及び資産階級（彼等の知識分子）であつた。當時、中國無産階級は未だ意識的に獨立せる階級勢力として政治舞臺に登つて居らず、尙ほ小資産階級及び資産階級の追隨者として革命に参加しただけであつた。例へば辛亥革命當時の無産階級は、かゝる階級に過ぎなかつた。

「五・四」運動以後に於て、中國資産階級民主主義革命の主要な政治指導者は、既に中國資産階級一階級のみならず、中國無産階級も参加し始めた。當時、中國無産階級は、自己の成長と露西亞革命の影響とにより、既に迅速に、意識的に獨立せる政治勢力に變りつゝあつた。打倒帝國主義の「スローガン」と全中國資産階級民主主義革命の徹底せる綱領とは、中國共産黨の提出せるものであり、而して土地革命の實行は、中國共産黨が單獨實行せるものである。

中國資産階級は植民地・半植民地的資産階級であり、帝國主義の壓迫を受けるものであるが爲、帝國主義時代に於ても、彼等は一定時期・一定程度に於て、外國帝國主義及び本國官僚軍閥政府（例へば辛亥革命及び北伐戰爭の時代は、資産階級が未だ政治に參與してゐなかつた時代であつた）に反對する所の革命性を保存して居り、無産階級・小資産階級と聯合し、彼等が反對せんとする敵に反對することが出来た。之は中國資産階級と露西亞帝國の資産階級との相異點である。露西亞帝國に於ては、其れは既に軍事封建的帝國主義であり、他を侵略するものであつた爲、露西亞の資産階級は何等の革命性をも持たず、其處では、無産階級の任務は、資産階級に反對することであり、彼と聯合することではなかつた。中國に於ては、其れが植民地・半植民地であり、被侵略的である爲、中國資産階級は尙一定時期・一定程度

に於て革命性を持つものである。故に無産階級の任務は、資産階級の此の革命性を無視せず、反帝國主義・反官僚軍閥政府の統一職權の建設を可能ならしめることに在る。

併し同時に、中國資産階級は植民地・半植民地的資産階級である爲、彼等は經濟的政治的に異常に軟弱であり、彼等は又他の「性質」即ち革命の敵に對する妥協性を保持してゐる。中國資産階級、特に大資産階級は、革命時期に於ても、帝國主義と完全に分裂することを願はず、且つ彼等は農村の土地搾取と密切に聯繫して居り、其れが爲、彼等は徹底的に帝國主義を覆滅することを願はず、且つ出来もしない、また封建勢力を徹底的に覆滅することに至つては更に一層固ひもせず且つ出来もしないのである。かくの如く、中國資産階級は革命の二個の基本問題、即ち二大基本任務は、中國資産階級にとつて全く解決し得ざる所である。且つ彼等は又一九二七年から一九三六年までの此の長期間に亘つて、帝國主義の懷に抱かれ、且つ封建勢力と同盟し、自己の革命綱領に背叛し、當時の革命人民に反對した。抗戰中に於ては、大資産階級の一部は、汪精衛を代表として敵に投降し、大資産階級の新しい叛變を表示した。此れは中國資産階級が歴史的に歐米各先進國の資産階級特に佛蘭西の資産階級と異なる點である。歐米各先進國特に佛蘭西に於いて、革命時代には其の資産階級革命は比較的徹底してゐた。併し中國に於ては資産階級に此の徹底性が全く缺けてゐる。

一面革命・一面妥協、此が中國資産階級が一身に二個の任務を兼ねる所の兩面性である。此の兩面性は、歐米資産階級も歴史上具有してゐたものである。大敵を目前にして彼等は労働者農民と聯合して敵に對抗せねばならぬが、併し労働者農民が階級意識を覺醒すれば、彼等はまた敵と聯合して労働者農民に反對する。此れは世界各國資産階級の一般の規律であるが、中國資産階級は更に以上に述べた如き特點を持つてゐる。

中國に於ける事情は非常に明白であり、誰でも人民を領導して帝國主義及び封建勢力を覆滅し得るならば、其れが誰であつても人民の信頼を得ることが出来る。何となれば、人民の不倶戴天の敵は、帝國主義と封建勢力、特に帝國主義であるからである。今日に於て、誰でも人民を領導して日本帝國主義を驅逐し、且つ民主政治を實施し得るならば、其れが誰であつても人民の救済主である。中國資産階級が若し此の責任を果し得るならば、誰一人として其れに對して感服しないものはあるまい。而して若し彼等にして其れが出来ないならば、其の責任は主として無産階級の雙肩に懸らざるを得ない。

故に其れが如何なるものであらうとも、中國無産階級・農民・知識分子及び其の他小資産階級は、國家の運命を決定する基本勢力である。而して此れ等の階級の或る者は既に階級意識に覺醒して居り、或る者は現に覺醒しつつあり、彼等は必然的に中華民主共和國の國家構成と政權構成の最も基本的な部分を成すものである。現在建設されんとしてゐる中華民主共和國こそ、凡ゆる反帝・反封建の人士の聯合專制的民主共和國であり、新民主主義的共和國であり、革命的眞正三民主義即ち孫中山の三大政策である三民主義共和國である。

此の新民主主義共和國は、一方に於て、舊式・歐米的・資本主義專制的・資本主義的共和國と相異する。其れ等は舊民主主義的共和國であり、かゝる共和國は既に過去のものである。他方に於て、最新式・ソ聯的・無産階級專制的・社會主義的共和國とも相異する。此れは最新民主主義的共和國であり、かゝる共和國は既にソ聯に於て廢止になつて居り、且つ各資本主義國家に於ても建設せられんとして居り、疑ひもなく凡ゆる先進國の國家構成と政權構成の統治様式となるであらう。併し此の共和國は、一定の歴史段階に於ては、植民地・半植民地國家に適用せられない。故に凡ゆる革命的植民地・半植民地國家が、一定の歴史段階中に於て國家形式として採り得る唯一の形式は第三の形式であるのみである。此れが新民主主義共和國なのである。此れは、一定の歴史段階に於ける國家形式であり、其れ故に過渡的國家形式ではあるが、併し他のものによつて代替せられ得ない且つ必要な一種の國家形式である。

故に、全世界の多種多様な國家體制をその社會的性質から區分すれば、基本的には以下の三種に分たれるに過ぎない、即ち(甲)資産階級專制的共和國、(乙)無産階級專制的共和國、(丙)數個革命階級聯合專制的共和國である。

第一種は、舊民主主義的國家であり、今日即ち第二次帝國主義戰爭爆發後に於て、凡ゆる資本主義國家には、既に民主主義的風潮は無く、總べては資産階級の血腥い軍事專制に變り又は變らんとしてゐる。或る種の地主・資産階級聯合專制國家は、此れに屬する。

第二種は、ソ聯を始めとしてその他各資本主義國家に於ても醜態しつつあり、將來一定時期には世界の統治形式になるであらう。

第三種は、革命的植民地・半植民地國家の過渡的形態である。各植民地・半植民地は必ず或種の異なる特殊性を持つであらう。併し此れは大同中の小異であるに過ぎない。唯革命的植民地又は半植民地ではさへあるならば、其の國家構成と政權構成とは、基本的には必然的に同一である。即ち數個の帝國主義に反對する階級が聯合する共同專制的新民主主義的國家たらねばならぬのである。今日の中國に於て、此の新民主主義的國家形式は、抗日統一職權の形式であり、其れは抗日的・反帝國主義的・數個の革命階級聯合的・統一職權的なものである。併し殘

念乍ら、抗戰既に久しいにも拘らず、國家民主化の工作は基本的に未だ着手せられず、日本帝國主義は、此の最も根本的な弱點を利用して、進撃して来た。茲に於て政策を轉換しなければ、民族の運命は非常な危険に陥入るであらう。現在開始せられた憲政運動に、我々はいさる危険を救済せんとする希望を懸けてゐる。

此處に論ぜんとすることは、『國體』問題である。此の國體問題は、前清末年から起り、數十年を經た今日に至るも尚ほ不明瞭である。其の實、其れは唯一個の問題、即ち社會各階級の國家に於ける地位を指すのみである。資產階級は此の階級地位を欺瞞して、『國民』なる名詞を用ひて、其の一階級專制の實際を達成した。此の欺瞞は、革命的國民には何等の利益はなく、此れを明瞭ならしむべきものである。『國民』といふ此の名詞は成程使用し得るものである。併しこの國民中には反革命分子、漢奸を含み、一切の革命的國民だけを包括する。凡ゆる革命的階級の反革命漢奸等に對する專制、此れこそ我々の國家である。

『近世各國の所謂民權制度は、往々にして資產階級の專有する所となり、平民壓迫の道具になつた。蓋し國民黨の民權主義は、一般平民の共有する所に於て、少數人の私する所ではない。此れは一九二四年國民黨第一次全國代表會議の宣言中に於ける莊嚴なる聲明である。民國十六年以來、國民黨は自ら此の聲明に背反し來たり、其の結果今日かゝる國難の深刻なる局面を招來するに至つた。此れは國民黨の絶大な錯誤であり、我々は國民黨が抗日の洗禮によつて此の錯誤を改正することを希望する。

今一つ所謂『政體』の問題がある。其れは政權構成の形式を指すものであり、一定社會の階級が如何なる形式を以て彼の敵に對抗し、自己を保護する政權機關を組織するかを指すものである。適當な形式の政權機關が無ければ國家を代表することは出来ない。中國は現在國民大會・省民大會・縣民大會・區民大會より鄉民大會に至る一列の系統を有し、且つ各級大會から政府を選挙することになつてゐる。併し男女・信仰・財産・教育等の差別を無くした眞に普遍平等な選舉制を實行すべきであり、かくして始めて各革命階級の國家に於ける地位に適合し、民意の表現と革命闘争の指揮に適合し、新民主主義的精神に適合することが出来る。此の制度が即ち民主集中制である。民主集中制の政府のみが、十分に凡ての革命人民の意志を發揮し、最も有力に革命の敵に反對することが出来るのである。『少數人の私する所ではない』といふ精神は必ず政府と軍隊の組織中に表現されるべきであるが、若し眞の民主制度が無ければ、此の目的を達成することが出来ず、政體と國體とをして不適應ならしめる。

國體——各革命階級聯合專制。政體——民主集中制。此れこそ新民主主義的政治であり、新民主主義的共和國であり、抗日統一戰線的共和國であり、三大政策の新民主主義共和國であり、名實兼備の中華民國である。我々は現在中華民國の名を有してはゐるが、未だに中華民國の實は無い。名に相應する實を求め、此れこそ今日の工作である。此れこそ革命中國、抗日中國が建設すべき、且つ建設せざる可からざる内部政治關係であり、今日の『建國』工作の唯一正確な方向である。

六 新民主主義的經濟

中國に於て建設せられる此の共和國は、政治的に新民主主義的であるが、經濟的にも新民主主義的である。

大銀行・大工業・大商業は、此の共和國の國家所有に歸する。『凡そ本國人及び外國人の企業は、或は獨占的性質を持ち、或は規模過大にして私人の力では經營し得ないもの、例へば銀行・鐵道・航空の如きは、國家に於て此を經營管理し、私有資本制度が國民の生計を操縱することを不可能ならしめる。此れ即ち資本節制の要旨である。此れも亦國民黨第一次全國代表大會宣言中の莊嚴な聲明であり、此れこそ新民主主義共和國の經濟構成の正確な方針である。併し同時に、其れは決して其の他の資本主義的私有財産を沒收するものでもなければ、決して『國民生活を操縱することの出来ない』資本主義的生産の發展を禁止するものでもない。其れは中國經濟が尚ほ完全に落後してゐるからである。

其れは、將來、或る種の必要な方法によつて、大地主の土地を沒收し、土地無き又は土地の少い農民に分配して、孫中山の所謂『耕者有其田』なるスローガンを實行し、農村に於ける封建關係を一掃するであらう。併し社會主義的農業を建設するのではなくして、農民の私産に變へるのである。従つて農村の富農經濟も亦其の存在を許容せられるのである。此れこそ所謂『地權平均』の方針である。此の方針の正確なスローガンは、『耕者有其田』のスローガンである。

中國の經濟は必ず『資本節制』と『地權平均』の路線を進まねばならず、決して『少數人が私し』たりするものでもなく、決して歐米流の資本主義社會を建設したり、古い半封建的社會を建設したりするものでもない。何人にもせよ敢て此の方向に違背せんとするならば、必ず失敗し、

破綻に瀕しなければならぬであらう。

此れこそ、革命中国・抗日中国が建設すべき且つ必ず建設せざるを得ない内部経済関係である。かかる経済が即ち新民主主義的経済である。

而して新民主主義的政治は、此の新民主主義的経済の集中的表現である。

七 資産階級専制を駁す

かゝる新民主主義的政治と新民主主義的経済を持つ共和国は、全国百分の九十以上の人民が悉く賛成するものであり、『天理に順ひ、人情に應じ、世界の潮流に適し、大衆の需要に合し、而して先知先覺者の決意した所を行へば、斷じて成らないことはない』(孫中山遺言)のものであり、此れを捨て、他に道を求めることは出来ない。

資産階級専制の資本主義社会建設の道を進むか？其れは誠に欧米資産階級の進んだ舊い道ではあるが、國際・國內的條件は中國が此の道を行ふことを全然許さない。

國際環境から見ても、此の道は歩むことが出来ない。現在の國際環境は、基本的には、資本主義と社会主義とが闘争する環境であり、資本主義が没落し、社会主義が生長する環境である。故に、先づ國際資本主義即ち帝國主義が許さない。帝國主義は中國を侵略し、中國の獨立に反對し、中國の資本主義的發展に反對する。此れ即ち中國近代史であり、中國革命歴史の失敗は悉く帝國主義の壓迫によるものであり、無數の革命的先烈は、此れが爲、終天の恨を抱いて逝いた。現在は強大な日本帝國主義が進撃して来て、其れは中國を植民地化しようとしてゐる。現在、日本は中國に於て自己の資本主義を發達せしめんとしてゐるのであり、決して何も中國の資本主義等を發達せしめようとしてゐるのではない。勿論現在は帝國主義最後の足掻きの時期であり、將に死に瀕せんとして居り、『帝國主義は死に瀕した資本主義である。併し正しくそれが死に瀕して居るが故に、其れは更に一層植民地・半植民地に依存するを要するのであり、決して如何なる植民地・半植民地に於ても資産階級専制の資本主義社会等が建設されることは許されないのである。思ふに、正しく日本帝國主義が、嚴重な經濟危

機と政治危機の深坑に陥落せんとしてゐる。それは死に瀕してゐるその故にこそ必ず中國を侵略して、中國を植民地化しようとするのである。其れは中國の資産階級専制の建設と民族資本主義的發展との道を斷絶するものである。

次に社会主義も亦許されない。今日世界中凡ゆる帝國主義は皆我々の敵であり、中國が獨立せんとすれば、決して社会主義國家と國際無産階級との援助を離れることは出来ない。即ち、ソ聯の援助を離れることも出来ず、日本及び英・米・佛・獨・伊各國無産階級の其の本國に於ける反資本主義闘争の勝利を離れることも出来ない。彼等の勝利は即ち我々に對する援助である。併し乍ら中國の勝利は必ずしも日本及び英・米・佛・獨・伊各國又は其の中一二個國の革命勝利の後でなければならぬとは言へないが、彼等の協力を俟つて始めて勝利し得るものであること、此れには疑ふ餘地も無い。就中ソ聯の援助は、抗戰最後勝利にとつての不可缺條件である。ソ聯の援助を拒絶するならば、革命は失敗しなければならぬ。此れは一九二七年以後の中國反ソ運動の教訓に備するも、非常に明瞭ではないか？現在の世界は革命と闘争の新时代に在り、資本主義が必ず死滅し、社会主義が必ず盛大になる時代である。かゝる情勢の下に於て、中國の反帝・反封建勝利の後更に資産階級専制の資本主義社会を建設せんとするのは、完全な夢想ではないか？

例へば特殊條件(當時、トルコの資産階級はギリシヤ侵略に勝利し、無産階級の勢力が餘り薄削であつた)によつて、第一次帝國主義大戰と十月革命以後に於て、尙ケマルパシヤ的な小さな資産階級専制の土耳其が存在したが、第二次世界大戰と、ソ聯に於て既に社会主義建設が完成せる後に於ては最早かゝる土耳其はあり得ず、就中四億五千萬の人口を有する土耳其は決して存在し得ない。中國の特殊條件(資産階級の妥協性・無産階級の徹底性)により、中國は未だかつて土耳其のやうな都合のよい事情はなかつた。一九二七年中國大革命の失敗後、中國の資産階級分子はケマルパシヤ主義などを高唱したではないか？併し乍ら中國のケマルパシヤは何處へ行つたか？中國の資産階級専制及び資本主義社会も亦何處にあるか？況して所謂ケマルパシヤ的なトルコは、遂に英佛帝國主義の懷中に抱かれざるを得ず、一日一日と半植民地化し、帝國主義・反動世界の一部分に化した。二十世紀四十年代の國際環境に處して、植民地・半植民地の英雄好漢は誰でも帝國主義敵線に立ち、世界反革命の一部になるか、然らずんば、反帝國主義敵線に立ち、世界革命の一部になるか、必ず二者の擇一であらねばならず、其の他に進むべき道はあり得ない。

國內環境に就いて見れば、中國資産階級は必要な教訓を獲得すべきであつた。中國資産階級は、一九二七年に、無産階級・農民及び小資

階級の力量によつて、革命を成功せしめた途端に彼等は此等人民大衆を蹴飛ばし、革命の成果を獨占した。且つ非常に強大な力を以て十年に亘る『剿共軍』を起した。然るに結果はどうであつたか？ 現在強大な敵は國土深く侵入し、抗日戦争は既に二個年の久しきに亘り戦はれたが、まさか尙ほ歐米資本階級が既に擧げた舊い道を廢まうと言ふのではあるまい。過去の『剿共十年』は決して何も資本階級專制の資本主義社會等を建設しなかつた。まさかにもう一度其れをやつてみようと言ふのでもあるまい？ 然り、『剿共十年』は『一黨專制』を建設したが、併しそれは半殖民地・半封建的專制であつた。而して剿共四年（一九二七年から一九三二年の『九一八』に至る）の後は、既に『滿洲國』を建設し、更に六年後、一九三七年には日本帝國主義を中國本部へ侵入させた。若し誰か今日から更に十年の剿共をなさんとするならば、其れは既に新しい剿共典型であり、舊い其れとは多少趣きを異にする。併し此の新しい剿共事業は、既に先を競つて奮闘努力したものがあつたではないか？ 其れは汪精衛であり、彼は既に有名噴々たる新式反共人物になつた。誰が彼の一味にならうとも、其れは勝手である。併し其れは資本階級專制・資本主義社會・ケマルパシヤ主義・現代國家・一黨專制・一黨主義等々と言はれるのは當然ではないか？ 若し汪精衛の一味に與せず抗日の一味に與し、抗日の勝利を獲た後、抗日人民を蹴飛ばして抗日の成果を獨り占めして『一黨專制黨政』を唱へようとしても、それは夢想に等しいではないか？ 抗日・抗日は一種誰の力によるものであるか？ 工人農民及び小資本階級を離れて、君は一步も身動き出来ないので。誰かが取つて、彼等を蹴飛ばさんとするならば、誰の脚でも微塵に粉砕せられなければならず、此れは常識を以てしても明かなことではないか？ 併し中國資本階級頑固派（私が言ふのは頑固派のことである）は、二十年來、決して如何なる教訓をも得なかつたものの如くである。彼等は尙ほ『限共』『消共』『反共等』と大聲で喚き散してゐるではないか？ 彼等は『限制異黨活動辦法』に引續き、更に『異黨問題處理辦法』とか、『處理異黨問題實施法案』とかを持ち出したのではないか？ 彼奴等はかゝる『限制』とか『處理』とかによつて、民族の運命を何處へ持つて行かうとするのであるか？ 我々が誠心誠意此等の先生方にお勧めしたいことは、彼等も眼を開いて、中國と世界とを見、國內と國外とを見て、現在どうなつてゐるかを知り、再び彼等が錯誤を繰返さないことである。再び彼等が錯誤を犯すならば、民族の運命は勿論災厄に遇ひ、私が見る所では、諸君自身の爲にも餘りよくない。此れは、明瞭、必至、確實なことであるが、若し中國資本階級頑固派が自覺しなかつたならば、彼等にとつて決して難なことはなく、彼等は將來自ら墓穴を掘らねばならないであらう。故に我々は中國の抗日統一戦線を希望し、其れを堅持するが、其れは一人が獨占すべきものではなくして、全體の合作であり、抗日の事業を勝利に歸せしめるのは、

上策であり、然らざれば繰べて下策である。此れは共產黨員が裏心から勧告する所であり、決して『早まつた豫言』をするのではない。
 中華民國の故總統黎元洪先生の言はれた陳腐な言葉ではあるが、『飯が有れば皆で食ふ』といふのは、非常に道理に適つた言葉である。敵があつて皆で戦つてゐる以上、飯が有れば皆で食ふべきであり、仕事があつて皆で働いてゐる以上、書物が有れば皆で讀むべきである。彼の『獨り占めせよ』、『人には毒も與へるな』といふ行方方は封建的な古い行方であり、二十世紀四五十年代に持ち出して來ても、とても通用しないものである。

我々共產黨員は、凡ゆる革命的な人士を殺降したり、反共したりさへしなければよいに對して、決して彼等を排斥しない。我々は將來凡ゆる抗日に徹底せる階級・階層・政黨・政團及び個人と共に、統一戦線を堅持して、長期合作を實行するであらう。併し若し人々が共產黨を排斥せんとしても、其れは駄目である。人々が統一戦線を分裂させようとしても、其れも駄目である。中國は必ず抗戦し、團結し、進歩しなければならぬ。誰が投降し、分裂し、退却しようと、我々は其れを許して置けない。

八 左傾空談主義を駁す

資本階級專制の資本主義路線を歩まないからと言つて、無産階級專制の社會主義路線を歩むことが出来るかどうか？
 それは不可能である。

言ふまでもなく、現在の革命は第一段階であるが、將來は第二段階即ち社會主義にまで發展しなければならないものである。中國も亦社會主義時代に到達して始めて、眞に幸福な時代であると言ふことが出来る。併し現在はまだ社會主義を實行する時期ではない。中國現在の革命任務は、反帝反封建主義であり、此の任務を完成させなければ、社會主義を語ることは出来ない。中國革命は二つの段階を経なければならぬ。即ち第一段階は新民主主義であり、第二段階は社會主義である。而して第一段階は時間的に相當長く、決して一朝一夕に成就出来るものではない。我々は空想家ではない。我々は當面せる現實的條件を遊離することは出来ない。

三、新民主主義論

合して、共産主義が存在理由を失つてゐることを證明し、かゝる「理論」を以て、得意になつて共産主義と共産黨に反對し、八路軍、新四軍及び陝甘寧邊區に反對してゐる。其の目的は、根本的に如何なる革命も消滅させ、徹底的に資産階級民主革命に反對し、徹底的に抗日に反對して、日寇に投降せんとする輿論を準備せんとするものである。かゝる状況は、日本人が計畫的に造り出したものである。何となれば、日本帝國主義は武漢占領以後、單に武力のみによつては中國を屈服させることが出来ないことを知つた爲に、政治進攻と、經濟誘引に着手した。所謂政治進攻とは、抗日陣營内の動搖分子を誘惑して、統一戰線を分裂させ、國共合作を破壊することである。所謂經濟誘引とは、所謂合辦營業のことである。華中華南に於て、日寇は中國資本家に五十一%の投資を許し、日本資本は四十九%を占め、華北に於て、日寇は中國資本家に四十九%の投資を許し、日本資本は五十一%を占めてゐる。日寇は更に各中國資本家が元來所有してゐた財産を彼等に返還し、或ひは評價して資本化した。かくて一部の良心を喪つた資本家に利を見て義を忘れ、欣然として參加した。一部資本家は汪精衛を代表として既に投降した。更に一部の資本家は、抗日陣營内に在りながら、逃避しようと思つてゐる。併し彼等は小膽であり、共産黨が彼等の出路を阻むのを恐れ、更に民衆が漢奸と罵るのを恐れてゐる。茲に於て大勢集つて開會し、事前に於て文化界、言論界に於て準備をなすべきであると決議した。政策が定まるや、遲疑することなく、茲に於て數名の街學者を雇ひ、更に數名のトロツキストを加へ、ペンを以て無間やたらに書き立て、滅茶苦茶に攻撃した。茲に於て一次革命論だ、共産主義は中國々情に適しない。共産黨は中國に存在する必要もたない、八路軍、新四軍は抗日を破壞し、逃げてばかり居て攻撃しない。陝甘寧邊區は封建割據である、共産黨は命令を聽かない、不統一である、陰謀を企む、混亂してゐる等と言つて、世事に疎い人々を騙すのは、時機が到つた時、資本家が理窟をつけて四十九%又は五十一%を持つて行き、全民族の利益を悉く敵に賣却せんが爲である。此は傑を編み柱を換へる類ひであり、投降實行前の思想的な準備であり、輿論的な準備である。かゝる先生方は皆かくの如く「一次革命論」を提唱し、共産主義及び共産黨に反對するのは他ならぬ四十九%又は五十一%の爲であり、其の用心も亦非常に苦しいものである。「一次革命論」は、革命不要論であり、此れが問題の本質である。

併し其れ以外の人々の中にも、尙決して惡意はないが、所謂「一次革命論」に迷はされ、所謂「政治革命も社會革命も歸する所は一である」と言ふ純主觀的な思想に惑はされてゐるものがある。併し此れは、革命には段階があり、只一つの革命からのみ他の革命に到達することが出来る。所謂「一舉にして功を收める」と言ふが如きことは無いことを知らないのである。かゝる觀點は、革命の段階を混淆し、當面の任務

に對する努力を低下させ、非常に有害なものである。二個の革命段階に於いて、第一段階は第二段階の準備條件であり、二個の段階は必ず離れなければならず、其の間に資産階級專制の段階を挿むことは許されない。此は正確であり、マルクシズムの革命理論である。民主革命が自己の一定任務をもたず、自己の一定時間をもたずして、他の時間に他の任務を完成することが出来るとなし、例へば社會主義の任務を、民主主義の任務の上に同時に完成させることが出来るとなし、其れを稱して「一舉にして功を收める」と言ふならば、其れは空想であり、眞の革命家の取らない所である。

九 頑固派を駁す

茲に於て資産階級頑固派が既け出して言ふ……よろしい。君達共産黨が社會主義社會制度を後の段階に推しやり、諸君が更に「三民主義は中國が今日必要とするものであり、本黨は其の徹底的實現の爲に奮闘せんとする」と稱する以上、共産主義を暫時「停止」したらよいと。此種の議論は、所謂「一個主義」の標題の下に、既に狂妄な叫びに變つた。かゝる叫びは、本質的に頑固分子の資産階級專制主義である。併し少しし遠慮して、其れを「非常論」と言つてもよい。

共産主義は無階級の全思想體系であり、同時に又一種の新しい社會制度でもある。此の思想體系と社會制度とは、他の如何なる思想體系とも、如何なる社會制度とも區別せられるものであり、人類有史以來、最も完全な、最も進歩的な、最も革命的な、最も合理的なものである。封建主義的思想體系と社會制度とは、歴史博物館に入れられたものである。資本主義的思想體系と社會制度とは、既に一部に於て博物館に入れられたものである。其の他の部分に於ても亦既に「日は西山に没せんとし、氣息奄々たり、人命は微淺にして、朝夕を慮らず」であり、間もなく博物館に入れられるであらう。獨り共産主義的思想體系及び社會制度だけは、正に排山倒海の勢、雷霆萬鈞の力を以て、全世界に充ち／＼と居り、其の美妙なる青春を保つてゐる。中國が科學的共産主義を有つて以來、人々の眼界は廣められ、中國革命も面目を改變し、中國の民主革命は、共産主義によつて指導せられなければ決して成功することの出来ないものであり、特に革命の第二段階に就ては言ふまでもないことである。此も亦資産階級頑固派が何故あの様に喧しく「停止」を要求せねばいかと言ふ原因である。其

三、新民主主義論

の實此れは停止せしめることの出来ぬものであり、一たび停止すれば、中國は滅亡の止むなきに至る。現在の世界は、共產主義によつて救はれるものであり、現在の中國も亦正しく然りである。

周知の如く、社會制度又は行動綱領として、共產黨は現在綱領と將來綱領、又は最低綱領と最高綱領の二部分を持つものである。現在に於ける新民主主義、將來に於ける社會主義、此れは有機構成的な二部分であり、全共產主義思想體系の指導する所である。何となれば、共產黨の最低綱領と三民主義の政治原則とは本質的に等しいからであり、徒らに共產主義を『停止せよ』と叫ぶが、誤謬も甚しいものではないか？ 共產黨員にとつては、正に三民主義の政治原則は自己の最低綱領と本質的に等しく、其れ故に三民主義は抗日統一戦線の政治基礎である。『三民主義は中國が今日最も必要とするものであり、本黨はその徹底的實現の爲に奮闘せんとする』ことを承認出来るが、然らざれば、かゝる可能性は無くなる。此れは共產主義と三民主義の民主革命段階上に於ける統一戦線であり、孫中山の所謂『共產主義は三民主義の良友である』も亦正に此の統一戦線を指すものである。共產主義を否定することは、實際上統一戦線を否定することである。頑固派も亦正に其の『一黨主義』を奉じて統一戦線を否定することに依つて、共產主義を否定するが如き誤謬を犯すのである。

『一個主義』も駄目である。階級が存在する條件の下に於ては、階級の數だけ主義もあり、甚しきに至つては一階級の各集團毎に尙それぞれの主義がある。現在、封建階級には封建主義があり、資產階級には資本主義があり、和尙には佛教主義があり、基督教徒には基督教主義があり、農民には多神主義があり、近年に至つては、更にケマル・パシヤ主義・フアシズム・唯生主義・勞働比例分配主義等がある。何故無産階級は共產主義であつてはいけないのか？ 既に枚擧に遑ない程多數の主義があるのに、何故共產主義だけを大聲で『停止せよ』せねばならないのか？ 實際のところ、『停止』しようとしても駄目である。矢張り競争してみなければならぬ。誰でも共產主義を取北させることが出来たらば、我々共產黨員は自ら不運であると誇める。併し若しさうでなかつたら、彼の所謂『一個主義』の反民權主義的に行方は、もはや早速『停止』しなければならない。

次に誤解を除き且つ頑固派の眼を開かせる爲に、三民主義と共產主義との異同に就いて明瞭な説明をなす必要がある。

三民主義と共產主義の二個の主義を比較してみると、同じ部分もあれば、異なる部分もある。

第一、同じ部分。此れは兩主義が共に中國資產階級民主革命の段階上に於ける基本政綱であることである。一九二四年孫中山が新たに解した三民主義中の革命的民族主義・民權主義・民生主義の三個の政治原則と、共產主義の中國民主革命段階に於ける政綱とは、本質的に同じものである。此の相似により、三民主義が實行せられることによつて、二個の主義二個の黨の統一戦線が存在し得るのであり、其の一方を無視することは、錯誤である。

第二、異なる部分。(一)民主革命の段階上に於ける綱領の一部が不同である。共產主義の全民主革命政綱中には八時間労働制と徹底的土地革命綱領とがあるが、三民主義には此の部分がない。若し三民主義が此の部分も補足し且つ其の實行を準備しないならば、民主政綱は本質的に同じであるが、完全に同じであるとは言へない。(二)二個の段階の不同。共產主義は民主革命段階以外に、尙社會革命段階をもつて居り、其れ故に最低綱領以外に尙最高綱領即ち社會主義社會制度實現の綱領がある。三民主義には民主革命段階があるだけで、社會革命段階はなく其れ故に其れには最低綱領があるだけで、最高綱領はない、即ち社會主義社會制度建設の綱領はない。(三)宇宙觀の不同。共產主義の宇宙觀は辯證法的唯物論と唯物史觀であり、三民主義の宇宙觀は民生史觀又は唯生論であり、二者は相反するものである。(四)革命徹底性の不同。共產主義は理論と實踐とが一致して居り、革命の徹底性を有してゐる。三民主義は彼の革命及び眞理に對して最も忠實な人々を除き、理論と實踐とが一致せず、説く事となす事とが互に矛盾して居り、革命に徹底性が無い。此等は皆兩者の異なる部分である。此等の不同により、共產主義と三民主義との間には差別がある。かゝる差別を無視して、同一方面ばかりを見て矛盾する方面を見なければ、疑もなく非常な錯誤である。

此れ等を明白にして始めて、資產階級頑固派が共產主義の『停止』を要求するのは何故であるか明白になる。資產階級の專制主義であるか、さもなければ全くの非常識である。

十 舊三民主義と新三民主義

資產階級頑固派は完全に歴史の變化を知らず、其の知識の低劣なことは小數點以下である。彼等は共產主義と三民主義の區別さへも知らず、新三民主義と舊三民主義の區別に至つては勿論知らない。

三、新民主主義論

我々共産黨員は『三民主義は抗日民族統一戦線の政治基礎である』ことを承認し、『三民主義は中國が今日必要とするものであり、本黨は此れが徹底的實現の爲に奮闘する』ことを承認し、共産主義の最低綱領と三民主義の政治原則とが基本的に同じものであることを承認してゐる。併しかゝる三民主義は如何なる三民主義であるか？此の三民主義は、孫中山先生が國民黨第一次全國代表大會宣言中に新しく解釋した三民主義以外の何物でもない。私は頑固派の先生達が『反共』『反共』等の工作に於て得意になつてゐる餘暇に、此の宣言を一讀することを希望する。元來孫中山先生は此の宣言中に於て『國民黨三民主義の眞の解釋は斯の如くである』と言つてゐる。此れによつても此の三民主義のみが眞正三民主義であり、其の他は皆偽三民主義であることが解る。國民黨第一次全國代表大會の宣言中に於ける三民主義の解釋こそ『眞の解釋』であり、其の他は總べて偽の解釋である。此は恐らく共産黨の『宣言』ではあるまい。此の宣言の通過を、私は多くの國民黨員と共に肉眼で見たのだ。

此の宣言は、三民主義を二個の歴史的な時代に區分した。其れ以前の三民主義は舊三民主義であり、古い半植民地資本階級民主革命の三民主義であり、舊三民主義であり、舊三民主義である。

其れ以後の三民主義は、新三民主義であり、新しい半植民地資本階級民主革命の三民主義であり、新民主主義的三民主義であり、新三民主義である。此の三民主義のみが、新時期の革命的三民主義である。

此の新時期の三民主義、新三民主義又は眞正三民主義は、聯ソ、容共、農工の三大政策をもつ三民主義である。若し三大政策がなく、又は三大政策の一を缺くならば、新時期に於て、孰れも偽三民主義又は半三民主義である。

第一、革命的三民主義、新三民主義又は眞正三民主義は、必ず聯ソ三民主義でなければならない。現在の事情は非常に明白であり、若し聯ソ政策がなく、社會主義國家と聯合しなければ、其れは必然的に聯帝政策であり、帝國主義との聯合でなければならない。一九二七年以後に於て、かゝる状態は現れなかつたか？抗日の最初の三年間は、帝國主義大敵が未だ勃發せず、尙英米等の國家と日本との間の矛盾を利用することが出来た。帝國主義大敵の勃發後に於て、かゝる矛盾は消滅しなかつたけれども、既に縮小せられ、若し利用が適當でなかつたならば、英米は中國が反ソに参加することを要求する結果に陥るであらう。中國が若し彼等に依存するならば、直ちに帝國主義的反動戦線方面に立ち、民族獨立なども結末を告げるであらう。社會主義的聯ソと帝國主義的英米との闘争は、益々尖鋭化して行き、中國が此方に附

かなければ、彼方に附かねばならず、此れは必然的な趨勢である。まさか偏せしめずといふわけにもゆくまい？此れは夢想である。地球全體が此の兩戦線に捲き込まれ、今後の世界に於て、『中立』は欺瞞的な名詞であるに過ぎない。況して中國は國土深く侵入せる帝國主義と奮闘して居り、聯ソの援助がなければ、最後の勝利などは考へられない。若し聯ソを棄て、聯帝を取らば、必ず『革命』の二字を取消し、反動的三民主義にならねばならない。つまり『中立』の三民主義はなく、革命的或ひは反革命的三民主義があるだけである。汪精衛の曾ての言葉によれば『大擧せられながら奮闘する』のである。『大擧せられながら奮闘する』三民主義とは何と勇敢ではないか？併し残念ながら提唱者たる汪先生さへも此の三民主義を放棄又は停止し、彼は現在聯帝的三民主義を採つた。若し帝にも東帝と西帝との區別があると言ふならば、彼は東帝と聯合したのであり、私はそれと反對に、西帝諸國と聯合して東を撃つものであり、何と革命的ではないか？併し乍ら如何せん西帝は反ソ、反共せんとして居り、君が彼と聯合するならば、彼は君に北を撃つことを要求し、君の革命は不成功に終るであらう。此れ等の状況を綜合して、革命的三民主義、新三民主義又は眞三民主義を規定するならば、必ず聯ソ三民主義でなければならない。決して帝國主義と聯合する反ソ三民主義ではあり得ない。

第二、革命的三民主義、新三民主義又は眞三民主義は、必ず聯共三民主義でなければならない。若し聯共しなければ、反共しなければならぬ。反共は日本帝國主義と汪精衛の政策であり、君も亦反共しようとするならば、其れは非常に結構である。何となれば、彼等は君が彼等の反共公司に加入することを希望してゐるからである。併し此れは些かも漢奸の汚名を著なくてもよいものであらうか？私は日本と一緒に進まない。獨り他國と一緒に進むことも亦結構である。君が誰と一緒に進むとそれは勝手であるが、たと反共せんとするならば、君は漢奸である。何となれば、君は最早抗日することが出来ないからである。私は獨立して反共すると言ふならば、其れは夢物語である。植民地半植民地の好漢諸君が、帝國主義の力を藉らずして、此の反革命の大事業をなすことがどうして出来ようか？嘗ては全世界帝國主義が殆んど全力量を發揮して、十年の久しきに互り反共したにも拘らず、反共は不可能であつた。況んや、今日に於て突然獨立して反共することは可能であらうか？聯共によれば、外部の或る人はかう言つてゐる：『反共は結構である。併し反共は不可能である。』と。若し此の言葉が誤傳でないならば、此の一句は半分だけ間違ひである。『反共』の何處に『結構』ことがあらうか？併し半分は正確であり、『反共』は實に『不可能』である。其の原因は、基本的には共産主義に在るのではなくして、大衆に在るのである。何となれば、大衆が『共産主義』を

歎ひ、『反共』を厭はないからである。大衆は決して容赦しない。民族の敵が國土深く侵入してゐる時、君が反共しようとするならば、大衆は君の命を取らねばならぬ。此れは確信であり、誰でも反共せんとする者は、粉々に粉砕せられる準備が必要である。若し自己を犠牲にする準備を決意することが出来なければ、唯かに反共しない方が気が利いてゐる。此れは我々が凡ゆる反共の英雄諸君に送る懇切な警告である。此れによつて愈々明かになつたやうに、今日の三民主義は、必ず聯共三民主義でなければならず、然らざれば、三民主義は滅亡しなければならぬであらう。此れは三民主義の存亡問題である。即ち聯共すれば、三民主義は存し、反共すれば、三民主義は滅ぶ。此れを誰が然らずと證明することが出来るであらうか？

第三、革命的三民主義・新三民主義又は真正三民主義は、必ず農工政策をもつ三民主義でなければならぬ。農工政策を必要とせず、誠心誠意農工を扶助せず、『總理の遺囑』中の『民衆を喚起すること』を實行しないならば、それは革命の失敗を準備するものであり、自己の失敗を準備するものである。スターリンは、『植民地・半植民地の問題は實質的に農民の問題である』と言つてゐる。此れはとりもなほさず、中國の革命が實質的に農民革命であることである。現在の抗日は、實質的には農民の抗日であり、新民主主義的政治は、實質的には農民に權利を授けるものである。新民主主義・真正三民主義と言ふも、實質的には農民を向上させる文化である。抗日戦争は、實質的には農民の争である。現在は『登山主義』であり、諸君は皆山の頂上にある。開會・執務・登校・報告・著作・演劇は皆山の上で行はれ、實質的には農民の爲のものである。抗日も生活も、實質的には、總べて農民のものである。故に『實質的』と言ふのは、基本的と言ふことであり、決して其の他の問題を無視することではなく、此れはスターリン自身の解釋せる所である。中國人民の八十％は農民であることは小學生の常識である。大城市陥落後は、八十％に止まらなくなつた。故に農民問題は、中國革命の基本問題になり、農民の力量は、中國革命の主要力量となつた。農民以外に、中國人口中に於て第二の部分を成してゐるのは工人である。中國の工場労働者は數百萬であり、手工業労働者と農業労働者とは數千萬である。若し彼等工人が居なければ、中國は生活することが出来ない。何となれば、彼等は工業經濟に於ける生産者であるからである。若し彼等が居なければ、革命の勝利を獲られなくなる。何となれば、彼等は中國革命の領導者であり、彼等は最も革命性に富んでゐるからである。かゝる状況の下に於て、革命的三民主義・新三民主義又は真正三民主義は、必然的に農工政策をもつ三民主義でなければならぬ。若し如何なる三民主義であれ、其れが農工政策を缺き、誠心誠意農工を扶助することなく、『民衆の喚起』を實行

しないものであるならば、其れは必ず滅亡しなければならぬ。

此れによつても解るやうに、聯共・農工の三大政策を遊離せる三民主義には、前途なく、凡ゆる良心的な三民主義者は、必ずまじめに此の點を考慮しなければならぬ。

此の三大政策をもつ三民主義・革命的三民主義・真正三民主義は、新民主主義的三民主義であり、舊三民主義の發展であり、孫中山先生の大功業であり、中國革命が社會主義世界革命の一部をなす所の時代の産物である。此の三民主義をもつことによつてのみ、中國共産黨は『中國今日の必需である』と言ふことが出来、『徹底的實現の爲に奮闘せん』と宣布することが出来るのである。此の三民主義のみが、中國共産黨の民主主義段階中に於ける政綱、即ち其の最低綱領と基本的なものである。

舊三民主義に至つては、其れは中國革命舊時期の産物である。當時の露西亞は帝國主義の露西亞であり、當然露露政策は不可能であつた。當時は國內にも共産黨がなく、當然聯共政策は不可能であつた。當時は農工運動も亦未だ十分に自己の政治上に於ける重要性を顯現して居らず、人々の注意する所とならず、當然農工聯合の政策もなかつた。故に、民國十三年（一九二四）の國民黨改組以前の三民主義は、舊範疇に屬する三民主義であり、過去の三民主義である。若しそれを新三民主義にまで發展させないならば、國民黨は前進することが出来な。聰明な孫中山は、此の點に氣付き、レーニンと中國共産黨の助力を得て、三民主義を新しく解釋して、遂に新しい歴史的特殊性を把握して、三民主義を共産主義との統一戦線を建設し、第一次國共合作を建立し、全國人民の同情を取得し、第一次大革命を擧行した。

舊三民主義は舊時期に於ては革命的であり、舊時期の歴史的特殊性を反映してゐた。併し若し新時期に、新三民主義が既に建立せられた教に於ても尙舊套を維持しようとし、社會主義國家の建立せられた後に於ても尙舊套に反對しようとし、共産黨が存在せる後に於ても尙舊套に反對せんとし、農工が既に自覺し、自己の政治力を顯示した後に於ても尙農工政策に反對せんとするならば、其れは時代を認識しない反動的なものである。一九二七年以後の反動は、此の時代を認識しなかつた結果である。語に曰く、『識時務者爲俊傑』とある。私は三民主義者が此の言葉を記憶することを望む。

若し舊範疇の三民主義ならば、其れは共産主義の最低綱領と基本的な何等同じ點はなく、其れ故其れは舊時代のものであり、過去のものである。若し如何なる三民主義でも、其れが反露・反共・反農工であるならば、其れは反動的三民主義であり、其れと共産主義の最低綱領と

は、毫も同じ點がないばかりでなく、共產主義の敵になり、總べては語るに足らない。此も亦三民主義者が慎重に考慮すべきところである。

一五八

併し何れともあれ、反帝・反封建の任務が基本的に完結しないうちは、新三民主義は、凡ゆる良心ある人々によつて放棄せられるが如きことはなく、其れを放棄するものは、唯彼の汪精衛・李精衛等の類ひである。汪精衛・李精衛の類ひは只管得意になつて反露・反共・反農工などと云ふ偽三民主義を振り廻してゐるが、一部の良心ある正義感ある人々は引續き孫中山の眞三民主義を擁護してゐる。若し一九二七年の反動以後に於ても尙幾多の眞三民主義者が引續き中國革命の爲に奮闘してゐたならば、民族の敵が國土深く侵入せる今日に於て、かゝる人は疑ひもなく幾千萬に達するであらう。我々共產黨員は、終始凡ゆる誠實な三民主義者と長期合作を實行し、漢奸及び彼の死に瀕するも尙變らない反共分子を除き、我々は如何なる友人をも決して擁護するものではない。

十二 新民主主義的文化

以上、我々は中國政治の新时代に於ける歴史的特殊性を説明し、新民主主義共和國問題を説明した。以下、我々は文化問題に進むことが出来る。

一定の文化は、一定社會の政治及び經濟の觀念形態上に於ける反映である。中國には、帝國主義文化があるが、此れは帝國主義を政治的經濟的統治又は半統治から反映したものである。此の文化は、帝國主義が中國に於て直接經營してゐる文化機關以外に尙一部の無恥な中國人にも提倡せられて居り、總べて奴化思想を包含する文化は皆此の類に屬する。中國には又半封建文化があり、此は半封建政治及び半封建經濟を反映したものであり、凡そ尊孔讀經を主張し、舊禮教・舊思想を擁護し、新文化・新思想に反對する人々は類方も皆かゝる文化の代表である。帝國主義文化と半封建文化とは非常に親密な兄弟であり、彼等は文化的な反動同盟を結び、中國の新文化に反對する。かゝる反動文化は、帝國主義及び封建階級に奉仕するものであり、打倒せざるべきものである。此等のものを打倒せずしては、如何なる新文化も建立することは出来ないのである。打倒しなければ建立出来ない、棄がなければ流れない、止めなければ行けない。彼等の間の闘争は、生死を賭した闘争である。

した闘争である。

新文化は、觀念形態が新政治及び新經濟を反映せるものであり、新政治及び新經濟に奉仕するものである。

我々が第三節に於いて述べた如く、中國に資本主義經濟が発生して以來、中國社會は漸次其の性質に變化を來たし、其れは完全な封建社會ではなくなり、半封建的社會に變つた。併し封建經濟が尙優勢を占めて居る。此の資本主義經濟は、封建經濟に比較すれば、新經濟である。此の資本主義經濟と同時に發生し發展しつゝある新しい政治力は、資產階級・小資產階級及び無産階級の政治力である。自覺せる資產階級・小資產階級及び無産階級の政治代表は、即ち各種の革命的政黨であり、其の主要なものは、國民黨と共産黨である。而して觀念形態に於て、此の新しい經濟力と新しい政治力とを反映して、其れに奉仕するものは、新文化である。資本主義經濟なくして、資產階級・小資產階級及び無産階級はなく、此等の階級の政黨なくして、所謂新しい觀念形態・所謂新文化は發生しようがない。

新しい政治力・新しい經濟力・新しい文化力は、皆中國の革命力であり、其れ等は舊政治・舊經濟・舊文化に反對するものである。此等の舊物は二箇の部分から成つて居り、其の一部分は、中國自體の半封建的政治・經濟・文化であり、他の部分は、帝國主義的政治・經濟・文化であり、而して後者を盟主としてゐる。此等は總べて悪いものであり、皆徹底的に破壊せざるべきものである。中國社會の新舊闘争は、人民大眾（各革命階級）の新勢力と帝國主義及び封建階級の舊勢力との間に於ける闘争である。此の新舊闘争は、即ち革命と反革命の闘争である。此の闘争の歴史は、鴉片戦争から始つて既に九百年になり、辛亥革命から起算しても約三十年になる。

併し前述せる如く、革命にも新舊の別があり、或歴史的な一時代に於て新しいものも、他の時代には陳腐化する。中國資產階級民主革命の百年間も、前八十年と後二十年の二段階に分たれる。此の二段階は、夫々基本的且つ歴史的特殊性をもつて居る。即ち前八十年の中國資產階級民主革命は、舊範圍に屬し、而して後二十年は、國際國內的な政治情勢の變化により、新範圍に屬する。新民主主義——前八十年の特殊性。新民主主義——後二十年の特殊性。此の區別は、政治上斯くあるのみでなく、文化上に於ても然るのである。文化上には、如何に此の區別が表現せられるか？此は我々が以下に説明せんとする所である。

十二 中國文化革命の歴史的特殊性

一六〇

中國の文化戦線又は思想戦線は、『五・四』以前と『五・四』以後との二個の異なる歴史時期に分たれる。

『五・四』以前に於て、中國文化戦線上に於ける闘争は、資產階級の新文化と封建階級の舊文化との闘争であつた。『五・四』以前に於ては、學校と科學との闘争、新學と舊學との闘争、西洋學と中國學との闘争であり、何れも此の性質を帯びてゐた。當時の所謂學校・新學・西洋學とは、基本的には皆資產階級の自然科學と社會科學とを言ふ、基本的には、其の中に幾多の中國の封建的な水難物を包含してゐることを言ふ。嚴復によつて輸入せられたダーウインの進化論・スミスの古典派經濟學・ミルの形式論理學及びフランス啓蒙學者モンテスキュー等の社會論を代表とし、其れに當時の自然科學を附加したものが、『五・四』以前の所謂新學の統治思想であつた。當時此の思想は、中國封建思想と闘争的な革命をなす作用を有し、舊時代の中國資產階級民主主義革命に奉仕した。併し中國資產階級が無力であり、且つ世界が既に帝國主義にまで發展した時代に於て、此の資產階級の思想はたゞ戦線に立つて敵回戦ひ得たに過ぎず、直ちに外國帝國主義の奴化思想と中國封建主義の復古思想との反動同盟によつて退却せしめられ、此の思想上の反動同盟軍によつて僅かに反撃せられただけで、此の所謂新學は旗を捲き鼓を息めて、退却を宣告し、魂を失つて、形骸のみを留めた。古い資產階級民主主義文化は、帝國主義時代に於ては、既に陳腐に化し、無力に化した以上、其の失敗は必然的である。

『五・四』以後はさうではない。『五・四』以後、中國には全く斬新な文化準備軍が發生した。此れが中國共產黨員の領導する共產主義の文化思想、即ち共產主義的世界觀と社會革命論である。『五・四』運動は一九一九年であり、中國共產黨の成立と労働運動の開始は一九二二年であり、共に第一次世界大戰と十月革命の後、即ち民族問題と植民地運動とが世界的に過去的面貌を一變した時であり、此の中國革命と世界革命との聯繫は非常に顯著である。中國の政治準備軍——中國無產階級と中國共產黨——が政治舞臺に登場したことにより、此の文化準備軍は新しい裝備と新しい武器とを以て、出来るだけ凡ゆる同盟軍と聯合して、自己の陣營を整へ、帝國主義文化と封建文化とに對して勇敢な進攻を展開した。此の準備軍は未だ尙自然科學の領域に於て陣地を上領し職權を展開するまでには到らず、一般的に言つて當分は尙自然科學を資產階級の宇宙觀の支配に委ねなければならなかつた。併し社會科學の領域に於て、此の植民地・半植民地革命時代の最も重要な

思想武器の領域に於ては、極めて大きな革命を惹起した。社會科學の領域に於ては、哲學方面たると、經濟學方面たると、政治學方面たると、軍事學方面たると、文學方面たると、藝術方面（戲劇・映画・音樂・彫刻・繪畫を問はず）を問はず、皆極めて大きな發展を遂げた。二十年來此の文化新軍の鋭鋒の向ふ所、思想から形式・文字等に到るまで、極めて大きな革命を起さざるはなかつた。其の聲望と勢力の浩大なること、威力の猛烈なることは、まるで向ふ所敵なしの勢であつた。其の動員の大規模なることは、中國歴史上の如何なる時代にも優つてゐた。而して魯迅は、此の文化新軍の最も偉大にして最も勇敢な旗手であつた。魯迅は中國文化革命の主將であり、彼は常に偉大なる文學家であつたのみならず、偉大なる思想家でもあり、偉大なる革命家でもあつた。魯迅の骨は最も硬く、彼は些かの奴顔も媚骨も持たず、此は植民地・半植民地人民の最も貴重な性格であり、魯迅は文化戦線に於て、全民族の大多數を代表して居り、敵に對して鋭鋒を振ひ陣地を破ること最も正確にして、最も勇敢な、最も堅固にして最も忠實な、最も熱烈にして、空前の民族の英雄である。

『五・四』以前、中國の新文化は、舊民主主義的性格の文化であり、世界無產階級の資本主義的文化革命の一部に屬してゐたが、『五・四』以後、中國の新文化は、むしろ新民主主義的文化であり、世界無產階級の社會主義的文化革命の一部に屬する。

『五・四』以前、中國の新文化運動、中國の文化革命は、資產階級の領導する所であり、彼等は尙領導權を握つてゐた。『五・四』以後、此の階級の文化思想は、其の政治よりも落後しなければならず、最早領導權をもたず、革命時期に於いて、せい／＼同盟者の役割を演ずることが出来るに過ぎず、盟主の資格は、無產階級文化思想の雙肩に懸らざるを得ない。此は鐵の事實であり、誰も否認し得ないものである。所謂新民主主義的文化とは、人民大衆の反帝・反封建文化であり、今日に於ては、抗日統一戦線の文化である。此の文化は、唯無產階級の文化思想、即ち共產主義思想の領導を受けるだけであり、他の如何なる階級の文化思想と雖も此を領導することは出来ない。所謂新民主主義的文化とは、一言にして蓋へば、『無產階級が領導する人民大衆の反帝・反封建的文化である』。

十三 四 時期

文化革命は、觀念形態上に於ける政治革命及び經濟革命の反映であり、其れ等に奉仕するものである。中國に於て、文化革命は政治上に

三、新民主主義論

一六一

於けると同様、統一戦線のものである。

此の文化革命の統一戦線の最近二十年間は、四時期に分たれる。第一の時期は、一九一九年から一九二二年までの二年間であり、第二の時期は、一九二二年から一九二七年までの六年間であり、第三の時期は、一九二七年から一九三六年までの九年間であり、第四の時期は、一九三七年から現在に至るまでの三年間である。

第一の時期は、一九一九年の『五・四』運動から一九二二年の中國共産黨成立までである。此の時期に於ては『五・四』運動を主要な旗幟としてゐる。

『五・四』運動は、反帝國主義的運動であり、且つ反封建的運動であつた。『五・四』運動の傑出せる歴史的意義は、其れが辛亥革命には現れなかつた姿態を帯びてゐることにあり、其は徹底的に妥協せざる反帝國主義と徹底的に妥協せざる反封建である。『五・四』運動がかゝる性質を具へた所以は、當時中國の資本主義經濟が既に一段と發展してゐたが爲であり、而して當時中國の革命的知識階級は、尙ほ其の上に露西亞・獨逸・埃太利の三大帝國主義國家が既に互解し、英徳二大帝國主義國家が既に手傷を負ひ、而して露西亞無産階級が既に社會主義國家を建立し、獨逸・埃太利・伊太利三國無産階級が革命中であることを眼のあたりに見て、其れによつて中國民族解放の新しい希望をもち始めた。『五・四』運動は當時世界革命のスローガンの下に、ロシア革命のスローガンの下に、レーニンのスローガンの下に發生したものであり、『五・四』運動は當時の無産階級世界革命の一部であつた。『五・四』運動の時期には未だ中國共産黨は存在してゐなかつたが、併し既に多くの露西亞革命に賛成する初步的の共産主義思想をもつ知識分子は存在してゐた。『五・四』運動は、其の開始に於て、共産主義的知識分子（彼等は當時の右翼であつた）の三つの部分の人々の統一戦線的革命運動であつた。其の弱點は唯知識分子のみに限られてゐて、工人農民が参加しなかつたことに在る。併し『五・四』運動に發展した時には、知識分子ばかりでなく、廣大な無産階級、小資産階級及び資産階級も参加して、全國的な規模を有する革命になつた。『五・四』運動の文化革命は、徹底的に封建文化に反對する運動であり、中國有史以來、未だ嘗てかくの如き偉大にして徹底的な文化革命は存在したことがない。當時は舊道徳に反對して新道徳を提唱し、舊文學に反對して新文學を提唱することを以て、文化革命の二大旗幟となし、偉大な功勞を遂げた。此の文化運動は未だ農工大衆には普及出来なかつたが、其れは『平民文學』のスローガンを提出した。併し當時の所謂『平民』とは、實際的には未だ城市の小資産階級及び資産階級の知識分子即ち所謂市民階級の知識分子だけに限られてゐた。『五・四』運動は思想及び幹部の點に於いて一九二二年の中國共産黨の成立を準備し、且つ『五・四』運動と北伐戰爭とを準備した。當時の資産階級知識分子は、『五・四』運動の右翼であり、第二の時期に至つて、彼等の大部分は敵と妥協して反對側に立つた。

第二の時期は、中國共産黨の成立と『五・四』運動及び北伐戰爭とを以て旗幟となし、『五・四』運動の時期に於ける三階級の統一戦線を繼續し發展させたばかりでなく、政治的にも此の統一戦線を形成した。此れ即ち第一次國共兩黨の合作である。孫中山先生の偉大なる所以は、彼が偉大なる辛亥革命（舊時期の民主革命であつた）を領導したことによるばかりでなく、彼が能く『世界の潮流に適合する大衆の需要に合する』ことが出来、聯ソ・聯共・農工扶助の三大革命政策を提出して、三民主義を新しく解釋し、三大政策を提出して、三民主義を新しく解釋し、三大政策の新しい三民主義を建立したことにある。其れ以前、三民主義は教育界・學術界・青年界と餘り聯繫をもたなかつた。何故ならば、其れが反帝國スローガンも提出せず、反封建社會制度と反封建文化のスローガンも提出しなかつたからである。其れ以前は舊三民主義であり、此の三民主義は人々に一部人士が政府權力を奪取せんとするものであると看做された。即ち官吏になる爲の臨時應急の旗幟であると言はれ、純粹政治活動の旗幟であると看做された。其れ以後は三大政策の新しい三民主義であり、國共兩黨の合作により、兩黨革命黨員の努力により、此の新しい三民主義は全中國に廣められ、一部教育界・學術界及び廣大な青年學生の間にも廣められた。此は完全に從來の三民主義を反帝・反封建的三大政策をもつ新民主主義的三民主義まで發展せしめたからであり、若しこの發展がなかつたならば、三民主義思想の傳播は不可能であつた。

此の時期に於いて、此の革命的三民主義は、國共兩黨と各革命階級との統一戦線の政治基礎となり、『共産主義は三民主義の良友であり』二個の主義は統一戦線を結成した。階級に就いて言へば、三階級（無産階級・小資産階級・資産階級）の統一戦線である。當時上海の『民國日報』及び各地の新聞を以て陣線を敷き、反帝國主義の主張を共同して宣傳し、尊孔讀經の封建教育に共同して反對し、封建的禮教を踏める舊文學及び文藝文に共同して反對し、反帝・反封建的新文學及び白話文を提唱した。廣東戰爭と北伐戰爭中に於いて、中國軍隊内に第一次の反帝・反封建的の革命思想の灌漑を行ひ、中國の軍隊を改造した。千百萬農民大衆中に、第一次の打倒貪官汚吏・打倒土豪劣紳のスローガンの提出を行ひ、偉大な農民革命闘争を煽動した。此等及びソ聯の援助により、北伐の成功を遂げ、工人・農民は資産階級を援助して政權を握るに到り、資産階級は直ちに今次大革命を終結し、新しい政治局面に轉入した。

三、新民主主義論

第三の時期は、一九二七年から三六年までの新しい革命時期である。前時期の末期に於いて、革命陣営内に變化が生じた爲、中國資産階級は、帝國主義と封建勢力の反革命陣営に轉入した。即ち革命陣営内に從來存在した三階級は、此の時から二個になり、無産階級と小資産階級（農民・革命的知識分子及び其の他の小資産階級を包括する）が其れである。故に此の時期に於いて、中國革命は、新しい時期に進展せざるを得なくなつた。而して中國共產黨が單獨で此の革命を領導した。此の時期は、一方に於いて反動的團圓が行はれると同時に、他方に於いて革命が發展した時期である。此の時には、二種の反動的な團圓があつた。即ち軍事團圓と文化團圓とが其れである。同時に、二種の革命の發展があつた。即ち農村革命の發展と文化革命の發展が其れである。此の二種の團圓は、帝國主義策動の下に於て、全中國と全世界の反動勢力を動員し、其の時間は十年の久しきに亘り、其の醜態さは舉世未曾有のものであり、數十萬の共產黨員と青年學生を殺戮し、數百萬の工人・農民を破滅させ、當事者の眼には、共產主義と共産黨とは確かに剿共し盡された如く見えた。併し結果は却つて反對であり、二種の團圓は完全に失敗に歸したのである。軍事團圓の結果は、紅軍の北上抗日となつて現れた。文化團圓の結果は、一九三五年「一二・九」の青年革命運動の爆發となつて現れた。而して此の二種の團圓の綜合せられた結果は、全國人民の自覺を促したことである。此の三者は共に積極的な結果である。而してその消極的な結果は、強大な敵の侵入であり、此こそ何故全國人民が今日に至るも尙彼の十年の反共を非常に痛恨してゐるかの最大原因である。其のうち最も奇怪なことは、共産黨が全國文化機關の中で最も抵抗力をもたない地位にあるにも拘らず、何故文化團圓も一敗地に墜れたか？ 此れは深長な意味をもつものではないか？ 而して共産主義者の書は、正に此の「團圓」中に於て中國文化革命の偉人になつた。

此の時期の闘争は、革命方面に於ては、人民大衆の反帝・反封建的新民主主義と新三民主義を堅持した。反革命方面に於ては、帝國主義の指揮下にある地主資産階級聯盟の專制主義である。此の專制主義は、政治上・文化上に於て、孫中山先生の三大政策を中絶させ、彼の新三民主義を中絶させ、中華民族の深刻重大な災難を招來した。

第四の時期は、現在の抗日戰爭の時期である。中國革命の曲線運動はまた三個の階級の統一戦線へ歸つて來た。併し範圍は一層擴大され、上層階級は凡ゆる統治者を包括し、中層階級は凡ゆる小資産者を包括し、下層階級は凡ゆる無産者を包括し、全國各階層は皆同盟者になり、決然として日本帝國主義に反抗した。此の時期の第一段階は、武漢陥落以前であり、此の時期に於いて全國各方面は大いに振起し、政治に

は民主化の趨勢があり、文化には普遍的な動員があつた。武漢陥落以後は、第二段階であり、政治状況には幾多の變化が發生し、大資産階級の一部は、敵に投降し、其の他の部分も抗戦を停止しようと思つてゐる。文化運動はかかる状況を反映して、葉青・張君勳等の反動と言論・出版の不自由といふ表現をとつた。

此の危機を克服する爲には、必ず凡ゆる反抗戦・反團結・反進歩的な思想と決然たる闘争を進行すべきであり、此等の反動思想を撃破しなければ、抗戦の勝利は覺束かない。此の闘争の前途は如何？ 此は全國民の心配してゐる大問題である。併しながら國內の國際的條件よりすれば、抗戦途上に多少の困難が介在してゐても、中國人民は必ず勝利を獲得するであらう。中國史の全體を通じて、「五・四」運動以後二十年間の進歩は、其れ以前の八十年に相當するばかりでなく、其れ以前の幾千年にも相當するものである。若し更に二十年の歲月があれば、中國の進歩は何處まで進むか、想像もつかないではないか？ 凡ゆる内外暗黒勢力の猖獗は、民族の災難を招來した。併し此の猖獗は、其れが尙有力であることの表現であるばかりでなく、其れが最後の足掻きであることの表現であり、人民大衆が漸次勝利に接近しつつあることの表現である。此は東方に於いて然るのみならず、世界に於いても然るのである。

十四 文化問題の趨勢

すべては皆困難な闘争の中から鍛練によつて生れて來るのである。新文化も亦さうである。二十年間に三度曲折があり、ジグザクに進み、凡ゆる良いもの悪いものを皆體驗して來た。

資産階級の頑固派は、文化問題上に於いて、彼等が政權問題上に於けると同様に、完全に錯誤を犯してゐる。彼等は中國の新時期が持つ歴史的特殊性を理解せず、彼等は人民大衆の新民主主義的又は新三民主義的文化を承認しない。彼等の出發點は資産階級專制主義であり、其の文化も資産階級の文化の專制主義である。一部の所謂歐米派の文化人（私は一部のと言ふ）、彼等は過去に於て實際に政府の文化團圓に賛成したが、現在に於ても「限共」・「溶共」などの政策に賛成してゐる。彼等は工農が政治的に擡頭して來るのを歡ばない。資産階級頑固派の此の文化專制主義の路線は行詰りに達せねばならないものであり、彼等の政權問題と同様に方向を間違へて居り、國內・國際的條件に

適さない。故に、此の文化專制主義も亦解散した方がよい。

國民文化の方向に就いて言へば、現在はまだ社會主義文化ではない。若し現在は社會主義的國民文化であり、そうあるべきであると言ふならば、其れは誤りである。此れは共產主義思想體系の宣傳を以て、行動綱領の實踐となすものであり、共產主義的立場と方法によつて、問題を觀察し、學問を研究し、工作を處理することを以て、中國民主革命段階上の國民教育と國民文化の方針とするものである。社會主義を内容とする國民文化は必ず社會主義的政治、經濟を反映するものでなければならず、我々は現在尙此の政治、經濟をもたず、其れ故未だ此の國民文化をもつことは出来ない。現時の中國革命は世界無産階級社會主義革命の一部であり、其れ故現時の中國新文化も亦世界無産階級社會主義新文化の一部であり、其の偉大な同盟軍である。併し此の一部は社會主義文化の資格を以て参加するものではなくして、人民大衆の反帝・反封建の民主主義文化の資格を以て参加するものである。

現在中國革命は中國無産階級の領導を離れることが出来ず、其れ故現在の中國文化も亦中國無産階級文化思想を離れることが出来ない。即ち共產主義思想の領導を離れることが出来ないのである。併し此の領導は、人民大衆を領導して反帝・反封建的政治革命及び文化革命を行ふものであり、彼等を領導して社會主義的政黨革命及び文化革命を行ふものではない。故に現在新文化の本質は尙新民主主義的であつて、社會主義的ではない。現時に於いて、毫も疑義を抱く餘地のないことであるが、共產主義思想の宣傳を擴大し、マルクス・レーニン主義の學習を加へべきである。若し此の宣傳と學習がないならば、中國革命を領導して將來の社會主義段階に到達することが出来ないばかりでなく、現時の民主革命を指導して勝利に到ることも出来ない。併し現時國民文化の基本的性質は、決して社會主義的ではなくして新民主主義的である。何となれば、其れは人民大衆の反帝・反封建的文化であり、無産階級の反資本主義的文化であるからである。故に、我々は共產主義的思想體系及び社會制度の宣傳と新民主主義的行動綱領の實踐とを區別すべきであつたが、更に又問題の觀察・學問の研究・工作の處理をなす共產主義的方法と國民教育をなす新民主主義的方法とを區別すべきである。二者を混同して論ずるのは勿論非常に不適當である。

此れによつても解る様に、現段階に於いて中國新文化の内容は、資產階級の文化專制でもなく、無産階級の社會主義でもなくして、無産階級文化思想を以て人民大衆の反帝・反封建の民主主義又は新民主主義を領導するものである。

十五 民族的・科學的・大衆的文化

此の新民主主義的文化は民族のものである。其れは帝國主義の壓迫に反對して、中華民族の尊嚴と獨立とを主張するものである。其れは我が民族のものであり、我が民族の特性を帯びてゐる。其れは凡ゆる他民族の社會主義文化と新民主主義文化と聯合して、互ひに吸收し、互ひに發展する關係を建立し、互ひに世界新文化の一部をなすものである。併し決して如何なる他民族の帝國主義文化とも聯合するものではない。何となれば、我々の文化は革命的民族文化であるからである。中國は大いに外國の進歩せる文化を吸收して、自己文化の育成に資すべきであり、此の工作は過去に於いて甚だ不十分であつた。此れは現在の社會主義文化と新民主主義文化のみならず、外國の古代文化、例へば各資本主義國家啓蒙時代の文化をも包含し、凡そ我々が今日利用することの出来るものは何でも吸收すべきである。併し凡ゆる外國のものは、我々の食物に於けると同じく、必ず自己の口腔の咀嚼と胃腸の運動とにより、唾液・胆汁・腸液を以て、其れを分解してエキスと殘糟との二部分に分け、然る後その殘糟を排泄して、其のエキスを吸收し、始めて自己の營養分とすることが出来るのであつて、決して其の儘丸呑みにして無批判に吸收することは出来ない。所謂「徹底的西洋化」の主張は、誤つた觀方に過ぎない。形式的に外國のものを吸收した筈、中國は嘗て非常な損害を被つた。中國共產主義者がマルクス主義を中國に應用する場合もかくの如くであり、必ずマルクス主義の普遍的眞理と中國革命の具體的實踐とを完全且つ適當に統一しなければならぬ。即ち民族的な形式に於てのみ利用し得るのであつて、決して主觀的公式的にそれを應用することは出来ない。主觀的公式的マルクス主義者は、マルクス主義にとつても中國革命にとつても、單に歐戰であるに過ぎず、中國革命の陣營中には彼等を入る場所がない。中國文化は自己の形式を有すべきであり、此即ち民族形式である。民族的形式と新民主主義的内容——此即ち我々今日の新文化である。

此の新民主主義的文化は科學的である。其れは凡ゆる封建思想と迷信思想とに反對して、事實に基いて是を求めんことを主張し、客觀的眞理を主張し、理論と實踐との一致を主張するものである。此の點、中國無産階級の科學思想は、中國のなほ進歩性をもつてゐる資產階級の唯物論及び自然科學思想と共に反帝・反封建・反迷信的統一戰線を建立することが出来る。併し決して如何なる反動的唯心論とも統一戰線

を建立するものではない。共產黨員は或種の唯心論者進しきに至つては宗教徒とも政治行動上に於て反帝的統一職線を建立することが出来るが、決して彼等の唯心論又は宗教教義に賛同することは出来ない。中國の長期に亘る封建社會中には、燦爛たる古代文化が築かれた。故に古代文化の發展過程を研究して、其の封建的殘積を除き、其の民主的なエキスを吸収することは、民族新文化を發展させ民族の自信を高める爲の必要條件である。併し決して無批判に吸収し蓄積することは出来ず、必ず古代封建統治階級の有ゆる腐朽したものと、古代の優秀な民間文化、即ち多少民主的の性格を帯びた革命的なものとを區別しなければならぬ。中國現時の新政治・新經濟は、古代の舊政治・舊經濟から發展して來たものであり、中國現時の新文化も古代の舊文化から發展して來たものである。其れ故我々は必ず自己の歴史を尊重し、決して歴史を無視してはならない。併し此の尊重すると言ふことは、歴史に一定の科學的地位を與へ、歴史の辯證法的發展を尊重することであり、昔を頌へて現在を否定するものでもなければ、凡ゆる封建的毒素を發揚するものでもない。故に人民大衆と青年學生とに對して、主要なことは、彼等を指導して彼を看させることではなくして、彼等を指導して前を看させることである。

此の新民主主義的文化は、大衆的なものである。其れは全民族の九十%以上を占める工農勞苦の民衆に奉仕すべきであり、漸次彼等の文化になりつゝある。革命幹部を教育する知識と革命大衆を教育する知識とは程度上に於いて互ひに區別せられ且つ互ひに聯絡すべきであり、提高と普及とは互ひに區別され且つ互ひに聯絡すべきである。革命文化は人民大衆にとつて革命の有力な武器である。革命文化は、革命前に於ては革命の思想的準備であるが、革命中に於いては革命組織線中の必要且つ重要な職線である。而して革命的文化工作者は、此の文化職線上に於ける各級指揮官である。『革命的理論がなければ、革命的運動はない』、此に鑑みても革命的文化運動が革命的實踐運動に對して如何なる重要性をもつかが解る。而して此の文化運動と實踐運動とは總べて大衆のものである。故に凡ゆる進歩的文化工作者は、抗日戰爭中に於いて自己の文化軍隊をもつべきであり、此の軍隊は即ち人民大衆である。文化人と文化思想とは、若し其れが民衆に接近しなければ、『空軍司令即ち無兵司令』であり、其の火力は敵を倒壓するに足らない。此の目的を達成する爲には、文字が一定條件の下に改革せらるべきであり、言語も民衆に接近すべきであり、民衆こそ革命文化の無限に豊富な源泉であることを知らねばならない。

民族的・科學的・大衆的文化は、人民大衆の反帝・反封建的文化であり、新民主主義的文化であり、新三民主義的文化であり、中華民族の新文化である。

新民主主義的政治・新民主主義的經濟及び新民主主義的文化の相結合したものが、新民主主義共和國であり、名實兼備の中華民國であり、我々が建設すべき新中國である。

新中國は各人の面前にあり、我々は其れを迎へ入れねばならない。

新中國の帆柱は既に地平線上に現れた。我々は其れを拍手を以て歓迎せねばならない。

君の變手を擧げよ。新中國は我々のものだ。

一九四〇年一月十五日

四、學風・黨風・文風の整頓

— 民國三十一年二月一日延安黨校開學式に於ける毛澤東の演説 —

本日、黨校の新學期開始に當り、私は本校の成功を慶祝して止まぬものである。

さて本日は我黨の作風問題（譯註：作風とは傾向・志向といつた意味）に就いて若干講演してみようと思ふ。

何の爲に革命黨を必要とするのであらうか？即ち、世界に敵人が存在するが故に革命黨を必要とするのである。然もたゞ單なる革命黨を必要とするのではなく、共產黨としての性質を有する革命黨を必要とするのである。共產黨としての性質を具へた革命黨がなければ、敵人の徹底的打倒は不可能だからである。我々が敵人を打倒せんとせば、即ち我々の隊伍を整頓し、我々の歩調を一致させ、兵は精銳なるべく、武器は優秀でなければならぬ。若しこれらの條件を具備せぬならば、到底敵人の打倒は出来ぬのである。

現在の我黨には如何なる問題が存在するか？我黨の全方針は正確であつてこの點に就いては問題はない。我黨の工作も成績優秀であり

我等は既に八十萬の黨員を擁してゐる。彼等は人民と一丸となつて、民族の敵に對して艱難にして卓抜な闘争を遂行してゐる。かゝる果敢なる犠牲的精神と人民の服務成績とは、既に人々のよく知るところであつて全く疑ふ餘地のない點である。

然らば結局我々の黨には如何なる問題もないといふのか、最早缺點といふものは存在せぬのか？私は敢て尙ほ問題があり、尙ほ缺點があると言ふものである。然も或る意味から言つて問題は相當深刻な性質を有つたものである。

では、如何なる問題といふのか？即ち、一部同志等の鬪義に關する不正確で且つ甚しく正統より離れてゐる若干の代物が存在してゐるのである。

それら若干の代物とは然らば何か？即ち、一つには思想問題であり、二つには黨内と黨外との關係問題であり、尙ほ他の一つは言葉と文章上の問題である。これら三つの問題に於いて、我が一部の同志は未だ尙ほあまり正統的でない作風を排除し切つてをらぬ。これは我々の

學風・黨風・文風にそれ／＼未だかなり正しからざる點があるといふ事である。

所謂學風に正しからざるものがあるといふのは即ち主觀主義を指すのであり、所謂黨風上では宗派主義を指し、文風上の正しからざるものとは外ならぬ『黨八股』を指すのである。併し、これら正しからざる作風も決して彼の冬天の朔風の如く天地を蔽ひ盡してゐるのとは違ひ、主觀主義、宗派主義、『黨八股』は現在の黨内に於いては支配的地位を占めてゐる作風では既になくなつた。これは一種の朔風乃至至風と謂ふべきもので、防空洞の内からフ／＼出て來たものに過ぎない。

だが、我黨内に未だかゝる種類の作風が存在するといふ事は誠に好ましくからざる事であるから、我々はこの風洞を閉塞する必要がある、全黨挙つて此の風洞工作を遂行する必要がある、我が黨校も亦此の工作をなさねばならぬのである。

主觀主義、宗派主義、『黨八股』の三つの至風は、それ自體の歴史と根源とを有するものであり、現在では全黨を支配する程のものではないが、尙ほ常に猛威を逞し常に尙ほ我々を襲ひつゝあるものである。故に矯正し、抑制する必要がある、分析を加へて説明し研究する必要があるのである。

主觀主義を克服するには學風の整頓を以てし、宗派主義を克服するには黨風の整頓を以てし、『黨八股』を克服するには文風の整頓を以てするが即ち我々の任務である。

我々が對敵勝利の任務を完成する爲には、須らく黨内の作風を整頓するといふ任務を完成せねばならぬ。學風と謂ふも黨の學風であり、文風と謂ふも黨の文風であつて所詮は凡て黨風なのであるから、我々は黨の作風を完全に正統なものにせねばならぬのである。全國の人民は我々に就いて學ぶ事が出来るのであるから、黨外にこの種の好ましからぬ傾向のものがあつても、彼が善良な人間でありさへすれば我々に就いて學び、彼等の錯誤を訂正する事が出来て、全民族によき影響を與ふことが出来るのである。我黨の隊伍が整頓されてをり、歩調が一致し、軍隊が精銳であり、武器が優秀でありさへすれば、如何なる強敵と雖も我々に打倒し得ざるものは一つとしてないのである。

さて主觀主義に就いて説明してみよう。

主觀主義は正統ならざる學風であつてマ・レ主義に反對するものであり、主觀主義と共產黨とは並存することは出来ないものである。我が要するものはマ・レ主義的學風である。所謂學風とは學校の學風のみならず、黨全體の學風であり、領導機關・全幹部・全黨員の思想

四、學風・黨風・文風の整頓

一七一

方法問題であり、我々のマ・レ主義に對する態度の問題であり、全黨同志の工作态度の問題である。このやうな問題であるが故に、學風問題は極めて重要な問題の一つであり、且つ最も重要な問題である。

現在或る種の曖昧な觀念が多くの人の間に流行してゐるが、例へば、理論家といふものはどういふものか、知識分子とはどういふことか、理論と實際との聯繫とはどういふことか、などに就いてである。我々は先づ我黨の理論水準は一體高いものであるかそれとも低いものであるか、といふことから明かにしてみなければならぬ。近來、マ・レ主義に關する書籍の翻譯が澤山出てゐるし讀者も多い。これは非常に好事である。だが、さればとて我黨の理論水準が極めて高い程度に引上げられたと云へるかどうか。確かに我々の理論水準は過去に比して幾何かは高くなつてはゐる。が然し、中國革命運動の内容の豊富さに較べる時は、理論水準は非常に不均衡である。兩者を比較してみれば、明らかに理論方面は非常に低く非常に落後してゐる。一般的に云つて、我々の理論は尙ほ革命の實踐と並行できないのであつて、理論は實踐の前面を先行すべきなど云へた義理ではない。我々は我々の實際の豊富さを當然持つべき理論程度にすら引上げてゐないのである。我々は革命の實踐に於ける主要問題乃至は一切の問題に對し理論の段階に高める考察をなしてゐないのである。諸君考へてみよ、中國の經濟・政治・軍事・文化に於いて理論らしい理論といへるもの、科學形態にまで高められた周密にして粗枝大葉ならざる理論と稱し得るものを、一體誰が創造したと云ひ得るであらうか。特に經濟理論方面に於いて、中國資本主義の發展は阿片戰爭以來現在まで既に百年を經過してゐるのに、中國經濟發展の實際に適合した、真正なる科學の理論書一冊すら持つてゐないのである。中國經濟の問題にしても、理論水準が高められたと云へるかどうか。我黨の經濟理論にはかくかくのものと云へるかどうか、實はさう云へないのだ。我々が澤山の「マ・レ主義の書籍を讀んだ」として、理論家を有すると云ふことになるかどうか、これ又さうではあるまい。「マ・レ主義はマルクス・エンゲルス・レーニン・スターリン達が實際に據つて創造した理論であり、歴史と革命の實際の裡から抽出された總結論であるが故に、我々が若し僅かにそれを讀むのみで、マ・レ主義に基いて中國の歴史と革命の實際の裡から抽出された總結論であるが故に、我々が若し僅かに創造しなければ、我々はマルクス主義理論家と妄稱することは出来ないのである。」若し我々が身は中國共產黨員でありながら、中國問題に對しては全然盲目であり、毎日眺めてつて看れども看へず、眼鏡を掛けてもまだ駄目で僅かに看へるものはたゞ書棚の「マ・エ・レ」の既成文獻だけならば、これでは、我が理論發展の成績はまだ餘りにも劣悪だといはざるを得ない。若し我々がたゞマルクスの經濟學或ひは

哲學を暗誦することのみを知つて、第一章から最後の章まで全部を暗誦し得たにしても、さて應用が全然出来なければ、かういふのをマルクス主義理論家といへるかどうか。先づ云へまい。かゝる「理論家」は實は居ない方がいゝのだ。假りに或る人間が一萬冊の「マ・エ・レ」を一冊千遍讀んで一句々々全部暗誦し得たとしても、彼を理論家とは云へないのである。然らば我々の必要とする理論家とは一體どんな理論家なのか。即ち次のやうな理論家であればならぬ——「マ・エ・レ」の立場觀點と方法に據つて、歴史と革命の裡に於いて生起する實際問題を正確に解釋し、中國の政治・經濟・文化・軍事の種々なる問題に科學的分析と理論的説明を與へ得る人、我々の求めるのはかくの如き理論家である。若しかゝる理論家たらんとするならば、マ・レ主義の實質及びマ・レ主義の立場觀點と方法を充分に正しく理解し、且つそれを中國の實際問題の分析に於いて適切に科學的に應用して、發展法則を抽出する——かうしてこそ始めて我々が眞に要求してゐる理論家たり得るのである。

さて今日中央では決定を作つて、我々同志がマ・レ主義の立場觀點と思想方法を應用すべく學習することを要請してゐる。中國の歴史・政治・經濟・軍事・文化を眞面目に研究し、一つの問題毎に調査研究を行ひ、然る後に理論を引出す——この責任が我々の肩に掛つてゐるのだ。

我が黨校に於いてはマ・レ主義の章句の死讀をしてはならぬ。先づマ・レ主義に精通し、然る後これを應用出来ねばならぬ。精通の目的は全く應用といふ事にある。さて今こゝに百點滿點の成績計算を持つて來て試みに一萬冊の本を讀み一冊の本を一千遍讀んで、さて應用となると全然駄目なものに點數をつけると一體どれだけの點數をやれたものだらうか？私は一歩もやれぬと言ふのだ。然し若し諸君がマ・レ主義の觀點から一、二の實際問題を説明出来るならば、それは稱讃すべき事で、若干の點數をやる事が出来る。

諸君によつて説明されるものが、多ければ多いほど、普遍的であればあるほど、且つ適切であればあるほど、諸君の成績はそれだけ大きいのである。さて、我が黨校も亦かゝる標準に規範をとらねばならぬ。マ・レ主義を讀了した後、どのやうに中國の問題を觀察するか、或るものは明確に觀るだらうし、或るものは漠然と觀るであらう、或ひは觀透し出来るものもあり、或ひは觀透し出来ないものもあらう、かくして優劣と正否が分れるのである。

所謂「知識分子」の問題に關しては、我が中國が一つの半殖民地半封建的國家であり、文化が未發達の故に、「知識分子」は特に尊重され

四、學風・黨風・文風の整頓

ねばならぬのである。党中央部も亦「知識分子に關する決定」をなして概況なる知識分子を獲得せんとしてゐる。彼等が革命的であり、抗戰參加を願ふものでありさへすれば、我々は凡て歡迎の態度を採つてゐるのである。これは全く正しい態度であり、これによつて知識分子は頗る光榮を得る譯であつて、無智の者の關與せぬところである。我々が知識分子を尊重することは全く當然な事であり、知識分子なくしては革命の勝利は成就出来ぬのである。併し、我々は、多くの知識分子が自ら優れた知識を有するものと思ひ込み、大いにその知識なるものをひけらかすが、その實彼等のひけらかすものが一向に好ましいものではなく、有害であり、彼等自身の前進を阻礙するものだといふことさへ辨へてをらぬ事を知つてゐる。彼等は宜しく一箇の眞理を知らねばならぬ。即ち多くの所謂知識分子はその實比較的物を知つてをらず、工人農民分子の知識が却て或る場合彼等に比して優つてゐるといふ事である。かく言へば人或ひは「君は逆説を弄して素りに他を貶すものだ」と言ふかも知れぬが、同志よ、慥てははいけない、私の言つた事には相當の道理があるのだから。

何を知識となすか？古往今來世界上の知識にはたゞ二種類あるだけである。一つは生産闘争の知識と謂ひ他は階級闘争の知識と呼ばれるものである。民族闘争の知識もこの中に包括されてゐる。この外に尙ほ如何なる知識があるだらうか？無いのである。自然科学と社會科學はこれら二種類の知識の結晶であり、哲學は即ち自然科学と社會科學の概括と綜合である。これ以外には尙ほ如何なる知識もないのである。我々は現在多くの學生を見て居り、社會の實際活動から完全に遊離した關係にある學校を出た多くの學生に出遇ふが、彼等の知識は抑も如何なるものであるか？彼等は小學校から眞直に大學校迄學び卒業してそれで知識を得たつもりであるが、併し、彼等は第一田を耕す事が出来ぬ、第二に物を作る事も出来ぬ、第三に職崗が出来ぬ、第四に事務を處理する事が出来ぬ。これ等の事凡てやり了ふせる事が出来ぬのである。かゝる實踐上の知識は少しも無い。彼等の持ち合はせてゐるのは單なる書物上の知識でしかないのである。かゝる種類の人を完全な知識分子として算へる事が出来るであらうか？私は甚だ困難だと思ふ。精々一知半解分子位のところであらう。

何故なれば、彼等の知識は未だ不完全なものであるから。それならば、何が比較的完全な知識なのであるか？一切の比較的完全な知識とは凡て二つの段階によつて構成されてゐるものである。第一段階は感性的知識であり、第二段階は理性的知識であつて、理性的知識とは感性的知識のより高い段階に發展したものである。然らば學生達の書物上の知識とは一體如何なる知識なのか？彼等の知識たる假りに凡てが眞理であつても、それはやはり彼等の先人が生産闘争と階級闘争の經驗を總結したものを引き寫した理論であつて、彼等自身が獲得した知識ではない。彼等がこれらの知識を受け継ぐ事は完全に必要な事である。が然しこれらの知識も彼等に在つては常に「倒立ち」して居り、「逆」であり、片面的である事を悟らねばならぬ。これは一般の認むるところであるが然も彼等（學生）には必ずしも自明のことになつてゐない。彼等は須らくこの種の知識を學ぶべきであり、然も決して困難なものではなく極言すれば最も容易な事だと言ひ得るのである。例へばコック頭が飯を炊くといふ如きに至つては容易ならざる事柄である。薪、米、油、鹽、醬油、酢等々を配合して喰ひ得るものを造り出さねばならぬのだからこれは決して容易な業ではない。況や美味しいものを造るに至つては尙ほ更ら困難である。西北菜社と我々の家のコック頭のやり方を比較するに非常な差異がある。火を強くし過ぎると焦げつくし、鹽が多ければ辛くなる。飯を炊き料理を作るといふ事は正に一種の藝術である。

書物上の知識は然らばどうか？若し書物を單に死讀するのであれば、諸君は只數千の文字を覚え込み、辭書の引き方を會得して手中に何か一冊の書を持つて居ればよい。それに政府では食事を支給するのだから、諸君は大威張りして書物を読んでゐる事が出来るのだ。書物は逃げ出さぬし、離れて行くものでもないから、それを開けたり閉けたり或ひは寄せ集めて居ればよいのである。世界にこれ程容易な事柄があるらうか。これを彼のコック頭が飯を炊く事に較ぶれば非常に容易であり、彼が飯を應接するのに較ぶれば更に容易なことである。諸君が若し豚を捕へんとすれば豚は逃げるに違ひなく、これを殺さんとすれば聲を擧げるだらう。一冊の本を机の上に置いたとしてもそれは逃げ出しもしなければ聲も立てぬ、どう置いて見ようと諸君の思ひの儘に出来るのだ、世界上こんな容易な事が亦とあらうか。故に私は、書物の上の知識しか持合せず未だ現實生活に接觸せぬ人や、實際經驗の尙ほ少い人達に對し、自己の缺點をよく認識し、態度を謙虛に持せねばならぬ事を勸告するものである。

如何なる方法によつて一知半解分子を名實共に具つた知識分子にする事が出来るか？唯一の方法は一切の「書籍知識人」をして實際工作の中へ歸らせて實際工作者とする事である。理論工作に従事してゐる人を實際經驗の中に就かせる事によつて、即ちこの目的が達せられるのである。

私がかう云へば或る人達は癪癪を起して「君の説に従へばそれではマルクスもやはり一知半解分子になるではないか」といふかも知れぬ。併し私の謂ふところはかりなのだ。マルクスは豚を絞める事が出来ぬ、田を耕す事も出来なかつた。だが彼は革命の實際運動に参加してゐる。

る。彼は又『商品』を研究し進してゐる。『商品』といふものは幾百萬の人達が毎日それを見且つ使用してゐるのだが、それを熟視してゐるものは見かけない。然るにマルクスは徹底的にそれを研究したので。彼は『商品』を凡ゆる面から把握してゐるのであつて、我々が『聯邦共産黨史』を読んで漫然と仕事をしてゐるが如きものではないのである。彼は『商品』の具體的發展の中から彼の分析工作を成し遂げ、普遍的事實の中から理論を抽出し來つたのである。彼は自然を研究し歴史を研究し、無産階級革命を研究し了ふせ、辯證法的唯物論、史的唯物論及び無産階級革命の理論を創造したのである。斯様にマルクスの如きは正に完全な知識分子と謂ふ事が出来るのであつて、彼と一知半解分子とは全く別である。マルクスは實際の革命運動に参加し、彼は實際生活の中に歸つて行つて調査と研究とを加へ、各種の事柄を概括したのであつて、かかる概括的知識を即ち理論と謂ふのである。

我黨内では多くの同志等が以上の如き工作に従事する事を留めてゐるのである。我黨内には現在以上の如き理論研究の工作に従事する事が出来る多くの同志がある。彼等の多くは聰明で有爲の人物であり、我々はこれ等の同志を尊重し、重用せねばならぬのだが、併し、彼等の方針が適確である事を要求する。彼等は過去の如き錯誤を繰返してはならぬ。彼等は須く教條主義を揚棄すべきであり、有り合せの書物の上に立ち止まつてはならぬ。

真正の理論といふのは世界上に一種しかないのだ、即ち客觀的事實より抽出し來つたものであり、又、客觀的事實に對して證明出来る理論である。

その外に如何なるものも我々の云ふ意味での理論といふものは存在しない。スターリンは嘗て「實際から遊離した理論は空虚な理論であり、無用 不正確なものであり正に揚棄すべきものである」と批判した事がある。かゝる空虚な理論を好んで弄ぶものは先づ手を伸ばして自分の面の皮を摘んで見るべきである。マ・レ主義とは客觀的事實より生産され且つ客觀的事實に對して實證し得る最も正確、最も科學的、最も革命的な真理である。但しマ・レ主義を讀む多くの人は却つてそれを死んだ教條としてゐるのであつて、かくては理論的發展を阻礙し、自己を書ひ且つ同志をも害ふ事になるのである。

然るに他面、我々の實際工作に従事してゐる同志が若し彼等の經驗を誤用してゐるとせば、これ又病患にとりつかれたものである。斯る同志の經驗は頗る豊富なもので、甚だ尊重すべきものではあるが、併し、若し單に經驗のみで満足してゐるとせば、それも甚だ危険であ

る。彼等は自己の知識が感性的或は局部的に偏つたものであり、理性的知識と普遍的知識を缺いてゐる事を悟らねばならぬ。即ち理論缺乏といふ事である。彼等の知識も亦比較的不完全なのである。革命を成功せしめんとせば比較的完全な知識なくてはこれ亦不可である。かく觀て來ると『不完全な知識』には二種類あり、第一種は有り合せの書物上の知識であり、これにかゝつてはマルクス主義も單なる空虚なもの」とさせられて了ふのである。他は即ち感性的と局部に偏つた知識であり、理性的 普遍的知識に發展することのないものである。この二種類の知識は共に哲學的であり、只この二者を相互に結合させてはじめて比較的完全なものを生産することが出来るのである。

但し我が工農出身幹部が理論を學ばんとするには、必ず先づ文化を學ばねばならぬ、文化的素養なしにはマルクス主義理論の學習には道入り得ない。文化を好く學んで居れば隨時隨でもマルクス主義を學習することが出来る。私は年少時代に如何なるマルクス主義的學校にも學んでゐない。學んだものは即ち『子曰く、學んで時に之れを習ふ亦よからずや』である。私が字を識つたのも即ちかうして學んで來たものである。譬へば『學習』の二字の如きは誰でも持つてゐるのであつて、私はこの二字をマルクス主義の學習にも應用出来ると思ふ。勿論今更何も孔子を學ぶ必要はないのであり、こゝで學ぶものは新鮮な國文、歴史、地理、自然、常識である。これらの文化課目を好く學ぶことは何處に行つても有用である。我黨の中央部では現在工農出身幹部の文化學習を強調してゐるが、文化を學んで後にこそ、政治、軍事、經濟等凡てを學ぶべく、でなければ工農出身幹部は經驗が豊富であつても理論的には發展向上の可能性がない。

これに由つて我々が主觀主義を克服するには、どうしても上述二種類の人達を各々自己の缺點の克服に向つて精進させ、これら二種類の人達を相互に統合せねばならぬ。書物上の知識を有つてゐる人は實際的方面に向つて發展してこそ、はじめて書物の上から解放され、教條主義の誤謬を犯さぬやうになれるのである。工作經驗を有する人は理論的方面の學習に向はねばならぬ。眞面目に讀書して然る後、はじめて自己の經驗に條理と綜合性を帯びしめる事が出来、然る後、はじめて局部的經驗をもつて直ちに普遍的真理と誤認することがなくなり、はじめて經驗主義的錯誤を犯さなくなるのである。教條主義も經驗主義も共に主觀主義なのであつて、これは異つた二つの極點の發展してなつたものである。

故に我黨内の主觀主義には二種あるのであつて一種は即ち教條主義であり、他は經驗主義である。彼等は單に片面だけを見て全體を見渡さないのである。若しこの片面性の缺陷に注意せず、且つその訂正に努力する事を知らぬならば、それは容易に錯誤の道を通つて行くことに

なるのである。

併し、この二種の主観主義の中、現在我黨内の缺陷の主要なものは教條主義であり最も危険なものである。教條主義はたやすくマルクス主義的面貌を装ふ事が出来るので、工農出身幹部をおどかし、「地方人」を虜にして自己の傀儡として了ふのである。而して工農出身幹部が彼等の面貌を脱却することは容易でない。更に天真爛漫な青年を感嘆して彼等の虜にして了ふことも出来るのである。

我々が若し教條主義を克服して了ふならば、先づ「書籍知識」的幹部は實際經驗の有る幹部との結合を希望し、實際の事物に就いての研究を希望するやうになるだらうし、多くの理論と經驗を結合した優秀な工作者を生産することが出来、真正の理論家を輩出することが出来るであらう。他面また、實際經驗を有する同志をして良好な教師に就かせ經驗を有する同志をして書物上の知識を得させ經驗主義的錯誤を免れさせることも出来るだらう。

「理論家」及び「知識分子」といふ二つの曖昧な觀念の外に尚ほ毎日のやうに讀んでゐる文句がある。即ち「理論と實際との聯繫」といふのであるが、これ亦多くの同志等の間では、一つの曖昧な觀念である。彼等は毎日「聯繫」を口にするが實際上では却て毎日「乖離」を行つてゐる。彼等は決して「聯繫」に向つて進まないからである。マ・レ主義理論と中國革命の實際とは如何に相互に聯繫するものであるか？これを通俗な談話をとつて語つて見れば、即ち「有的放矢」(的を定めて矢を放つ)といふ事である。矢とは「箭」であり、的は「靶子」であり、箭を放つには靶子に標準を合せる必要がある。マ・レ主義の中國革命に對する關係は即ち箭と靶子の關係であるのだが、或る同志等は凡て「無的放矢」で矢鏃に亂射するだけである。かかる人達がともすれば革命をいぢり壞すのである。或る同志等は只僅かに箭を取つて手の中で揉みくしゃにしてゐるだけで類りに「好箭、好箭」と讚めそやしていつまでもその箭を射放さうとしないのである。かかる人は即ち骨董鑑賞家であつて、何等革命とは關係のないものである。マ・レ主義の箭は須らく中國革命の的に對して射られなければならぬ。でなければ我々は何の爲にマ・レ主義を學習する必要があるのか、我々が米を喰べて消化出来ぬからこそその爲めに「消化器」を急するのでないか。我黨がマルクス主義の學習の必要を確定してゐるのは一體何の爲であるか？この問題を明白に説明せぬことには我々は理論的水準を永久に高め得ず、中國革命も亦永遠に勝利することは出来ぬと悟るべきである。

我々の同志は、我々がマルクス主義を學ぶのは「見てくれ」がよい爲でも、また彼の道士達が深山に入つて法を學び妖魔を降伏させ、魔怪

を現して見せる如き如何なる秘密があるからでもないといふ事をハッキリさせて置かねばならぬ。それは少しも美麗なものではなくまた如何なる秘密の含まれたものでもない。それは只頗る有用なだけである。ところが現在でも依然として少からざる人達は、マルクス主義を何か出来合ひの「靈丹聖藥」の如く、それを得さへすればどんな病でも少しも骨折らずに百病を治す事が出来ると思ひ込んでゐるらしい。が、これ等は一種の幼稚な蒙昧であつて、我々はこれ等の人達に對し尙ほ啓蒙運動を行はねばならぬ。彼のマ・レ主義を宗教教條と見做さんとする人達が即ちこの種の蒙昧無智者なのである。この種の人達に對しては誠意を以てかう言つてやらねばならぬ、「君等の教條は何の使ひ途もないものだ」と。そして更に卒直に云へば「全く養豚よりもまだ役に立たぬ事だ、我々の犬ならばその糞で田を肥やす事が出来るし、人間の糞は犬を糞れさすに足るが、教條は如何？田を肥やす事も出来なければ又犬を糞れさす事も出来ぬ、一體何處に使ひ途があるのか」と。同志諸君！諸君等は私のかく言ふ目的を知つて呉れるだらう、即ち私はことさら彼のマ・レ主義を教條と見做してゐる人達を抑へつけ、彼等を吃驚一番覺醒に到らしめ、マ・レ主義に對し正確な態度を取り易くさせる爲である。マルクス・エンゲルス・レーニン・スターリンは嘗て繰り返しく我々の學説は決して教條ではなく飽く迄行動の指南であると説いてゐるのであるが、これらの人達は以上の言葉の最も重要な意味をすっかり忘れてゐるのである。

中國共産黨員にあつては、マ・レ主義の立場、觀點、方法を探つて以て中國に應用し、中國の歴史の現實と革命の實際に關する眞摯な研究の中から理論を創造して來る事があるだけである。これを即ち理論と實際の聯繫といふのである。若し單に口頭だけで聯繫を説いても行動の上で聯繫を行はねば、百年「聯繫」を説き續けたところで無益な話である。我々は主観的片面的に問題を看ることに反對し、必ず教條主義的主観性と片面性を打破せねばならぬ。

主観主義を克服する爲には全黨の學風を整頓するにある。今日説くところは即ちこれ等の問題に就いてである。

さて、これから我々は宗派主義の問題に就いて論ずる事にしよう。二十年來の體練により現在の我黨内に決して宗派主義が支配的であるのではないが、併し、宗派主義の殘渣は存在してゐる。黨内に於ける宗派主義がありまた黨外に對する宗派主義の殘渣もある。黨内の宗派主義的傾向は排内性を強んで黨の統一と團結を妨礙し、黨外に對する宗派主義的傾向は排外性を強んで黨が全國人民と團結する事業を妨礙する。この二方面の禍根を艾除して、はじめて黨をして全黨同志の團結と、全國人民を團結する偉大な事業の中で暢達無礙なるを得させる

事が出来るのである。

党内の宗派主義的残滓とは如何なるものか？ 主要なるものは以下に説く数種である。

先づ独立性といふ事で騒ぎ立てるものがある。一部の同志には局部的利益を見るだけで全體的利益を見る事が出来ぬ。彼等はいつでも自己の管轄する局部的仕事を不當にも特に強調し、いつでも全體的利益が彼等の局部的利益に服従する事を欲するのである。彼等は黨の民主集中制を呑み込んで居られぬし、共産黨は常に「民主」を必要とするのみでなく、最も「集中」を必要とするのだといふ事を辨へて居られぬ。彼等は少数が多数に服従し、下級が上級に服従し、局部が全體に服従し、全黨が中央の民主集中制に服従するのだといふ事を忘れて了つてゐるのである。彼の張國燾は中央に對し、獨立性を騒ぎ出し、その結果叛亂を起す事になったのである。現在問題にしてゐるのは、張國燾や李立三の如き極端に致命的な宗派主義ではないとは謂へ、併しこの種の現象は斷じて豫防し各種の不統一現象は須らく完全に除去せねばならぬ。大局を全き姿で見なければならぬ。各黨員、各部分的仕事の如何なる言論文章或ひは行動も、如何なる場合でも必ず全黨の利益を計らねばならず、この原則に違反することは許されぬのである。

この種の「獨立性」を騒ぎ立てるもの動機は常に彼等の個人第一主義と不可分なのである。彼等は個人と黨に關する問題上で往々認識が不正確であつて、口頭ではやはり黨の尊重は説くけれども、併し實際上では却て個人を第一義に考へ、黨を第二義に置くのである。同志劉少奇は嘗て一部の人の手の特別に長い事に就いて語つたが、これ等の人は自分個人の打算に就いては非常に手際がよいが、事他人に關するとそれが全黨の利益にどう關係するかに至つては甚だ無關心なのである。「我がもの」は我がものであるが「お前のもの」も我がものだと言ふのである。かゝる手合ひが一體どんなことを騒ぎ立てるかといふに、即ち「名譽」であり「地位」であり、「出風頭」(譯註：何んにも何處へでも出姿張りのたがること)を騒ぎ立てるのである。

彼等が或る一部の事業を管掌してゐるときには、たゞ獨立性を騒ぎ立てやうとし、その爲めに或る一部のものを自らの周圍に集め、それ等のものを推挙して、仲間のものだけを讃めそやすのである。かゝるブルジョア政黨的な、俗悪な風習を共産黨内に持込んでゐるのである。この種の人の缺點は即ち不誠實といふことだ。

私は我々が誠實に事を處理せねばならぬと思ふ。世界上の如何なる事柄を成し遂げんとしても、この誠實な態度がなくては全然駄目である。然らばどんな人を誠實な人といふのか、マルクス・エンゲルス・レーニン・スターリンの如き人々が即ち誠實な人である。即ち科學的に考へる人が即ち誠實な人である。不誠實な者とはどんな人を指すかといふに、即ちトロツキー・ブハリン・張國燾等の如きは大の不誠實者であり、李立三も亦不誠實者の一人であり、「個人の利益や部分的利益の爲に獨立性を騒ぎ立てるのは同様にまた不誠實者なのである。」一切の狡猾な人間は非科學的な態度で仕事をすると手合ひである。自らうまくやつたと思つたり、自ら頗る聰明だぞと思ふもの等は最もむしけらの如き人間であつて、凡てよい結果を残さぬものである。

我が黨校の學生諸君は必ずこの問題に關心を持たねばならぬ。我等は斷じて一つの集中的統一の黨を建設せねばならぬのである。一切の無原則的な派閥闘争は凡て奮闘に排除されねばならぬ。我々全黨をして歩調を整へ、一致して一つの共同目標の爲に奮闘せしむる爲に、我々は斷じて個人主義と宗派主義に反對せねばならぬ。

外來幹部と地元幹部との關係は必ず團結を保たねばならず、必ず宗派主義的傾向に反對せねばならぬ。これによつてはじめて八路军と新四軍は幾多の根據地を後方に創立し得たのだし、外來幹部ははじめて幾多の地方工作を後方に發展せしめ得たのである。故に外來幹部と地元幹部との關係には最も配慮が加へられねばならぬのである。かかる條件下に於いては、我々の同志は必ず外來幹部と地元幹部との完全な一致團結のみが、また地元幹部の大軍養成と並にその技術任用のみが、よく根據地を鞏固にし、はじめて我々が根據地内に根を張り得るし、さもなければそれは不可能だといふ事を理解せねばならぬ。

外來幹部と地元幹部にはそれぞれ長所があり、また短所もあるのだから、必ず相互に長を採り短を補はねばならぬ。外來幹部は地元幹部に比して事情精通といふ事と地方民衆との聯繫といふ事に就いてはどうしても隔りがある。私を例に取つて謂へばかうである。私は陝北に來てから既に五、六年にもなるのだが、併し陝北の情勢とか陝北人民との聯繫とかに就いて、私を同志高崗(譯註：邊區參議會議長)に較べて見るに彼は遙かに優つてゐる。どうして調査研究を進めるかに就いて陝北の幹部と比較する事になると、どうしても差異があるのである。山西に、河北に、山東に、或ひは其他の抗日根據地に趨く我々の同志等は絕對にこの問題に就いて注意を要する。併しこれのみではない。一つの根據地内部に在つてもその各地域の發展に前後の別があり、幹部にもまた外來、地元の別がある。比較的先進地域の幹部が比較的後れた

地域に行けば、その地方に對してはやはり一種の外來幹部であるから、やはり地元幹部の援助の問題に就いては十分注意を要するのである。一般的な状況に就いて云へば、外來幹部は屢々責任ある地方の指導の任に就くのだが、若し地元幹部との關係がうまく行かぬといふ事になれば、その責任の大部分は正に外來幹部が負はねばならぬのである。主なる指導的同志の責任は更に大なるものがある。

然るに現在この問題に對する注意は尙ほ不十分である。或るもの等は地元幹部を輕視し、嘲笑する。彼等に云はせると『地元の者に何が解るのだ、土包子が(譯註)地方人、田舎者といふ程の意』といふのだが、この種の者は完全に地元幹部の重要性を理解してゐないのだ。地元幹部の長處が解らぬ以上は、自分の短處も解らぬのであり、従つて不正確な宗派主義的態度で臨むやうになるのである。外來幹部は必ず地元幹部を愛護するやうにし、常に彼等を援助し、決して彼等を譏笑したり、攻撃したりしてはならぬ。當然な事だが、地元幹部もまた須らく外來幹部の長處を學んで、誤つた狹隘な觀點を拂ひ除くべきである。そして外來幹部と完全に一致し彼此一丸となる事に努力し、宗派主義的傾向を排除せねばならぬ。

軍隊工作の幹部と地元幹部の關係も以上と同様であり、兩者は必ず完全に一致團結して宗派主義の傾向に反對せねばならぬ。軍隊幹部はよく地方幹部を援助し、地方幹部も必ず軍隊幹部を援助すべきであり、若し紛争が起つたならば兩者は互に諒解し合ひ、各々自分に對しては正確な自己批判をすべきである。

軍隊幹部が軍事上的指導的立場に居る地方で、然もこのやうな事情の下で若し地方幹部との關係が不味い事になれば、主なる責任は正に軍隊幹部の身上に在るのであつて、この問題も亦非常に重要である。必ず軍隊幹部をして、先づ自分の責任を取らせ、然る後謙虛な態度で地方幹部に對してこそ、はじめて根據地の戦争工作と建設工作を順調に進捗させる條件に持ち來す事が出来るのである。

或る方面の軍隊、某々の地方、或る工作部門の關係等も亦同様であつて、幹部の移動に際しても必要な場所には派遣せず、或ひは派遣しても下らぬ人物を送る、溝を隔てていつも隣を考へる、只自分の事のみを考へて他人の事を顧慮せぬ自己本位主義的傾向には、斷じて反對しなければならぬ。

隣人を敵として、全然他部門、他地方、他人の爲を考へぬのを本位主義と呼ぶのであつてこれ等は完全に共產主義的精神を喪失したものである。大局を顧みず、他部門、他地方、他人に就いて少しも關心を持たぬのが、即ち自己本位主義者の特質である。この様な人達にはよ

ろしく教育を加へ、これが一種の宗派主義の傾向なのだといふ事を悟らせねばならぬ。若しこの傾向をそのままに發展させるならば、黨に危害を及ぼす事になる。

まだ問題がある。それは舊幹部と新幹部間の問題である。抗戰以來我黨は廣大な發展を遂げ、同時に大量の新幹部を生産させたが、これは頗る良好な現象である。蘇聯共產黨第十六回代表者大會の席上、同志スターリンは彼の報告中で『老年幹部は普通どうしても多くなく、實際の需要よりは少ないものだ。その上彼等は既に自然法則の關係に因つて、局部的に老衰をはじめてゐる』と云つてゐるが、彼はここで實際の幹部の状況を語り自然科学的のものを云つてゐるのである。我々の黨で若し廣大な新幹部と老年幹部の一致合作といふ事がなかつたならば、我々の事業は直ぐ停まつて了ふのである。故に凡ての老年幹部は極めて熱誠に新幹部を歓迎し、新幹部に就いて配慮せねばならぬ。なる程、新幹部は缺點を有つて居り、彼等は革命に参加してまだ久しくなく、まだ經驗に缺くところがあるといふのは間違ひではない。彼等の中の或るものはまだ舊社會の良からぬ思想の尾つぽを身につけてゐる事も免かれぬ。これが即ち小資產者の自由主義思想の殘渣である。但しこれらの缺點といふものは教育の過程で、革命の鍛錬によつて漸次排除されて行くものであつて、彼等の長處といふものは正に同志スターリンが云つた通りのものである。

即ち新な事物に對して鋭敏な感覺を有し、高度の熱情と積極性を有つてゐる事に因るものであつて、この一點に於いてこそ多くの老年幹部は正しく缺乏してゐるものがある。故に新、老幹部は相互に尊重し合ひ、互に學び合ひ、互に採長補短し合ひ、一致團結して共同の事業を進行させ、必ず宗派主義的傾向を克服せねばならぬ。老幹部が主要な指導者地位にある地方に於いては、一般的な事情の下で、若し老幹部と新幹部との關係が好ましく行かぬとせば、先づ老幹部が主な責任を負はねばならぬ事柄である。

以上に説いた事は、部分と全體との關係であり、個人と黨との關係、外來幹部と地元幹部との關係、軍隊幹部と地方幹部との關係、部隊と部隊、地方と地方、甲工作部門と乙工作部門の間の關係、老幹部と新幹部との關係に就いてである。總ては黨内の相互關係であり、共產主義的精神を高揚させ、宗派主義的傾向を防止して我々の黨をして隊伍を整備し、一致した歩調を以て闘争目的を達せしめんが爲であつて、頗る重要な問題である。我々は黨風を整頓して必ずこの問題を解決せねばならぬ。若し主觀主義が我々に不要なものであり、マ・レ主義の眞實の裡に道理を探求する精神を實行するならば我々は須らく黨内の宗派主義的殘渣を清掃し、黨の利益を個人の上の高めるこ

とを出発点として、黨をして完全な團結と統一的地歩に到達せしめねばならぬ。宗派主義の残滓は黨内の關係に於いて克服しなければならぬものであり、黨外との關係に於いても亦消滅せしめねばならぬものである。即ち絶対に整頓せねばならぬ惡黨風であるのだ。單に全黨の同志が完全に團結しただけでは、まだ敵人に勝利する事は出来ぬ、必ず全國民と團結してはじめて敵人に勝利し得るのである。

我々は全國民と團結する事業の上では、二十年來艱難な而も偉大な仕事を成し遂げてゐる。抗戰以來のこの工作の成績は亦更に偉大なものである。但し、私は我々の凡ての同志が正確な作爲を有してゐたと云ふのもなく、又凡ての同志に宗派主義的傾向が有つたといふのではない。一部の同志中には確かにこの傾向が存在してをり、その中の或る人達の傾向は實に由々しいものである。

多くの同志等は、黨外者に對しては諱もなく偉大に振舞ふ事を喜び大衆を輕蔑する。大衆を無視して大衆を尊重する事を好まず、大衆の長處を理解しようなどとは考へない。これが宗派主義なのであつて、これらの同志は少しマルクス主義を學んでからといふものは黨内に居るところか却て更に驕傲になり、大衆の誤りを責めるのみで、自分が實際上一知半解の徒なる事を知らぬものである。我々の同志は須らく次の一條の眞理を悟らねばならぬ。共產黨員と黨外人との比例は無論何時でも黨員の方が極く少数である。假りに百人中に一人の共產黨員が居るとせば、全中國四億五千萬の人口中四百五十萬の共產黨員が存在する事になる。即ちかゝる莫大な數量に到達せしめたとしても、共產黨員は尙まだ百分の一であり、残り百分の九十九は凡てこれ非黨員なのである。我々には一體非黨員と合作しないといふ如何なる理由があるのだらうか？一切の我々と合作を願ひ、我々と合作の可能な人達に對しては、我々は只彼等と合作の義務がある許りであり、彼等を排斥する如何なる權利もないのである。然るに一部の黨員はこの眞理が呑み込めないものである。我々との合作を希望する人達に對して、これを輕蔑し、甚しきに至つてはこれを排斥さへするのである。これには如何なる根據もないのである。マルクス・エンゲルス・レーニン・スターリンは一體我々にかゝる根據を與へたのであらうか？そんな事は全く無い、反對である。

彼等は何時も諱々と警告して「我々は大衆と密接に聯繫しなければならぬ、大衆から離れてはならぬ」と云つてゐる。共產黨には大衆から離れてよいなどといふ根據があるだらうか？ない。我が中央の一切の決議案中には、一つの決議案として我々は大衆より離れ、自己を孤立させよなどと説いてゐるものはない。反對に何時でも我々は密接に大衆と聯繫して、大衆から離れてはならぬと叫んでゐるのである。だ

から一切の大衆から離れるやうな行爲は、決して如何なる根據もないのである。只我々の一部分の同志が、自分で造り出した宗派主義思想を俵いものにしてゐるだけなのである。かゝる宗派主義が一部の同志中にはまだ頗る強く、まだ黨を阻礙するやうなコースを實行してゐるので、それ故にこそ我々は黨内に於いて、大々的な教育工作を推進させねばならぬのであり、先づ最初に、我々の幹部自身この問題の頗る重大な意義を理解することから始めさせ、彼等に、共產黨員が若し果して黨外幹部と黨外大衆との相互聯合をなさなかつたならば、敵人は絶対に打倒出来ず、革命の目的は絶対に到達出来ぬといふ事を知らしめねばならぬのである。一切の宗派主義思想は凡て主觀主義であり、凡て實際革命の要請するものと符合しないものだ。それ故に、宗派主義に反對するには、同時に主觀主義に反對せねばならぬ。

『黨八股』問題に就いては、別に他の會議に於いて討論するが、『黨八股』は汚物を抱いた代物である。それは主觀主義並に宗派主義の一種の表現形式である。それは我々を毒し、革命を不利にする。我々は斷じて之を遠清せねばならぬが、本日はこの討論を終ることが出来ぬ。これは次の再論に譲る。

我々は主觀主義に反對せねばならぬ。そして、唯物主義を宣傳し、辯證法を宣傳せねばならぬ。だが、我々内の多くの同志は、唯物主義の宣傳を重要視することもなければ、辯證法の宣傳もしない。或る同志達は他の人が主觀主義を宣傳するのを聞いてすつかり安心して下り、それがマルクス主義の信奉者だと完全に信じて、彼等は唯物主義の宣傳に努力しない。主觀主義といふ代物を看ても聽いても、考へもしなければ議論もしない。かゝる態度は共產黨員の態度ではない。この原因によつて我々の多くの同志が、主觀主義思想の毒害に犯され、中毒の現象を惹起したのである。従つて、我々は黨内に一つの啓蒙運動を起し、我が同志達の精神を主觀主義・教條主義の蒙昧から解放すると共に、同志を動員して主觀主義・宗派主義・黨八股を克服せねばならぬ。これらの代物はいはゞ『日貨』の如きものである。我々の敵は、我々がこの腐敗した代物を保存し、我々がいつまでも蒙昧の裡にゐることをのみ希望してゐるが故にこそ、我々はこの克服を提唱せねばならぬのである。即ち『日貨』排斥と同様である。一切の主觀主義・宗派主義・黨八股なる代物を、我々はすべて克服せねばならぬ。黨内理論水準の低いことを利用させて、主觀主義・宗派主義・黨八股といふ一連の代物に如何なるものも販賣させてはならぬ。市場に於ける販賣を困難ならしめねばならぬ。この目的のために、同志達の自覺を高め、如何なるものに對しても、その善惡を識別して然る後歡迎すべきか或ひは排斥すべきかを決定せねばならぬのである。共產黨員は如何なる場合にもすべて『何故に？』といふ問を持たねばならぬ。常に

自己の願望に於ける周密な考慮を経て、實際に台致するか否かを考へ、絶対に盲従してはならぬ。奴隷主義は絶対に明へてはならぬ。最後に、我々の主観主義・宗派主義・黨八股反對には、二つの宗旨があるが、これは必ず注意して欲しい。第一は『懲罰後』であり、第二は『治病救人』である。過去の錯誤は必ず表面に出し、情實に據はれず、科學的態度を以て過去の缺陷を分析批判し、將來の工作を慎重にし良好にするよすがとせねばならぬ。これが即ち『懲罰後』の趣旨であるが、我々の誤謬暴露・缺陷批判の目的は、いはゞ醫師の治療と同じことで、全く人を救ふためであつて、人に死の診斷を下すためではない。或る人間が盲腸炎を患つたとすれば、醫師が手術すればその人間は助かるのである。如何なる誤謬を犯した人と雖ども、さらに彼の誤謬の多寡を論ぜず、彼が病を息ますして醫師を忌むやうにさせてはならぬ。誤謬を固執して救済の不可能の立場に至るやうなことがあつてはならぬ。常に率直に醫療を願ひ、改善を求めさせねばならぬ。我々は彼を歓迎して彼の病患を治癒させ、一箇の立派な同志とせねばならぬ。決して一時を痛快がつて、嫉妬苦茶に叩いてはならぬ。解決の可能な思想的病患も政治的病患も、愚昧な態度を採つてはならぬ。必ず『治病救人』の態度を採らねばならぬ。そして、これこそ正確有效な方法である。

本日、黨校始業の機會に當つて、茲に私は長時間の講演を行ひ、以て同志諸君に考慮を促すものである。

五、黨八股に反對す (黨八股の八大罪狀)

——民國三十一年二月九日宣傳工作會議に於ける毛澤東の演説——

只今就賢同志が本日の開會の趣旨をお話した。私がこれからお話ししようと思ふことは、主観主義・宗派主義がどういふ風に黨八股をその宣傳道具或ひは表現形式としてゐるかといふ事である。我々は主観主義・宗派主義に反對する。しかし、若し黨八股を見送らなければ、この二つの主義にとり、いゝ隠れ場所となり、兩者はそこに身を避けることが出来る。若し我々が黨八股をも打倒するならば、主観主義・宗派主義に對する最後の『王手』を打つ事となり、その結果必ずやこの兩怪物の實體が暴露され、『風が道に出て來れば、人々は喚き立て、追廻す』様に憎まれるのがすぐ叩かれるのは必定で、この兩怪物もすぐ姿を消して了ふであらう。

自分一人で黨八股的文章を書き、それを自分一人讀む分にはまあ構はぬが、若し他人に見せたりすれば、自分だけのときよりも讀者が一人多くなるわけを深く傷けるものである。若しかゝる文章を壁に貼りつけたり、プリントしたり、新聞に載せたり、或ひは一冊の書物にしたたりすれば問題はすつと大きくなり、多くの人々に影響を與へるに至る。ところが困つたことには黨八股的文章を書く連中に限つて却つて多くの人々にそれを見せたがる。それ故にこそその實體を發きたて、打倒せねばならぬのである。

黨八股もまた洋八股(譯註—西洋かぶれ)である。この洋八股には魯迅がとつきの昔反對してゐる。我々は何故にそれをまた黨八股と呼ぶのであらう?これ黨八股がバタ臭いだけでなく、古臭いところを持つてゐるからで、これをしも一個の創作と云ひ得るのであるならば、創作が出来ないと言ふ人間はあり得ないであらう。これが一つの原因である。黨八股は我が黨内にあつて長い歴史を有してゐる。特に内亂時代には非常に喧しく云はれたこともあつた。

歴史的に見れば黨八股は五四運動に對する一つの反動である。何故かと云へば——

五、黨八股に反對す

五四運動當時、一團の新しい人達は文語體に反對して口語體を提唱し、古臭い教條に反對して科學と民主とを提唱した。これらは何れも非常に正しいことである。その當時この運動は生氣澎湃として、進歩的革命的であつた。その頃の統治階級は孔子の教を以て學生を教へ、孔子のきまり文句を宗教的教條とし、人民は一概に信奉するやう、また文章を作る者はすべて文語體を用ひるやう強制した。つまり、當時の統治階級及びその新聞どもの文章や教育は、その内容や形式の如何に拘らずして八股式、教條式であつた。これが即ち舊八股、舊教條である。かゝる舊八股、舊教條の醜態をほじくり出して人々に示し、人々に號令して舊八股、舊教條に反對せしめたのが五四運動時期の極めて大きな成績の一である。

五四運動の成績はこの一つだけには止まらない。更にこれと關係のある帝國主義反對の大成績をも數へることが出来るが、やはり舊八股、舊教條反對はその大成績の尤なるものである。但しその後に至りこれは洋八股、洋教條を生むに至つた。我が黨の一部の連中はこの洋八股、洋教條を發展させ、主觀主義、宗派主義及び黨八股的なものとなした。これらは何れも新八股新教條で、かゝる新八股、新教條は我々の多くの同志の頭に深く根を下し、我々が今日改造工作を進めるに非常に大きな力量を費さねばならぬ原因となつてゐる。このやうに見て来れば、五四時期の清新活潑で、前進的、革命的であり、かつ封建的な舊八股、舊教條に反對して起つた運動は、後になつて一部の人間により極端へと發展せしめられ、その反對方向へと發展し、新八股、新教條となり、生氣鬱閉たるものとならず、機械的なものとなつてしまつた。これはとりもなほさず、洋八股、黨八股或は新八股、新教條は五四運動が當然蒙らなければならぬ反動であるといふことを物語つてゐる。

しかし、五四運動にも缺點がある。のみならず、その指導者達はまだマルクス主義的批判精神をもたず、彼等の用ひた方法は、一般にまだ資產階級的方法、即ち、形式主義的方法であつた。彼等が舊八股、舊教條に反對し、科學と民主を主張したのは正しい。しかし、彼等は歴史に對し、また外國の事物に對し辯證法的唯物論や史的唯物論の批判精神をもたず、悪いものは網對に悪く一切が悪い、好いものは網對によい、一切がよいと決めてかゝつた。このやうに形式主義的問題を見る方法はその後この運動の發展に頗る影響を與へたのである。

五四運動の發展途上に二つの潮流が形成された。一部の人間は五四運動の科學と民主的精神を繼承し、且つマルクス主義の基礎の上に立つて修正した。これが共產黨員及び若干黨外マルクス主義者のなした工作である。別の一部の人間は資產階級の路線上に走つた。これ右翼である。形式主義の右翼への發展である。但し共產黨内にあつてもまた一體ではなかつた。その中の一部の人間は極端に走り、マルクス主義をしつかりと把握せずに形式主義の錯誤を犯した。これ主觀主義・宗派主義及び黨八股であり、とりもなほさず形式主義の左と右への發展である。

かく見れば、黨八股なるものは、一面五四運動の積極的要素に對する反動であるといふも、一面五四運動の消極的要素を繼承してゐる。一つのことを繰返したり發展させたりすることは、決して偶然に起るものではない。我々がこの點を理解してゐるといふことは、我々の長所である。もし五四時代の舊八股、舊教條主義反對が革命的なもの、必須なものであるならば今日我々が新八股、新教條主義を批判するものも革命的なもの、必須なものである。もし五四時代に舊八股、舊教條主義に反對しなかつたならば、中國人民の思想は舊八股、舊教條主義の束縛より解放されることが出来ず、中國は自由獨立の希望をもち得なかつたであらう。この工作は五四運動時代はまだその發端に過ぎず、全國民を完全に舊八股、舊教條主義の統治より離脱させるには、まだ大きな力量を費さねばならず、やつぱり今後の革命改造路上の一大工事となつてゐる。もし我々が今日新八股、新教條主義に反對しないならば、中國人民の思想はまた別種の極端主義の束縛を受けらるであらう。洋八股、洋教條の害の大なることを、諸君は見はしなかつたか？我が黨内の一部（無論極く一部ではあるが）同志の黨八股中義、教條主義的錯誤に至つては、もしもこれを除去しなかつたならば、生々潑潑とした革命精神を啓發することが出来ず、また不正確な態度でマルクス主義に對するといふ惡習慣では、廣範圍にそれを傳へることも發展させることも出来ぬ。そしてまた舊八股、舊教條の全國民に及ぼす影響、及び洋八股、洋教條の全國の多數人士に及ぼす影響に對しても有力な闘争を進めることが出来ず、これらを叩き潰し刷り落しよつとも、やはり目的を達することは到底出来ない。

主觀主義・宗派主義・黨八股の三種のものは、何れも無産階級に必要なものではなくて、搾取階級に必要なものである。これらのものは、我が黨内にあつては小資產階級思想の反映である。中國は小資產階級の極度に廣大な國家であり、我が黨はこの廣大な階層に包圍せられてゐる。我々はまたこの階級出身者を多數黨員としてゐるが、彼等の多くは長いか短いかいづれも小資產階級の尻尾を曳き入り入黨して來たもので、所詮小資產階級革命分子の熱狂性と一面性を離脱することが出来ない。もしこれを抑制もせず、或は改造もしなかつたならば、主觀主義・宗派主義を生じ易い。而してその表現の一形式が洋八股、黨八股である。

五、黨八股に反對す

これらに對して賄正工作、清掃工作を實行するといふことは、仲々容易なことではない。やるからには是非上手くやらなければならぬ。即ち、上手に理由を説明しなければならぬ。もし理由の説き方が上手で適切であるならば、必ず效力を發揮することが出来るのである。理由説明に當りまづ第一にとるべき方法は、病人に強い刺激を與へるやうにやることで、彼等に向ひ大膽を張り上げ、「お前は病氣ぢやないか」と怒鳴りつけ、病人が驚きの餘り全身ビツショリ汗をかくのをまつて、工合よく彼等を治療してやるやり方である。

たゞ今から、黨八股の缺點が奈邊にあるかといふことを分析してゆくのであるが、我々も八股文の筆法を借り、「八股」式に即ち毒を以て毒を制する道方でこれを八犬罪惡と呼ぼう。

黨八股の罪狀第一條は、空言を羅列し、少しも内容のあることを言はないといふことである。我々同志の一部は好んで長文を書くが、何にも内容らしいものがなく、全く『物臭女の纏足』のやうに、長くておまけに厭な臭氣がする。どうしてまた、あのやうに長い、あのやうに空虚なものを書かなければならぬのであらう。強ひて解釋を下げれば、即ち大衆なんか不要だといふ大決心を固めてゐるからに違ひないのである。

全くのところ、長く且つ空虚なために、大衆は一見するとすぐ頭を振り、更に讀み續けやうなどとはさら／＼しないであらう。たゞ幼稚な人々を欺き、彼等の間に悪影響を振りまき、悪い習慣を醸成するだけである。昨年六月二十二日ソ聯は彼の大戦争を開始し、スターリンは、七月三日一篇の演説を發表したが、それは僅かに我が解放日報の一篇の社説位の長さでしかなかつた。だがもしも我々の老爺さんが書く分にはさうは行かない。全部でどうしても十萬字は要するであらう。現在は全世界の大戦争時代である。我々は文章を短く且つ精しく書く方法を研究しなければならぬ。延安ではまだ職團はないが、軍隊は日々前線で戦つてをり、後方も工作々々で忙しい。文章が長ければ誰が目を向けたりしよう。一部の同志は前線から好んで長報告を送つて来る。彼等は苦心慘澹して書いて寄越し、その目的は我々に讀ませることなのであるが、どしてそれに耐へられやう。長くて空虚なのはよくないといふが、では短くて空虚なのはいいのか？ いやそれもよくない。我々は空言を一切撤すべきである。だが、主要な且つ最初の対象は、彼の長くて臭い物臭女の纏足を連に便所に投げ捨てることである。或は『資本論』は非常に長いではないか、あれはどうなのか？ と反問する者もあるかもしれぬが、これはなんでもない。仔細に讀んで行けばそれでいい。俗語にも『人を見て法を説け』とか或は、『お茶を見て飯を食ひ、身體を置つて衣を裁て』と言つてゐる。そのやうに我々何をやるに當つても、

その状況に即してやつて行かねばならぬ。文章を作るのも演説するのも同様である。このやうに、我々が反對するのは空言を連ね、何ら内容あることを云はぬ八股のこと、決してどんなものでも短かければ好いのだといふのではない。職時下にあつては、固より短い文章が必要とせられるが、特に必要なのは内容をもつた文章だ。特に作つてはならぬこと、特に反對せねばならぬことは、内容なき文章である。演説も同様である。空言を羅列し、何ら内容のない演説はこれまた止めなければならぬ。

黨八股罪狀の第二條は、虚勢を張つて人を嚇かすことである。一部の黨八股は單に空言を羅列するだけに止らず、このやうな態度を裝つて故意に人を嚇しつける。この内面には非常に悪い毒素が包含されてゐる。空言を羅列し無内容なことを云ふ位は、まだ幼稚な方である。虚勢を張り人を嚇かすに至つては、幼稚どころか全く無類の徒の所業である。普迅は曾つてこの種の連中を批評して、「侮辱や屈倒や脅迫は決して職團ではない」と云つた。科學的なものは、何時如何な時でも他人の批評を怕れない。科學は眞理であるから決して他人の反駁を怕れはしない。これに反し、主観主義的な、宗派主義的なものは、黨八股式の文章や演説の中に表現されてゐるが、深く他人の反駁を怕れ、非常に臆病であるために、そこで様子振つて人を嚇しつけ、さてこの一おどしで皆は口を噤んでしまひ、自分が「颯」でもして来たやうに考へてゐる。このやうな虚勢を張つた奴は、眞理を反映することが出来ず、却つて眞理を妨害するものである。眞理は様子振つて人を嚇しつけたりはしない。それは極く真面目に演説し、文章を作ることから生れるのである。嘗て我々の文章や演説には、二六時中二つの名詞が使はれた。一つは「殘酷な闘争」と呼ばれ、一つは「容赦なき打撃」と呼ばれるものである。この種の手段は、敵人或は敵對思想に對して用ひるときには全く必要なことであるが、自己の同志に對して用ひるのは誤つてゐる。黨内にも時々敵人や敵對思想がまきれ込んで来る。ソ聯共産黨史結語の第四條に説いてゐるやうなあの様な機會主義者どもの如き、この種の連中に對しては疑義をはさむ要もなく、「殘酷な闘争」或は「容赦なき打撃」の手段を採るべきである。といふのは、彼等惡人は正に同様な手段により黨に双向ふからで、我々ももし彼等に對しなほ寛容な態度をとるならば、直ちに惡人の毒計にあたつてしまふであらう。しかし、同一の手段を用ひて、偶然誤謬を犯した同志に對してはならない。これらの同志に對しては、批判と自己批判の手段を使用すべきである。これ即ち、前述ソ聯共産黨史結語第五條に説いてゐる方法である。しかし、如何なる者に對しても、虚勢を張つて嚇しつけるといふ方法は何の役にも立ちはしない。この種のおどし職術は、敵に對しては使ひやうがなく、同志に對しては害があるばかりである。この種のおどし職術は、神取階級乃至は薩摩

五、黨八股に反對す

どもの慣用手段で、無産階級にはこんな手段を必要としない。無産階級の最も鋭敏な、最も有効な武器は只一つ即ち饑餓な、腸胃的な暴動の態度である。共産黨は人を嚇して飯を食つたりしない。真理によつて飯を食ひ、空論を排斥して飯を食ひ、科學によつて飯を食つてゐるのである。見得を張り通して名譽ある地位に達し、「ウエストミンスター寺院に祭られることを目的とするに至つては、更に卑劣な企圖であることその論を俟たない。要するに、如何なる機關が決議を行ひ、指示を發するにしても、また如何な同志が文章を書き演説をするにしても、一概に真理に依據した實際役に立つことに依據しなければならぬ。かくして始めて革命の勝利を爭取することが出来るので、その他のはすべて益の無いことである。

黨八股の罪状第三條は、的無きに矢を放ち對象を見ないといふことである。もう幾年前に延安の城壁に次の様な標語が書かれてあるのを見たことがある。「工人労働者、農民を聯合せよ、抗戰勝利を闘ひとれ」と。この標語の意味は決して悪くはない。しかしその工人の「工」といふ字の第一筆目は眞直ぐに書かれず、二ヶ所で曲つて「五」字となつてをり、人字はといへば、右の脚に三つのハネを加へ、「八」字に書いてあつた。この同志が古代の文人學士風な學生であるといふことは疑ひもない。しかし彼が抗戰時期に延安のやうな地方の城壁にこの様な字態で書かうとし意圖は、どうもさつぱり解らない。恐らく彼の目的もやはり誓つて一般民衆などには見て貰ひたくないといふにあつたのであらう。でなければ、どうも解釋がし難いのである。

共産黨員が、もし本當に宣傳を行はうとするならば、對象をよく見なければならぬ。即ち自分の文章、演説、談話、文字がどんな人々に見せ或は聴かせようとしてゐるのであるかといふことをよく考へて見る必要がある。でなければ他人には見て要らぬ、他人には聴いて要らぬと決心したのも同然である。多くの人は自分が書いたもの、話したことは、他人が見ればみんなよく分り聴けばよく分るのだと思つてゐるが、事實はそんなものではない。といふのは、彼等の書いた話したりすることは何れも黨八股で、他人にはどうして理解することが出来よう。「平に向つて琴を弾く」といふ言葉は、對象を嘲笑した意味を含んでゐる。もし我々がこの考へを取去り、對象を尊重するといふ考へに入り込めば、残るものは琴を弾する者を嘲笑する考へだけとなる。何が故に對象をよく見ないで無暗に琴を弾するのであらう。まして相も變らず全く鵠のおしやべりの様な黨八股で、大衆に向ひワア／＼叫ばうとするばかりではなほさらのことである。矢を射るには的を見なければならぬ。琴を弾くには聽衆を見なければならぬ。文章を書き、演説をするのに讀者や聽衆をよく知らないでよいであらうか。

我々はどんな人とも友達になるが、もしお互ひの心が分らず、お互ひの心の中にどんなことを考へてゐるか分らなければ、どうして心まで知り盡した友達となることが出来よう。宣傳工作を行ふ人々は、自己の宣傳對象に對し、調査も、研究も、分析も行はずにやたらに喋るといふことを、萬々やつてはならない。

黨八股の罪状第四條は言葉が無味乾燥で、恰度三三(譯註—上海地方の俗語で、最下等の瘦せつこけた骨と皮ばかりの浮浪人を屬つていふ)のやうに干からびてゐる。上海人が搦三野郎と呼んでゐるあの馬の脚どもは、我が黨八股に非常によく似て、ひどく干からび、その様子には随分見苦しい。黨八股の一節の文章、一つの演説をひっくりかへしてどん／＼かへしたところで、やつぱり例の「學生調」でしかなく、少しも生氣勃勃とした言葉がない。言葉が無味乾燥で、外観が憎たらしく、全く三三のやうではないか。

一般に、七歳で小學校に上り、十歳で中學校に進み、二十歳餘りで大學を卒業するが、その間一般大衆と接觸することが無いから、彼等の言葉が少く非常に單純なことは、一向不思議なことではない。しかし、我々は革命黨で、大衆に代つて仕事をしてゐるのである。もし我々も同じ様に大衆の言葉を學ばなかつたならば、きつと仕事はうまくゆかないだらう。現在宣傳工作をしてゐる多くの同志達も、言葉を學ばうとせず、その宣傳は妙味に乏しいこと甚だしい。彼等の文章を多くの人々は喜ばない。彼等の演説も多くの人は聴きたがらない。何故言葉を學ばなければならず、而も非常に大きな氣力を振つて學ばなければならぬのであらう。それは、言葉といふ奴は、勝手にうまく學べるものではなく、苦勞して練習しなければならぬからである。

第一、一般民衆の言葉を學ばなければならぬ。一般民衆の言葉は、豊富で、生々として、實際生活をよく表現してゐる。こゝろいふ言葉を我々の多くは習得してゐない。だから我々が文章を書き、演説をするときには、少しも生々勃勃とした、切實で力の籠つた言葉がなく、ただあるものは、凝り固つた幾條かの筋ばかりで、三三の様に瘦せて見苦しく、少しも健康な人とは見えない。

第二、外國の言葉を學ばねばならぬ。外國の一般民衆の言葉は決して洋八股ではない。支那人がうつし取つて來た時に、そのモデルを強張らして、何の役にも立たぬ洋八股に變へてしまふのである。我々は無理矢理に外國語を移してゐるのではなく外國語のよいところを吸收するのでなければならぬ。支那の言葉だけでは足りないから、我々はその言葉の中には非常に多くの外國語を吸收してゐる。例へば、今日開會した幹部大會の、この幹部といふ二字は、外國より學んだものである。我々はまだ／＼多くの外國の新しいものを吸收しなければならぬ。

五、黨八股に反對す

らない。彼等の進歩的理論を吸収しなければならぬばかりでなく、彼等の新しい言葉を吸収しなければならない。例へば「黨と非黨の聯盟」といふことを、スターリンがソ聯新憲法の演説中で言及してゐたが、我々はこれを陳甘寧邊區施政綱領の中に吸収して、「共產黨員と黨外人士は民主合作を實行する」と説いた如きがそれである。要するに、我々は外國のよいものを吸収しなければいけないのである。

第三、我々は更に古人の言葉を學ばねばならない。現在民間の言葉の大部分は昔の人から傳へ傳へして來たものである。昔の人の言葉の寶庫はまだく掘出すことが出来る。まだ生氣の通つてゐるものでありさへすれば、我々はこれを吸収して、我々の文章や演説や講演を豊富にすべきである。勿論我々は既に死んでしまつた古典を用ひることに固く反對する。これはわかり切つたことである。しかし、立派な、合理的なものは、やはり吸収すべきである。現在、餘りにも深く黨八股に中毒してゐる人々は、民間の、外國の、或は古人の有用な言葉を頭から受け付けず、苦勞して學ぼうなどとはしない。スターリンは、ソ聯共産黨第十八次大會席上で、「一部の同志は、新鮮な事物に對し、感覺を失つてしまつてゐる。」と言つた。我々の同志達の中にもこの様なものがをり、彼等は多くの新鮮な事物をすべて見ることが出来ない。この病氣は是非とも治さなければならぬ。宣傳家とは一體何か？ 教員が宣傳家であるばかりでなく新聞記者も宣傳家である。文藝作家も宣傳家である。我々の工作幹部もすべて宣傳家である。例へば軍事指導員であるが、彼等は少しも對外宣傳を行はない。しかし、彼等は兵士と話をせねばならない。人民と接渉しなければならぬ。これが宣傳でなくて何であらう。一人の男が他人と話をしなへすれば、それが宣傳工作となるわけで、彼が聲でさへなければ、どうしても一言二言唾舌ならなければならぬ。だからこそ我々の同志はみんな言葉を勉強しなければならぬ。各種の言葉の勉強の中で、特に民間の言葉をしっかりと勉強しなければならぬのである。民間の言葉の中で、特に労働者、農民、兵士等大眾の言葉をしっかりと勉強しなければならぬ。もしも我々が大眾の言葉を學ばなければ、我々は大眾を指導することが出来ない。

黨八股の罪狀第五條は、甲乙丙丁式に生薬屋を開くことである。諸君生薬屋に行つて見給へ、彼處の藥櫃には幾つも小抽斗がついてゐて、その一つ一つに藥名が貼りつけられ、當歸やら熟地黄やら、大黃、芒硝等々何から何まである。この方法を、我が同志達が真似て、文を書き、演説をするときに、或はその著書や報告に於て、先づ第一に大きく登載參四、次に小さく二三四、第三に甲乙丙丁、第四に子丑寅卯、それから大文字のA B C D、小文字のa b c d、更にアラビア數字等々が並べられ、その多いことといつたら限りがない。古人や外人が我々のためにこんなに澤山の符號を作つておいてくれたおかげで、我々が生薬屋を開くにも、少しも力を費さないで済むのである。一篇の文章がこれらの符號で一杯で、問題を提起せず、問題を分析せず、何に賛成し何に反對するかを表明もせず、説き去り説き來ることは、やつぱり例の生薬屋式に過ぎず、何等切實な内容を持たない。私は甲乙丙丁等の文字を使つてはならないといふのではない。たゞ問題の解き方が間違つてゐると云つてゐるのである。現在幾多の同志はこの生薬屋式の方法に洋々たる興味を持つてゐる。これは實に、最も低級な、最も幼稚な、最も凡俗な方法である。この方法は形式主義の方法で、事物の表面的標識により分類するものであり、事物の内部的なつながりによつて分類するのではない。單に事物の表面的標識により、一かたまりの何ら内部的聯繫もないものを使用することである。同志諸君、一篇の文章を書き、或は一回の演説や報告をするときに、このやうな方法をとれば、その人自身觀念の遊戯に耽るばかりでなく、他人をもこの遊戯に引張り込むこととなり、彼等を、頭腦を働かさずに問題を考へたり、また事物の本質を思索しようとは思はず甲乙丙丁式な現象の羅列に満足したりさせようものである。何を問題と呼ぶのであらうか、問題とは事物の矛盾である。解決されてゐない矛盾のある處、そこに問題があるのである。問題があるからには、君はどちらか一方に賛成し、他の一方に反對しなければならず、君は直ちに問題を提起しなければならぬ。問題を提起するには、まづ問題に對し、即ち二つの基本側面に對し、概略的な調査、研究を加へ、始めて矛盾の性質が何であるかを理解することが出来る。これが問題の現れる過程である。概略的な調査、研究により問題を發見し、問題を提起することが出来るが、但し問題を解決することはまだ出来ない。問題を解決しようとするには、なほ系統的、用意周到な調査工作及研究工作を行はなければならぬ。これが分析過程である。問題の提起にも分析を用ひなければならぬ。でなければ、曖昧模糊として亂雑な「一かたまりの事物の現象に對して、問題即ち矛盾の所在を知ることが出来ない。こゝに云ふ所の分析過程は、系統的な、用意周到な分析過程である。問題は提起せられたがまだ解決することが出来ぬといふことがよくある。これは、事物の内部的つながりをまだ暴露せぬからである。それは、まだこのやうな系統的な、周到な分析過程を経ないからである。そのために、基本的な二つの矛盾の側面に基いて發生し發展した多くの第二義的矛盾の側面を發見することが出来ぬのである。そのために、問題の全貌がまだ明瞭でなく、まだ綜合工作を行ふことが出来ず、またやうやく問題を解決することが出来ないのである。一篇の文章、一回の演説が、もし重要な指導性を帯びたものであるならば、どうしても、何か一つの問題を提起し、次いでこれを分析し、その後これを綜合して問題の性質を明示し、解決の方法を與へなければならぬ。このやうなこ

五、黨八股に反對す

とは、形式主義の方法の能く爲し得るところではない。この種幼稚な、低級な、凡俗な、頭を動かさない形式主義的方法が、我が党内に非常によく流行してゐるため、これをもまた指摘して打撃すべきで、かくて始めて諸君が、マルクス主義の方法を應用して問題の觀察、提議、分析、解決を行ふことを習得することが出来、我々がやる仕事もうまく出来、我々の革命事業が勝利を得ることが出来るのである。

第八段の罪状第六條は、責任をとらうとはせず、所人を書ふことである。上述した色々なことは、一面幼稚さから来たものではあるが、また他面責任觀念の不足からも來てゐる。洗面を例にとれば、我々は毎日顔を洗ふ、多くの人はたゞ顔を洗ふだけでなく、洗ひ終つてから、更に鏡に映してどこか悪いところがないかと一通り調べて見る。諸君よ、これは何と責任觀念の強いことであらう。我々が文章を書き演説を行ふときにも、顔を洗ふときの様に責任をもちさへすれば、まあ間違ひがない。持出すことの出来ぬものを持出してはならない。この事が他人の思想や行動に影響を及ぼすものであることをよく辨へてをるべきである。一人の男がたま／＼一日二日位顔を洗はずにゐることは、餘り見よくもないこと勿論であるが、大した危険性があるわけでもない。だが文章や演説はそれは行かない。

これは専ら人に影響を與へるものであるのに、我が同志達は却て氣儘勝手にやつてゐる。これは主客顛倒してゐる。文章を書き演説をするのに豫じめ研究しようともせず、また豫じめ準備しようともせずにやる人が多く、また文章を書き上げた後に何事も顧みず、洗面の鏡で鏡に映してみる人は少く、よい加減に發表してしまふ。その結果は、往々「下筆千言離題萬里」となり、書けば書くほど本題から離れてしまふ。この種責任觀念の欠けた惡習は、是非とも改正しなければならぬ。

罪状第七條は至黨に書毒を流し、革命を妨害するといふことである。罪状第八條は、自分達の惡風を傳播さして國を禍り民を殃ふと云ふことである。この二條の意義は自明で多くを語るにも及ばぬであらう。これはもし黨八段を改革せず、その發展し行くまゝに委すならば、その結果は重大となり、非常に悪い状態に立到らしめるであらうことを言ふのである。黨八段の内に蔽してゐるものは、主觀主義、宗派主義の毒物で、この毒物が傳はり擴められれば、黨を害し國を危くするものである。上述のこの八ヶ條がすなはち我々の黨八段討伐の標文である。

黨八段といふこの形式は、たゞに革命精神を表現することが出来ぬのみならず、いとも容易く革命精神を窒息させてしまふ。革命精神の發展を獲得しようとするには、必ず黨八段を揚棄し、生氣勃勃として新鮮な力の體つた言葉、文字の形式を探らなければならない。この種の形式はとづくに生れてゐるのであるが、まだ充實してをらず、普遍的な發展を獲得してをらない。我々が洋八段、黨八段を打破し去つた後に、始めて新しい言葉文字の形式を充實することが出来、普遍的發展を獲得することが出来、黨の革命事業をも前進させることが出来るのである。

文章や演説に黨八段があるばかりでなく、會議にも黨八段がある。即ち「一、開會。二、報告。三、討論。四、結論。五、散會。」がそれぞれ、もし毎次毎回大となく小となく何れもこのお定りの順序通りでやるならば、これもまた黨八段ではないか。會議で「報告」をするには、「いつも」「國際。二、國內。三、邊境。四、本部」である。會議は常に早朝より開かれる夜までかゝる。何も云ふことのない人までが、「一つ喋舌しなければならず、喋舌しなければ人に相濟まぬやうである。要するに實際状況の如何に拘らず、きまりきつた舊形式、舊習慣を死守してゐる。この種の現象もまた改革すべきではないか。

現在多くの人が民族化、科學化、大衆化を提唱してゐる。これは甚だ結構なことである。しかし「化」とは徹頭徹尾、徹底するの謂ひである。一部の人は「少しばかり」も實行せずにをり乍ら、一體何所で「化」を提唱するのであらう。それ故、私はこれらの同志達に先づ「少しばかり」を實行し、それから「化」をやるやうに勸告する。でなければ、依然として教條主義と黨八段を離脱することが出来ず、眼ばかり高く手は低く、志は大きい手が小さくお留守になつて仕舞ひ、何の結果も得られない。かの口では大衆化を唱ひつゝその實小衆化してゐるやうな人々は、非常に用心しなければいけない。何故ならば、もし一日大衆とやら一人が路上で彼に出會ひ、「先生どうか一つ大衆化をやらかして見せて下さい」と頼めば、忽ちにして困つて仕舞ふからである。もし単に口先ばかりで提唱するだけでなく、提唱して自分で本當に大衆化を實行しようと思ふ人ならば、實地に一般民衆に就いて學ばなければならぬ。でなければ、依然として「化」することが出来ない。毎日々々大衆化を叫んでをり乍ら、僅か二三句さへも一般民衆の言葉をよく話せぬ者があるが、彼等は、一般民衆に就いて學ぶ決心をしないからで、彼の氣持は全く依然として小衆化である。

今日、會場で「宣傳指南」と題する宣傳物を配布したが、その中には四篇の文件が含まれてゐる。私は同志諸君にこれを何度も讀み返すように勧める。

第一のものはソ聯共産黨史からの抜萃で、そこに説いてゐることは、レーニンがどのやうにして宣傳したかといふことである。その中

五、黨八段に反對す

にレーニンが傳單を書く情形に説き及んでゐるが、レーニンの指導下に、破天荒にもロシアに於て始めて社會主義と労働運動の結合をば實行した。即ち、一工場でストライキが發生した際、「労働者階級解放獲得闘争同盟」——自己の小組参加者を通じてその企業の内情を知り盡してゐた——は、直ちに社會主義宣言を發してこれに應じた。その際ピラの中には、工場主の労働者搾取虐待の事實を描けるとともに、労働者は如何に自己の利益の爲に戦ふべきかを説明し、労働者達の要求を明示した。これらの傳單は、資本主義機構の腐敗、行詰り、労働者の困窮せる生活、労働者達の非常に困苦な十二時間乃至十四時間労働、及び労働者の全く権利のない地位等々に関し、餘すところなくその實状を暴露した。同時に傳單はかなりの政治的要求を提出した。

「何と詳しく知り盡してゐることよ。また何と餘すところなく暴露してゐることよ。」

一八九四年、レーニンは労働者パブリーシキンの参加の下に、始めてこのやうなアヂピラと「マトログラードの紡績工場ストライキ労働者に告ぐるの書」とを書いた。

一つの傳單を書くにも、その状況を熟知してゐる同志と相談しなければならぬ。でなければ、レーニンだつてうまく書けはしない。レーニンはこの様な調査研究をもとして文章を書き、工作をしたのである。

このやうな傳單は一つ／＼が大いに労働者達の精神を昂揚させるから、労働者達は、社會主義者が我々を援助し、我々を擁護してくれるのであると考へた。

我々はレーニンに賛成するのであるか、もしそうならば、レーニンの精神によつて工作をやらねばならぬ。空言を羅列し無内容なことを言ふのでもなければ、的無きに矢を放ち、対象を見ないのでなく、更にまた自分が是であると考へ得々として談ずるのでもなく、レーニンの通りにあのやうにやらなければならぬのである。

第二篇は、デミトロフの共産國際第五次大會に於ける報告の抜萃である。デミトロフは何と言つたか？彼は次の様に言つてゐる。「民衆とともに語ることを會得せねばならぬ。民衆とともに語る時に用ひる言葉は、書物上の公式ではなく、民衆のため工作や闘争をしてゐる戰士の言葉でなければならぬ。彼等戰士の語る一言一句、一つ一つの思想はすべて幾千萬民衆の思想と情緒とを反映しなければならぬ。我々が民衆の理解し得る語方を會得しなければ、民衆は我々の決議を理解することが出来ない。我々はまた常に傳單的語調や具體的な口

吻、民衆の理解し得る譬喩等を用ひて民衆と語るまでには至つてゐない。我々はまだ例のまる暗記式な、老書生共の口癖の抽象的公式を捨て去つてゐない。

事實、諸君が我々の傳單、新聞、決議或ひは綱領を見さへすれば、これら刊行物や文件が如何に「深奥」に書かれてゐるかを見ることが出来る。甚しきに至つては、我々黨責任者でさへも理解し難いものがあり、普通の労働者に解り難いのは云ふまでもないことである」云々と。

これが我々の缺點を「筆を指す」やうにはつきり説き得てゐないなどどうして言へようか。成程、黨八股は中國にもあり外國にもある。して見ると、これは通解でもある。我々は、同志デミトロフの指示通りに、我々自身の缺點を速かに全治させなければならぬ。

我々は一人々々みな次の素朴な規則をしつかり會得しなければならぬ。この規則を法律としなければならぬ。ボルシエヴィキの法律としなければならぬ。即ち、諸君が物を書いたり演説したりするときには、何時でもどんな普通の労働者にも分り、君のスピーカーを信じて、君に隨いて行く決心を起させるやう注意しなければならぬ。時々刻々に、君が一體何のために物を書くのか、誰に向つて演説するのかに注意を怠つてはならない、といふことである。

これが共産國際が我々に對してくれた病氣の處方箋で、是非とも遵守しなければならぬ。これは「法律」なのである。

第三篇は、魯迅全集より抜萃したものであり、魯迅が、北斗雜誌社に答へて文章の書き方を論じた手紙である。彼はその中で何を言つてゐるのであらうか。彼は皆で八ヶ條の、文章を書く上の規則を列挙してゐるが、私はこゝでその幾條かを抜き出して説明してみよう。

第一條「いろいろ／＼な事に注意し、多くのことを見、疎々注意しないで書いたりしてはならない。」

言つてゐることは、「いろいろ／＼な事に注意する」ことで、一つや半分位の事に注意するだけではない。説いてゐることは、「多くのことを見よ」といふことで、たゞ一つのことや半分位のことを見るのではない。

第二條「書けない時には無理に書かぬこと。」

我々はどうであらうか。腹の中に何にもないのが明らかなのに、無理に小便しようとするではないか。調査もせず研究もせず筆を取つて直ぐに書く、これは無責任な態度である。

五、黨八股に反對す

第四條「書き終つてから少くとも二度は読み返すこと。あつても無くともよい様な字句はさつそく削除しなければならない。小説に出来る材料をスケッチに縮めて、スケッチの材料を以て小説を書いてはならない。」

孔子は「再思」といふことを提唱した。韓愈もまた「行成於思」といつて熟慮を尊んでゐるが、これらは封建社會の事である。現在では、問題が複雑となり、再思や熟慮ではまだ足りず或る場合には三四回考へてもまだ足りぬことがある。魯迅は「少くとも二度は読み返せ」と言つたが、では最も多い場合は？彼はそれに就ては何も觸れてゐないが、私の見るところでは、重要な文章は、何十遍読み返しても差支へない。文章は事物の客観化の反映である。事物は迂曲曲折してをり複雑であるから、是非とも反覆研究しなければならず、かくて始めて適當なものとなるのである。こゝで不注意で大雑把にやるならばそれは文章作法のA B Oを知らぬものである。

第六條「自分以外の誰にも分らぬやうな形容詞などを作つてはならない。」
我々がやらかす失敗がそんなに多くもないと云へるであらうか。結局我々がしでかすことは「誰にも分らぬ」ことで、「四五十字もの長さの一句の中に、『誰にも分らぬ』形容詞の類が一杯であり、『日々』魯迅を擁護してゐる人々が、却つて全く魯迅の教に違背してゐる」のではないか。

最後の一段の一件は、六中全会で論じた宣傳の民衆化である。六中全会は一九三八年開催された。我々は當時「支那の特性を離れてマルクス主義を踏襲するときは、それはたゞ抽象的な、空虚なマルクス主義に過ぎない」と言つた。この事は、支那に生活してゐる共産黨員が、中國の本當の必要を離れてマルクス主義を論ずるときは、よしんば萬巻のマルクス主義の書物を百遍二百遍読んで見たところで、やはり似而非マルクス主義でしかなく、このやうな「マルクス主義理論家」は、眞が勝手に秤に上つて自分で自分を計る」やうに、誰も分らぬのに自費自費するていゝ似而非理論家に過ぎないことを言つてゐる。

「洋八股は廢止せよ？空虚な抽象的なお題目は少くせよ！教條主義は止めよ！而して、これに代へるに新鮮活潑な、支那の民衆が見聞きすることゝ喜ぶ支那の作風、支那の氣風を以てせよ！國際主義の内容と民族主義を分離してしまふことは、少しも國際主義を解しない人間の遺方である。我々は二者を固く結合せなければならぬ。この問題で、我々の隊伍の中に存在してゐる一部の非常に重大な缺點は、眞實に清算しなければならぬ。」

こゝでは洋八股の廢止を叫んでゐるが、一部の同志は却つて實際にはまだこれを提唱してゐる。また空虚な抽象的なお題目を少くせよと叫んでゐるが、一部の同志は却つて無理矢理多く口籠まうとしてゐる。また教條主義を休ませろと叫んでゐるが一部の同志は、逆にそれを起そうとしてゐる。要するに、多くの人は、六中全会の決議を馬耳東風と聞き流し、故意にそれと反對のことをしやうとしてゐるやうである。

中央は、現在必ず洋八股、黨八股、教條主義等の類の擔棄を實行するやう決定した。したがつて私はいろ／＼なことを申上げたが、同志諸君はこれを深く考へ、分析し、更に各人自身をも分析せられんことを希望する。諸君は一人々々自己といふものを充分に反省し、自分がつきり分つたと思ふことを、諸君の愛人と相談し、諸君の知己朋友と相談し、諸君の周囲の同志達と相談して、自分の缺點を眞實に除去しなければならぬ。これが我々の希望である。

五、黨八股に反對す

